

科目名	基礎演習 I
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	(SW) 様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。 (SC) 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	社会福祉、教育・保育の専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉、教育・保育への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 大学生としてのマナー・モラルを意識した行動をとることができる力を身につける。 3. 様々な文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 4. 与えられた課題に対して、様々な立場を尊重しながら、意見交換する力をつける。 5. 図書館等や各種の情報源を活用する手法を学ぶ。 6. レジюме、レポートの書き方を修得する。
授業計画	<担当教員名>和久田佳代、泉谷朋子、小畑美穂、篠崎良勝、二宮貴之、福重浩之 (全員で毎回担当する) <授業内容・テーマ等> <主な担当者> 第1回：和久田佳代 学びへの導入 スチューデントスキルとスタディースキルとは 事前事後学修について WebClass による学修の記録 第2回：和久田佳代 読み方のヒント 読むことの重要性 三色ボールペン方式で読む 第3回：和久田佳代 文章の書き方 説明文には型がある 大学生活の目標を立てる DP ルーブリックについて 第4回： 『質問する、問い返す』を読んで、意見交換 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達する 第5回： 『質問する、問い返す』を読んで、自分の意見をまとめる 意見交換により深まった考えを小レポートにまとめる 第6回：福重浩之 図書館の使い方 大学図書館、図書館サポーターを活用しよう 大学生活で困ったときには 学習支援室や学生相談室等を活用しよう 第7回：和久田佳代 コンピュータを活用するー基本的な使い方ー 情報倫理を学ぼう コンピュータの基本的な操作を確認しよう 第8回： 社会構成員としてのマナー・モラル、キャンパスルール ボランティアのすすめ (アドバイザータイム) 第9回：二宮貴之 レジюмеの作り方 要旨をアウトプットする

	体験談から大学生活について学ぶ（１） 第10回：泉谷朋子 資料整理の仕方 授業資料・ノートを整理して活用しよう 体験談から大学生活について学ぶ（２） 第11回：和久田佳代 レポートの書き方（１） レポート作成スケジュール レポートの中に文献を登場させる方法 第12回： レジュメに基づき、発表する（『ロボットが家にやってきたら…』） 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝える 第13回：和久田佳代 定期試験・レポート課題等に対する心得 学修時間・学修行動を振り返る（アドバイザータイム） 第14回： レジュメに基づき、意見交換（『ロボットが家にやってきたら…』） 意見交換により深まった考えをレポートにまとめる 第15回： 学びの確認 まとめ レポート提出前にチェックリストにそって最終確認する <受講者へのメッセージ>演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。 基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。
アクティブラーニング	○ディスカッション、○グループワーク 少人数グループにおいて意見交換、意見発表を行う。 毎時間後、WebClass に学びを記録する。
授業内の ICT 活用	WebClass のアンケート機能を活用する。
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。 ルーブリックは授業中に提示するとともに、WebClass に掲載する。
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中及びWebClass を通して行う。
指定図書	名古屋隆彦『質問する、問い返す 主体的に学ぶということ』岩波書店 遠藤薫『ロボットが家にやってきたら…人間と AI の未来』岩波書店
参考図書	授業にて紹介する
事前・事後学修	毎回、WebClass に学びを記録する。 小レポート（第3回、第5回、第7回、第9回） 上記も含め、毎回、主体的に学ぶ方法を身につけるために、様々な課題がある。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	聖隷クリストファー大学 HP 図書館、ICT センター、キャンパスライフ等 大学 ICT 推進協議会『情報倫理デジタルビデオ小品集』
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示する。 泉谷朋子 社会福祉学部 2708 小畑美穂 社会福祉学部 1607 篠崎良勝 社会福祉学部 二宮貴之 社会福祉学部 2602 福重浩之 社会福祉学部 2607
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	基礎演習Ⅱ
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	(SW) 様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。 (SC) 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 様々な文献や文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 3. 各自が関心のあるテーマを選択し、文献等で調べるなどして理解を深め、グループで討論しながら、レポート、小論文、論文の書き方を修得する。 4. 様々な立場を尊重しながら、発表し、意見交換する力をつける。 5. キャリアデザインに関するイメージを修得し、社会福祉専門職を目指す大学生として内発的・主体的に学修に取り組むためのモチベーションを高める。
授業計画	<担当教員名>和久田佳代、泉谷朋子、小畑美穂、篠崎良勝、二宮貴之、福重浩之 (全員で毎回担当する) <授業内容・テーマ等> <主な担当者> 第1回：和久田佳代 オリエンテーション 図書館利用・文献検索について 第2回：二宮貴之、篠崎良勝 レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(1) 第3回：泉谷朋子、福重浩之 レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(2) 第4回：福祉の日記念講演に参加し、社会福祉への関心を深める 第5回：小畑美穂 参考文献リストの作り方・研究倫理について (アドバイザータイム) 第6回：本学図書館を利用する 参考文献リストを作成する 第7回：体験談からキャリアデザインを考える 社会人基礎力 第8回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(1) 第9回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(2) 第10回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学ぶ 第11回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学ぶ 第12回：選択したテーマについて発表し、討論する(1) 第13回：選択したテーマについて発表し、討論する(2) 第14回：定期試験に向けて (アドバイザータイム) 第15回：レポートのまとめ(提出前の最終チェック) <受講者へのメッセージ>演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。 基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。

アクティブラーニング	○PBL（課題解決型学習）、○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション あるテーマについて、文献等で調べるなどして理解を深め、さらには発表し、これについて意見交換やグループ討論を行う。WebClass に学びを記録する。
授業内の ICT 活用	WebClass のアンケート機能を活用する。
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートに関しては、ルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	なし
参考図書	各教員より、適宜連絡する。
事前・事後学修	WebClass に学びを記録する。 大学図書館、地域図書館を積極的に活用することを含め、授業での課題や各自のテーマについて、文献を探し、読み、考えをまとめることを毎回ごとに行う。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 泉谷朋子 社会福祉学部 2708 小畑美穂 社会福祉学部 1607 篠崎良勝 社会福祉学部 二宮貴之 社会福祉学部 2602 福重浩之 社会福祉学部 2607 時間については初回授業時に提示する
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	キャリアデザイン（社会福祉学部）
科目責任者	福田 俊子
単位数他	1単位（15時間） 必修 56セメスター
DP番号と科目領域	DP4 教養基礎
科目の位置付	(SW)自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。 (SC)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	本講義では、社会で「働く」ことの意義を大学で「学ぶ」とこととの関連で理解した上で、就職活動に必要な知識、技術並びに心構えを学びながら、社会人として求められる基礎力を身に着ける。そして、学生一人ひとりが「人」として、「社会福祉専門職者」としての人生設計をいかに創造していくのかについて考える。
到達目標	1. キャリアデザインの重要性を理解することができる。 2. 社会人として必要とされるコミュニケーション力や文章力表現力などを身につける。 3. 自己の社会的役割を理解してキャリア形成のビジョンを描くことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>福田俊子 第1回：社会で「働く」とは。 社会人として求められる力、社会人基礎力とは何か。（福田） 第2回：社会人としての基礎力を身につける①（外部講師） あいさつ、みだしなみ、礼儀作法などのマナーを身につける 第3回：社会人としての基礎力を身につける②（福田） 働くこととストレスについて考え、その対処方法を学ぶ 第4回：採用側が学生に望むこと （ゲストスピーカー2名） 第5回：模擬面接を体験する（福田） 第6回：4年生による就職活動報告会（福田） 社会福祉の現場に就職が決まっている先輩から、就職活動の実際を学ぶ 第7回：自己分析と自分のキャリアデザインを描く（福田） 自己分析の方法を学び、自分のキャリアデザインを考える 第8回：社会人としての基礎力を身につける③（福田） エントリーシートの書き方を学んだ上で、各自が作成を試みる

アクティブラーニング	グループワークや共同作業を織り込んだプログラムを展開する。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する
評価方法	授業態度 20%、提出物等 80%
課題に対するフィードバック	積極的に提出課題やリアクションペーパー等へコメントする。
指定図書	なし
参考図書	・加藤容子他（2014）『わたしのキャリア・デザイン 社会・組織・個人』ナカニシヤ出版 ・笹川孝一（2014）『キャリアデザイン学のすすめ 仕事、コンピテンシー、生涯学習社会』法政大学出版局
事前・事後学修	事前学修：事前課題に必ず取り組んだ上で授業に参加ください。 事後学修：リアクションペーパーや事後課題に丁寧に取り組むことで、授業の理解度を自己評価してください。 目安時間 40 分。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	英語Ⅲ（社会福祉学部）
科目責任者	パターソン・ドナルド（Donald Patterson）
単位数他	1 単位（30 時間） 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、ヘルスケア分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. ヘルスケアの専門用語、ケアに関する語彙を英語で 150 語以上覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。 4. 簡単なケアの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	<担当教員名> パターソン・ドナルド <授業内容・テーマ等> 第1回：Introduction to the Course 履修説明、Body Parts 身体の部位 第2回：Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする 第3回：Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する 第4回：Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状をアセスメントする 第5回：Taking Vital Signs バイタルサインを確認する 第6回：発表会 第7回：まとめ、中間テスト 第8回：Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする 第9回：Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスをする 第10回：Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助する 第11回：Maintaining a Good Diet 栄養と食餌についてアドバイスする 第12回：Coping with Emergencies 緊急時に対処する 第13回：グループ発表会 第14回：グループ発表会 第15回：最終テスト、まとめ

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、その他「ロールプレイング」
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、レポート 10%、小テスト 20%、中間テスト 20%、発表 20%、最終テスト 20%
課題に対するフィードバック	小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Caring for People』M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder（作者）（Cengage センゲージ）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CD を活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。 研究室：5704 号室 メール：patterson@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会福祉学概論 I
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、人間の生活と社会の関係性を体系的にとらえる学習、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習等、基礎的知識を修得する学習とする。 福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士）に求められる基本的な知識・理論の体系的理解の端緒として、社会福祉をめぐる思想・哲学、社会福祉の歴史的展開過程、現代の社会問題と構造、などの概要について、できるだけ学生自身の生活や関心に結びつけて学ぶ。
到達目標	1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点が身に付き、生活と社会の関係性を捉えることができる 2. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学の概要が理解できる 3. 現代社会に生起する社会問題とその構造的背景が理解できる 3. 日本と欧米における社会福祉の歴史的展開の概要が理解できる 4. 社会保障に関する法、制度、実施体制の概要が理解できる 5. 社会福祉の対象とニーズ、制度の概要が理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐藤 順子 第1回：ガイダンス、グループワーク「社会福祉とは？」 第2回：社会福祉を理解するための基本的枠組み、社会と生活のしくみ 第3回：現代社会における社会問題～最近のニュースから～① 第4回：現代社会における社会問題～最近のニュースから～② 第5回：社会福祉をとりまく状況と社会問題の構造的背景 第6回：社会福祉の基盤となる考え方 社会福祉援助者に共通する思想・哲学 第7回：社会福祉の歴史的展開 欧米の歴史 第8回：社会福祉の歴史的展開 日本の歴史①古代～近代 第9回：社会福祉の歴史的展開 日本の歴史②戦後～現代 第10回：社会保障制度の概要と社会福祉の法と諸制度 第11回：社会福祉の対象とニーズ、制度 ① 経済的困窮 第12回： " ② 高齢者 第13回： " ③ 障害者 第14回： " ④ 児童、子育て家庭 第15回：諸外国における社会福祉 まとめ

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて行う
授業内の ICT 活用	・パソコンを利用して調べ学習を行う ・webclass を活用して双方向型授業を行います ・事前・事後学修課題についてはwebclass に提出する
評価方法	授業態度10%、課題への取り組み・ミニテスト40%、定期試験50%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する ミニテストについては解説を行う
指定図書	『社会福祉の原理と政策』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規
参考図書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著『社会福祉入門』有斐閣アルマ 古川孝順著『福祉ってなんだ』岩波ジュニア新書 菊池正治・清水教恵・田中和男・永岡正己・室田保夫編著『日本社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：3 回目の授業に向けて「福祉に関する気になるニュース」をまとめる（120 分） 5 回目の授業に向けて、関連データを読み込み、まとめる（60 分） 6 回目の授業に向けて、それぞれの社会福祉士、介護福祉士、保育士が依って立つべき考え方（倫理綱領等）についてまとめる（30 分） 7～9 回の授業に向けて、教科書の該当ページをあらかじめ読み、年表を完成させる（各 40 分） 10～14 回については、予習を通して関心領域を明らかにする（各 30 分） 事後学修：毎回学びをまとめ、webclass に提出する（各 20 分） 6～10 回については翌週冒頭でミニテストを実施する（準備のための学習各 30 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅰ
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	対人援助専門職への学習の入門編として、視聴覚教材を用いながら、感性を養い、「自己理解・他者理解」「生活とは」「生活問題」などについて、専門職としての多元的複眼的なものの見方を修得する。そのうえで、福祉専門職の歴史の変遷、基本的な価値や知識、技術を取得し、現代社会における福祉専門職の役割と意義について理解することを目的とする。なおこの科目は「ソーシャルワーク総論Ⅱ」と共に社会福祉士指定科目「相談援助の基盤と専門職」および精神保健福祉士指定科目「相談援助の基盤(基礎)」に該当する。
到達目標	1. 対人援助専門職の役割と意義、および福祉専門職（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、保育士など）の役割と意義を説明できる 2. ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方、形成過程、倫理について説明できる。 3. 対人援助専門職としての基礎力である感性と表現力・分析力を磨き、感じたこと、理解したこと、考えたことを言語化できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員>坂本 第1回：オリエンテーションー対人援助専門職とは、「援助」「生活」の定義、論・演習・実習の関係、授業の進め方 第2回：当たり前すぎる「生活」を客観的にみるー生活を捉える視点と生活問題のとらえ方と倫理 第3回：「生活」の中で対人援助技術を磨くー援助とは、自立支援の考え方、言語化 第4回：ソーシャルワークの概念とソーシャルワーカーの役割ーソーシャルワーク専門職のグローバルの定義 第5回：ソーシャルワークの原理①ー社会正義、人権尊重 第6回：ソーシャルワークの原理②ー集団的責任、多様性の尊重 第7回：福祉専門職の法的位置づけー社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士、保育士 第8回：社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 第9回：ソーシャルワークの理念①ー当事者主権、尊厳の保持、権利擁護 第10回：ソーシャルワークの理念②ー自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション 第11回：ソーシャルワークの形成過程①ー慈善組織協会、セツルメント運動 第12回：ソーシャルワークの形成過程②ー医学モデルから生活モデル、ソーシャルワークの統合 第13回：ソーシャルワークの倫理①ー専門職倫理の概念、倫理綱領 第14回：ソーシャルワークの倫理②ー倫理的ジレンマ 第15回：まとめ；これからの福祉専門職ー相談援助にかかる専門職の概念と範囲

アクティブラーニング	課題解決型学習を展開します。教員との双方向のコミュニケーション、学生同士の小さなロールプレイ、グループワークなど、演習形式も取り入れ展開する。
授業内の ICT 活用	Webclass を使用します
評価方法	授業態度 10%、毎回授業終了後 Web class に入力 40%、期末レポート Webclass に提出 50%
課題に対するフィードバック	アクティブラーニングに基づく対話型課題に対するフィードバックやリアクションペーパーに対するフィードバックを授業中に行う
指定図書	印刷物や資料を随時提示し、Webclass に反映する
参考図書	空閑浩人 2015『ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	1. 授業中に配布された資料や Webclass に掲載された資料を毎回、事前・事後に熟読し、授業内容を理解する（30-40 分） 2. 毎回、授業によって得た知識を Webclass に入力し、生活の中で、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める（40 分） 3. 期末のレポートを作成すること（目安時間 90 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612） 時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ（SW）
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2単位（30時間） 必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰで修得してきた基礎的知識と技術を、個別指導並びに集団指導を通して身につけることを目的とし、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、①自己理解と他者理解を深め、②基礎的なコミュニケーション技術の修得を図る。
到達目標	・援助の道具としての「自己」に関心を向け、自身のコミュニケーションの癖などを自覚できるようになる。 ・非言語コミュニケーションと言語コミュニケーションの内容と技法を学び、人間関係の形成とコミュニケーションの基礎に関する知識、技術の修得する。
授業計画	<担当教員名>泉谷朋子、福田俊子、落合克能 <授業内容・テーマ等> 第1回 オリエンテーション、自己紹介、他己紹介 第2回 自己覚知① 初めての人と会う時の「自分」理解——アイコンタクト・表情・姿勢についての自己分析 第3回 自己覚知② エゴグラム等心理性格テストによる自己理解と他者理解 第4回 自己覚知③ ジョハリの窓等による自己理解と他者理解 第5回 自己覚知④ 食べさせられる体験、聞こえない体験を通しての自己理解と他者理解 第6回 自己覚知⑤ 話せない体験、見えない体験を通しての自己理解と他者理解 第7回 自己覚知⑥ 車いす体験、高齢者体験、振り返りを通しての自己理解と他者理解 第8回 基本的なコミュニケーション技術①、非言語的技術（表情、態度、身振り、位置取り等） 第9回 基本的なコミュニケーション技術②、非言語的技術を使ったロールプレイ 第10回 基本的なコミュニケーション技術③、言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等） 第11回 基本的なコミュニケーション技術④、言語的技術を使ったロールプレイ 第12回 基本的な面接技術①、面接の構造化、場の設定（面接室、生活場面、自宅等） 第13回 基本的な面接技術②、ツールの活用（電話、e-mail等）、ロールプレイ、ソーシャルワークの記録 第14回 ソーシャルワークの展開過程①、ケースの発見・インテーク、高齢者事例によるロールプレイ 第15回 ソーシャルワークの展開過程②、アセスメントからアフターケア

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイ、プレゼンテーション等を用いた演習を行う。第13回の授業では、パソコンやスマートフォン等の録画機能を用いた模擬面接（ロールプレイ）場面の逐語化、叙述化を行う。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用する。パソコンやスマートフォン等の録画機能を用いる。グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取組姿勢（小レポート等の内容等含む）50%、定期試験（レポート）50%として評価する。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。 ※定期試験レポートは、ループリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行う。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行う。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応する。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用する。
参考図書	岩間伸之『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008
事前・事後学修	【事前学修】 ・第12回授業終了後に、次回の発表準備をしておくこと。 【事後学修】 ・第7・9回授業後には、ビデオ教材から学んだことを記入シートに整理しておくこと。 ・第3・6・11回授業終了後に、小レポートを作成すること。（160分＝4回分を要する） ・第13回授業終了後に、逐語録等を作成すること。（160分＝4回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室（2708 研究室）。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は、児童家庭福祉、女性福祉の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ（SC）
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2単位（30時間） 必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目は保育士資格取得のための科目として、対人関係における基礎的な技術の取得を目的とする。特に①実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解②他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力の涵養③対人関係の土台となる基本的なコミュニケーション技術の習得を意図し、④具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により行う。
到達目標	1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 自らの役割を理解し、他者と協働しようとする姿勢をもつ。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員>坂本道子 第1回：オリエンテーション、自己紹介・他己紹介 第2回：自己理解と他者理解①—エゴグラム等心理性格テストによる自己理解 第3回： 〃 ②—多様な価値のなかでの自己理解 第4回： 〃 ③—食べさせられる体験、聞こえない体験 第5回： 〃 ④—話せない体験、見えない体験 第6回： 〃 ⑤—車いす体験 第7回： 〃 ⑥—高齢者体験 第8回：コミュニケーションの基礎①—コミュニケーションの構造と種類 第9回： 〃 ②—ラポールを確立するための態度 第10回： 〃 ③—ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際 第11回： 〃 ④—バーバルコミュニケーションの実際① 第12回： 〃 ⑤—バーバルコミュニケーションの実際② 第13回：コミュニケーション技法と対人関係の基礎① —促しの技法、繰返しの技法、要約の技法 第14回： 〃 ② —共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法 第15回：事例によるまとめと振り返り

アクティブラーニング	演習科目であるため、ディスカッション、ディベート、グループワークを行う。 また課題解決型学習や擬似体験を伴う自己学習の課題を提示する。 授業には、出席するだけではなく、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションなどプロジェクターを利用して行うことがある。 また、Zoom で授業を展開せざるを得ないときは、双方向授業やグループセッションを取り入れる。
評価方法	評価は 100 点満点とし、評価方法ごとの点数配分は次のとおりである。 授業への取組姿勢 25%、毎回授業終了後 WebClass 入力 25%、 WebClass 入力事項を用いた定期試験レポート 50% なおこの科目では再試験は実施しません。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメントなど、授業中に行う
指定図書	なし
参考図書	諏訪茂樹『対人援助とコミュニケーション——主体的に学び、感性を磨く』中央法規
事前・事後学修	事前学修：毎回、WebClassやプリント等を事前に読む（20-30分） 事後学修：授業内容を、毎回、WebClassに①事実 ②感想 ③考察 に区分して言語化文字化する。合わせて40分程度 期末のレポート（授業の振り返り）の準備をすること（90分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612） 時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	総合演習 I
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。 (SC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけだすことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照) 6 セメスター ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する 7 セメスター ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。 ・研究倫理について学ぶ ・テーマをまとめ、発表する 8 セメスター ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する *詳細は担当指導教員の Web シラバス参照

アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
評価方法	<社会福祉学科・介護福祉学科> I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% II：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% III：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60% <こども教育福祉学科> I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% II：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60% ・最終提出物はルーブリック（WebClass に掲載）を用いて評価する。
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること
オープン教育の活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照
メディア授業の実施について	なし

科目名	総合演習Ⅱ
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2単位（30時間） 必修 78セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	(SW, SS) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。 (SC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけだすことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。（総合演習ガイダンス参照） 6セメスター ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する 7セメスター ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。 ・研究倫理について学ぶ ・テーマをまとめ、発表する 8セメスター ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する *詳細は担当指導教員の Web シラバス参照

アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
評価方法	<社会福祉学科・介護福祉学科> I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% II：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% III：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60% <こども教育福祉学科> I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% II：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60% ・最終提出物はルーブリック（WebClass に掲載）を用いて評価する。
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること
オープン教育の活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照
メディア授業の実施について	なし

科目名	総合演習Ⅲ
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2単位（30時間） 必修 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけだすことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。（総合演習ガイダンス参照） 6セメスター ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する 7セメスター ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。 ・研究倫理について学ぶ ・テーマをまとめ、発表する 8セメスター ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する *詳細は担当指導教員の Web シラバス参照

アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
評価方法	<社会福祉学科・介護福祉学科> Ⅰ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅱ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅲ：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60% <こども教育福祉学科> Ⅰ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅱ：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60% ・最終提出物はルーブリック（WebClass に掲載）を用いて評価する。
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること
オープンエデュケーションの活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会福祉学概論Ⅱ
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉学概論Ⅰ、障害、高齢者、児童、公的扶助、地域の福祉関係各論、ソーシャルワーク論、ソーシャルワーク実習など、これまでの学びを踏まえ、あらためて社会福祉とは何かについて、社会福祉の思想と原理、福祉政策・制度の役割と現状、さらに社会福祉を取り巻く教育、住宅、労働等諸政策と福祉政策の関連、国際的な福祉の動向などの学びをとおして考える。
到達目標	1. 現代社会における福祉制度の意義や 理念、福祉政策との関係について理解できる 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅 政策、労働政策を含む。）の関係について理解できる。 5. 福祉政策、ソーシャルワークの課題について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、今までの学びの振り返り 第2回：社会福祉の思想・哲学 第3回：社会福祉の理論、社会福祉の論点 第4回：福祉政策の基本的な視点 第5回：福祉政策におけるニーズと資源 第6回：福祉政策の構成要素と過程 第7回：中間テスト 福祉政策の動向と課題 第8回：福祉サービスの供給と利用過程 第9回：福祉政策と関連施策 ① 医療政策 第10回： " ② 教育政策 第11回： " ③ 住宅政策 第12回： " ④ 労働政策 第13回：福祉政策の国際比較 第14回：諸外国における福祉政策の動向 第15回：まとめ

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内の ICT 活用	・webclass を活用して双方向型授業を行います ・事前・事後学修課題についてはwebclass に提出します
評価方法	授業態度10%、講義終了時・単元ごとの知識習得テストや課題30%、定期試験60%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する 中間テスト実施後解説を行う
指定図書	「社会福祉概論Ⅰ 現代社会と福祉」 全社協（社会福祉学習双書 編集委員会編）（社会福祉学概論Ⅰですすでに購入済のもの） 編入生については「社会福祉の原理と政策」 中央法規（日本ソーシャルワーク教育学校連盟編）
参考図書	岩田正美『社会福祉のトポス』有斐閣
事前・事後学修	事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでキーワードをまとめるなどして授業に臨む（各 30 分） 2 回目、8 回目の授業に向けて、事前レポートを提出する（各 40 分） 事後学習：毎回学びをまとめ、webclass に提出する（各 10 分） webclass 内の小テスト（国家試験過去問）に回答する（各 30 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅱ
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	この科目は社会福祉士指定科目「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」に該当する科目である。「ソーシャルワークの基盤と専門職」に該当した「ソーシャルワーク総論Ⅰ」で学んだ基礎知識をもとに、専門職であるソーシャルワーカーについて、面接場面の視聴覚教材も用いながら次のことを学ぶ。 ①概念と範囲、②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、③総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容。
到達目標	1. ソーシャルワークにかかる専門職の概念と範囲を説明できる。 2. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。 3. ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ソーシャルワーク総論Ⅰの振り返りと、本講義の概要・オリエンテーション 第2回：ソーシャルワーク専門職の概念と範囲－社会福祉士・精神保健福祉士 第3回：ソーシャルワークの概念 第4回：ソーシャルワークの基盤となる考え方 第5回：ソーシャルワークの形成過程①源流と基礎確立期・発展期 第6回：ソーシャルワークの形成過程②展開樹と統合期・日本における形成過程 第7回：ソーシャルワークの倫理 第8回：SW 専門職の概念と範囲 第9回：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 第10回：総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 第11回：面接の実際①電話によるインテーク、訪問前の配慮、観察と仮説 第12回：面接の実際②ラポール、ストレングス、アセスメント、共感、促し 第13回：面接の実際③焦点化、コミュニケーション技法、自己決定 第14回：面接の実際④エキスパート編 第15回：まとめ；今後期待される社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等ダブル資格者の活動

アクティブラーニング	課題解決型学習を展開する。授業のなかで教員と双方向のコミュニケーションを行い、主体的に考え、学ぶ態度を涵養する。
授業内の ICT 活用	Webclass を利用します
評価方法	評価は 100 点満点とし、評価方法ごとの点数配分は次のとおりである。 授業態度 10%、毎回授業終了時 Webclass 入力 20%、毎回 Webclass 小テスト 20%、定期試験レポート 50%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや小テストのフィードバックを授業のなかで行う。また最後の授業で 15 回分の振り返りを行う。
指定図書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規
参考図書	宮本節子 2013 『ソーシャルワーカーという仕事』ちくまプリマー新書 木下大生 2015 『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事』岩波ブックレット 赤羽克子 2015 『3 福祉士の仕事がわかる本』日本実業出版社
事前・事後学修	1. 授業中あるいは Webclass に掲示された資料や指定図書を毎回、事前・事後に熟読し、授業内容を理解する (30-40 分) 2. 授業によって得た知識を毎回、Webclass に入力し、生活の中で、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める (40 分) 3. 毎回の小テストの準備をすること (30-40 分) 4. 期末のレポートの準備をすること (90 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク論 I
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる「ソーシャルワークの視座」の理解を深めることに主眼をおき、①ソーシャルワークの対象把握と援助モデルを理解すること、②ソーシャルワークの過程を理解すること、③ソーシャルワークの過程と援助関係の形成の関連について理解することを目的とした授業構成となっている。
到達目標	1. 4つの援助モデルについて説明できる。 2. 生活問題を人と環境の交互採用の視点で捉えようとする。 3. ソーシャルワークの過程を理解する。
授業計画	<担当教員>福田俊子 <授業内容・テーマ等> 第1回：講義の概要説明 第2回：人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①、「人を助けるということ」について映画から考える 第3回：人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②、人を助けるということ 第4回：人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク③、社会福祉の援助活動の特徴①（対人援助の構成要素） 第5回：人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク④、社会福祉の援助活動の特徴②（ソーシャルワークの対象） 第6回：人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク⑤、社会福祉の援助活動の特徴③（ソーシャルワークの視点） 第7回：ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①、個人モデル 第8回：ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②、環境モデル 第9回：ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③、物語モデル 第10回：ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④、文化モデル 第11回：ソーシャルワークの過程①、個別援助の展開過程（ケースの発見～アフターケア）と援助関係 第12回：ソーシャルワークの過程②、インテークと援助関係の形成 第13回：ソーシャルワークの過程③、アセスメント・プランニングと援助関係の活用 第14回：ソーシャルワークの過程④、支援の実施～終結と援助関係の終結 第15回：ソーシャルワークの記録 <その他> ・「覚えること」よりも「考えること」を大切にすること。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用する。

アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。
評価方法	課題レポート 20%、定期試験 60%、授業への取り組み 20%として評価する。 <課題レポートのテーマ・様式> ・テーマ：『社会福祉をつかむ』の第 8 章を読み、ユニットごとに「学んだこと」「考えたこと」「疑問に思ったこと」をまとめる。 ・字数：2400 字程度、パソコン書き、表紙つき ・ルーズリークを用いて評価する <授業への取り組み> ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出等は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	ほぼ毎回、積極的にリアクションペーパーへコメントする。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ【第 3 版】』有斐閣
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	<事前学習> ・第 3～11 回の授業に臨むにあたって、該当する単元の教科書を熟読しておくこと。（事前学習目安 20 分） <事後学習> ・第 3～11 回の授業後は、該当する教科書の単元の確認問題に取り組むこと。（事後学習目安 20 分） ・配布資料を参考にしながら、自分にとってわかりやすい講義ノートを作成すること。 ・レポート『社会福祉をつかむ』を読んで」を作成すること。（160 分＝4 回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク論Ⅰで学んだ「ソーシャルワークの過程」を基盤とし、ミクロ・メゾレベルのソーシャルワークの理論および実践の実際を学修することに主眼をおき、①ソーシャルワークの援助関係について理解を深め、②援助関係の形成過程とソーシャルワークの過程の実際を連動させて理解すること、③ソーシャルワークのモデルやアプローチを具体的な事例として理解することを目的とした授業構成となっている。
到達目標	1. 事例を通して、バ이스テックの7原則の重要性について理解する。 2. 援助関係形成過程とソーシャルワークの過程に関連を理解する。 3. ソーシャルワークの各過程でソーシャルワーカーに求められる知識・技術を理解する。 4. ソーシャルワーク歴史の流れを理解しながら、モデルやアプローチの概要を実践レベルで理解しようとする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員>福田俊子 第1回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成①、(意義と概念) 第2回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成② (バ이스テックの7原則①) 第3回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成③ (バイステックの7原則②) 第4回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成④ (バイステックの7原則②) 第5回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成⑤とソーシャルワークの過程 (インテーク) 第6回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成⑥とソーシャルワークの過程 (アセスメント) 第7回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成⑦とソーシャルワークの過程 (アセスメントツール) 第8回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成・活用とソーシャルワークの過程 (プランニング・介入) 第9回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成・活用とソーシャルワークの過程 (モニタリング) 第10回：ソーシャルワークにおける援助関係の終結とソーシャルワークの過程 (終結・事後評価) 第11回：ソーシャルワークにおける援助関係の終結とソーシャルワークの過程 (アフターケア) 第12回：事例にみるソーシャルワークの実践モデルとアプローチ① (1890年代末～1940年代) 第13回：事例にみるソーシャルワークの実践モデルとアプローチ② (1950年代以降①) 第14回：事例にみるソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③ (1950年代以降②) 第15回：事例検討、まとめ <その他> ・国家試験で、ソーシャルワークの歴史は必ず出題される。単なる暗記ではなく、歴史を自分の専門家としての成長と重ね合わせながら聞いてほしい。また、リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で匿名にて使用し、内容によりディスカッションのテーマとしても活用する。復習テスト及び小テストを実施し、その場で解答を提示する。

アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。
評価方法	小テスト 20%、課題レポート 20%、試験 50%、授業への取り組み 10%として評価する。 <小テスト・定期試験> ・事前に出題範囲を告知する（過去の社会福祉士国家試験問題を含む）。 ・記述・穴埋め・〇×式を混合して出題する。 <課題レポート> ・テーマ：映画『あしがらさん』に登場する人物をアセスメントし、支援計画をたてる。 ・様式：A4版用紙、原則としてパソコン書き（図は手書きでも可）、字数 2000 字数以上 ・提出：WebClass（ルーズブリックを用いた評価はしない） <授業への取り組み> ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	復習テスト及び小テストを実施し、その場で解答を提示する。
指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 渡辺律子『高齢者援助における相談面接の理論と実際』医歯薬出版
参考図書	F.P. バイステック『ケースワークの原則』誠信書房 北川清一他『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房 G. コウリー他『援助専門職のための倫理ワークブック』創元社
事前・事後学修	<事前学習> ・第5～11回の授業に臨むにあたって、該当する単元の教科書を熟読し、授業後には再度該当箇所を復習しておくこと。（事前事後学習目安 40 分） <事後学習> ・第12～14回の授業後は、知識の確認をすること。（事後学習目安 20 分） ・レポート『あしがらさん』の支援計画を作成すること。（160 分＝4 回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	児童・家庭福祉論
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもは一人の人間として尊重されるべき存在であるが、成長・発達段階にある子どもの声は、一緒に生活する家族や大人の声にかき消されてしまうことがある。この科目では、子どもが権利の主体であることを理解し、子どもと家族を取り巻く社会環境や子ども観・子育て観、児童福祉施策・制度・サービスについて学び、子どもの権利に主眼をおいた子どもと家族への支援のあり方を理解することを目的としている。
到達目標	1. 子どもの権利、変容する家族形態について理解できる 2. 子どもと家族の生活実態とこれを取りまく取り巻く社会環境について理解できる 3. 児童・家庭に係る法制度について説明できる 4. 児童・家庭福祉に係る関係機関及び専門職の役割について説明できる 5. 児童・家庭に対する支援の実践について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ> 第1回 オリエンテーション、児童・家庭福祉の理念 第2回 子どもの最善の利益、子どもの権利保障 第3回 児童・家庭福祉の変遷 第4回 子どもと家族の生活とこれを取り巻く社会環境 第5回 児童・家庭福祉を支える法制度、実施体制 第6回 児童・家庭福祉に係る関係機関及び専門職 第7回 児童・家庭福祉の支援の実践① 母子保健 第8回 児童・家庭福祉の支援の実践② 子ども・子育て支援、保育サービス 第9回 児童・家庭福祉の支援の実践③ 障害児支援 第10回 児童・家庭福祉の支援の実践④ 学齢期の子どもへの支援（外部講師） 第11回 児童・家庭福祉の支援の実践⑤ 子どもの貧困 第12回 児童・家庭福祉の支援の実践⑥ ひとり親家庭への支援 第13回 児童・家庭福祉の支援の実践⑦ 児童虐待とドメスティック・バイオレンス 第14回 児童・家庭福祉の支援の実践⑧ 社会的養護 第15回 児童・家庭福祉の課題

アクティブラーニング	・PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う ・講義中、発言を求めることがある
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、レポート・リアクションペーパー等の提出は WebClass で行う。授業中、インターネットで検索する等 PC を用いるため、PC は必携。
評価方法	・リアクションペーパー15%、レポート 25%、期末テスト 60% ・レポート評価において、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパー、レポートについては、授業内でフィードバックを行う
指定図書	林浩康・山本真実・湯澤直美編（2021）『児童・家庭福祉』ミネルヴァ書房
参考図書	授業時に随時連絡する
事前・事後学修	【事前学修】各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく（40 分） 【事後学修】授業資料・教科書等を用いて授業内容を振り返ること。毎回授業で学んだことをまとめ、リアクションペーパーとともに Webclass に提出する（40 分） ・第 10 回外部講師の授業に関するレポート課題を課す。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室（2708 研究室） 時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は、児童家庭福祉の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ (SW)
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	自己理解と他者理解を深め、様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力を身につけ、援助場面で体现できることを目的とする。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークの「価値」と「倫理」を土台とした基本的な面接技術の習得を図る。
到達目標	1. 自己理解と他者理解の必要性を理解し、それを深める。 2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成できるようにする。 3. ソーシャルワークの価値と倫理を土台とした相談援助のあり方を理解する。
授業計画	<担当教員>川向雅弘、落合克能、小畑美穂 <授業内容・テーマ等> 第1回：川向、落合、小畑 オリエンテーション 第2回：川向 自己覚知・社会福祉専門職の価値（社会正義と社会公正） 第3回：川向 自己覚知・社会福祉専門職の価値（ソーシャルワークの価値と倫理） 第4回：川向 自己覚知・自己理解と他者理解①（自己と他者の価値観を知る） 第5回：川向 自己覚知・自己理解と他者理解②（第4回のグループ発表） 第6回：川向 自己覚知・自己理解と他者理解③（自己と他者のライフヒストリーを知る） 第7回：川向 自己覚知・自己理解と他者理解④（まとめ） 第8回：小畑 基本的な面接技術①（インテーク面接） 第9回：小畑 基本的な面接技術②（ソーシャルワークの価値を体现する） 第10回：小畑 基本的な面接技術③（認知症の人の家族に対する面接に焦点化して） 第11回：落合 ソーシャルワークの展開過程①（ケースの発見・インテーク） 第12回：落合 ソーシャルワークの展開過程②（アセスメント） 第13回：落合 ソーシャルワークの展開過程③（プランニングと支援の実施） 第14回：落合 ソーシャルワークの展開過程④（モニタリングと再アセスメント） 第15回：落合 ソーシャルワークの展開過程⑤（まとめ）

アクティブラーニング	アクティブラーニング 演習科目であり、グループ学修やPBLなどを用いて授業に活用する。
授業内のICT活用	Webclassの活用
評価方法	授業への取り組み姿勢：40%、前半レポート：30%、後半レポート：30% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	演習グループに教員が随時関与しフィードバックする。
指定図書	『シリーズ 社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	次回演習への準備が事前課題となる。また、次回演習への準備には学びの整理（事後学修）が必須である。課題や授業へのリアクションを期日までにWebClassに提出する（目安時間40分）。9回目終了時に前半レポート、15回終了時に期末レポートを提出する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	川向雅弘（2705 研究室）時間帯については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ（SC）
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2単位（30時間） 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目は保育士受験資格取得のための科目として、対人援助職に求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。なかでも、ソーシャルワーク演習Ⅰで行った「自己覚知」「基本的なコミュニケーション技術の習得」の学びを土台に、本科目では「基本的な面接技術の習得」および「倫理・価値」について、グループワークや具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を、演習形式により展開する。
到達目標	1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. グループ討議を通して受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 人間の多様性を通して、共生の価値観をもつ。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>坂本道子 第1回：オリエンテーション、グループ分け、グループワークについて 第2回：自他の価値①—大切なもの、価値の順位 第3回：自他の価値②—価値の対立、ジレンマ 第4回：価値観と専門職①—倫理綱領 第5回：価値観と専門職②—行動指針 第6回：価値観と専門職③—事例検討（利用者のジレンマ） 第7回：価値観と専門職④—事例検討（専門職としてのジレンマ） 第8回：自他、及び専門職としての価値のまとめ 第9回：面接におけるコミュニケーション①—援助者の基本姿勢と原則 第10回：面接におけるコミュニケーション②—基本的コミュニケーション 第11回：面接におけるコミュニケーション③—基本的応答技法 と活用 第12回：面接におけるコミュニケーション④—傾聴と共感、支持、焦点化 第13回：面接におけるコミュニケーション⑤—ロールプレイ（日常生活場面） 第14回：面接におけるコミュニケーション⑥—ロールプレイ（面接場面） 第15回：面接におけるコミュニケーション⑦— まとめ

アクティブラーニング	本科目は演習科目として、ディスカッション、グループワーク、ディベート等を取り入れて実施する。また課題解決学習も展開する。演習であるため、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションなどプロジェクターを用いて行うことがある。
評価方法	評価は 100 点満点とし、評価方法ごとの点数配分は次のとおりである。 授業への取組姿勢 25%、毎回授業終了後 WebClass 入力 25%、WebClass 入力内容を用いた定期試験レポート 50%（今年度はルーブリックを用いない）
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	WebClass に提示あるいは資料を配布する
参考図書	川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 フレデリック・G. リーマー他『ソーシャルワークの価値と倫理』中央法規
事前・事後学修	事前学修：毎回WebClassやプリント等を事前に読む（30-40分） 事後学修：毎回授業内容をWebClassに①事実 ②感想 ③考察 に区分して入力し、言語化文字化する。合わせて40分程度 期末のレポートの準備をすること（90分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612） 時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際福祉実習 I
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習 I～IVは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）※国際福祉実習 I～IVは、期間を意味する。2 週間の場合は、I のみ履修。4 週間の場合は、I・IIを履修。6 週間・8 週間の場合は I～III、I～IVの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<科目担当者> 川向雅弘 <授業内容・テーマ等> ・実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） ・本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国 東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） - 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省（まとめ） ・実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	実習・フィールドワーク（施設見学）・プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習施設からの評価（30%）、実習記録・実習レポート（30%）、 ・事前・事後学習の取り組み（30%） ・実習報告会での成果発表（10%） ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う
指定図書	資料配布
参考図書	実習事前指導内で提示する。
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。 各学修の目安は 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2705 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉士として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際福祉実習Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位（90時間） 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<科目担当者> 川向雅弘 <授業内容・テーマ等> ・実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） ・本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国 東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） - 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省（まとめ） ・実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	実習・フィールドワーク（施設見学）・プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習施設からの評価（30%）、実習記録・実習レポート（30%）、 ・事前・事後学習の取り組み（30%） ・実習報告会での成果発表（10%） ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う
指定図書	資料配布
参考図書	実習事前指導内で提示する。
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。 各学修の目安は 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2705 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉士として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	インターンシップ I (SW)
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 SW コース必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	学生が自分の目指す社会福祉援助者像を明確化していくために、本科目は 10 日間程度の配属実習を含んだ授業構成となっている。多様な社会福祉施設等の利用者とのコミュニケーションを通じて、その現状を理解するとともに、社会福祉援助者として必要とされる実践力とは何かについて、考察することを目的とする。また、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。 なお、実習の事後学習は、インターンシップ I 実習指導で行われる。
到達目標	1.実習をする上でのルールを守り、実習生としての責務を果たす 2.利用者の QOL (生活の質) の向上を目指したプログラム活動に参加することを通して、利用者・職員・学生同士の関係づくりやチームワークの基礎を学習する 3.利用者の生活状況全体を把握しながら、利用者のニーズについて考察する 4.職員の日常業務（主として間接業務）の理解を深めながら、職員に求められる実践力について考察する 5.実習生としてのさまざまなかかわりを通して、自己理解を深める
授業計画	<担当教員>福田俊子、川向雅弘、佐々木正和、泉谷朋子 <授業内容・テーマ等> 1. 事前学習プログラム 第1回：オリエンテーション・ガイダンス 第2回：実習記録の書き方及び実習中の諸注意 第3回：実習評価表の活用とスーパービジョン 第4回：グループ別学習①（実習施設の概要及び利用者の理解） 第5回：グループ別学習②（事前訪問のための準備、3 年生からの引き継ぎ） 第6回：事前訪問 第7回：グループ別学習③（事前訪問のフィードバック、実習テーマの共有） 2. 配属実習 国家資格の取得及び3 年次のソーシャルワーク実習先にかかわる希望、使用可能な交通手段など総合的に勘案した結果決定された、大学の近隣にある実習先において、10 月から 12 月までの 10 日間程度、週 1 回半日の配属実習を行う。 <その他> ・実習を含む授業科目であるため、積極的な授業への参加が重要であることを理解して履修してほしい。 ・「インターンシップ I 実習指導」も必ず履修すること。

アクティブラーニング	本科目は、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした実習科目である。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み状況 20%（事前学習への参加状況） 実習への取り組み状況 80%（事前訪問・実習への参加状況、記録物の内容） 実習への取り組みはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	事前学習プログラムでは、リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	・事前学習：提示された課題などにはすべて取り組み、期日までに提出すること。 ・事後学習（配属実習）：実習ノートは、必ず、その日のうちに記録すること。実習中に分からないことがあった場合、できるだけ自主的に調べてみた上で、職員に質問すること。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	インターンシップ I (SS)
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 7,8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	自主実習やコースが提供する実習プログラムなどを活用しながら、3 年次秋セメスターにて学生自身が選択したコース（マネジメントコース、保健医療ソーシャルワークコース、アクティブライフコース）に関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。本科目は 10 日間程度の配属実習や大学以外の機関や団体が提供しているインターンシッププログラムなどを用いて、授業は展開される。
到達目標	1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、援助者としての自己の将来像が必要とされる実践力を身につける 2. 主体的に利用者や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける
授業計画	<担当教員名> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワークを行います
授業内の ICT 活用	ICT を活用し事前学習を進めます
評価方法	事前・事後学習への取り組み 20% 配属実習での取り組み 40% 定期試験（レポート） 40%
課題に対するフィードバック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間は初回の授業において提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	

科目名	インターンシップ I (SC)
科目責任者	福重 浩之
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	各施設の機能ならびに専門職者の職務や対象となる子どもの生活を理解する。子どもとの関わりの中から、具体的な保育の活動を計画、実践する。
到達目標	1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育や幼児教育に必要な知識や技術を、実践を通して身に付けようとする。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 【事前学習】 第1回：オリエンテーション 実習に臨むために必要なこととは 第2回：実習の1日、実習生としての心構え 第3回：実習記録の書き方、指導計画の書き方 第4回：各領域（保育所・幼稚園など）に関する事前学習 第5回：各領域（保育所・幼稚園など）事前学習の発表 第6回：各自の課題設定による教材研究① 第7回：各自の課題設定による教材研究② 第8回：実習中の諸注意 【実習（インターンシップ）】 ○保育所・幼稚園・認定こども園など自分が興味関心のある領域で、10日間の実習を行う。 ・状況に応じて部分実習や責任実習といった指導計画に基づいた実践を行う。 【事後学習】 第9回：実習の振り返り（学生間での共有） 第10回：報告会に向けての準備①、個人面接① 第11回：報告会に向けての準備②、個人面接② 第12回：実習参加者を対象とした実習報告会① 第13回：次回参加する学生を対象とした実習報告会②

アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	発表は、プレゼンテーションソフトで行う。
評価方法	【授業への取り組み】 事前学修（10%）、課題（30%）、事後学修（10%） 【実習への取り組み】 実習先からの評価（30%）、実習記録（10%）、学生の自己評価（10%） 計 100% 課題や実習先の評価で判断するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を提示します（40 分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40 分）。 実習科目です
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回に伝達をする。実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	インターンシップⅡ (SW)
科目責任者	落合 克能
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 (20SW 生)67/(19SW 生)7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	自主実習やコースが提供する実習プログラムなどを活用しながら、3 年次秋セメスターにて学生自身が選択したコース（マネジメントコース、保健医療ソーシャルワークコース、アクティブライフコース）に関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。本科目は 10 日間程度の配属実習や大学以外の機関や団体が提供しているインターンシッププログラムなどを用いて、授業は展開される。
到達目標	1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、援助者としての自己の将来像で必要とされる実践力を身につける 2. 主体的に利用者や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、アドバイザーや担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員（やアドバイザー）によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワークを行います
授業内の ICT 活用	ICT を活用し事前学習を進めます
評価方法	事前・事後学習への取り組み 20% 配属実習での取り組み 40% 定期試験（レポート） 40%
課題に対するフィードバック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2613 です。時間は初回の授業において提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	インターンシップⅡ (SS)
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 7,8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	自主実習やコースが提供する実習プログラムなどを活用しながら、3 年次秋セメスターにて学生自身が選択したコース（マネジメントコース、保健医療ソーシャルワークコース、アクティブライフコース）に関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。本科目は 10 日間程度の配属実習や大学以外の機関や団体が提供しているインターンシッププログラムなどを用いて、授業は展開される。
到達目標	1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、援助者としての自己の将来像で必要とされる実践力を身につける 2. 主体的に利用者や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける
授業計画	<担当教員名> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワークを行います
授業内の ICT 活用	ICT を活用し事前学習を進めます
評価方法	事前・事後学習への取り組み 20% 配属実習での取り組み 40% 定期試験（レポート） 40%
課題に対するフィードバック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間は初回の授業において提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	

科目名	インターンシップⅡ（SC）
科目責任者	福重 浩之
単位数他	2単位（90時間） 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	資格実習やインターンシップⅠでの学修を踏まえ、明確となった課題を、事前学習にて実践（教材研究・模擬保育など）を行い、考察をする。自らの課題に基づき、子どもの姿を捉えた上での保育・実践を行う。
到達目標	1.見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2.保育士・幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、子どもに対する最善の利益への配慮を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 【事前学習】 第1回：オリエンテーション 実習に臨むために必要なこととは 第2回：実習記録・指導計画の書き方 第3回：各領域（保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設）に関する事前学習 第4回：各領域（保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設）に関する事前学習の発表 第5回：自己課題に基づく教材研究① 第6回：自己課題に基づく教材研究② 第7回：指導計画に基づく模擬保育① 第8回：指導計画に基づく模擬保育② 第9回：実習中の諸注意 【実習（インターンシップ）】 ○保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設において、10日間の実習を行う。 ・状況に応じて部分実習や責任実習といった指導計画に基づいた実践を行う。 事後学習 第10回：実習の振り返り（学生間での共有） 第11回：報告会に向けての準備①、個人面接① 第12回：報告会に向けての準備②、個人面接② 第13回：実習参加者を対象とした実習報告会① 第14回：次回参加を希望する学生を対象とした実習報告会②

アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	発表はプレゼンテーションソフトで行う。
評価方法	【授業への取り組み】 事前学修（10%）、課題（30%）、事後学修（10%） 【実習への取り組み】 実習先からの評価（30%）、実習記録（10%）、学生の自己評価（10%） 計 100% 課題や実習先の評価で判断するが、ルーズブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を提示します（40分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40分）。 実習科目です
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回に伝達をする。実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅰ（SW）
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位（90時間） 選択 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で10日間実習を行う。実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3年秋～4年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。

アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワークを行う
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 10%（実習計画書含む）、配属実習 60%、事後学習 30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	なし
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習 I (SS)
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 7,8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定する。 注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	<担当教員名> 井川淳史 <授業内容・テーマ等> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	反転授業、グループワークを行います。報告会としてプレゼンテーションも企画しています。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20% 【事前学習・事後学修】授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行の介護実習要項および実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。（180 分） 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。（180 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅰ（SC）
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2単位（90時間） 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは10日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には20日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20%（レポート含む、今年度はルーブリックを用いない）
課題に対するフィードバック	その都度行う
指定図書	資料配布
参考図書	八木亜希子 2012『相談援助職の記録の書き方——短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・事後学修	1～5 回の事前学習において、実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。5 回目、事前学習で学んだことを復習し、まとめる。6 回～10 回の実習後指導では、体験したことを言語化し整理し、最終回にレポートにまとめる。合わせて 40 分程度
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室 2612，時間は最初の授業で提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅱ（SW）
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位（90 時間） 選択 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3 年秋～4 年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。 - 事前学習 - 担当教員によるオリエンテーション - 実習計画書の作成 - 配属実習 - 一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 - 日ごとの実習目標の立案 - 実習記録の作成 - 実習先におけるスーパービジョン - 事後学習 - 学内におけるスーパービジョン 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。

アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワークを行う
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 10%（実習計画書含む）、配属実習 60%、事後学習 30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	なし
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅱ（SS）
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位（90時間） 選択 7,8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	<担当教員名> 井川淳史 <授業内容・テーマ等> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	反転授業、グループワークを行います。報告会としてプレゼンテーションも企画しています。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20% 【事前学習・事後学修】授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行の介護実習要項および実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。（180 分） 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。（180 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅱ（SC）
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2 単位（90 時間） 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは10日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には20日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20%（含むレポート。今年度はルーブリックを用いない）
課題に対するフィードバック	その都度行う
指定図書	資料配布
参考図書	八木亜紀子 2012『援助技術の記録の書き方——短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・事後学修	1～5 回の事前学習において、実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。5 回目、事前学習で学んだことを復習し、まとめる。6 回～10 回の実習後指導では、体験したことを言語化し整理し、最終回にレポートにまとめる。合わせて 40 分程度
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室 2612，時間は最初の授業で提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	キリスト教社会福祉
科目責任者	坂本 道子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	(SW) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。 (SC) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本講義では、これまでの社会福祉の学びを振り返りつつ、日本の社会福祉形成に重要な役割を果たしたキリスト教社会福祉実践者、あるいは強い使命感を持って実践した人々の生き様を学ぶ。これを通して、人間の「多様性」を受容・共感する態度を具体的に習得し、人や社会に協調できる共生の価値観を涵養する。受講者数によっては演習形式で進めることもある。
到達目標	1. 今まで学修を通して理解した、人間の「多様性」を踏まえ、共生の価値観をもつ。 2. その価値観を土台にして、受容的・共感的態度をもって、人や社会と協調できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>坂本道子 第1回：はじめに—社会福祉研究におけるキリスト教社会福祉研究の位置づけ、人物史研究の視点 第2回：賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動① 第3回：賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動② 第4回：石井十次の生涯と慈善・救済事業 第5回：田内千鶴子の生涯と福祉活動 第6回：井深八重の生涯と社会福祉活動 第7回：糸賀一雄の生涯と福祉活動 第8回：まとめ—石井亮一と筆子の生涯、留岡幸助の生涯—対人援助の根底思想としての「ディアコニア」

アクティブラーニング	課題解決型学習を展開します。事前に人物についての要約、自己学習を課する。授業後は学びを振り返り言語化する。これらの繰り返しにより、主体的な学びの方法を身につけ、知識の定着を図る。
授業内の ICT 活用	視聴覚教材を使用します
評価方法	授業態度 20%、毎回授業時入力 Webclass20%、期末試験レポート 60%（評価基準はルーブリックで示す）
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	なし
参考図書	室田保夫 2006 『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』 ミネルヴァ書房 室田保夫 2013 『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』 ミネルヴァ書房 一番ヶ瀬康子監修 『シリーズ 福祉に生きる』 1～63 巻 大空社 取り上げた人物の参考図書は授業中に提示する
事前・事後学修	【事前】 ・毎回、Webclass の資料を事前学修において少なくとも 1 度は読む。（15 分） ・それぞれの人物の「生い立ち」や「行ったこと」について理解しておくこと。（10 分） 【事後】 ・知識を毎回、Webclass にて定着させる（15 分） ・期末のレポートの準備をする（90 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612） 時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会福祉発達史
科目責任者	坂本 道子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	今年度は西洋社会福祉の歴史、特に人物史に焦点を当て、社会福祉はどのように発達したのかについて考察を深める。テキストによって、イギリスやヨーロッパ諸国、アメリカで活躍した著名な人物の生きざまを通して、近代西洋社会福祉における福祉の展開を学び、自らの福祉への取り組みの原点を考察する。
到達目標	1. 社会福祉の基本的な考えに基づき、近現代社会における諸問題を理解する。 2. 近現代社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明できる。 3. 人物史を学ぶことによって、自らの福祉を学ぶ姿勢を考察する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>坂本道子 第1回：オリエンテーション，人物史研究の視点，近代西洋社会福祉の歴史概要 第2回：社会調査から社会保障の動きにかかわった人々 第3回：セツルメント運動から生活改良の動きへかかわった人々 第4回：子ども問題に寄り添った人々 第5回：障がい者問題に寄り添った人々 第6回：対人援助の根底思想に関わった人々 第7回：宗教と社会福祉 第8回：実践の共通点と継承されること

アクティブラーニング	課題解決型学習を展開します。人数によっては演習形式で進めることもあります。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度 20%、Webclass 入力 20%、定期試験レポート 60%
課題に対するフィードバック	授業中に提示する
指定図書	指定図書はありません。資料を授業中に随時提示します。
参考図書	室田保夫 2013 『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』 ミネルヴァ書房 シリーズ『福祉に生きる』 大空社
事前・事後学修	事前学修：興味ある人物について調べ、発表する準備をしてください。また、毎回、テキストや資料を熟読することにより、大きな流れと基本知識を理解していただきます（20 分） 事後学修：毎回、再度テキストや資料を熟読することにより、知識を定着させ、学ぶ楽しみを味わっていただきます（20 分） 期末のレポートの準備をしてください（90 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612） 時間は授業で提示します
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	臨床心理学
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	臨床心理学は、心理学を中心に関連領域に関わる知識や理論等を包括的に用いて、こころの問題を抱えた人やその家族の理解と援助の方法を研究・実践する学問である。この授業では、臨床心理学の歴史や理論を辿りながら心理検査におけるワークも取り入れ、人間理解を深める。
到達目標	1. 臨床心理学の基本的知識を習得し、近接領域も視点に入れた総合的理解を目指す。 2. 福祉現場での保育やソーシャル・ワークにおいて、心理学的な知見を活用できる態度や知識を身につける。 3. 具体的場面で活用できる臨床心理学の知識を習得・体験しながら、自己理解に努める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：概論 臨床心理学とは 第2回：臨床心理学の歴史 第3回：パーソナリティの心理 第4回：パーソナリティをみる—パーソナリティ検査法— 第5回：心の成り立ち—交流分析とエゴグラム— 第6回：無意識のはたらき—夢とコンプレックス— 第7回：自己を見つめる—自己評価— 第8回：自己をつかむ—自我同一性— 第9回：対人関係の心理 第10回：乳幼児期と母子関係 第11回：対人関係を振り返る—対人地図— 第12回：対人態度を知る—基本的対人態度— 第13回：人とのかかわり方—社会的スキル— 第14回：心理臨床の実際 第15回：まとめ

アクティブラーニング	心理検査の概要版等を使用しながら、実際のパーソナリティのアセスメントをグループワーク等で学びます。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験（60％）、課題提出物（30％）、授業態度（10％）（課題提出物については、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断します）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーへのコメントを行うことで、全員で意見や問題提起を共有しながら進めます。
指定図書	「これからを生きる心理学」 川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩 著 ナカニシヤ出版
参考図書	参考書については、授業中に随時連絡します。
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。事後学習はノートを見直し、質問を考えて次の授業に臨むこと。（目安時間は、事前・事後学習それぞれ 40 分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部 2 号館 6 階の 2610 研究室。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」および「臨床心理士」の実務経験を有する講師が、子どもにおける心理臨床の実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	発達心理学（社会福祉学部）
科目責任者	中村 洋子
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもの理解を深めるとともに乳幼児期の子どもの学びの過程や特性についての基礎的な知識を習得することで、保育の意義を理解していく。また発達の臨床的問題や具体的な支援の方法について学ぶ。
到達目標	1. 保育実践に関わる発達理論の心理学的知識を踏まえ発達を捉える視点を身につける。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を身につける。 3. 乳幼児期の特性についての基礎的な知識を習得し、保育や教育における人との相互的関りや環境の意義を説明できる。
授業計画	<授業計画・テーマ等> 第1回：オリエンテーション：授業の概要・子どもの発達を理解することの意義 第2回：子どもの発達と環境 子どもの発達を決定づける要因 第3回：社会的情動の発達 自己・感情の発達 情動調整の発達 第一次反抗期 第4回：身体機能と運動機能の発達 新生児期から幼児期までの発達の過程 第5回：認知の発達① 乳児期から幼児期の認知発達 第6回：認知の発達② ピアジェの認知発達理論 第7回：言語の発達とコミュニケーション ヴィゴツキーの発達理論 第8回：その他の理論 マーラーの分離固体化理論 フロイトの心理学的発達理論 第9回：乳幼児期の学び① 心理学における学びとは 学習理論の応用 第10回：乳幼児期の学び② 子どもは遊びを通して何を学んでいるか 第11回：乳幼児期の学び③ 学びを支える愛着の形成 ボウルビイの愛着理論 第12回：乳幼児期の学びを支える保育の実践 バンデューラーの観察学習 第13回：発達に偏りのある子どもの理解と支援① 発達障害の理解 保育と特別支援 第14回：発達に偏りのある子どもの理解と支援② アセスメントとは 検査の見方 第15回：発達に偏りのある子どもの理解と支援③ 事例検討 グループ演習

アクティブラーニング	実際の事例などを用いた発達の心理学的支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験(60%)、課題提出物 (30%)、授業態度 (10%) 計 100% 課題提出物については、毎回講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容などの全体から判断します。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。
指定図書	『保育の心理学演習ブック第2版』松本峰雄, 大野雄子, 小池庸生, 小林玄, 前川洋子 ミネルヴァ書房 (2021)
参考図書	『実践・発達心理学第2版』青木紀久代編 石井正子ほか 株式会社みらい (2019) 『実践につながる 新しい保育の心理学』大浦賢治 ミネルヴァ書房 (2019)
事前・事後学習	教科書を事前に読んでおくこと。また授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分あてること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイブリッド授業の実施について	なし

科目名	アダプテッド・スポーツ
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。 (SC) 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	スポーツの意義と価値、アダプテッド・スポーツの概念と意義を理解し、障がいや様々な状況にアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かすことができるようになる。
到達目標	1. スポーツの意義と価値を理解し、アダプテッド・スポーツとは何か、いかに大切であるかを理解する。 2. 障がいや様々な状況に応じたスポーツ活動や大会、指導者の役割について、理解する。 3. 障がいや様々な状況に応じてアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かせるようになる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：スポーツの意義と価値 学びへの導入 スポーツとは〇〇〇である 第2回：障がいとは アダプテッド・スポーツとは何か 障がい者福祉施策とのかかわり 第3回：アダプテッド・スポーツの歴史 パラリンピック以前 パラリンピックの発展 第4回：人間の権利としてのスポーツ 「失ったものを数えるな。残されたものを最大限生かせ」 第5回：身体障がいとスポーツ（1） 身体障がいの理解と支援 車いす利用者 その他の肢体不自由 第6回：身体障がいとスポーツ（2）（実技含む） 視覚障がい 聴覚障がい 第7回：身体障がいとスポーツ（実技） 障がいに応じた工夫・実践 第8回：知的障がいとスポーツ（1） 知的障がいの理解と支援 第9回：知的障がいとスポーツ（2）（実技含む） 発達障がいの理解と支援 第10回：知的障がいとスポーツ（実技） 障がいに応じた工夫・実践 第11回：精神障がいとスポーツ（実技含む） 精神障がいの理解、障がいに応じた工夫・実践 第12回：パラ・アスリート等に関する書籍からの学びを共有し、深める（グループワーク） 障がいを負った経緯とスポーツをはじめたきっかけ 第13回：パラ・アスリートを通して、スポーツの意義を考察する（発表） スポーツの意義・魅力、効果・影響 第14回：国内外における障がい者スポーツ大会 パラリンピック、スペシャルオリンピックス、全国障害者スポーツ大会 他 第15回：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質、安全管理 障がい者スポーツ指導者制度 確認テスト *各実技において、安全管理の内容を含む。

	*実施順序は、体育館や車いす等の使用可能状況により、前後します。 <受講者へのメッセージ> 初級障がい者スポーツ指導員（日本障がい者スポーツ協会公認）の指定科目です。資格取得希望者は、同時に地域実践アクティブラーニング（アダプテッド・スポーツ）を履修することが望ましい。履修希望の学生は、第1回目から出席してください。 体育館での実技時は、運動着、体育館シューズを用意してください。
アクティブラーニング	○実技、演習 ○グループワーク ○プレゼンテーション 意見交換を多く行い、学び合います。 体育館での実技と連動しながら行います。
授業内の ICT 活用	WebClass のアンケート機能を活用する。 グループ発表をプロジェクターを活用して行う。
評価方法	確認テスト50%、授業及び課題への取組（関心・意欲・態度、WebClassへの学びの記録）50%
課題に対するフィードバック	授業内及びWebClass やメールを活用し、フィードバックする。
指定図書	日本障がい者スポーツ協会編「障がいのある人のスポーツ指導教本 初級・中級」ぎょうせい
参考図書	矢部京之助編「アダプテッド・スポーツの科学」市村出版 植木章三「イラスト アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社 齊藤まゆみ「教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学」大修館書店
事前・事後学修	授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。 毎回、授業後に WebClass にて学びを記録し、課題に取り組む。(40 分) 第 13 回グループ発表に向けて、課題に取り組み、発表準備をする。 課題「パラ・アスリートを通して、スポーツの意義を考察する」(120 分) 授業での学びを実習等に活用する。
オープンエデュケーションの活用	事前事後学修、自主学修として、以下の URL の受講を勧めます。 日本パラスポーツ協会 障がい者スポーツ映像配信 https://www.jsad.or.jp/movie/index.html 国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE』日本版 https://www.parasports.or.jp/paralympic/iampossible/
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示
実務経験に関する記述	本科目は「障がい者スポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	特別支援教育
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	様々な理由により特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学びます。
到達目標	1) 特別支援教育の制度について理解する。 2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 3) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 4) 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>伊藤信寿、大須賀優子 第1回：伊藤 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 目標：特別支援教育とは何かについて理解する 事前学修：特殊教育と特別支援教育の違いについてまとめる 第2回：伊藤 発達障害や知的障害の特性について 目標：発達障害や知的障害の特性や支援について理解する 事前学修：発達障害や知的障害の疾患名や特性についてまとめる 第3回：伊藤 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害の特性について 目標：視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の特性や支援について理解する 事前学修：脳性まひ、筋ジストロフィーの特性についてまとめる 第4回：大須賀 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の脳の発達特性と支援 目標：発達障害や知的障害の脳機能の特性に合わせた支援の方法について理解する 事前学修：発達障害や知的障害の子どもへの支援で疑問に思うことをまとめる 第5回：大須賀 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の行動支援 目標：ABC 分析の考え方に基づく効果的な行動支援の方法について理解する 事前学修：子どもの問題行動に対する支援の方法をまとめる 第6回：大須賀 特別支援教育の制度と合理的配慮の提供 目標：特別支援教育の仕組みについて理解するとともに、ICF の視点から学校における合理的配慮の提供について理解する。 事前学修：合理的配慮とは何かまとめる 第7回：伊藤 特別支援教育における専門家の役割について 目標：特別支援教育に関わる専門家とその役割について理解する 事前学修：どのような専門家がいるのかをまとめる

	第8回：伊藤 教育、医療、福祉、家庭との連携について 目標：医療や福祉の制度について学び、家庭を中心とした連携を理解する 事前学修：自分が考える理想の連携についてまとめる
アクティブラーニング	事前課題を与え、課題についてグループワークを行い理解を深める。 また、Think-Pair-Share を行っていく。
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います
評価方法	小テスト（50%）、レポート（30%）、課題（20%） レポート、課題はルーブリックを用いない
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に小テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	なし
参考図書	よくわかる特別支援教育[第2版]（湯浅恭正 編著 ミネルヴァ書房） 特別支援教育（松浪健四郎他 監修 中山書店）
事前・事後学修	事前学修：提示した事前課題を遂行する（30分程度） 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する（10分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会福祉入門
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 12 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、「地域ケア連携の基礎」と連動した科目であり、ソーシャルワークの基盤である「ソーシャルワーカーの意義と役割」「他職種の専門性と役割」を学ぶ。当事者、外部講師、他学部教員の講義を通して、前半は、社会福祉の対象者の生活に関わる専門職の実践について、後半は、ソーシャルワーカーが連携する他職種の実践について理解を目標とする。
到達目標	1. 社会福祉現場の実際にふれることで、社会福祉の学びへの意識が高まる。 2. 社会福祉専門職がおこなう社会福祉活動を知る。 3. 連携する他職種の支援の実際を理解し、専門職連携の意味を知る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 小畑美穂 落合克能 川向雅弘 【春セメスター】 第1回：小畑美穂 オリエンテーション：社会福祉とは何か① 第2回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際①（障害者支援領域） 第3回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際②（コミュニティソーシャルワーク） 第4回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際③（精神障害者支援領域） 第5回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際④（高齢者支援領域） 第6回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際⑤（医療ソーシャルワーク） 第7回：社会福祉学科教員 落合克能 自らの実践から振り返る「ソーシャルワーカー」 第8回：小畑美穂 春セメスター講義の振り返り（社会福祉とは何か②） 【秋セメスター】 第9回：看護学部教員 看護師の役割と実際①（病棟ケア） 第10回：看護学部教員 看護師の役割と実際②（在宅ケア） 第11回：看護学部教員 養護教諭の役割と実際 第12回：リハビリテーション学部教員 作業療法士の役割と実際 第13回：ゲストスピーカー 臨床心理士の役割と実際 第14回：社会福祉学科教員 川向雅弘 自らの実践から振り返る「多専門職連携」 第15回：小畑美穂 秋セメスター講義の振り返り

アクティブラーニング	グループ学習を取り入れる。ゲストスピーカーの話を通して学びます。
授業内の ICT 活用	Webclass の活用
評価方法	授業への取り組み:20%、期末レポート:80% (春 40%・秋 40%) レポートについては、ルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	各セメスター最終回にゲストスピーカーの講義に対するフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	毎回の事前学習として、次回テーマ領域についての新聞記事等を確認して臨むこと。 毎回の学びを Webclass に提出すること。また、各回の講義内容に関する文献・新聞記事等について事後学習を行うこと。(目安時間 40 分)セメスター終了後にレポートを提出する。
オープン教育の活用	ゲストスピーカーの講義内容による。
オフィスアワー	初回授業時提示する。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉専門職、臨床心理士、養護教諭、看護師等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク論Ⅲ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで修得した内容を基盤として、①メゾ・マクロレベルのソーシャルワークとしてのグループワーク及びコミュニティワークの理論と実際、②ケアマネジメントの概念とその展開、③スーパービジョン及びコンサルテーションの目的、方法と実際を理解することを目的とした授業構成となっている。
到達目標	1. 社会福祉実践現場で展開されるグループワークの実際をイメージしながら、原則や展開過程を理解することができる。 2. 社会福祉実践現場で展開されるコミュニティワークの実際をイメージしながら、展開過程を理解することができる。 3. 実習場面を想定しながら、スーパービジョンの機能、方法などを理解することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>川向雅弘・福田俊子・佐藤順子> 第1回：集団を活用した支援①グループワークとは 福田 第2回：集団を活用した支援②グループワークの原則と援助関係 福田 第3回：集団を活用した支援③グループワークの展開過程 福田 第4回：集団を活用した支援④セルフヘルプ・グループ 福田 第5回：集団を活用した支援⑤グループワークの歴史 福田 第6回：コミュニティワーク①コミュニティワークの意義と目的 佐藤 第7回：コミュニティワーク②地域アセスメント、地域課題の発見・認識 佐藤 第8回：コミュニティワーク③社会資源の開発 佐藤 第9回：コミュニティワーク④コミュニティワークのプロセス 実施計画、地域組織化、計画の評価等 佐藤 第10回：コミュニティワーク⑤コミュニティワークの歴史 佐藤 第11回：ケアマネジメント①ケアマネジメントの原則、歴史、適用と対象 川向 第12回：ケアマネジメント②ケアマネジメントのプロセス、モデル 川向 第13回：ケアマネジメント③ケアマネジメントの実際 川向 第14回：スーパービジョンとコンサルテーション① スーパービジョンの意義、目的、方法 川向 第15回：スーパービジョンとコンサルテーション② コンサルテーションの意義、目的、方法 川向

アクティブラーニング	グループ学修やPBLなどを用いながら授業を進める。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。
評価方法	小テスト20%、定期試験60%、授業への取り組み20%として評価する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容やWebClassで作成した資料をもとに、グループディスカッションを、適宜取り入れる。
指定図書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワークの理論と方法』中央法規 稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』有斐閣
参考図書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	<事前学習> ・該当する単元の教科書を熟読しておくこと（40分）。 <事後学習> ・コミュニティワークとケアマネジメントの理解を確かにしておくこと（40分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	川向雅弘：2705 研究室 時間帯については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク論Ⅳ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した内容を基盤として、①ケアマネジメント、②コーディネーション・ネットワーキング・アウトリーチ、③スーパービジョンについて理解し、実践で活用できる力を身につけることを目的としている。
到達目標	1. ケアマネジメント等の学習を通して、エンパワメントを意識した人と環境との調整支援の重要性を理解する。また、人間という存在および様々な社会資源と関わる意欲をもつことができる。 2. 外部講師による専門職としての自己変容の物語を聴くことを通じて、自分の実習体験などを振り返りながら、専門職としての自己の生成について理解することができる。 3. 分析的志向にもとづいた行動目標が設定できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：講義概要 第2回：ケースマネジメントの基本事例①（事例の共有） 第3回：ケースマネジメントの基本事例①（事例の検討） 第4回：ケースマネジメントの基本事例①（報告とまとめ） 第5回：ケースマネジメントの基本事例②（事例の共有） 第6回：ケースマネジメントの基本事例②（事例の検討） 第7回：ケースマネジメントの基本事例②（報告とまとめ） 第8回：ケースマネジメントの基本事例③（事例の共有） 第9回：ケースマネジメントの基本事例③（事例の検討） 第10回：ケースマネジメントの基本事例③（報告とまとめ） 第11回：スーパービジョンを受けるということ 第12回：スーパービジョンを受けるということ 第13回：スーパービジョンを受ける・するということ 第14回：スーパービジョンを受ける・するということ 第15回：まとめ <担当教員名> 川向雅弘・福田俊子 川向雅弘 川向雅弘 川向雅弘 川向雅弘 川向雅弘 川向雅弘 川向雅弘 川向雅弘 ゲストスピーカー・福田俊子 ゲストスピーカー・福田俊子 福田俊子 <その他> リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。

アクティブラーニング	グループ学修やPBLなどを用いながら授業を進める。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。
評価方法	レポート60%、定期試験40%として評価する。 レポートで評価するが、ルーズリックは用いない。 <レポート> ・川向担当：事例検討を通じて考えたことなどをテーマとしたレポートを課す。 ・福田担当：スーパービジョンをテーマとしたレポートを課す。 <定期試験> ・事前に出題範囲を告知する。 ・記述・穴埋め・〇×式を混合して出題する。 <授業への取り組み> ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容やWebClassで作成した資料をもとに、グループディスカッションを、適宜取り入れる。
指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 北川清一他監修『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	<事前学習> ・第1～10回には、指定図書の指示した頁を熟読すること。 ・第11～14回には、ゲストスピーカーに対する質問を考えてくこと。 <事後学習> ・ケアマネジメントの給付管理の計算式等を整理し、理解を確かにしておくこと。 ・レポート「事例検討を通して考えたこと」を作成すること。(160分=4回分を要する) ・レポート「一人前の対人援助職となるために必要とされる『育つちから』とは」を作成すること。(160分=4回分を要する)
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会保障論Ⅰ
科目責任者	国京 則幸
単位数他	2単位（30時間） 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	（社会保障論Ⅰ・Ⅱを通じて） 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し、問題のとらえ方・考え方を深める。そしてその理解の上に、社会実態的な問題とのかかわりで取り組まねばならない課題等について検討する。
到達目標	1. 社会保障制度、特にサービス提供型の制度のしくみ（構造／適用／給付）およびその問題・課題について理解する。 2. 日本の社会に現実にある社会実態的な問題を把握し理解する。 3. 社会保障の論理を修得する。－検討の「方法」（方法論）
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：履修案内（講義概要と履修計画等について） 第2回：社会保障とは何か①：社会保障のモンダイ 【教科書 第1章】 ⇒社会保障にまつわる出来事 第3回：社会保障とは何か②：社会保障の歴史と体系 【教科書 第1章】 ⇒社会保障の展開過程・歴史 第4回：社会保障とは何か③：社会保障の方法 【教科書 第6章】 ⇒社会保障制度の基本的な方法 第5回：医療保障①：医療保障とは？ 【教科書 第2章】 ⇒医療保障とは／保険とは 第6回：医療保障②：日本の医療保障（健保） 【教科書 第2章】 ⇒健保制度のしくみ 第7回：医療保障③：日本の医療保障（健保／国保） 【教科書 第2章】 ⇒健保制度のしくみ（給付）／国保制度のしくみ 第8回：医療保障④：日本の医療保障（国保、医療制度、医療保険と医療制度のつながり） 【教科書 第2章】 ⇒医療制度のしくみ／医療保険制度と医療制度とのつながり 第9回：医療保障⑤：医療保障の課題 【教科書 第2章】 ⇒医療保障をめぐる問題／世界の医療保障 第10回：社会福祉①：社会福祉とは？ 【教科書 第7章】 ⇒社会福祉とは 第11回：社会福祉②：児童福祉・家族福祉 【教科書 第8章】 ⇒児童虐待を巡る制度のしくみ／保育所を巡る制度のしくみ 第12回：社会福祉③：障害者福祉 【教科書 第9章】 ⇒障害者総合支援制度のしくみ 第13回：社会福祉④：高齢者福祉 【教科書 第10章】 ⇒介護を巡る問題・課題 第14回：社会福祉⑤：介護保険 【教科書 第3章】 ⇒介護保険制度のしくみ 第15回：まとめ ※受講学生の理解等によって、回と講義内容が前後する場合があります。

アクティブラーニング	・主体的な学びを実践するため、講義中、発言を求めます。 ・講義各回後に WebClass を介して出される小テストを受験し、授業の予復習を行います。
授業内の ICT 活用	webclass の活用
評価方法	定期試験（筆記試験）70%+②小テスト 30%（授業中の発言等の考慮含む）
課題に対するフィードバック	小テスト受験後、期限が到来すると、解答の解説を参照することができるようになっています。
指定図書	古橋エツ子編『新・初めての社会保障論』（法律文化社、最新版）
参考図書	なし
事前・事後学修	・あらかじめ該当する箇所（【 】内）は読んでおくこと。講義中、発言を求めます。 ・講義後、原則として毎回実施される小テストで講義の復習（+予習）を。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会保障論Ⅱ
科目責任者	国京 則幸
単位数他	2単位（30時間） 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	（社会保障論Ⅰ・Ⅱを通じて） 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し、問題のとらえ方・考え方を深める。そしてその理解の上に、社会実態的な問題とのかかわりで取り組まねばならない課題等について検討する。
到達目標	1. 社会保障制度、特に金銭給付型の制度のしくみ（構造／適用／給付）およびその問題・課題について理解する。 2. 日本の社会に現実にある社会実態的な問題を把握し理解する。 3. 社会保障の論理を修得する。－検討の「方法」（方法論）
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：社会保障論Ⅰの振り返り（医療保障 その1） 【教科書 第2章】 ⇒保険のしくみ／健康保険制度のしくみ 第2回：社会保障論Ⅰの振り返り（医療保障 その2） ⇒国民健康保険制度のしくみ／医療保険制度と医療制度のつながり 第3回：社会保障論Ⅰの振り返り（社会福祉 その1） 【教科書 第3章、第7～10章】 ⇒社会福祉基礎構造改革 第4回：社会保障論Ⅰの振り返り（社会福祉 その2） ⇒介護保険制度のしくみ 第5回：年金保険①：年金とは？＋基礎年金 【教科書 第4章】 ⇒年金の基本的考え方／基礎年金制度のしくみ 第6回：年金保険②：基礎年金、厚生年金 【教科書 第4章】 ⇒基礎年金制度の給付（老齢・障害・遺族）／厚生年金制度のしくみ 第7回：年金保険③、社会手当：厚生年金、年金の課題 【教科書 第4章、第11章】 ⇒厚生年金制度の給付（老齢・障害・遺族）／課題の検討／児童手当／児童扶養手当 第8回：生活保護①：生活保護とは？ 【教科書 第12章】 ⇒貧困とは、生活保護とは 第9回：生活保護②：生活保護のしくみ 【教科書 第12章】 ⇒生活保護制度のしくみ 第10回：生活保護③：生活保護の課題 【教科書 第12章】 ⇒生活保護の課題 第11回：労働保険①：労働者災害補償保険（労災）とは？ 【教科書 第5章】 ⇒労災とは 第12回：労働保険②：労災のしくみ 【教科書 第5章】 ⇒労災制度のしくみ 第13回：労働保険③：雇用保険とは？ 【教科書 第5章】 ⇒雇用保険とは 第14回：労働保険④：雇用保険のしくみ 【教科書 第5章】 ⇒雇用保険制度のしくみ 第15回：まとめ ※受講学生の理解等によって、回と講義内容が前後する場合があります。

アクティブラーニング	・主体的な学びを実践するため、講義中、発言を求めます。 ・講義各回後に WebClass を介して出される小テストを受験し、授業の予復習を行います。
授業内の ICT 活用	webclass の活用
評価方法	定期試験（筆記試験）70%+②小テスト 30%（授業中の発言等の考慮含む）
課題に対するフィードバック	小テスト受験後、期限が到来すると、解答の解説を参照することができるようになっている。
指定図書	古橋エツ子編『新・初めての社会保障論』（法律文化社、最新版）
参考図書	なし
事前・事後学修	・あらかじめ該当する箇所（【 】内）は読んでおくこと。講義中、発言を求めます。 ・講義後、原則として毎回実施される小テストで講義の復習（+予習）を。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	高齢者福祉論
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位（30時間） 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	・高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者のその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ・高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ・高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ・高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 ・高齢者の精神的・身体的特徴や障害や高齢期に社会とかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。 ・高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学ぶとともに相談援助活動において必要となる介護高齢者福祉・介護保険制度やその他の社会福祉サービスについて理解する。
到達目標	①保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的知識を理解できる。 ②高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者のその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解し、発生問題や経過、解決について説明できる。 ③高齢者を取り巻く問題や生活課題について説明できる。 ④高齢社会対策についての基礎知識を得る。 ⑤介護保険制度を理解できる。 ⑥高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解し、相談援助活動を想定して支援計画を作成できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：高齢者と少子高齢社会①：高齢者の定義と特性 第2回：高齢者と少子高齢社会②：少子高齢社会の到来 第3回：高齢者の生活実態 第4回：高齢者を取り巻く社会環境 第5回：高齢者観の変遷 第6回：高齢者福祉の歴史：高齢者福祉の発展過程 第7回：高齢者福祉の理念 第8回：介護保険制度①：介護保険制度の目的、保険者と被保険者 第9回：介護保険制度②：保険財政と要介護認定の仕組み・介護保険事業計画 第10回：介護保険制度③：地域支援事業 第11回：介護保険制度④：介護保険サービスの体系／居宅・施設サービスの種類 第12回：介護保険制度⑤：介護保険サービスの体系／地域密着型サービス 等 第13回：高齢者に対する関連諸制度／老人福祉法 第14回：高齢者に対する関連諸制度／高齢者虐待防止法・バリアフリー法 第15回：高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 高齢者と家族等に対する支援の実際

アクティブラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。ディスカッションテーマを用いてグループ討議も行います。
授業内の ICT 活用	ICT 活用を積極的に行っています。特に学修支援ツール Webclass を多用しています。 ①出席管理 ②小テスト管理 ③事前課題管理 ④事後課題管理 ⑤授業の理解度チェック ⑥レポート管理 ⑦学生の連絡、授業や質問へのフィードバック 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。
評価方法	小テスト 5 回 (25%)、課題・提出物等 (15%)、定期試験 (60%)
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内やWeb class などを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	最新・社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉 中央法規
参考図書	黒澤貞夫「福祉に学び福祉に尽くす」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】次回の授業の重要語句と該当頁を事前に提示しますので準備して下さい 【事後学修】配布された課題プリントに取り組み、毎回の小テスト対策事後学習して下さい (事前：事後学修 目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護福祉論
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。 高齢者の精神的・身体的特徴や障害について理解し、高齢期に社会とのかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ、高齢者や障害をもつ人の人生を支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。また高齢者福祉施策と障害者福祉施策を比較し俯瞰する。
到達目標	①高齢者の生活実態をふまえ、高齢者の福祉需要や介護需要について説明できる。 ②認知症ケアや終末期ケアについて基本的な考え方を習得し、人間観と倫理について学ぶ。 ③高齢者の心身の状態に応じた住環境について理解し、他者に伝えることができる。 ④地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解することができる。 ⑤高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を捉えることができる。 ⑥障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉えることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：高齢者の支援の方法と実際① DVD を見て考える 第 2 回：高齢者の支援の方法と実際② 認知症高齢者を介護する家族の支援 第 3 回：高齢者の生活実態① 介護サービスの利用と制度理解 第 4 回：高齢者の生活実態② 介護保険制度の理解 第 5 回：高齢者の暮らし(高齢社会白書より)① 生活実態 第 6 回：高齢者の生活実態③ 制度を理解する(確認小テスト) 第 7 回：高齢者の暮らし(高齢社会白書より)② 高齢者の疾患等 第 8 回：高齢者の暮らし(高齢社会白書より)③ 経済生活等 第 9 回：高齢者を支援する専門職の役割と実際(確認小テスト) 第 10 回：介護各論① 自立に向けた介護 第 11 回：介護各論② 尊厳の保持と介護実践 第 12 回：介護各論③ 認知症ケア 第 13 回：介護領域の課題と展望 第 14 回：高齢者の生活課題 第 15 回：最終テスト

アクティブラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 活用を授業で多く使います。特に Webclass を多用しています。 ① 出席管理 ② 小テスト管理 ③ 事前課題管理 ④ 事後課題管理 ⑤ 授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。
評価方法	小テスト (30%)、授業態度等 (20%)、最終テスト (50%)
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内やMoodleなどを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	新・社会福祉士養成講座 第3版 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規
参考図書	特になし
事前・事後学修	① 授業前に WebClass 事前課題に回答すること (書く 40 分 2～14 回) ② 授業後に WebClass 事前課題に回答すること (書く 40 分 2～14 回) ③ レポート課題を作成すること (2 回程度 80 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の横尾恵美子研究室 (2710 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	障害者福祉論
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	「障害とは何か」を理解し、障がいのある人の生活と適切な支援について理解する。障がいのある人にかかわる福祉施策やサービス・利用できる社会資源、さらに、障害者福祉の基盤にあるノーマライゼーションや自立生活を考える上での思想・価値、人権についての理解を深める。また、「障害」という概念形成の歴史、暮らしの歴史、障害のある人を取りまく社会環境と制度施策を検証し、障害者福祉の全体像を解説する。
到達目標	1. 「障害」とは何か、「障害児・者」の概念と定義が説明できる。 2. 障がいのある人の生活と社会環境の課題について説明できる。 3. 障害者福祉制度の変遷やその特徴を説明できる。 4. 障害者にかかわる法制度について説明できる。 5. 障がいのある人と家族への支援の方法、関係機関と専門職の役割について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：障害概念と特性の基礎的理解①（「障害者」とは誰か） 第2回：障害概念と特性の基礎的理解②「障害（者）」の定義と概念（ICIDH と ICF の特徴） 第3回：障害者福祉の歴史①（障害者福祉の理念—ノーマライゼーション） 第4回：障害者福祉の歴史②（障害者福祉の理念—自立） 第5回：障害者福祉の歴史③（戦前の障害者の暮らし） 第6回：障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境①（地域移行と地域定着の課題） 第7回：障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境②（親なき後の支援の課題） 第8回：障害者に対する法制度①（障害者基本法の成立過程） 第9回：障害者に対する法制度②（障害者基本法と障害者差別解消法） 第10回：障害者に対する法制度③（身体・知的・精神・発達障害等の法制度） 第11回：障害者に対する法制度④（虐待防止法・雇用促進法等） 第12回：障害者に対する法制度⑥（障害者総合支援法の理念・目的） 第13回：障害者に対する法制度⑦（障害者総合支援法のサービス体系・財源・自己負担） 第14回：障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 第15回：障害者と家族に対する支援の実際

アクティブラーニング	グループワークを実施します。
授業内の ICT 活用	インターネット情報等を用いた学習を取り入れます。
評価方法	授業態度：20%、レポート：40%、定期試験：40%
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーでフィードバックを行います。
指定図書	・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『障害者福祉』中央法規 ・『シリーズ 社会福祉の視座 社会福祉への招待』ミネルヴァ書房 ・初回授業でレポート課題のための図書を指定します。
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	「ハンセン病問題」に関連した書籍を読み、レポートを授業最終回に提出します。初回授業時に詳細を説明します。 【事前】毎回簡単な事前課題を提示致します。また、指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。 【事後】授業の中で指摘したキーワードを調べ、Webclass に提出すること。(目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	特になし
オフィスアワー	川向雅弘(社会福祉学部社会福祉学科)：2705研究室 時間帯については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	特になし

科目名	地域福祉論Ⅰ
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位（30時間） 選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	近年、特に社会福祉法成立により、地域福祉は社会福祉の一分野にとどまらず、社会福祉の今後のあり方に関わる概念として重視されている。そこでこの科目では主に地域福祉の理論について学習する。
到達目標	地域福祉の専門職に必要な地域福祉に関する基本的な知識・理論を体系的に理解するとともに、現代社会に生起する諸問題について、地域社会における生活との関わりで理解し、その解決の現状について説明できることを目指す。 １．地域福祉の発展過程について理解できる ２．地域福祉の基本的考え方について理解できる ３．地域福祉の主体と対象について理解できる ４．地域福祉に係る組織、団体、専門職の役割と実際について理解できる ５．地域福祉の財源について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、ビデオ視聴 第2回：地域社会と生活 第3回：地域福祉が重視される背景と展開①地域福祉の源流 第4回：　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　　　②戦後社会福祉の発展と地域福祉 第5回：近年の地域福祉政策の動向と課題 第6回：地域共生社会の実現に向けた制度、施策 小テスト 第7回：地域福祉の概要理解 日常生活圏域における地域福祉活動の実践例 ゲストスピーカー 三方原地区社協会長 第8回：地域福祉の基本的考え方①地域福祉の理念と概念 第9回：地域福祉の基本的考え方②地域福祉における住民参加の意義 第10回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等①社会福祉協議会 第11回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等②民生委員・児童委員 第12回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等③社会福祉法人、特定非営利活動法人 第13回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等④地方自治体、行政組織、専門職 第14回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等⑤地域福祉推進基礎組織、住民参加型在宅福祉サービス、その他 第15回：地域福祉の財源 共同募金

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内の ICT 活用	・webclass を活用して双方向型授業を行う ・事前・事後学修課題についてはwebclass に提出する
評価方法	授業態度 10%、小テスト20点、課題等20点、定期試験50%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する
指定図書	『地域福祉と包括的支援体制』中央法規（日本ソーシャルワーク教育学校連盟編）
参考図書	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論 理論と実践』法律文化社
事前・事後学修	事前学修：2 回目の授業に向けて、事前レポートを提出する（約 30 分） 10～14 回の授業に向けて事前課題に取り組む（各 30 分） 事後学習：6 回終了後小テストを行う（準備学修 80 分） 7 回終了後、事後課題を提出する（約 40 分） 10～14 回についてはwebclass 内の国家試験過去問に回答する（約 30 分） 毎回学びを振り返り、わかったことをまとめ、webclass に提出する（約 10 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	地域福祉論Ⅱ
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位（30時間） 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	地域福祉論Ⅰの「地域福祉の理論」についての学習を踏まえ、本科目では「地域福祉の方法」について学習する。
到達目標	福祉の専門職に必要な地域福祉に関する基本的な知識・理論を体系的に理解するとともに、地域社会とそこで生活する福祉サービスを必要とする人々について、適切なニーズ把握、支援の道筋を指摘できる。 1. 地域福祉の動向とソーシャルワークの新たな課題について理解できる 2. 地域福祉方法論の発展過程が理解できる 3. 地域福祉における地域包括ケアの意義が理解できる 4. 地域福祉の具体的な推進方法について指摘できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス ビデオ視聴 第2回：地域に関わる専門職の役割（前回ビデオのまとめ）近年の社会福祉の動向と実践課題、ソーシャルワークの新たな課題 第3回：地域福祉の方法論と発展のあゆみ 第4回：コミュニティワークとコミュニティソーシャルワーク 第5回：小テストおよび解説 第6回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実践①地域に根差した多様な実践 第7回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実践②日常生活自立支援事業 第8回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実践③ 地域包括ケアシステム、包括的支援体制 第9回：地域における福祉ニーズの把握方法と実際①地域アセスメント 第10回：地域における福祉ニーズの把握方法と実際②福祉ニーズの把握、アウトリーチ 第11回：社会資源の活用・調整・開発 第12回：住民参加の意義（復習）とその促進方法 第13回：福祉教育とボランティア育成 第14回：地域福祉計画の概要と意義 第15回：学習のまとめ

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内の ICT 活用	・webclass を活用して双方向型授業を行う ・事前・事後学修課題についてはwebclass に提出する
評価方法	授業態度10%、小テスト20点、課題等20%、定期試験50%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する 小テスト実施後解説を行う
指定図書	『地域福祉と包括的支援体制』中央法規（日本ソーシャルワーク教育学校連盟編）（地域福祉論Ⅰで既に購入済みのもの）
参考図書	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論 理論と実践』法律文化社
事前・事後学修	事前学習：2、6、7、12、13 回目の授業に向けて、事前レポートを提出する（各 40 分） 事後学習：毎回学びを振り返り、わかったことをまとめ、webclass に提出する（各 10 分） 5 回目に小テストを実施する（事前学習 80 分） webclass 内の国家試験過去問に回答する（各 30 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	公的扶助論
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	公的扶助は、国が国民に対して最低限度の生活を保障する制度である。その中核をなしている生活保護制度は、日本国憲法第 25 条の生存権として、国の義務を具現化しており、あらゆる社会保障制度の基礎となっている。 人の生活とは何か、貧困とは何かを探究することで、公的扶助の歴史的変遷、社会的意義を考える。
到達目標	1. 現代社会における貧困の実態、社会的背景・要因および生活状況について理解できる。 2. 社会環境と自らの生活に関連づけて考えることができる。 3. 貧困とソーシャルワーク支援の関係性について理解できる。 4. 生活保護および低所得者に関する法制度を体系的に理解できる。 5. 公的扶助の社会的意義を歴史的に理解できる。 5. 講義で得られた知識を、実習等で活用できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：公的扶助の概念 第 3 回：貧困の概念 第 4 回：貧困状態にある人の生活実態 第 5 回：貧困状態にある人を取り巻く社会環境 第 6 回：貧困の歴史①—貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷 第 7 回：貧困の歴史②—貧困観の発展過程 第 8 回：生活保護制度① 生活保護の目的、基本原理・基本原則、保護の種類 第 9 回：生活保護制度の保護の動向 第 10 回：生活保護制度② ゲストスピーカーによる講義とディスカッション 第 11 回：低所得者に対する法制度① —生活困窮者自立支援制度の理念と概要 第 12 回：低所得者に対する法制度② ゲストスピーカーによる講義とディスカッション 第 13 回：低所得者に対する法制度③—低所得者対策、ホームレス対策 第 14 回：貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、グループワーク、ディスカッション、ディベートを実施する。
授業内の ICT 活用	PC, タブレット, スマートフォン等デバイスを活用し、検索・入力・作業およびグループワークを行う。WebClass を利用する。
評価方法	授業への取り組み 30%, 中間レポート 20%, 定期試験 50% ※中間レポートの課題に関しては、第8回授業にて説明する。
課題に対するフィードバック	1) 予習課題は、次回時の授業を通してコメントする。 2) リアクションペーパーでの質問や要点については、授業においてコメントする。 3) 中間レポートについては、授業においてコメントする
指定図書	『貧困に対する支援』（最新社会福祉士養成講座）中央法規（一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編）
参考図書	・ルース・リスター『貧困とはなにか』明石書店 ・岩田正美『貧困の戦後史 貧困の「かたち」はどう変わったのか』筑摩書房 ・岩田正美『社会的排除 参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣 ・岩永理恵編著『生活保護と貧困対策』有斐閣 ・日田剛『ソーシャルワークにおける権利擁護とはなにか』旬報社 ・志賀信夫『貧困理論の再検討 相対的貧困から社会的排除へ』法律文化社 ・宮本みち子, 佐藤洋作, 宮本太郎編著『アンダークラス化する若者たち 生活保障をどう立て直すか』明石書店
事前・事後学修	【事前学習】毎回の授業で学ぶ項目について、テキストの該当箇所をあらかじめ読んでキーワードをまとめるなどして授業に望む。加えて、あらかじめ提示する課題について調べる（目安時間 40 分） 【事後学習】毎回学びをリアクションペーパーにまとめ、WebClass に提出する。加えて、配布資料をもとに授業の振り返りを行う（目安時間 30 分）
オープン教育の活用	なし。
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし。

科目名	社会福祉経営論																																																		
科目責任者	落合 克能																																																		
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター																																																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																																		
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。																																																		
科目概要	福祉サービスの経営管理を担当している方々の講義を通して、福祉サービスにかかる組織や団体および、福祉サービスの経営と管理運営に関する基礎的知識を修得することを目的としている。社会福祉法人制度、財源、働きやすい労働環境の整備などについて学び、そのことが様々なニーズを持った利用者への適切な支援、地域共生社会の実現につながることを理解する。																																																		
到達目標	以下の到達目標を達成し、社会福祉サービス提供組織の経営管理に関する様々な事象について、専門用語を使って説明できるようになる。 1. 福祉サービスの制度および福祉サービスの組織と経営の基礎的知識を修得する。 2. 福祉サービスの運営管理の方法に関する知識を修得するとともに、その実際を理解する。																																																		
授業計画	【担当教員】 武居 敏、落合克能 <table><thead><tr><th><回数・日程></th><th><授業内容・テーマ等></th><th><担当講師></th></tr></thead><tbody><tr><td>第 1 回：オリエンテーション、福祉サービスにおける組織と経営 *福祉サービスと制度、組織・経営、法人、社会福祉法人について</td><td></td><td>落合克能</td></tr><tr><td>第 2 回：福祉サービス提供組織の経営とは *福祉サービス、福祉サービス提供組織、経営とは</td><td></td><td>武居 敏</td></tr><tr><td>第 3 回：事業種別ごとの管理の実際：特別養護老人ホーム</td><td></td><td>上野拓朗</td></tr><tr><td>第 4 回：事業種別ごとの管理の実際：障害者施設（措置-契約）</td><td></td><td>村田孝弘</td></tr><tr><td>第 5 回：事業種別ごとの管理の実際：在宅サービス、地域共生社会</td><td></td><td>弓桁智浩</td></tr><tr><td>第 6 回：福祉サービスにかかわる組織や団体 *社会福祉法人、特定非営利法人、その他の組織や団体</td><td></td><td>落合克能</td></tr><tr><td>第 7 回：福祉サービスの管理運営の方法①人事管理と労務管理 *福祉サービス組織の現状と動向、人事・労務管理、人材育成</td><td></td><td>鎌田裕子</td></tr><tr><td>第 8 回：福祉サービスの管理運営の方法② 会計管理と財務管理 *社会福祉法人会計基準、経営分析、経営と財務等</td><td></td><td>井上英樹</td></tr><tr><td>第 9 回：福祉サービスの管理運営の方法③ 情報・施設管理 *利用者情報の有効活用と保護、個人情報保護法、広告等</td><td></td><td>西澤基示郎</td></tr><tr><td>第 10 回：福祉サービスの管理運営の方法④ サービス管理 *サービス管理、サービスの質の評価、苦情対応とリスクマネジメント</td><td></td><td>野村則国</td></tr><tr><td>第 11 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論① *戦略、事業計画</td><td></td><td>落合克能</td></tr><tr><td>第 12 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論② *サービス評価、組織と福祉サービス</td><td></td><td>落合克能</td></tr><tr><td>第 13 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論③ *集団力学、リーダーシップ理論</td><td></td><td>落合克能</td></tr><tr><td>第 14 回：聖隷福祉事業団と社会福祉経営</td><td></td><td>武居 敏</td></tr><tr><td>第 15 回：本科目全体のまとめ</td><td></td><td>落合克能</td></tr></tbody></table> ※都合により、講師の順番が入れ替わることがあります。			<回数・日程>	<授業内容・テーマ等>	<担当講師>	第 1 回：オリエンテーション、福祉サービスにおける組織と経営 *福祉サービスと制度、組織・経営、法人、社会福祉法人について		落合克能	第 2 回：福祉サービス提供組織の経営とは *福祉サービス、福祉サービス提供組織、経営とは		武居 敏	第 3 回：事業種別ごとの管理の実際：特別養護老人ホーム		上野拓朗	第 4 回：事業種別ごとの管理の実際：障害者施設（措置-契約）		村田孝弘	第 5 回：事業種別ごとの管理の実際：在宅サービス、地域共生社会		弓桁智浩	第 6 回：福祉サービスにかかわる組織や団体 *社会福祉法人、特定非営利法人、その他の組織や団体		落合克能	第 7 回：福祉サービスの管理運営の方法①人事管理と労務管理 *福祉サービス組織の現状と動向、人事・労務管理、人材育成		鎌田裕子	第 8 回：福祉サービスの管理運営の方法② 会計管理と財務管理 *社会福祉法人会計基準、経営分析、経営と財務等		井上英樹	第 9 回：福祉サービスの管理運営の方法③ 情報・施設管理 *利用者情報の有効活用と保護、個人情報保護法、広告等		西澤基示郎	第 10 回：福祉サービスの管理運営の方法④ サービス管理 *サービス管理、サービスの質の評価、苦情対応とリスクマネジメント		野村則国	第 11 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論① *戦略、事業計画		落合克能	第 12 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論② *サービス評価、組織と福祉サービス		落合克能	第 13 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論③ *集団力学、リーダーシップ理論		落合克能	第 14 回：聖隷福祉事業団と社会福祉経営		武居 敏	第 15 回：本科目全体のまとめ		落合克能
<回数・日程>	<授業内容・テーマ等>	<担当講師>																																																	
第 1 回：オリエンテーション、福祉サービスにおける組織と経営 *福祉サービスと制度、組織・経営、法人、社会福祉法人について		落合克能																																																	
第 2 回：福祉サービス提供組織の経営とは *福祉サービス、福祉サービス提供組織、経営とは		武居 敏																																																	
第 3 回：事業種別ごとの管理の実際：特別養護老人ホーム		上野拓朗																																																	
第 4 回：事業種別ごとの管理の実際：障害者施設（措置-契約）		村田孝弘																																																	
第 5 回：事業種別ごとの管理の実際：在宅サービス、地域共生社会		弓桁智浩																																																	
第 6 回：福祉サービスにかかわる組織や団体 *社会福祉法人、特定非営利法人、その他の組織や団体		落合克能																																																	
第 7 回：福祉サービスの管理運営の方法①人事管理と労務管理 *福祉サービス組織の現状と動向、人事・労務管理、人材育成		鎌田裕子																																																	
第 8 回：福祉サービスの管理運営の方法② 会計管理と財務管理 *社会福祉法人会計基準、経営分析、経営と財務等		井上英樹																																																	
第 9 回：福祉サービスの管理運営の方法③ 情報・施設管理 *利用者情報の有効活用と保護、個人情報保護法、広告等		西澤基示郎																																																	
第 10 回：福祉サービスの管理運営の方法④ サービス管理 *サービス管理、サービスの質の評価、苦情対応とリスクマネジメント		野村則国																																																	
第 11 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論① *戦略、事業計画		落合克能																																																	
第 12 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論② *サービス評価、組織と福祉サービス		落合克能																																																	
第 13 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論③ *集団力学、リーダーシップ理論		落合克能																																																	
第 14 回：聖隷福祉事業団と社会福祉経営		武居 敏																																																	
第 15 回：本科目全体のまとめ		落合克能																																																	

アクティブラーニング	WEBCLASS を活用した履修者からのリアクションや質問へのフィードバックなどを行い、履修者との対話を重視した授業進行を心がけます。課題提出などは、WEBCLASS を活用します。ビデオ視聴を行った後にディスカッションタイムを設けることがあります。
授業内の ICT 活用	WEBCLASS を活用した、出欠席管理や資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめ公開を行います。
評価方法	授業への取り組み状況（リアクションの内容を含む）30%、第3回授業前までの提出課題（レポート）10%、第6回授業前までの提出課題（レポート）5%、11回授業前までの提出課題（レポート）5%、期末試験50%として評価します。 【第3回授業前提出課題（レポート）】 第1回に提示した課題（第3回までに提出）レポート（「社会福祉法人の制度改革」に関する指定文献を通読し、重要ポイントと所感（考察）を800字程度で記述）。 【第6回授業前提出課題（レポート）】 第3回～第5回（3回分）の授業において学んだことのまとめと考察（800字程度） 【第11回授業前提出課題（レポート）】 第7階～第10回（4回分）の授業において学んだことのまとめと考察（800字程度） 【期末試験】 テスト形式で実施します。出題範囲は、授業内、WEBCLASS 等で事前に告知します。 【授業への取り組み】 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。
課題に対するフィードバック	毎回 WEBCLASS に入力してもらうリアクションを各外部講師にお送りし、授業の冒頭でフィードバックします。また、第3回授業前、第6回授業前、第11回授業前までに提出して頂く課題レポートに関しては授業内でフィードバックし、期末試験に関しては、実施後 WEBCLASS でフィードバックします。
指定図書	『最新 社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』中央法規 2021年
参考図書	・『見て覚える 国試ナビ2023』中央法規 2022 発刊予定 ・授業中に随時配布
事前・事後学修	【事前学修】 事前に指定図書の当該授業部分を一読して来て下さい 【事後学修】 授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに WEBCLASS に入力して頂きます。また、また、第3回、6階、11回授業前までに提出して頂く事後学修を促す課題レポートを提出して頂く必要があります。 （目安時間 40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、長年に亘り聖隷福祉事業団においてソーシャルワーク、社会福祉事業経営、法人経営に携わってきた武居敏講師（社会福祉法人聖隷福祉事業団監事）、現職の聖隷福祉事業団各部署（法人本部、福祉施設等）におけるトップマネジメント実践者、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長等）の実践経験および現在、複数の非営利法人の役員・評議員等を務めている科目責任者（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	医療福祉論
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	なぜ、保健医療の現場において社会福祉が必要なのか、社会的かつ歴史的に理解する。疾病の背景に何があるのか、そして疾病は私たちの生活にどのような影響をもたらすのか考える。そのうえで、医療福祉および医療ソーシャルワークは、何を対象に何を実現しようとするのか探究することを通して、人のいのちとくらしに向き合う。
到達目標	1. 疾病の背景に目を向け、健康の社会的決定要因 (SHD) について理解できる 2. 保健医療と社会福祉の関係性について理解できる 3. 医療ソーシャルワークの歴史について理解できる 4. 医療保険制度と診療報酬制度の概要について理解できる 5. 医療ソーシャルワーカーの業務と医療における役割について理解できる 6. 医療機関における専門職の役割とチーム医療のあり方について理解できる 7. 地域包括ケアシステムおよび地域連携について理解できる 8. いのちとくらしについて考えることができる 9. 医療福祉の課題および保健医療福祉システムづくりについて考えることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：健康の社会的決定要因 (SDH) - 疾病と貧困の悪循環 第3回：患者と家族の関係性、一身専属権と医療同意の課題 第4回：ビデオ視聴-いのちとくらしに向き合う 第5回：医療費の保障および診療報酬制度①-医療保険、労災保険 第6回：医療費の保障および診療報酬制度②-公費負担医療、診療報酬の仕組み 第7回：保健医療の福祉的課題、医療ソーシャルワークの歴史 第8回：人を理解するということ-アセスメントにむけたストーリーをつくろう！ (グループワーク) 第9回：疾病構造・疫学転換・人口転換の流れ、入院から在宅医療への流れ 第10回：在宅医療・地域包括ケアシステム・病院の機能分化と医療ソーシャルワーク業務 第11回：病院の組織と医療ソーシャルワーカーの役割 ゲスト講師：聖隷三方原病院 医療ソーシャルワーカー 第12回：ACP および意思決定支援を考える (グループワーク) 第13回：保健所と医療ソーシャルワークの関係、多職種連携 第14回：周産期および小児医療 ゲスト講師：聖隷浜松病院 医療ソーシャルワーカー 第15回：まとめ

アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、グループワーク、ディスカッション／ディベートを実施する。
授業内の ICT 活用	PC, タブレット, スマートフォン等デバイスを活用し、検索・入力・作業およびグループワークを行う。WebClass を利用する。
評価方法	授業への取り組み 30%, 中間レポート 20%, 定期試験 50% ※中間レポートは、第 8 回の授業を元に、約 1 か月の期間で各自でアセスメントを行い、文章化する。
課題に対するフィードバック	1) 予習課題は、次回時の授業を通してコメントする。 2) リアクションペーパーでの質問や要点については、授業においてコメントする。 3) 中間レポートについては、授業においてコメントする。
指定図書	『保健医療と福祉』（最新社会福祉士養成講座）中央法規（日本ソーシャルワーク教育学校連盟編）
参考図書	・岩渕豊『日本の医療政策 成り立ちと仕組みを学ぶ』中央法規 ・島崎謙治『日本の医療 市江戸と政策』東京大学出版会 ・猪飼周平『病院の世紀の理論』有斐閣 ・成本迅編著『認知症の人の医療選択と意思決定支援 本人の希望をかなえる「医療同意」を考える』クリエイツかもがわ ・奥田いさよ編著『ターミナルケアー保健・医療・福祉の連携による援助』川島書店 ・黒岩晴子編著『人と社会に向き合う医療ソーシャルワーク』日本機関紙出版センター ・ゾフィア・T・ブトゥリム著／川田誉音訳『ソーシャルワークとは何か その本質と機能』川島書店 『医療福祉総合ガイドブック 2021 年度版』NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会編、医学書院 ・『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト 改定版』日本医療ソーシャルワーク学会編、日総研 ・『病院早わかり読本 第 6 版』飯田修平編著、医学書院
事前・事後学修	【事前学習】毎回の授業で学ぶ項目について、テキストの該当箇所をあらかじめ読んでキーワードをまとめるなどして授業に望む。加えて、あらかじめ提示する課題について調べる（目安時間 40 分） 【事後学習】毎回学びをまとめ、WebClass に提出する。加えて、配布資料をもとに授業の振り返りを行う（目安時間 30 分）
オープン教育の活用	なし。
オフィスアワー	初回事業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし。

科目名	社会福祉行政論
科目責任者	河村 等
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉行政の動向や法制度の展開、国と地方自治体の関係を理解する。また、国や地方自治体の福祉計画の仕組み、特徴、役割を学び、問題点や課題を理解する
到達目標	社会福祉と行政の関係を組織・財政・計画の観点から理解する 社会福祉専門職者として、福祉行財政並びに福祉計画に関する仕組みと役割を理解する
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法等の説明） 第2回：福祉と制度・福祉の法制度の展開・福祉計画の概要 第3回：行政の骨格・社会福祉と法制度・福祉行政の組織・社会福祉基礎構造 第4回：現状の社会福祉の動向を踏まえて、福祉と制度～社会福祉基礎構造までのまとめ 第5回：財政と社会福祉・一般会計予算と社会保障関係費の動向 地方自治体の財政と民生費の動向 第6回：民間社会福祉事業の財源・福祉サービスの利用と費用負担 社会福祉基礎構造改革・相談過程・相談体制 専門諸機関・地域の相談システム・専門職 第7回：現状の社会福祉の動向を踏まえて、財政と社会福祉～専門職までのまとめ 第8回：地域（浜松市）での社会福祉の動向、現状

アクティブラーニング	地域の行政組織及び財政状況を自らが調べることにより、課題を確認し、福祉行政を身近なものと感じ理解を深める。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験（80%）、授業態度（20%）で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回実施するリアクションペーパーへのコメント、質問への解説を行う。
指定図書	新・社会福祉士養成講座 10「福祉行政と福祉計画」第 5 版 中央法規
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を確認、学習しておくこと。 事後学修：授業内容について、振り返り、整理しておくこと。（目安時間 40 分）
オンライン教育の活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「行政実務」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉計画論
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	福祉計画の必要性や意義、目的、主体を理解し、その策定方法を学ぶとともに、実際の福祉計画について理解や考察を深めることを目的とする
到達目標	1. 福祉計画についての現状とニーズ、歴史的背景を理解する 2. 福祉計画の意義・目的・主体・評価方法などを説明できる 3. 分野別福祉計画の実際を説明できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回 オリエンテーション 福祉計画の意義と目的、福祉行財政と福祉計画 佐藤順子 第2回 福祉計画の主体と住民参加の意義 佐藤順子 第3回 福祉計画の種類と実際① 高齢者関係計画 野田由佳里 第4回 福祉計画の種類と実際② 障害者関係計画 川向雅弘 第5回 福祉計画の種類と実際③ こども・若者関係計画 大場義貴 第6回：福祉計画の種類と実際④ 地域福祉関係計画 佐藤順子 第7回 福祉計画の策定過程と留意点 佐藤順子 第8回 福祉計画の評価方法 まとめ 佐藤順子

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内の ICT 活用	・ ICT を活用し、居住市町村の各福祉計画を調べる ・ 事前・事後学修課題については webclass に提出する
評価方法	授業態度10% 課題30%、定期試験60%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する
指定図書	新・社会福祉士養成講座「福祉行政と福祉計画」中央法規
参考図書	授業の中で提示する
事前・事後学修	事前学修：3～6 回については事前課題に取り組む（各 40 分） 事後学修：毎回学びをまとめ、webclass に提出する（各 15 分） 関連する国家試験過去問に取り組む（各 30 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉・精神保健福祉の実務経験を有する社会福祉士・精神保健福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	司法福祉論
科目責任者	山本 幸則
単位数他	1 単位（15 時間） 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	「司法福祉」の意味・範囲は一義的ではない。中心となるのは「更生保護制度」であるが、それにとどまらず、高齢者・障害者の生活に支障をきたす法律問題について学習する。
到達目標	司法福祉諸分野制度等について俯瞰的な理解を得る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>山本幸則、堂元京子 第1回：司法福祉の意味と刑務所の実情を知る 山本幸則 第2回：成人の刑事手続の流れを知る① 山本幸則 第3回：成人の刑事手続の流れを知る② 山本幸 第4回：罪を犯した人の現状を知る①（知的障害者、精神障害者、高齢者） 山本幸則 第5回：罪を犯した人の現状を知る②（知的障害者、精神障害者、高齢者） 山本幸則 第6回：高齢者、障害者を取り巻く諸問題 山本幸則 第7回：成年後見制度（実践現場から） 堂元京子 第8回：全体のまとめ 山本幸則

アクティブラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 100%による
課題に対するフィードバック	筆記試験の回答例を提示する
指定図書	なし
参考図書	『獄窓記』『累犯障害者』いずれも山本譲司著 新潮文庫
事前・事後学修	予習としてはテキストの該当箇所におおまかに目を通すこと，復習として授業で扱った箇所を精読していただきたい。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は司法書士（成年後見分野）の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会調査論
科目責任者	落合 克能
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	社会調査とは国や地方自治体、企業や学校、社会福祉などの各種法人、または個人が、ある社会的な問題意識に基づいて情報（データ）を収集し、収集したデータを演繹的又は帰納的に描写、解釈、分析し、調査対象について理解を深め、課題を整理したり、対応策を立案したりする一連の営みである。本科目では社会調査の意義と目的及び方法の概要、統計法の概要、社会調査における倫理について理解し、量的および質的なデータの整理と分析の方法について学習する。
到達目標	・ 倫理を含む社会調査における基礎的知識を修得できる。 ・ 社会調査における量的なデータの収集方法、分析方法について理解できる。 ・ 社会調査における質的なデータの収集方法、分析方法について理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：社会調査の基礎1（社会調査とは、社会福祉分野における社会調査） 第2回：社会調査の基礎2（社会調査の意義、目的、統計法の概要）調査対象と方法） 第3回：社会調査の基礎3（社会調査における倫理と個人情報保護、IT の活用） 第4回：量的調査の方法1（量的調査の特徴と種類） 第5回：量的調査の方法2（調査票の作成方法、調査票の配布と回収） 第6回：量的データと分析法1（単純集計、表計算ソフトの具体的活用方法） 第7回：量的データと分析法2（1 変量の性質を表す記述統計量） 第8回：量的データと分析法3（2 変量の性質を表す記述統計量） 第9回：量的データと分析法のまとめ 第10回：第9回までの復習を兼ねた「知識修得確認テスト」、質的調査の方法1（質的調査の特徴と種類） 第11回：質的調査の方法2（調査設計と対象者の選定） 第12回：質的調査の方法3（調査手法と調査の実施） 第13回：質的データと分析法1（KJ 法・グラウンデッドセオリー等） 第14回：質的データと分析法2（質的データの分析を経験的に学ぶ） 第15回：ソーシャルワークにおける評価

アクティブラーニング	関連ビデオ視聴を行った上でディスカッションタイムを設けます（1-2回）。また、エクセルを使用した量的調査結果の処理（分析）過程、パワーポイントを活用した質的帰納的な分析過程に関しては、履修者個人のパソコンを活用して実践的な講義を行います。また、授業内ではチャレンジ問題を用いて学修の成果を確認しながら授業を進めます。
授業内の ICT 活用	WEBCLASS を活用した、出欠席管理や資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめの公開を行います。
評価方法	授業への取り組み状況（リアクションの内容を含む）30%、中間（第10回を予定）知識修得確認テスト20%、期末試験50%として評価します。 【第10回授業時知識修得確認テスト】 量的調査までの範囲に関して記述、計算、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、WEBCLASS 等で事前に告知します。 【期末試験】 記述、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、WEBCLASS 等で事前に告知します。 【授業への取り組み】 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。
課題に対するフィードバック	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』中央法規（2021）
指定図書	『社会調査の基礎 社会調査士 A・B・C・D 科目対応』弘文堂 2012 『ソーシャルワーク・リサーチの方法』相川書房 2004
参考図書	毎回 WEBCLASS に入力してもらうリアクションに対しては、WEBCLASS 上にまとめを公開するとともに、必要に応じて次の授業の冒頭でフィードバックします。また、第10回授業時知識修得確認テストに関しては授業内でフィードバックし、期末試験に関しては、実施後 WEBCLASS でフィードバックします。
事前・事後学修	【事前学修】授業前に指定図書の予定授業範囲を読み、分からない箇所の下線を引いてきて下さい。また、授業前に配信される量的データに関して自分なりの分析を試みて下さい。 【事後学修】授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに WEBCLASS に入力して頂きます。また、第10回授業時知識修得確認テストおよび期末試験のための復習を十分に頂く必要があります。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長等）の実践経験および現在、複数の非営利法人の役員・評議員等を務めている科目責任者（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	医学概論
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に理解するために初年次の学問として、まず基本的な人の身体の構造（解剖）と働き（生理）や精神に関する知識を学ぶ。そして誕生、成長・発達や老化などの日常生活に関連させながら学習を進める。 さらに日常の中でみることの多い疾患や障害について理解し、リハビリテーション、国際生活機能分類（ICF）、健康のとらえ方等の学習を踏まえ、現代社会で発生している諸問題などを関連づけて考えていく力を身につける。
到達目標	1. 身体構造と心身の機能について、人の成長・発達と老化をふまえて理解する 2. 様々な疾病や障害の概要について、日常生活と関連づけて理解する。 3. リハビリテーションの概要について理解する 4. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要と健康のとらえ方について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞ 第1回：岡田真人 授業のガイダンス 身体の成長・発達、人体部位の名称、生殖器、先天性疾患 第2回：岡田真人 心臓の構造と循環器系、心疾患、高血圧 第3回：岡田真人 腎臓の構造と泌尿器系、腎臓疾患、泌尿器系疾患 第4回：水野尚美 精神の成長・発達、知的障害、発達障害 第5回：水野尚美 老化、高齢者に多い疾患、人口の高齢化と家族 第6回：鈴木千佳代 呼吸器の構造と換気、呼吸器疾患、感染症、感染症対策 第7回：鈴木千佳代 内分泌器官、生活習慣と未病、糖尿病と内分泌疾患、国民健康づくり対策 第8回：鈴木千佳代 消化と吸収、水分と脱水、血液の成分、消化器疾患、血液疾患と膠原病、歯科保健 第9回：鈴木千佳代 神経の構造と機能、脳血管疾患、神経疾患と難病 第10回：鈴木千佳代 認知症、高次脳機能障害、精神障害 第11回：鈴木千佳代 支持運動器官、骨・関節疾患、平衡機能障害、肢体不自由 第12回：鈴木千佳代 感覚器、皮膚、身体機能の調節、目・耳の疾患、視覚障害、聴覚障害 第13回：鈴木千佳代 悪性腫瘍、終末期医療と緩和ケア、内部障害、健康の概念、日本の人口統計、産業保健 第14回：鈴木千佳代 リハビリテーション 第15回：鈴木千佳代 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方 まとめ

アクティブラーニング	なし
授業内の ICT 活用	パソコンを活用し調べ学習を行う 事前・事後学修課題についてはWebclass に提出する
評価方法	試験 100%
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーにより、学びのポイント、気づきにマークし、次回授業時に疑問に答えフィードバックする。
指定図書	『新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。(40 分) 事後学修：毎回の授業内容をテキストと照合し、ノートにまとめる。第 4 回、5 回授業では、Web Class 内ミニッツペーパーに回答し、振り返りを行う。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	解剖学的構造と生理学： https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健福祉の原理 I
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健ソーシャルワーカー総論の講義では、ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の役割を理解していく。ソーシャルワーク理論を歴史的に概観していくことで、ソーシャルワークの定義と、構成要素である知識・価値・技術を理解していく。また、実際のソーシャルワーク事例をふまえながら実践でのソーシャルワークの理解を深めていく。
到達目標	①ソーシャルワーク理論の基礎的な理解を深める ②精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談の概要について理解する ③精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について、事例検討しながら理解していく
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐々木正和 第1回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士①精神保健福祉士の役割と意義 第2回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士②現代社会と精神保健福祉士（ソーシャルワーカーの実践） 第3回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士③現代社会と精神保健福祉士（チームアプローチ、他職種連携） 第4回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素①ソーシャルワーカーの定義と構成要素①ソーシャルワーカーの価値・理念と原則 第5回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素②ソーシャルワーク関係における価値、理念と原則 第6回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史①諸外国の歴史 第7回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史②日本の歴史 第8回：ソーシャルワーク理論と展開過程①実践モデル、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーの意義 第9回：ソーシャルワーク理論と展開過程②地域を基盤として生活支援としてのソーシャルワーク 第10回：ソーシャルワーク理論と展開過程③協働作業としてのソーシャルワークの展開過程〈インテーク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施〉ロールプレイ実施 第11回：ソーシャルワーク理論と展開過程④精神科当事者の活動 ゲストスピーカー 第12回：ソーシャルワーク理論と展開過程⑤ 社会福祉調査・研究 第13回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク①チームアプローチと他職種連携（IPW） 第14回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク②精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援 第15回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク③メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割：

アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、webclass を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	webclass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
指定図書	精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理（中央法規）
参考図書	
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15 回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14 回） 事後学修 ・授業後に webclass 内のリアクションペーパーに回答すること（1～15 回） （事前・事後学修 目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健福祉の原理Ⅱ
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健ソーシャルワーカー総論の講義では、ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の役割を理解していく。ソーシャルワーク理論を歴史的に概観していくことで、ソーシャルワークの定義と、構成要素である知識・価値・技術を理解していく。また、実際のソーシャルワーク事例をふまえながら実践でのソーシャルワークの理解を深めていく。
到達目標	①ソーシャルワーク理論の基礎的な理解を深める ②精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談の概要について理解する ③精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について、事例検討しながら理解していく
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐々木正和 第1回：精神障害者の生活特性① 第2回：精神障害者の生活特性① 第3回：精神保健福祉の原理と理念 実践の価値・原理① 第4回：精神保健福祉の原理と理念 実践の価値・原理② 第5回：精神保健福祉の原理と理念 実践の価値・原理③ 第6回：精神保健福祉士の役割と機能① 第7回：精神保健福祉士の役割と機能② 第8回：精神保健福祉士の職業倫理① 第9回：精神保健福祉士の職業倫理② 第10回：精神保健福祉士の業務指針① 第11回：精神保健福祉士の業務指針② 第12回：精神保健福祉士の事例① 第13回：精神保健福祉士の事例② 第14回：精神保健福祉士の多職種連携 第15回：まとめ

アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	webclass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
指定図書	精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理（中央法規）
参考図書	
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15 回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14 回） 事後学修 ・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること（1～15 回） （事前・事後学修 目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健福祉制度論Ⅱ
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	精神障害者に関連する社会保障制度の概要を理解する。また、更生保護制度（概要と精神障害者福祉との関係、更生保護制度における関係機関や団体との連携）および医療観察法（概要と医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割）について学ぶ。さらに、社会資源の調整・開発に関わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用について事例を用いながら学ぶ。
到達目標	1. 精神障害者の制度政策の概要の理解を深める。 2. 司法における精神保健福祉士の役割を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞佐々木正和・ゲストスピーカー 第1回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要① 社会政策と社会福祉制度 第2回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要② 医療保険制度・介護保険制度 第3回：相談援助に係る行政組織と民間組織 第4回：福祉サービス提供施設・機関の役割 第5回：専門職や地域の支援者等 担当：ゲストスピーカー 第6回：刑事司法と更生保護制度 第7回：保護観察所と更生保護制度の担い手 第8回：司法・医療・福祉の連携の必要性和実際 第9回：医療観察法の意義と内容・医療観察法の審判と精神保健参与員の役割 第10回：指定入院医療機関における処遇・地域における処遇 第11回：社会復帰調整官の役割と実際・精神保健福祉士の仕事 第12回：社会調査の意義と目的・対象・倫理 第13回：量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点・ICTの活用方法 第14回：社会調査をもとに社会資源の調整・開発に結び付けた事例 第15回：まとめ

アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	webclass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑥精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム（第6版） へるす出版（精神保健福祉制度論 I で使用した教科書を使用します）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回） 事後学修 ・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること（1～15回） （事前・事後学修 目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健生活支援システム論
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 78 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神障害者（精神科受診の発達障害者を含む）の生活支援の意義と特徴及び精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。また、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）及び行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。
到達目標	1. 精神障害者の概念、精神障害者の生活の実際、精神障害者の生活と人権について理解する。 2. 精神障害者の居住支援、精神障害者の就労支援、精神障害者の生活支援システム、市町村における相談援助及びその他の行政機関における相談援助について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> (春セメスター) 第1回：精神科地域連携とクリニカルパス 第2回：精神障害者の概念 第3回：精神障害者と地域社会 第4回：精神障害者の生活支援の理念と概念 第5回：社会的入院と退院支援施設 第6回：精神障害者の居住支援・居住支援における精神保健福祉士の役割 第7回：精神障害者の就労支援 第8回：精神障害者の就業支援制度の概要 就労とは～働くことの意義 ゲストスピーカー：海野洋一郎 第9回：地域若者サポートステーション・ひきこもり支援 ゲストスピーカー：加藤寛盛 第10回：就労支援における近年の動向 (秋セメスター) 第11回：行政機関における相談援助システム ゲストスピーカー：行政内精神保健福祉士 第12回：クライシスケアシステム（自殺予防ネットワーク、自殺未遂者支援） 第13回：福祉計画と精神障害にも対応した地域包括ケアシステム 第14回：社会参加、余暇活動 第15回：統合的生活モデル（世界と日本のベストプラクティス）

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、授業への取り組み 50%（事前・事後学修含）、レポート 50%として評価します。レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座 第 7 巻『精神障害者の生活支援システム』中央法規出版
参考図書	『精神障害者のための就労支援ガイドブック』野中猛・松為信雄編 金剛出版
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下の URL の講座の受講を勧めます。 令和元年度 相談支援従事者指導者養成研修会 資料公開 http://www.rehab.go.jp/College/japanese/kenshu/2019/soudanshien_siryou.html
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅰ
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。
到達目標	1. 精神保健医療福祉の歴史と動向を理解すると共に、精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識を得る。 2. 相談援助の過程及び対象との援助関係について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当>佐々木正和・ゲストスピーカー 第1回：障害者福祉の理念と精神障害①ノーマライゼーション・リハビリテーション 第2回：障害者福祉の理念と精神障害②生活の質（QOL）・自立支援・ソーシャルインクルージョン 第3回：精神障害者の人権 第4回：障害者権利条約の理念 第5回：精神保健福祉の歴史と理念 精神保健福祉の歴史①（治安対策と監護） 第6回：精神保健福祉の歴史②（地域ケアと入院医療） 第7回：精神保健福祉の歴史③（地域ケアと社会復帰） 第8回：精神保健福祉の現状と課題 第9回：精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 第10回：精神科医療における権利擁護 担当：ゲストスピーカー 第11回：日本のPSWの歴史・精神保健福祉士の国家資格化 第12回：精神保健福祉士の専門性と倫理① 導入期・混乱期 第13回：精神保健福祉士の専門性と倫理② 展開期・拡大期 第14回：精神保健福祉士の倫理と業務 第15回：まとめ 具体的事例検討

アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験（レポート試験）70%
課題に対するフィードバック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー④ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I（第6版）へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回） 事後学修 ・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること（1～15回） （事前・事後学修 目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅱ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方、技法について学ぶ。また、地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について学ぶ。
到達目標	1. 相談援助活動のための面接技術及び相談援助・家族調整・支援の実際と事例の支援過程（医療機関、福祉事業所、地域社会を含む）について理解する。 2. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む）について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 精神障害者（主に統合失調症）の理解 第2回 精神保健ソーシャルワークの展開過程・ケアマネジメント 第3回 精神保健ソーシャルワーク面接の特徴・ソーシャルワーカーの態度 第4回 精神障害者を対象とした相談支援／ゲストスピーカー：平野明臣 第5回 精神障害者支援のための関連専門職種との連携 第6回 グループを活用した支援 第7回 精神科デイケア・SST の実際／ゲストスピーカー：山田知佳 第8回 精神科救急と危機介入 第9回 事例分析（背景と個別性の理解・関連専門職種との連携） 第10回 精神保健福祉士が行う訪問型支援（ACT・生活訓練訪問型・訪問看護） ／ゲストスピーカー：磯辺京子 第11回 個別支援とネットワーク型支援 第12回 精神保健福祉士が行う家族への個別支援 第13回 精神保健福祉士が行う家族 SST・家族心理教育・家族教室 第14回 ピアサポーター・セルフヘルプ・リカバリー 第15回 チームアプローチおよび生活支援の理念と精神保健福祉士の役割

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験） 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー4（第6版）精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	・ 自主学習として、以下の URL の講座の受講を勧めます（厚生労働省 HP） 精神保健福祉士の義務について https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/seisin2/7.html 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける精神科救急医療体制整備について https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000704115.pdf
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神障害リハビリテーションⅠ
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位（30時間） 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神障害リハビリテーションの理念、意義を理解し、精神障害者が「主体的に生きる」ことを支えるための構成及びプロセスについて具体的に学習する。さらにその実際の中で精神保健福祉士としての視点、役割を確認し、精神障害リハビリテーションにおける専門性に基づいた精神保健福祉士の実践を理解する。
到達目標	1. 歴史的経過を踏まえた精神科リハビリテーションの意義を理解できる。 2. 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の実践の意義を理解できる。 3. 生活支援の視点を理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 講義のオリエンテーション 第2回 リハビリテーションの概念、定義 第3回 リハビリテーションの分野、理念と意義、基本原則 第4回 精神科リハビリテーションの歴史と概念 精神科リハビリテーションの理念と意義① （セルフヘルプ活動・クラブハウスモデル） 第5回 精神科リハビリテーションの理念と意義② （ストレングス・エンパワメント・リカバリー） 第6回 精神科リハビリテーションの基本原則 第7回 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割／専門職との連携 第8回 精神科リハビリテーションの対象／精神科リハビリテーションにかかわる専門職 第9回 精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業 ① 第10回 精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業 ② 第11回 精神科リハビリテーションのプロセス（基本プロセス） 第12回 精神科リハビリテーションのプロセス（展開） 第13回 精神科リハビリテーションのプロセス（地域におけるリハビリテーション） 第14回 精神科リハビリテーションのプロセス（疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション） 第15回 まとめ

アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー20%、定期試験（筆記試験）80% レポートについてはルーブリックを用いて評価するルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	webclass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑤ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第6版）へるす出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回） 事後学修 ・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること（1～15回） （事前・事後学修 目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神障害リハビリテーションⅡ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	精神保健福祉におけるリハビリテーションの基本的枠組みの理解と具体的な目的、技法を学び、地域生活の支援のあり方、社会資源の活用、地域相談や関係機関との連携など、ケアマネジメント、コミュニティーワークの実際を理解する。
到達目標	1. 精神保健福祉におけるリハビリテーションの目的や基本的考え方、技法を理解する。 2. 社会生活を基礎とした支援技法、専門職として連携の在り方について理解を深める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 精神障害者を対象としたリハビリテーションの意義・目的 第2回：精神科リハビリテーションにおける支援技法①（作業療法、集団精神療法） 第3回：精神科リハビリテーションにおける支援技法②（クライアント中心療法・精神分析療法の基礎） 第4回：精神科リハビリテーションにおける支援技法③（認知行動療法認知行動療法の基礎） 第5回：精神科リハビリテーションにおける支援技法④（心理教育、SST） 第6回：精神科リハビリテーションにおける支援技法⑤（チームアプローチ） 第7回：発達障害の2次障害の理解 第8回：発達障害の2次障害への精神科リハビリテーション ／ゲストスピーカー：医療機関 PSW 第9回：就職氷河期のうつとひきこもりの理解 第10回：精神疾患の子どもへの影響と支援のあり方 第11回：精神保健福祉ボランティアの実際／ゲストスピーカー：高橋久美子 第12回：WHO ピラミッドモデルと地域精神保健福祉活動 第13回：ピアサポート・リカバリー／ゲストスピーカー：NPO ころ当事者 第14回：ケアマネジメント、コミュニティーワークと精神障害リハビリテーション 第15回：まとめ

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験） 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー5（第 6 版）精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ へるす出版（精神障害リハビリテーションⅠ使用テキスト）
参考図書	ストレングスモデル[第 3 版]ーリカバリー志向の精神保健福祉サービス（2014）チャールズ・A・ラップ（著），リチャード・J・ゴスチャ（著），田中 英樹 監訳（翻訳） 精神障害者支援の思想と戦略 QOLからHOLへ（2018）田中英樹／著
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神医学 I
科目責任者	西村 克彦
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健福祉士は精神障がい者に対する心理社会的サポートを提供する際、中心的役割を担うため精神医学に関する知識が欠かせない。本科目では精神医学の成り立ち、精神疾患の症状やその評価法、代表的な精神疾患の概要などについて学習する。
到達目標	1. 精神医学の成り立ち、精神疾患の概念と診断について理解する。 2. 一般的な精神疾患について基礎知識を身に付け、説明することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等（担当教員名）> 第1回：精神医学・医療の歴史（西村） 第2回：精神現象の生物学的基礎（大城） 第3回：精神障害の概念（市川） 第4回：精神疾患の成因と分類（佐久間） 第5回：診断、検査（海野） 第6回：器質性精神障害（磯貝） 第7回：精神作用物質使用による精神および行動の障害（大城） 第8回：統合失調症（市川） 第9回：気分障害（佐久間） 第10回：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（栗田） 第11回：生理学的障害および身体的要因に関連した行動症候群（海野） 第12回：パーソナリティ障害と行動の障害（櫻井） 第13回：精神遅滞（知的障害）（西村） 第14回：心理的発達の障害（栗田） 第15回：小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害（櫻井）

アクティブラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『最新 精神保健福祉士養成講座 精神医学と精神医療』 中央法規出版
参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害―臨床記述と診療ガイドライン―』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院
事前・事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。(目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神医学Ⅱ
科目責任者	西村 克彦
単位数他	2単位（30時間） 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、精神科ではどのような治療が、どのような環境・法制度のもとで行われているのかについて基本的な知識を学ぶ。
到達目標	1. 精神疾患に対する治療法を知り、どのような精神疾患に対して用いられるかを理解する。 2. 精神科の治療構造を知り、それぞれどのような疾患、病状に適応されるかを理解する。 3. 精神疾患に対する治療の一般的な流れについて理解する。 4. 精神医学に関連した法制度について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等（担当教員名）> 第1回：精神疾患治療総論（西村） 第2回：精神科薬物療法（栗田） 第3回：精神療法（大城） 第4回：脳刺激法などの身体療法（佐久間） 第5回：精神科リハビリテーション（市川） 第6回：外来治療、在宅医療（海野） 第7回：入院治療（西村） 第8回：医療観察法における入院・通院治療（大城） 第9回：精神科医療機関における精神保健福祉士の役割（櫻井） 第10回：精神保健福祉士と協働する職種（佐久間） 第11回：治療導入に向けた支援（市川） 第12回：再発予防や地域生活に向けた支援（海野） 第13回：精神疾患患者の動向（櫻井） 第14回：医療制度改革と精神医療（栗田） 第15回：医療機関の医療機能の明確化（西村）

アクティブラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『最新 精神保健福祉士養成講座 精神医学と精神医療』 中央法規出版
参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害―臨床記述と診療ガイドライン―』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院
事前・事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。(目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健Ⅰ
科目責任者	堀 雅博
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 ②精神保健の基本的考え方を理解する。
到達目標	①現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について理解できた ②家族に関連する精神保健の課題と支援について理解できた ③精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチについて理解できた ④精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチについて理解できた
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 精神保健の動向 第2回 精神保健活動の三つの対象 第3回 精神の健康に関する心的態度・生活と嗜好 第4回 家族関係における暴力と精神保健 第5回 出産・育児をめぐる精神保健 第6回 介護をめぐる精神保健 第7回 社会的ひきこもりをめぐる精神保健 第8回 家族関係の課題 第9回 グリーフケア 第10回 精神保健支援を担う機関 第11回 学校教育における精神保健的課題・教員の精神保健 第12回 関与する専門職と関係法規 第13回 スクールソーシャルワーカーの役割・学校精神保健にかかわる社会資源 第14回 現代日本の労働環境・産業精神保健とその対策 第15回 職場のメンタルヘルスのための相談・職場内の問題を解決するための機関及び関係法規

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験(65%)とレポート(35%)の評価を総合的に判断し、可否を決定します。 レポートのテーマと作成の要点については授業中に随時指示します。 なお、レポートのテーマの特性上、ルーブリックを用いた評価は行いません。
課題に対するフィードバック	個々のリアクションペーパーを総括し、次回の授業の冒頭に総合的なコメントを行います。
指定図書	最新 精神保健福祉士養成講座：現代の精神保健の課題と支援；中央法規
参考図書	授業中に随時指示します。
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前に該当ページに目を通してきてください。 各回の授業内容をまとめたプリントを配布しますので、事後学修に利用してください。 1 コマあたりの事前・事後学修時間の目安は、合計約 40 分とします。
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は精神科医師の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健Ⅱ
科目責任者	藤田 隼人
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	①現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 ②精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 ③国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。
到達目標	①精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて理解できた ②精神保健に関する発生予防と対策について理解できた ③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解できた ④精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携について理解できた ⑤諸外国の精神保健活動の現状及び対策について理解できた
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回 災害被災者の精神保健・犯罪被害者の支援 第2回 自殺予防 第3回 身体疾患に伴う精神保健・貧困問題と精神保健 第4回 社会的孤立・LGBT と精神保健 第5回 他文化に接することで生じる精神保健上の問題・反復違法行為と精神保健 第6回 精神保健の予防の考え方・アルコール問題に対する対策 第7回 薬物依存対策・ギャンブル等依存対策 第8回 うつ病と自殺防止対策・子育て支援と暴力、虐待予防 第9回 認知症高齢者に対する対策・社会的ひきこもりに対する対策・災害時の精神保健に対する対策 第10回 関係法規・精神保健に関わる人材育成・精神保健における偏見 第11回 国の機関とその役割・精神保健に係る法規 第12回 保健師等の役割と連携・地域精神保健に係る行政機関の役割及び連携 第13回 学会や啓発団体・セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体 第14回 世界の精神保健の実情・WHO などの国際機関の活動 第15回 諸外国の精神保健医療の実情

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度 10%、リアクションペーパー10%、筆記試験 80% 計 100%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント、筆記試験の結果と復習の提示
指定図書	最新 精神保健福祉士養成講座：現代の精神保健の課題と支援；中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前学修として事前に目を通してきてください。 事後学修としては各回の授業内容のプリントを配布しますので、復習に利用してください。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は医療社会事業専門員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	スクール（学校）ソーシャルワーク論
科目責任者	平川 悦子
単位数他	2単位（30時間） 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	1. 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する 2. スクールソーシャルワークの発展過程について理解する 3. 海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解する 4. スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解する 5. スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解する
到達目標	スクールソーシャルワークの理論と実践を学ぶことにより、子ども（児童生徒）達が健やかに育つ環境をつくるために、現代の日本の社会においてスクールソーシャルワークは何をすべきかを考える。 今日の児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の現状を把握したうえで、スクールソーシャルワークの国内外における発展過程、実践モデル等について学ぶ。事例も取り入れ、実践的な理解も深める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題① 学校における問題（不登校、非行、いじめ等） 第3回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題② 発達障がいと特別支援教育 第4回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題③ 家庭の抱える課題（児童虐待、子どもの貧困等） 第5回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題④ 外国にルーツのある子どもの現状 第6回：スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理 第7回：スクールソーシャルワークの実践モデル 第8回：海外におけるスクールソーシャルワークの発展と現状 第9回：日本におけるスクールソーシャルワークの展開と課題 第10回：スクールソーシャルワークの支援方法（ミクロレベル） 第11回：スクールソーシャルワークの支援方法（メゾレベル） 第12回：支援ケース会議の重要性、進め方 第13回：スクールソーシャルワークの支援方法（マクロレベル） 第14回：日本の教育施策の動向とスクールソーシャルワークの役割 第15回：まとめ

アクティブラーニング	グループディスカッションによる事例検討を行います。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み 50% レポート 50%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーについては、次回授業時にコメント・回答等を返します。
指定図書	山野則子・野田正人・半羽利美佳編著「よくわかるスクールソーシャルワーク 第2版」ミネルヴァ書房
参考図書	授業中に随時紹介
事前・事後学修	学校、地域、子ども家庭に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。配布資料について熟読し理解を深めてください。(目安時間 40 分)
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「スクールソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	人間の尊厳と自立
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 介護実践において人間の尊厳と自立がどのように生かされているかを理解することができるように、人権思想や福祉理念の歴史的変遷の授業展開ではできるだけ事例等を活用し講義を行う。
到達目標	1. 人間の尊厳と人権の考え方を知り、理解することができる。 2. 人権思想や福祉理念の歴史的変遷が理解できる。 3. 人間の尊厳や自立の概念が理解できる 4. 生活支援における人間の尊厳・自立を理解できる。 5. 介護福祉の倫理的課題への対応力の基礎を養う。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション（聖隷で介護福祉士を目指す意義…歴史資料館） 横尾 第2回：生命倫理とは 高山 第3回：医療倫理・死生観について 高山 第4回：安楽死・尊厳死・延命治療について 高山 第5回：終末期を迎える人・家族について 高山 第6回：アドバンス・ケア・プランニングとは 高山 第7回：憲法から読み解く尊厳と自立 野田 第8回：社会福祉法から読み解く尊厳と自立 野田 第9回：社会福祉士法および介護福祉士法から読み解く尊厳と自立 野田 第10回：介護保険法から読み解く尊厳と自立 野田 第11回：障害者総合支援法から読み解く尊厳と自立 野田 第12回：人間の尊厳と人権・福祉理念① 歴史的イベントから考える 横尾 第13回：人間の尊厳と人権・福祉理念② 歴史的イベントから考える 横尾 第14回：人間の尊厳と人権・福祉理念③ 優性思想を考える 横尾 第15回：自立のあり方 自立の概念の多様性（自立の概念の理解） 横尾

アクティブラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して調べたりする授業を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションでプロジェクターを利用します。
評価方法	授業態度 20%、小テスト 20%、最終テスト 60% によって評価する。
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーや課題はその都度コメントをつけて、次回の授業時に返却をします。 小テストは実施授業時に答合わせをします。
指定図書	「最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解」中央法規出版
参考図書	特になし
事前・事後学修	① 授業前に WebClass 事前課題に回答すること（書く 40 分 2～14 回） ② 授業後に WebClass 事前課題に回答すること（書く 40 分 2～14 回） ③ レポート課題を作成すること（2 回程度 80 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室（2710 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護福祉管理論
科目責任者	落合 克能
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	本科目は、介護福祉士として福祉サービス提供組織の運営管理を行う上で、介護の質を高めるために必要となるチームマネジメントの基礎的知識について、実際に高齢者福祉施設における福祉サービスの第三者評価を実施することなどを通して、リアリティーをもって理解する科目である。介護福祉施設における福祉サービス第三者評価の実施プロセスを通して介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解し、チームで働くための能力の修得を図ることを目的としている。
到達目標	・福祉サービスの制度および福祉サービス提供組織のサービスマネジメントに関する基礎的知識を修得する。 ・適切なサービスマネジメントを行う上で必要となる介護サービス提供チームのマネジメントに必要な知識・技術やシステムについて理解できる。 ・介護福祉サービス事業を行う組織における運営管理の実態について把握するとともに介護福祉サービスの管理運営について実体験をもとに説明できるようになる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション、介護保険サービスに関する制度の理解 第2回：介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の概要、介護の質を高めるために必要な、チームマネジメント 第3回：介護老人福祉施設の経営（理念・事業計画・人事・労務管理） 第4回：介護老人福祉施設の経営（財務・会計・経理） 第5回：介護老人福祉施設の経営を取り巻く環境（ICTを含む福祉工学の活用） 第6回：福祉サービス第三者評価基準（全体像・評価実施過程）について 第7回：福祉サービス第三者評価基準（共通項目）について 第8回：福祉サービス第三者評価基準（サービス別項目）について 第9回：介護老人福祉施設における第三者評価実施 第10回：介護老人福祉施設における第三者評価実施 第11回：介護老人福祉施設における第三者評価実施 ※9-11回は、実際に介護老人福祉施設において模擬的に第三者評価を実施する 第12回：第三者評価結果に関する検討 ※事前課題として調査結果の叙述化 第13回：第三者評価結果に関する報告書作成 第14回：第三者評価結果に関する施設へのフィードバック 第15回：まとめ ーチームで働くために必要となる能力とは

アクティブラーニング	産学協同による授業であり、授業として特別養護老人ホームに出向きサービスの第三者評価を実施する。評価結果を施設にフィードバックし共に改善点を探る。
授業内の ICT 活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	授業への取り組み状況（中間課題含む）40%、調査・報告の内容 30%、定期試験（レポート）30%
課題に対するフィードバック	中間課題やリアクションペーパーに関しては、次の授業の冒頭でフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	・『福ナビへGO！－第三者評価を活用しよう』環境新聞社 2014 ・「静岡県福祉サービス第三者評価基準」（静岡県） ・『最新 社会福祉士養成講座 1 福祉サービスの組織と経営』中央法規 2021 年 ・授業中に随時配布
事前・事後学修	【事前・事後学修】①第 1 回～第 4 回では、対象施設の経営内容等に関する情報を「福祉サービス第三者評価」、「介護サービスの情報公表制度」等により調べてまとめて頂きます。②第 5～7 回では、第三者評価基準を把握してきて頂きます。③第 8 回（調査前）に施設の自己評価の読み込みをして頂きます。第 9～11 回では、調査後のまとめをして頂きます。第 12～13 回では、調査後の評価に関する合議結果を報告書にまとめて頂きます。第 14 回では評価対象施設に結果報告していただきます（各 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間には、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本 I
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 介護コース必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	井川 淳史
到達目標	1. 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について説明ができる。 2. 介護福祉の基本となる理念を基本にすえた生活支援について考えることができる。 3. 介護を必要とする人について、人間の多様性・複雑性をふまえて考えることができる。 4. 介護を必要とする障がいのある方や高齢者の暮らしの実際を理解する。 5. 介護を必要とする人の生活環境を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： 介護とは・介護福祉の基本となる理念とは 第 2 回： 介護の概念・定義、介護福祉の理念とは 第 3 回： 「介護」の見方・考え方の変化 第 4 回： 介護問題の背景を理解する 第 5 回： 介護の専門性（介護福祉の基本理念）を理解する 第 6 回： 介護を必要とする人に合わせた生活支援（介護福祉の基本理念と利用者の個別性） 第 7 回： 介護を必要とする人の理解 第 8 回： 他者への共感的にかかわり（他者理解・自己理解） 第 9 回： 私たちの生活の理解（介護を必要とする人の生活の理解） 第 10 回： 高齢者や障害のある人たちの暮らしと介護 第 11 回： 「そのひとらしさ」と「生活ニーズの理解」 第 12 回： 介護を必要とする人の生活環境の理解 第 13 回： 事例で考える介護福祉の基本となる理念（人間の尊厳保持や自立支援）実践 第 14 回： 事例で考える個別支援（介護を必要とする人の理解と支援） 第 15 回： 自らの「介護観」をはぐぐむことの重要性、まとめ

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	iPad、learning CANVAS（電子黒板）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	筆記試験 50%、小テスト（3 回実施） 30%、授業参加度、課題提出（リアクションペーパー） 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 第 3 巻 介護の基本 I 第 2 版』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40 分 2～15 回） 事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本Ⅱ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護コース必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	地域を基盤とした生活の継続性を支援するために、尊厳を支える介護や自立に向けた介護を理解するための学習とする。 対人支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 尊厳を支える介護について理解を深め、さらに自立に向けた介護について、ICF の概念やリハビリテーションとも関連づけて解説するとともに、自立支援介護の実践例も紹介しながら講義を行う。
到達目標	1. 人権尊重について理解を深め、QOL やノーマライゼーションの用語を用いて、尊厳を支える介護について説明できる。 2. 対人援助の意義、機能および役割について理解を深め、ICF やリハビリテーションの用語を用いて、自立に向けた介護について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：介護が必要な人々の人権擁護について理解し、利用者主体の実践について考える。 第 2 回：身体拘束をなくすための具体的な支援方法を理解する。 第 3 回：感情労働としての介護を理解する。 第 4 回：尊厳を支える介護 QOL (Quality of Life) について理解する。 第 5 回：ノーマライゼーションの考え方とその実現について理解する。 第 6 回：自立・自律の考え方を理解し、自己決定・自己選択、自立支援について考える。 第 7 回：生活意欲への働きかけとエンパワメント、利用者主体について理解する。 第 8 回：介護における ICF のとらえ方について理解する。 第 9 回：ICF を活かしたアセスメントの視点を理解し、個別ケアについて考える。 第 10 回：自立に向けた介護 介護実践におけるリハビリテーションの考え方を理解する。 第 11 回：リハビリテーションの考え方を活かした介護予防、自立支援について理解する。 第 12 回：リハビリテーション専門職との連携について理解する。 第 13 回：自立支援の実践例から、その方法を理解する。 第 14 回：事例をもとに、病院・施設でのリハビリテーションについて理解する。 第 15 回：事例をもとに、在宅でのリハビリテーションについて理解する。まとめ

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	筆記試験 50%、小テスト（3 回実施） 30%、授業参加度、課題提出（リアクションペーパー） 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第 2 版』中央法規出版
参考図書	授業中に随時提示
事前・事後学修	事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40 分 2～15 回） 事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本Ⅲ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護福祉士に求められる倫理、役割と機能を理解し、その倫理観や自立した生活を支える介護に必要な能力を身につけることを目的とする。 介護福祉士の役割と機能について解説するとともに、介護サービスの内容と提供方法および利用方法について講義を行う。尊厳の保持や自立に向けた介護のあり方についても学びを深める。
到達目標	1. 介護福祉士に求められる倫理について説明できる。 2. 生活支援における介護福祉士の役割と機能について説明できる。 3. 様々なニーズを抱える利用者に対して提供する生活支援について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、介護福祉士に求められる倫理、日本介護福祉士会倫理綱領（介護従事者の職業倫理・プライバシー保護 個人情報保護） 第2回：介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護 第3回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の定義（名称独占・業務独占） 第4回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の役割と機能、小テスト① 第5回：養成制度・登録状況・介護における専門職集団としての役割と機能 第6回：介護職が行う生活支援（身体拘束禁止・高齢者虐待・児童虐待 他） 第7回：身体介護・相談援助・家族支援の意義と介護福祉士の専門性・独自性、小テスト② 第8回：生きがいを大切にする生活支援・日常生活の拡大に向けた生活支援の進め方 第9回：尊厳ある介護実践の意義と利用者の QOL 第10回：ICF の視点に基づくアセスメントによる生活支援の特徴（生活意欲・エンパワメント） 第11回：ケアプラン・ケアマネジメントの流れ・意味と仕組み 第12回：介護保険制度の理解（介護保険のサービスの種類・サービス報酬・算定基準） 第13回：介護サービスの概要 居宅系サービス・施設系サービスの提供の場と特性 第14回：介護実践におけるリハビリテーション・居住環境の違い（病院・施設・介護予防） 第15回：まとめ、小テスト③

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	・小テストの解説は授業内で行います。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業での共有と個人への返却を行います。
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく（2～14 回） 事後学修：事後課題に回答し、授業内容について振り返り整理しておく（1～15 回） 目安時間 40 分／回
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本Ⅳ
科目責任者	佐野 仁美
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。 協働する多職種の機能と役割、介護従事者の安全について講義を行う。
到達目標	1. 介護福祉実践における多職種および地域との連携について説明できる。 2. 介護従事者の心身の健康管理や健康や生活を守る法制度について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、介護実践における連携 多職種連携（チームアプローチ）の意義と目的 第2回：協働職種の理解と連携のあり方、利用者を取り巻く多職種連携の実際 第3回：地域連携の意義と目的、地域連携にかかわる機関の理解 第4回：利用者を取り巻く地域連携の実際、小テスト① 第5回：介護福祉士の専門性を考える① 第6回：介護福祉士の専門性を考える② 第7回：福祉・介護福祉という仕事の特徴 第8回：介護労働の特性と健康問題 第9回：ストレスのしくみ、ストレスと行動 第10回：ストレスコーピング 第11回：こころの病気 第12回：からだの健康管理 第13回：腰痛予防について 第14回：働く人の健康や生活を守る法制度 第15回：まとめ、小テスト②

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	・小テストの解説は授業内で行います。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業での共有と個人への返却を行います。
指定図書	「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく（2～14 回） 事後学修：事後課題に回答し、授業内容について振り返り整理しておく（1～15 回） 目安時間 40 分／回
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本Ⅴ
科目責任者	山本 卓磨
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	対人援助・社会支援の問題を解決するための方法を説明できることが目的である。また、「尊厳の保持」「自立支援」の観点から自立を促すことの危険を予防するために何をすべきか、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて援助者側と利用者側双方の立場から考え事例検討を主体に学ぶ科目である。
到達目標	1. 介護職と利用者の安全を確保するための留意点が説明できる。 2. 介護におけるリスクマネジメントの必要性和その方法について説明できる。 3. 施設及び在宅介護に伴う事故についてその予防方法と対処法が説明できる。 4. 事故防止・安全対策・感染対策について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、 自立に向けた介護① 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第2回：自立に向けた介護② 観察の視点・正確な生活支援技術 第3回：インシデント、事故のしくみ 第4回：介護従事者の安全① 介護事故とヒヤリハット（予測・分析） 第5回：介護従事者の安全② 事故防止と安全対策 第6回：介護従事者の安全③ 環境改善とリスクマネジメント（セーフティマネジメント）、小テスト① 第7回：自立に向けた介護③ 服薬・生活医行為・受診援助 第8回：自立に向けた介護④ 医療職との連携（転倒・転落防止・骨折予防） 第9回：介護従事者の安全④ 防火・防災対策・地域とのネットワーク 第10回：介護従事者の安全⑤ 感染対策と感染予防の意義 第11回：自立に向けた介護⑤ 感染予防の基礎知識と技術 第12回：自立に向けた介護⑥ 衛生管理・利用者の生活の安全（消費者被害） 第13回：介護従事者の安全⑥ 感染管理 第14回：介護従事者の安全⑦ リスクマネジメント 第15回：まとめ、小テスト②

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	出席管理・授業の理解度・課題提出は WebClass を用いて、双方向型授業を目指す。
評価方法	小テスト 60%、授業態度 10%、課題提出物 30%、計 100%
課題に対するフィードバック	・課題提出物は、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業で提示する。 ・WebClass に提出されたリアクションペーパーは、次の授業時冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。 事後学修：授業内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間各 40 分)
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定する。時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「保健師」「看護師」「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本VI
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位（30 時間） 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	対人援助・社会支援を必要とする高齢者や障害者が尊厳ある生活を獲得するために、介護福祉士が備えるべき職業倫理を多角的に理解し、利用者のニーズとその背景要因の関連について学習する。 介護実践においての身体拘束の廃止や個人情報保護、人権擁護など事例検討を中心に学習する。
到達目標	1. 介護福祉専門職にかかわる職業倫理の説明ができる。 2. 身体拘束、高齢者・障害者・児童虐待などに対し、利用者の人権擁護が説明できる。 3. プライバシーに配慮した介護について説明できる。 4. 介護福祉専門職として必要な接遇とマナーが説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：倫理とは、介護福祉専門職の倫理とは 第 2 回：介護福祉専門職の職業倫理、日本介護福祉士会倫理綱領 第 3 回：利用者の人権擁護、生活支援の仲での尊厳保持と人権 第 4 回：利用者の人権擁護と介護 第 5 回：身体拘束の禁止 第 6 回：身体拘束廃止に向けての事例検討 第 7 回：プライバシー保護と介護の倫理 第 8 回：ケアカンファレンスにおける個人情報の保護と記録 第 9 回：高齢者虐待、高齢者虐待防止法と尊厳を支える介護 第 10 回：高齢者虐待の事例検討 第 11 回：障害者虐待、障害者虐待防止法と自立支援 第 12 回：障害者虐待事例検討 第 13 回：児童虐待、児童虐待防止法 第 14 回：児童虐待の事例検討 第 15 回：介護福祉専門職の接遇とマナー

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	iPad、learning CANVAS（電子黒板）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	筆記試験 50%、小テスト（2 回実施）30%、授業参加度、課題提出（リアクションペーパー）20%、計 100%
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 第 4 巻 介護の基本Ⅱ』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40 分 2～15 回） 事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護過程 I
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 他学科で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するための基礎となるもので人間関係の成立過程、課題解決課程の中の人間関係の成立過程に注目した科目である。おもに対象者理解に焦点をあてて学習する。
到達目標	1. 介護過程の意義を理解できる 2. 人間関係の成立過程の基礎である自己理解、他者理解、ができる。 3. 対象者のくらし、時代の背景が理解できる。 4. かかわりの意義を理解できる 5. プロセスレコードを用いて人間関係を形成できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス：介護過程の意義と基礎的理解・・・介護過程の目的 第2回：利用者理解：「関心」かんしんとは・・・マザーテレサの世界 第3回：利用者理解：かんしんを持つとは・・・GW発表 第4回：利用者理解：くらしとは何か・私の「くらし」あなたの「くらし」こころの花束 第5回：利用者理解：利用者（対象者）の「くらし」生きてきた時代の理解 第6回：利用者理解：「くらし」60代、70代、80代の時代の違いの理解 第7回：利用者理解：「私（高齢者の名前）の青春」・・・発表会 第8回：人間関係形成：かかわり（観察）の重要性 偏見とは・・・思い込み 正常異常 認知症老人の詩 第9回：人間関係形成：自己理解・他者理解 第10回：人間関係形成：介護過程は人間関係から成り立つ プロセスレコード 第11回：人間関係形成：プロセスレコード 講義 第12回：人間関係形成：プロセスレコード 演習 第13回：人間関係形成：介護過程の視点に気づく 第14回：人間関係形成：気づきを介護過程の展開に活かす 第15回：レクリエーション及びまとめ

アクティブラーニング	・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします ・反転授業、グループワークなども取り入れた授業を展開します。
授業内の ICT 活用	ICT 活用を積極的に行っています。特に学修支援ツール Webclass を多用しています。 ①出席管理 ②小テスト管理 ③事前課題管理 ④事後課題管理 ⑤授業の理解度チェック ⑥レポート管理 ⑦学生の連絡、授業や質問へのフィードバック 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。
評価方法	授業への参加態度（10％）振り返りレポート毎回（45％） 定期レポート3回（45％　1回あたり15パーセント）
課題に対するフィードバック	毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規出版
参考図書	森 繁樹「介護過程の展開」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】 毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】 講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護過程Ⅱ
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位（30時間） 選択 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 他学科で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し適切な介護サービスが提供できる能力を養うための基礎的学習を行う。課題解決過程の各構成要素を理解し、実習前のシミュレーションとしてロールプレイを行う。
到達目標	1. 介護過程展開の意義、目的、目標及びサイクルを理解できる。 2. 構成要素のアセスメントの目的、方法が習得できる。 3. 構成要素の計画の立案の目的、方法が習得できる。 4. 構成要素の実施、評価の意義、方法、視点の理解ができる。 5. 事例を通して一連の流れを理解する 6. ロールプレイを取り入れ①情報収集、②情報の分析・解釈、③計画立案、④実施、⑤評価の一連の流れをシミュレーションできる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス 介護過程Ⅰの振り返り、介護過程の意義と基礎的理解・目的・目標及びサイクル 第2回：介護過程の課題解決過程のための構成要素 第3回：情報収集の目的、方法、「かかわる」（観察の方法） 第4回：情報の解釈・分析 それぞれの情報をどう統合させるか 情報の解釈・分析 統合された情報からどのような課題が見出せるか 第5回：計画の立案 介護者が見出した課題と対象者の思いはどのように違うか 第6回：計画の立案 長期目標・短期目標の視点、妥当性 具体的な計画の立て方 第7回：実施、評価、展開 第8回：事例：グループワーク ロールプレイ演習、情報収集 第9回：事例：グループワーク 情報のまとめ 第10回：事例：介護過程とチームアプローチ/チームとしての介護過程の展開 第11回：事例：解釈・分析（個人） 第12回：事例：計画の立案（個人） 第13回：事例：ロールプレイ演習、実施、（個人）」 第14回：事例：評価 第15回：事例：展開

アクティブラーニング	・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします ・反転授業、グループワークなども取り入れた授業を展開します。
授業内の ICT 活用	ICT 活用を積極的に行っています。特に学修支援ツール Webclass を多用しています。 ①出席管理 ②小テスト管理 ③事前課題管理 ④事後課題管理 ⑤授業の理解度チェック ⑥レポート管理 ⑦学生の連絡、授業や質問へのフィードバック 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。
評価方法	授業への参加態度（10％）振り返りレポート毎回（45％） 定期レポート3回（45％ 1回あたり15パーセント）
課題に対するフィードバック	毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規出版
参考図書	宮島 渡「認知症ケア ひもときシート“アシスト”：BPSD改善ガイド」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】 毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】 講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護過程Ⅲ
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 他科目で学んだ知識や技術を統合し、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案、実施、評価までの一連の思考過程を介護実習Ⅱの事例や追体験できる ICF の概念に基づいた介護過程の展開事例を活用し、介護過程の展開方法について理解を深め、さらに、情報の関連図や介護過程の展開ツールを紹介し、利用者の心身の状況に応じた介護過程の実践的展開能力を身につける。
到達目標	・介護過程の展開方法について理解を深めることができる。 ・介護過程の実践的展開能力が身についている。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、介護過程の意義と基礎的理解、介護過程の構成要素復習 追体験の目的 第2回：アセスメントの実際—テキストの関連図と「介護過程の展開における情報の関連図」 第3回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図を描いてみよう。 第4回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の発表 第5回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化 第6回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化発表 第7回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性） 第8回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性） 第9回：介護過程とチームアプローチ「介護過程の展開ツール」の紹介 第10回：「ICFに基づく介護過程の展開」と「介護過程の展開ツールの比較」 第11回：介護過程の展開の理解：実践事例—介護老人保健施設で生活する S さんの事例 第12回：介護過程の展開の理解：実践事例—「S さんの結果に対する評価のありかた」 第13回：介護過程の展開の理解：実践事例—障害者支援施設で生活する F さんの事例 第14回：介護過程の展開の理解：実践事例—「F さんの結果に対する評価のありかた」 第15回：まとめ

アクティブラーニング	・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします ・反転授業、グループワークなども取り入れた授業を展開します。
授業内の ICT 活用	ICT 活用を積極的に行っています。特に学修支援ツール Webclass を多用しています。 ①出席管理 ②小テスト管理 ③事前課題管理 ④事後課題管理 ⑤授業の理解度チェック ⑥レポート管理 ⑦学生の連絡、授業や質問へのフィードバック 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。
評価方法	授業への参加態度（10％）振り返りレポート毎回（45％） 定期レポート3回（45％ 1回あたり15パーセント）
課題に対するフィードバック	毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規出版
参考図書	森 繁樹「介護過程の展開」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】 毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】 講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護過程Ⅳ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 介護実習で行った介護過程の実践を総合的に評価し、介護福祉士に必要な思考方法及び知識や技術を倫理的かつ包括的に整理し理解したうえで事例研究や発表等を通じて、自己の提供した介護実践（生活支援）の根拠を持って表現する。
到達目標	1. 介護実習で行った受け持ち利用者の介護過程を総合的に捉え、かつ高い倫理観からの視点から評価考察ができる。 2. 人間形成過程から保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身に着けることができる。 3. 自己に対する評価が適切にできる。 4. 事例研究や発表体験等を通して、根拠をふまえた報告ができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 ガイダンス・ケーススタディとは 第2回 介護過程記録用紙と関連図の情報を基に根拠作成 第3回 利用の現在、過去、未来全体像をとらえる 第4回 実習における介護過程の振り返り：介護過程とチームアプローチ 第5回 発表会の持ち方について 第6回 ケーススタディの骨格を作成（実習記録の振り返りから情報の根拠） 第7回 ケーススタディの骨格を作成（何をして何を学んだか） 第8回 ケーススタディの骨格を作成（はじめに） 第9回 ケーススタディの骨格を作成（内容の筋書きを作る） 第10回 ケーススタディの骨格を作成（構成を考える） 第11回 発表会準備（プレゼンテーション作成） 第12回 発表会準備（プレゼンテーション・シュミレーション） 第13回 介護過程の展開の理解「事例報告会」にて発表 1 第14回 介護過程の展開の理解「事例報告会」にて発表 2 第15回 指導を受けて修正

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します ・反転授業、グループワークなども取り入れた授業を展開します。
授業内の ICT 活用	ICT 活用を授業で多く使います。特に Webclass を多用しています。 ①出席管理 ②中間レポート管理 ③事前課題管理 ④事後課題管理 ⑤授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。
評価方法	ポスター発表課題（50%）・ケーススタディ（50%） 評価はルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	毎回フィードバックします。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規
参考図書	杉山孝博「イラストでわかる高齢者のからだと病気」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護過程Ⅴ
科目責任者	荒川 あつ子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 本科目では、利用者の個別性を理解し、人生に寄り添った生活支援を行う介護福祉士だから知ることができる「生活することの意味」や「人生の尊さ」「介護福祉士の仕事の魅力」などを、介護過程の実践的展開を通して学ぶ。
到達目標	1. 人の暮らしは、さまざまな要因が複雑に絡み合っており成り立っていることを理解する。 2. 介護福祉士としての感性を磨き、人とのかかわりの重要性を理解する。 3. 介護過程の実践的展開を通して、生活することの意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力を理解し介護観を言語化できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス 介護過程の復習 第2回：介護福祉士の仕事の魅力 第3回：介護過程の展開の理解－事例検討1 (実習で体験した事例①) 第4回：介護過程の展開の理解－事例検討2 (GW：疾患の理解) 第5回：介護過程の展開の理解－事例検討3 (GW：ロールプレイ準備) 第6回：介護過程の展開の理解－事例検討4 (グループワーク) 第7回：介護過程の展開の理解－事例検討5 (資料の準備) 第8回：介護過程の展開の理解－事例検討6 (発表会) 第9回：介護過程の展開の理解－事例検討7 (実習で体験した事例②) 第10回：介護過程の展開の理解－事例検討4 (GW：疾患の理解) 第11回：介護過程の展開の理解－事例検討5 (GW：ロールプレイ準備) 第12回：介護過程の展開の理解－事例検討5 (グループワーク) 第13回：介護過程の展開の理解－事例検討6 (資料の準備) 第14回：介護過程の展開の理解－事例検討6 (発表会) 第15回：介護観をまとめる

アクティブラーニング	事例検討ではグループワークを行うので、グループ内のディスカッションに積極的に参加すること。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート 50%、課題提出物 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 9 巻 介護過程』中央法規
参考図書	矢原隆行「よくわかる介護福祉研究入門」保育社 公益社団法人日本介護福祉士会「介護福祉士がすすめる多職種連携」
事前・事後学修	【事前学習】シラバスに示した指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。 【事後学習】授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	発達と老化 I
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。 老化という高齢者のたどる過程を成長ととらえ、発達段階と考えることにより、介護現場で会う高齢者の心理的・身体的特徴が理解でき、適切な介護実践が可能となる基礎力を培う。 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得するための授業を行う。
到達目標	1. 人間の成長と発達の基礎的な知識を学習し、理解を深める。 2. 老年期の発達と成熟の特徴を学び老化に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響を学習する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス 発達心理学の視点 第2回：人間の成長と発達の基礎的理解①—発達とは 第3回：人間の成長と発達の基礎的理解②—人間の発達段階と発達課題 第4回：人間の成長と発達の基礎的理解③—発達と個人差 第5回：老年期の発達と成熟—老化とは 第6回：老年期の発達と成熟—老年期の発達課題の留意点 第7回：老化が及ぼす心理的影響 第8回：老いの価値観・受容 主観的幸福感、QOL・生きがいの視点 第9回：老いの価値観・受容 老年期の適応課題とパーソナリティ 第10回：高齢者のこころの問題と精神障害 第11回：要介護による高齢者の心理 第12回：老化に伴うこころとからだの変化と生活 演習 資料「高齢者の特徴」、「加齢による身体的機能の変化」、「高齢者に起こりやすい状態」を基にロールプレイ 「高齢者のゲストスピーカー役」 第13回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 外見上の変化・免疫機能の変化・感覚機能の変化、咀嚼機能や消化機能の変化 第14回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 循環器の機能の変化・呼吸器の機能の変化、筋・骨・関節の機能の変化・泌尿器・生殖機能の変化 第15回：老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 記憶機能の変化、認知機能の変化 最終確認テスト・解答解説

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWebClass にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。 グループ発表・個々のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業態度 10% 確認小テスト（奇数授業回） 20% 課題提出物 10% 最終確認テスト 60% 演習・レポートで評価するが、ループリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。2 回、4 回、10 回、18 回、20 回、22 回、24 回、26 回）の確認小テストの準備をする。（40 分） 事後学修：毎回の授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	高齢者の特殊性： https://www.kyoukaikenpo.or.jp/~media/Files/kochi/...
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	発達と老化Ⅱ
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。 高齢者と健康ということで、高齢者に多い疾患や老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響などを理解し、介護過程の展開の根拠となる知識を修得する。 ①高齢者に多い疾患とその症状の現れ方の特徴を学び、実際に生活する場面と関連づけ理解する。 ②老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響を理解し、生活支援の中でいつもの違いを感じとり、医療職とどのように連携するのかについて学習する。
到達目標	1. 高齢者の疾患と生活上の留意点分かる。 2. 高齢者に多い疾患と老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響の留意点分かる。 3. 保健医療職との連携のポイントが分かる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：振り返り：人間の成長と発達の基礎的理解、高齢者と健康 演習 50年後を描く→疾病・障害カードのくじ引き→自分の気持ちの変化書き出し→発表 第2回：高齢者の症状・疾患の特徴(慢性、複数疾患) 第3回：高齢者の症状・疾患の特徴(非定型的な症状、閉じこもりと廃用症候群, 社会・家族の影響) 第4回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点(痛み(腹痛・骨・筋肉・関節)、めまい) 第5回：高齢者の症状・疾患の特徴(体重減少・食欲不振、しびれ、浮腫) 第6回：高齢者の症状・疾患の特徴(咳・痰、息切れ・息苦しさ、掻痒感) 第7回：高齢者の症状・疾患の特徴(不眠、便秘、下痢、誤嚥、出血) 第8回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点(生活習慣病) 第9回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点(骨・関節系の病気) 第10回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点(歯・口腔の病気、目の病気、耳の病気、皮膚の病気) 第11回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点(呼吸器系の病気、腎・泌尿器系の病気、消化器系の病気) 第12回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点(循環器系の病気、脳・神経系の病気、精神の病気) 第13回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点(介護保険の特定疾患、感染) 第14回：保健医療職との連携—保健医療職とのチームケアの必要性 事例1 第15回：保健医療職との連携—保健医療職との連携のポイント 事例2

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40 分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	認知症の理解 I
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得することを目的とし、認知症の人の取り巻く状況や原因疾患、主要な症状について習得する科目である。 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解を学習し、認知症の原因となる疾患及び心身の変化や心理症状を理解する。さらに、認知症を取り巻く状況を理解するために、認知症のケアの歴史や理念、社会的環境についても学ぶ。
到達目標	1. 認知症の医学的・心理的側面に関する基礎的知識を習得し、述べることができる。 2. 認知症の取り巻く状況を理解し、社会的環境について学ぶことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：認知症の基礎的理解(1)：認知症とは何か 第2回：認知症の基礎的理解(2)：脳のしくみ（脳の構造・機能、認知症の病理） 第3回：認知症の基礎的理解(3)：脳のしくみ（アルツハイマー型認知症 - 老化と認知症の関係） 第4回：認知症の基礎的理解(4)：認知症の心理 第5回：認知症の中核症状の理解（1）：記憶障害、見当識障害、遂行機能障害、空間認知障害 第6回：認知症の中核症状の理解（2）：社会脳、失語・失行・失認、病識低下、神経症状 第7回：認知症の生活障害の理解：ADL 障害、ADL 障害、家族関係、社会参加 第8回：認知症のBPSD の理解：定義、要因、誘因 第9回：認知症の診断と重症度：診断方法、重症度診断 第10回：認知症の原因疾患と症状・生活障害(1)：アルツハイマー型認知症、脳血管性、レビー小体型認知症 第11回：認知症の原因疾患と症状・生活障害(2)：前頭側頭型、治療可能な認知症、若年型認知症 第12回：認知症の治療薬、認知症の予防 第13回：認知症を取り巻く状況 第14回：認知症ケアの理念と視点 第15回：認知症当時者の視点からみえるもの 最終確認テスト・解答解説

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 10% 確認小テスト（奇数授業回） 20% 課題提出物 10% 最終確認テスト 60% 演習・レポートで評価するが、ループリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』 中央法規
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。（40 分） 事後学修：毎回授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	医師が教える！「脳」の基本のしくみと、脳の病気の種類や症状 https://kenko-pita.com/brain-structure
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	認知症の理解Ⅱ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	認知症に関する知識を深めるとともに、認知症の人を中心に捉え本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する科目です。認知症ケアの理解、認知症の人を支援する家族への支援を多職種連携の視点から学習し、実践できることを目的とします。 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解し、認知症の人や家族への支援、認知症の人を支える多職種の連携・協働の在り方を学びます。
到達目標	1. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解できる。 2. 認知症の人を支える、地域、家族の支援の在り方について理解できる。 3. 認知症の人を支える、多職種連携・協働について理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：認知症の人へのかかわりの基本 第2回：認知症の進行に応じた介護(1) 初期の認知症への介護 第3回：認知症の進行に応じた介護(2) 初期の認知症への介護 第4回：認知症の進行に応じた介護(3) 初期の認知症への介護 第5回：認知症の進行に応じた介護(4) 終末期の認知症への介護 第6回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(1) 認知症の症状と環境の関係 第7回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(2) 認知症の型 第8回：認知症の人の介護過程(1) 行動の背景 第9回：認知症の人の介護過程(2) アセスメントの視点 第10回：認知症の人の介護過程(3) 介護計画 第11回：地域におけるサポート体制 -地域包括支援センターの役割・機能 第12回：地域におけるサポート体制 -ボランティア、サポーターの役割・機能 第13回：認知症の人を支援する多職種連携と協働 チームアプローチ 第14回：家族への支援の在り方(1) -家族のレスパイト 第15回：家族への支援の在り方(2) -家族会と介護教室

アクティブラーニング	調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパー WebClass に提出する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%
課題に対するフィードバック	WebClass にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』 中央法規
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	障害の理解
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的な知識について解説する。また、チームアプローチや家族への支援については、実践例を紹介しながら講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解し、障害のある人に対する適切な支援方法について説明できる。 2. 受容的・共感的態度をもって支援するために必要な、障害の医学的側面の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(1) 視覚障害の種類と原因、特性 第 2 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(2) 聴覚障害、言語機能障害の種類と原因、特性 第 3 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(3) 重複障害のある人の生活 第 4 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(4) 肢体不自由の種類と原因、特性 第 5 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(5) 内部障害の種類と原因、特性 第 6 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 知的障害の種類と原因、特性 第 7 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 精神障害の種類と原因、特性 第 8 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 高次脳機能障害高次脳機能障害の種類と原因、特性 第 9 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 発達障害の種類と原因、特性 第 10 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 重症心身障害重症心身障害のある人の生活 第 11 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 難病の種類と原因、特性 第 12 回：障害の概念、制度、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害のある人の心理、障害の受容、適応と適応機制 第 13 回：障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響障害のある人の特性を踏まえたアセスメント 第 14 回：連携と協働 チームアプローチ、多職種連携・協働による支援 第 15 回：家族への支援 家族の受容段階や介護力に応じた支援、まとめ

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	iPad、learning CANVAS（電子黒板）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	筆記試験 50%、小テスト（3 回実施） 30%、授業参加度、課題提出（リアクションペーパー） 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40 分 2～15 回） 事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	こころとからだ I
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために、対人援助に必要な人間の心理について、適切な用語で説明できる。 2. 他者をさまざまな側面から理解するために、介護技術の根拠となる人体の構造や機能について、適切な用語で説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：こころのしくみの理解(1) 健康とは何かについて理解する。 第2回：こころのしくみの理解(2) 人間の欲求、自己概念と尊厳について理解する。 第3回：こころのしくみの理解(3) こころのしくみの基礎について理解する。 第4回：こころのしくみの理解(4) 認知のしくみについて理解する。 第5回：こころのしくみの理解(5) 意欲・動機づけのしくみについて理解する。 第6回：こころのしくみの理解(6) 適応のしくみ、防衛機制について理解する。 第7回：からだのしくみの理解(1) からだのしくみの基礎について理解する。 第8回：からだのしくみの理解(2) 神経系の名称について理解する。 第9回：からだのしくみの理解(3) 骨・筋系の名称について理解する。 第10回：からだのしくみの理解(4) 感覚器系の名称について理解する。 第11回：からだのしくみの理解(5) 呼吸器・消化器系の名称について理解する。 第12回：からだのしくみの理解(6) 生殖器・内分泌系の名称について理解する。 第13回：からだのしくみの理解(7) 循環器系の名称について理解する。 第14回：からだのしくみの理解(8) からだの動き、関節の運動と関節可動域について理解する。 第15回：からだのしくみの理解(9) ボディメカニクスについて理解する。 最終確認テスト解答解説

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施し意見交換を行う。 リアクションペーパーはWeb Class にて学びについて記録し提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表も実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 10% 小テスト（奇数授業回） 20% 課題提出物 10% 最終確認テスト 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 11 巻「こころとからだのしくみ」中央法規出版
参考図書	必要時、理解しやすい「解剖生理学」等の書籍を適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。（40 分） 事後学修：毎回授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	解剖学的構造と生理学： https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	こころとからだⅡ
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 移動、身じたく、食事の支援を行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、移動、身じたく、食事に関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。 2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：移動に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第2回：移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第3回：機能の低下・障害が及ぼす移動への影響について理解する。 第4回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。 第5回：移動能力向上が生活に与える影響を理解する。 第6回：身じたくに関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第7回：身じたくに関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第8回：機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響について理解する。 第9回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第10回：咀嚼と嚥下から口腔機能について理解する。 第11回：食事に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第12回：食事に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第13回：機能の低下・障害が及ぼす食事への影響について理解する。 第14回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第15回：食事摂取能力向上が生活に与える影響を理解する。最終確認テスト・解答解説

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 10% 確認小テスト（奇数授業回） 10% 課題提出物 10% 最終確認テスト 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 11 巻「こころとからだのしくみ」中央法規出版
参考図書	必要時、理解しやすい「解剖生理学」等の書籍を適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。（40 分） 事後学修：毎回授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	解剖学的構造と生理学： https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	こころとからだⅢ
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアを行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアに関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。 2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第2回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第3回：機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響について理解する。 第4回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第5回：排泄に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第6回：排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第7回：機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響について理解する。 第8回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。 第9回：休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第10回：休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第11回：機能の低下・障害が及ぼす休息・睡眠への影響について理解する。 第12回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第13回：人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 「死」の捉え方、終末期から危篤、死亡時のからだについて理解する。 第14回：人生の最終段階のケアについて事例をもとに理解する。 第15回：人生の最終段階のケアにおける医療職との連携について理解する。

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWebClassにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ループリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	WebClassにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40 分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	医療的ケア I
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。福祉の専門職に求められる医療的ケアについて基本的な知識・理論や技能を体系的に学ぶ。 本科目では、医療的ケアに関係する制度の概要や感染予防、安全管理体制等、医療的ケア実施の基礎を学び、現在社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明することができる。また医療的ケア II につなげる。
到達目標	1. 医療的ケアとはどういうものか説明できる。 2. 介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景について説明できる。 3. 医療的ケアを安全に実施するための医療的ケア実施の基礎について理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 医療的ケア実施の基礎 第1回：ガイダンス 医療的ケアとは 第2回：医行為について 第3回：喀痰吸引等制度（社会福祉士および介護福祉士法の改正） 第4回：医療的ケアと喀痰吸引等の背景 第5回：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 第6回：救急蘇生 第7回：感染予防 第8回：介護職の感染予防 第9回：「清潔保持と感染予防（ガウンテクニック、使い捨て手袋など）」演習 第10回：療養環境の清潔、消毒法／消毒と滅菌 第11回：身体・精神の健康／健康状態を知る項目／急変状態について 第12回：「バイタルサインの見方」演習 第13回：呼吸器のしくみ 第14回：消化器のしくみ 第15回：医療的ケア実施の基礎について 最終確認テスト・解答解説

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 10% 確認小テスト（奇数授業回） 20% 課題提出物 10% 最終確認テスト 60% 演習・レポートで評価するが、ループリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための 喀痰吸引・経管栄養 ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。バイタルサインでは動画を視聴する（40 分） 事後学修：毎回授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	感染予防の基本： https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/ 動画でわかる看護技術 バイタルサイン https://www.kango-roo.com/mv/cat/21
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	医療的ケアⅡ
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。 医療的ケアは、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）と経管栄養（基礎的知識・実施手順）を修得する。
到達目標	1. 喀痰吸引・経管栄養で使用する器具・機材と保管方法について説明できる。 2. 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）・経管栄養（基礎的知識、実施手順）について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 第1回：喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引 第2回：子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 第3回：呼吸器系の感染と予防（吸引との関連）、急変状態、喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策 第4回：喀痰吸引器で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持 第5回：吸引の技術と留意点 第6回：痰の吸引に伴うケア 第7回：報告及び記録 経管栄養（基礎的知識・実施手順） 第8回：経管栄養法とは 第9回：注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点 第10回：急変・事故発生時の対応と事前対策 第11回：子どもの経管栄養、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 第12回：経管栄養に関する感染と予防、経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 第13回：経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 第14回：経管栄養の技術と留意点 第15回：経管栄養に必要なケア、報告及び記録 最終確認テスト・解答解説

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 10%・確認小テスト（奇数授業回）20%・課題提出物 10%・最終確認テスト 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための 喀痰吸引・経管栄養 ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。（40 分） 事後学修：毎回授業後に Web Class 内のミニツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	医療的ケア児親子をとりまく環境 https://nancy.florence.or.jp/about/mission/iryoucare
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	医療的ケアⅢ
科目責任者	水野 尚美
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	介護福祉士として医療的ケアを必要とする高齢者・障害者に対して、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・正確な技術を修得する。 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養、救急蘇生法の基礎的知識・実施手順とその留意点を学習し、シミュレーターを用いた演習により、安全に確実に実施できるための知識と技術を習得する。
到達目標	1. シミュレーターを用いた喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）が、実施手順に沿って安全に確実に実施できる。 2. シミュレーターを用いた経管栄養（経鼻経管・胃瘻）が、実施手順に沿って安全に確実に実施できる。 3. シミュレーターを用いた救急蘇生法が実施できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員>水野尚美、富安奈緒美、向山幸子 第1回：喀痰吸引の基礎的知識・実施手順② 喀痰吸引の必要物品と消毒法、吸引の技術と留意点 第2回：喀痰吸引の基礎的知識・実施手順②・・・痰の吸引に伴うケア、報告及び記録 第3回：喀痰吸引の基礎的知識・実施手順③・・・口腔内・鼻腔内吸引の手順と留意点 第4回：喀痰吸引の基礎的知識・実施手順④・・・気管カニューレ内吸引の手順と留意点 第5回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて口腔内吸引の集中演習（1～5回以上） 第6回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて鼻腔内吸引の集中演習（1～5回以上） 第7回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて気管カニューレ内吸引の集中演習（1～5回以上） 第8回：経管栄養の基礎的知識・実施手順①・・・経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持、経管栄養の技術と留意点 第9回：経管栄養の基礎的知識・実施手順②・・・経管栄養に必要なケア、報告及び記録 第10回：経管栄養の基礎的知識・実施手順③・・・胃瘻（腸瘻）による経管栄養 第11回：経管栄養の基礎的知識・実施手順④・・・経鼻経管栄養 第12回：経管栄養のシミュレーターを用いて経鼻経管栄養の集中演習（1～3回） 第13回：経管栄養のシミュレーターを用いて経鼻経管栄養の集中演習（4～5回以上） 第14回：経管栄養のシミュレーターを用いて胃瘻による経管栄養の集中演習（1～5回以上） 第15回：シミュレーターを用いて救急蘇生法の集中演習

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	Web Class で、該当 DVD を 3 回以上必ず視聴
評価方法	授業態度 10% ・課題提出物 10% 評価実技試験 80% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	WebClass にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための 喀痰吸引・経管栄養 ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	介護職員のための医療的ケア/ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：毎回演習授業の単元テキストの手順を熟読し、課題をまとめる。(40 分) Web Class の演習 DVD を 3 回以上視聴する。 事後学修：毎回の演習後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オープン教育の活用	半固形栄養剤 注入方法 : bing.com/videos
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有し、「医療的ケア教員」の講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ
科目責任者	落合 克能
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで修得してきた専門的知識と技術について、実践的に習得することを目的し、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおけるインテークからアセスメントまでの過程でソーシャルワーカーに求められる基礎的技能の修得を図る。
到達目標	1. 虐待、ひきこもり、貧困、認知症、終末期ケア、災害時、その他危機状態にある事例を通して、支援を必要とする人が抱える、多様で複合的な課題の背景を理解することができる。 2. 上記の事例をもとに、相談援助の過程、特にインテークからアセスメントまでの意義・目的・方法・留意点等について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞落合克能、福田俊子、泉谷朋子 第1回：オリエンテーション（授業目的・授業計画・授業方法の説明・演習Ⅱの復習） 【知的障害児・虐待の事例】 第2回：知的障害児・虐待の事例①、事例の理解 第3回：知的障害児・虐待の事例②、ケースの発見、対象者および家族とのインテーク 第4回：知的障害児・虐待の事例③、インテーク場面のロールプレイ、対象者情報整理 第5回：知的障害児・虐待の事例④、アセスメントの理解、アセスメントの実施① 第6回：知的障害児・虐待の事例⑤、アセスメントの実施②、まとめ 【認知症高齢者の終末期ケア事例】 第7回：認知症高齢者の終末期ケア事例①、事例の理解、コミュニケーション方法 第8回：認知症高齢者の終末期ケア事例②、アセスメントのための情報収集 第9回：認知症高齢者の終末期ケア事例③、アセスメントによるニーズの把握 第10回：認知症高齢者の終末期ケア事例④、ニーズに基づく支援計画・実践・評価 第11回：認知症高齢者の終末期ケア事例⑤、アセスメントの重要性に関するまとめ 【災害時の支援事例】 第12回：災害時の事例①、ケースの発見、インテーク、アセスメント 第13回：災害時の事例②、アセスメント、チームアプローチ 第14回：災害時の事例③、まとめ 第15回：全体のまとめ インテークからアセスメントまでのポイント整理

アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイング、ワークシートを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	授業への取り組み姿勢50%、定期試験（レポート） 50%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になります。したがって、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ 21 の技法』 中央法規 2008 『シリーズ 社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』 ミネルヴァ書房 2017
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2613 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、総合的かつ包括的な援助にかかわる相談援助事例を体系的に取り上げる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定して実技指導を行う。
到達目標	1. 個人や家族を対象とした相談援助の実践について理解を深め、対象に合わせてさまざまな関連施策を適用できる。 2. 事例をもとにアセスメントから評価まで、できる力を養う。 3. グループ討議を通じて、自分の役割を把握し、的確にその役割を果たすことができる。
授業計画	<担当教員名>福田俊子、落合克能、小畑美穂 <授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 第 2 回：事例研究①－支援計画① （①役割の決定 ②事例の理解 ③何を聴くかの整理・面接の準備） 第 3 回：事例研究①－支援計画② （①模擬面接（援助計画作成のための面接）②不足情報の収集） 第 4 回：事例研究①－支援計画③（援助計画の策定：本人・環境のニーズの整理） 第 5 回：事例研究①－支援計画④（援助計画の策定）：ニーズと社会資源のマッチング） 第 6 回：事例研究①－支援計画⑤（援助計画の策定）：まとめ 第 7 回：事例研究①－支援計画⑥（①事例の発表 ②ロールプレイの実施） 第 8 回：事例研究①のまとめ 第 9 回：事例研究②－①（事例研究①で作成した支援計画からその後の大まかな展開を検討する） 第 10 回：事例研究②－②（「支援の実施」→「支援の実施の結果」までの詳細な物語を創る） 第 11 回：事例研究②－③「支援の実施の結果」→「モニタリング」までの物語を創る） 第 12 回：事例研究②－④発表会にむけてこれまで作成してきた物語の提示の仕方などを検討し、準備を整える：①発表会に向けての役割分担 ②発表の予行演習 第 13～14 回：発表会 第 15 回：効果測定、終結、アフターケアに関する解説およびまとめ

アクティブラーニング	本科目では、PBL、グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて授業を展開する。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート）50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	なし
参考図書	渡辺律子『高齢者援助における相談面接の理論と実際』医歯薬出版
事前・事後学修	第2～14回の授業では、達成課題が提示される。 あらかじめ必要な知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。演習形式により、ソーシャルワークにおける地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し実技指導を行う。
到達目標	福祉に関する地域社会のニーズや背景を論理的に把握し、専門職として貢献することができる実践力を身につける 1. 地域福祉の援助技術の概要を理解する 2. 地域・コミュニティ、住民の意味を理解する 3. コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークの方法として 住民ニーズの把握方法、住民参加の促進方法、社会資源の活用・開発、要援護者に関する情報収集、アウトリーチ、ネットワークづくりについて理解し、技術を習得す
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐藤順子、川向雅弘、落合克能 第1回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 佐藤 実習中に体験した「地域との関わり」 第2回：コミュニティに関わるソーシャルワーカーの役割を理解する 佐藤 「プロフェッショナル 仕事の流儀 コミュニティ・ソーシャルワーカー」 視聴、その後グループワーク 第3回：地域ニーズを把握する 川向 第4回：個別ニーズをアセスメントする 川向 第5回～7回：個別支援計画を策定する 川向 第8回：中間まとめ 川向 第9回：地域を知る① 落合 第10回：地域を知る② 落合 第11～12回：地域課題解決のためのプログラム案を作成する 佐藤 第13回：地域課題解決のためのプログラム案を発表する 佐藤 第14回：地域課題解決のためのプログラム案を評価する 佐藤 第15回：まとめ 社会福祉士国家試験における事例問題検討 佐藤

アクティブラーニング	ほぼ毎回グループワークを実施し、その結果のプレゼンテーションを行う
授業内の ICT 活用	・プロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う ・事前・事後学修課題等については webclass に提出する
評価方法	授業への取組姿勢 20%、事前課題 20%、レポート 60%（中間、期末）として評価する レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対するフィードバック	毎回グループワークで取り組んだ課題、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う
指定図書	なし 授業中に資料を配布
参考図書	筒井のり子著『ワークブック社会福祉援助技術演習 コミュニティソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：第 3, 4, 5, 9, 10, 11, 14 回に向けて事前課題を出すので、webclass に提出した上でグループワークに臨む（各 40 分） 事後学修：毎回学びをまとめ、webclass に提出する（各 20 分） 8 回終了時に中間レポートを作成する（120 分）
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習VI (SW)
科目責任者	福田 俊子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。ソーシャルワーク実習での個別的体験を踏まえ、具体的な相談援助事例を学生自ら作成することで、相談援助に係る実践的な知識と技術を習得できるようになることを目的とする。
到達目標	1. 実習体験の中から利用者とのかかわりから事例を作成する作業を通じて、分析的思考に基づいた援助者としての行動目標を設定できる。 2. これまでのソーシャルワーク関連科目との関連を意識しながら、人間の多様性を踏まえた事例を作成することができる。 3. グループ討議を通じて、他者と協働することができる。
授業計画	<担当教員>福田俊子、川向雅弘、泉谷朋子 演習グループを4グループ編成し、各教員が2グループを担当する。 <授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・ガイダンス（小グループでの実習の学びの振り返り） 第2回：ジレンマ事例の作成①（ジレンマ事例の共有、大まかな筋書きの作成） 第3回：ジレンマ事例の作成②（大まかな筋書きの作成） 第4回：ジレンマ事例の作成③（大まかな筋書きの作成、プレゼンテーションの準備） 第5回：ジレンマ事例の作成④（プレゼンテーションの準備） 第6回：ジレンマ事例の作成⑤（発表会の予行演習） 第7・8回：事例発表会・まとめ ロールプレイによるジレンマ事例から、「ソーシャルワーカーの強み」についての考察を発表する。（20分発表×グループ数）

アクティブラーニング	本科目では、PBL、プレゼンテーションを取り入れて授業を展開する。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート）50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の授業では、達成課題が提示される。予め必要となる知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ (SS)
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。ソーシャルワーク実習での個別的体験を踏まえ、具体的な相談援助事例を学生自ら作成することで、相談援助に係る実践的な知識と技術を習得できるようになることを目的とする。
到達目標	1. 実習体験の中から利用者とのかかわりから事例を作成する作業を通じて、分析的思考に基づいた援助者としての行動目標を設定できる。 2. これまでのソーシャルワーク関連科目との関連を意識しながら、人間の多様性を踏まえた事例を作成することができる。 3. グループ討議を通じて、他者と協働することができる。
授業計画	<担当教員> 演習グループを 4 グループ編成し、各教員が 2 グループを担当する。 <授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション・ガイダンス（小グループでの実習の学びの振り返り） 第 2 回：ジレンマ事例の作成①（ジレンマ事例の共有、大まかな筋書きの作成） 第 3 回：ジレンマ事例の作成②（大まかな筋書きの作成） 第 4 回：ジレンマ事例の作成③（大まかな筋書きの作成、プレゼンテーションの準備） 第 5 回：ジレンマ事例の作成④（プレゼンテーションの準備） 第 6 回：ジレンマ事例の作成⑤（発表会の予行演習） 第 7・8 回：事例発表会・まとめ ロールプレイによるジレンマ事例から、「ソーシャルワーカーの強み」についての考察を発表する。（20 分発表×グループ数）

アクティブラーニング	本科目では、PBL、プレゼンテーションを取り入れて授業を展開する。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート）50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の授業では、達成課題が提示される。予め必要となる知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク実習
科目責任者	落合 克能
単位数他	4 単位 (180 時間) 選択 56 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	社会福祉機関・施設において 23 日間、180 時間以上の配属実習を行う。 配属実習における利用者や職員との長期的なかかわりを通じて、学内の講義、演習で学習した知識や技術が、学生自身の「身についた力」、つまり「実践力」となること、そして学生が自分の力で次につながる自己課題を明確化していくことをめざす。
到達目標	これまでに獲得した社会福祉専門職としての知識・理論や技法等を総合的に活用し、実習先で出会う対象者の発達段階やニーズに合わせた支援をする実践力につなげることができる。 1. 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成をはかることができる。 2. 利用者理解とその需要の把握、及び支援計画作成に必要な後技術を習得する。 3. 利用者やその関係者との援助関係の形成をはかることができる。 4. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価について理解できる。 5. 他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの必要性を理解できる。 6. 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定について、組織の一員としての役割と責任について理解できる。 7. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際について理解できる。 8. 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることについて、および具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発について理解できる。 9. 具体的体験や相談援助を専門援助技術として概念化・理論化し体系化する能力が身に付く。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」に基づき厚生労働省が別に定める施設及び事業にて、180 時間の実習を行う。 実習先の実習指導者並びにソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。特に実習担当教員は、実習中の巡回や帰校日の指導を通して、学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を取得できていることが履修の前提になる。

アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	各領域の学習内容による。
評価方法	実習生としての責務の遂行、積極的な取り組みの姿勢、記録等を総合して行う。
課題に対するフィードバック	帰校日、実習巡回においてスーパービジョンを実施する。
指定図書	使用しない
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	実習指導者、教員によるスーパービジョンの際には、それまでの実習を振り返り、自分の感じたこと、考えたこと、話したいことなどを予め考えておく。また、事前学習・事後学習として、毎日の実習ノートの作成、実習指導者からの指導コメントの振り返りにしっかり取り組むこと。(目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	各領域の学習内容による。
オフィスアワー	落合克能（社会福祉学部社会福祉学科）：2613 研究室 各領域担当教員のオフィスアワーは初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
科目責任者	落合 克能
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 34 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク実習の事前指導として位置づけられ、ソーシャルワーク実習の意義について理解するとともに、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う科目である。 3セメスターでは、学生が希望する実習先を選択できるよう、各領域・実習先の概要、実習で必要とされるソーシャルワークの知識と技術等について、現場の専門職による講義をとおして学習する。希望する実習領域・実習先が確定する4セメスターでは、それぞれで必要とされる知識・技術についてグループ学修を行う。
到達目標	実践で必要とされる社会福祉専門職としての技術について理解し、ある程度使用できることをめざす。あわせてグループ学習をとおして他者の意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につける。 1. 実習及び実習指導の意義について説明できる。 2. 多様な施設や事業所について理解し、説明できる。 3. 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む）と、施設・機関、地域社会等について基本的なことが説明できる。
授業計画	<担当教員>落合克能、泉谷朋子、小畑美穂、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、 <授業内容・テーマ等> 【3セメスター】 第1回：落合 オリエンテーション、ソーシャルワーク実習の基本的理解 ①カリキュラム構成・現場実習および実習指導の意義・目的、スケジュール等 ②施設・機関の種別・種類の理解、教員紹介（各領域担当者） ※以下、第2回～第6回は、実際に実習を行う実習分野（こども、高齢者、障がい者、社協）における利用者理解を含む施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解、実習生としての課題の理解 第2回：外部講師 実習先を選択する上での学修①こども領域 第3回：外部講師 実習先を選択する上での学修②障がい領域（知的等） 第4回：外部講師 実習先を選択する上での学修③障がい領域（救護等） 第5回：外部講師 実習先を選択する上での学修④高齢者領域 第6回：外部講師 実習先を選択する上での学修⑤社協領域 第7回： 全体オリエンテーション 今後のスケジュール 担当教員による領域別説明会 各領域の実習先の活動内容・特徴の理解、実習生としての課題の理解 第8回：各領域担当 担当教員による領域別説明会、担当教員による相談会 第9回：落合・各領域担当 実習の達成課題に関する説明および領域別課題等の説明 落合 各領域担当

	【4セメスター】 第10回：全体説明および領域別説明① ①4セメスタースケジュールおよび配属先等に関する説明 落合 ②各領域の詳細説明領域別学習 実習領域と施設・機関・団体に関する基本的な理解 各領域担当 第11回：各領域担当 領域別学修②実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する基本的な理解 第12回：各領域担当 領域別学修③学習のまとめ 第13回：各領域担当 領域別学修④実習先で必要とされるソーシャルワークの知識 第14回：各領域担当 領域別学修⑤実習先で必要とされるソーシャルワークの技術 第15回： 全体授業 実習計画書の作成、個人票の書き方・提出について 落合 領域別学修⑥各領域における領域特有の方法等詳細説明 各領域担当
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	各領域の学修内容による。
評価方法	授業参加態度 25%、領域別学修課題・レポート 75%。
課題に対するフィードバック	各実習領域の個別学修でフィードバックを行う。
指定図書	『社会福祉用語辞典』（第9版）ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	今までの実習体験を振り返り、ノートを読み直すなどをした上で臨む。3セメの外部講師の授業の前には、必ず予習をして臨む。 4セメスターの領域別学修の際は、実習先施設・事業所について、自ら課題を設定したうえで制度的・実践的両面での予習・復習を行いながら臨む。（目安時間 40分）
オープンエデュケーションの活用	各領域の学習内容による。
オフィスアワー	落合克能（社会福祉学部社会福祉学科）：2613 研究室 時間帯については初回授業時に提示する。 各領域担当教員のオフィスアワーを確認しておくこと。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
科目責任者	落合 克能
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 56 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本科目はソーシャルワーク実習の直前学習、事後学習として位置づけられる。直前学習では、配属実習を行う上での最終的な準備を整えることが主な授業内容となる。 事後学習では、配属実習の振り返り、学習のまとめ、実習報告会での発表、学習総括レポートの作成を行う。そのプロセスはグループ及び個別スーパービジョンによって進められる。
到達目標	ソーシャルワーク実習に向けて、それまでに獲得した社会福祉専門職としての知識・理論や技法等を総合的に活用し、対象者の発達段階やニーズに合わせた支援を行うための直前準備をする。また、実習後は、その経験を振り返り、対人援助・社会支援のための知識を深め、技術を高めるとともに、実習経験を通じて自己覚知を深めようとする姿勢をもつ。 1. 配属実習を行う際に実際に必要となる知識、技術等を習得する。 2. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 3. 具体的な体験や援助活動をソーシャルワークとして概念化し理論化し、体系立てることができる。
授業計画	<担当教員>落合克能、小畑美穂、泉谷朋子、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、 <授業内容・テーマ等> 【実習の直前学習】 第1回：全体授業：事前準備の概要、実習計画書の作成、事前訪問の意義、訪問の仕方、記録の意義、実習ノートの書き方(落合)、領域別学習（各担当教員） 第2回：領域別学習(各担当教員) 実習領域と施設・事業所・機関・団体に関する理解 第3回： 〃 実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する理解 第4回： 〃 必要とされるソーシャルワークの知識・技術の修得 第5回： 〃 必要とされるソーシャルワークの技術、実習計画書作成 第6回：実習先事前訪問 第7回：全体授業：スーパービジョン、評価票の記入の仕方、活用方法、プライバシーの尊重と守秘義務、実習生の役割(落合)、領域別学習（各担当教員） 第8回：個別指導(各担当教員) 実習計画書の書き方指導 第9回： 〃 実習計画書の書き方指導 第10回： 〃 実習計画書の書き方指導、その他 【実習の事後学習】 第11回：配属実習終了後のオリエンテーション(川向) 第12回：グループスーパービジョン(各担当教員) オリエンテーション 第13回： 〃 実習体験を共有する① 第14回： 〃 実習体験を共有する② 第15回： 〃 自己の実習体験を多面的にとらえる① 第16回： 〃 自己の実習体験を多面的にとらえる② 第17回： 〃 自己の実習体験の意味付けを行う① 第18回： 〃 自己の実習体験の意味づけを行う② 第19回： 〃 実習での成果と学習題をまとめる 第20回：グループワーク(各担当教員) 実習報告会に向けて 方針検討 第21回： 〃 〃 発表内容をまとめる 第22回： 〃 〃 発表内容の検討

	第23回： 〃 〃 プレゼン方法の検討 第24～26回（3コマ連続授業）：実習報告会 第27回：全体授業 実習報告会振り返り（教員全員から） 第28回：個別スーパービジョン(各担当教員) 自己の学習内容の言語化 第29回： 〃 自己の課題の明確化 第30回： 〃 レポート指導
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	実習報告会においてはプロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う。
評価方法	領域別授業（事前・事後）、報告会に向けての準備等への参加状況・学習状況（提出物・実習計画書含む）40%、総括レポート60%で評価する。
課題に対するフィードバック	スーパービジョンにてフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	実習の直前学習においては、実習指導Ⅰでの学びの振り返り、新たな課題についての調べ学習、実習計画書の作成が課題となる。 実習の事後学習においては、実習体験の振り返り、実習記録の読み込み、実習での学びの整理がグループスーパービジョンに臨むにあたって必要となる。（目安時間 40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	落合克能（社会福祉学部社会福祉学科）：2613 研究室 各領域担当教員のオフィスアワーは初回授業時に提示する。 各領域担当教員のオフィスアワーを確認しておくこと。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健ソーシャルワーク演習 I
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を涵養する。
到達目標	1. 精神保健福祉士に求められる総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助事例を体系的、実践的に理解する。 2. 精神保健福祉支援における諸課題を、概念化、理論化、体系化して理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場義貴、佐々木正和 第1回：退院支援（地域移行支援）事例の理解 第2回：退院支援（地域移行支援）阻害要因と促進要因 第3回：就労支援 事例の理解 第4回：就労支援の展開 第5回：危機介入と自殺予防 事例の理解 第6回：危機介入と自殺予防における精神保健福祉士の役割 第7回：長期入院 事例の理解 第8回：長期入院へのストレングアップアプローチ 第9回：精神科デイケアでのリハビリテーション 事例の理解 第10回：精神科デイケア 終結と就労への動機づけ 第11回：心理教育を用いたリハビリテーション 事例の理解 第12回：精神障害にも対応した地域ケアシステム 事例の理解 第13回：精神障害にも対応した地域ケアシステム 精神保健福祉士の役割 第14回：精神保健福祉地域啓発プログラム 事例の理解 第15回：全体まとめ

アクティブラーニング	本授業は、PBL（課題解決型学習）、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート） 50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習の経験を踏まえ、長期入院をしている精神障害者の生活上の課題や、必要な支援やについて把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、体系化し、実践できる能力を涵養するため、個別並びに集団による実技指導を行う。
到達目標	1. 精神障害者及び家族への具体的な援助場面を想定した支援事例を基に、模擬ケースカンファレンス（ロールプレイ）を実施し、インテーク（受理面接）、アセスメント（課題分析）、プランニング（支援の計画）、支援の実施、モニタリング（経過観察）の理解を深める。 2. 家族間の調整（模擬面接）や、関係者との模擬ケア会議を企画、実施できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場義貴、佐々木正和 第1回：オリエンテーション・精神保健福祉士の行う相談援助の原則・ケア会議の理解 第2回：退院支援（地域移行支援）事例1の模擬ケア会議 第3回：退院支援（地域移行支援）事例2の模擬ケア会議 第4回：就労支援 事例1の模擬ケア会議 第5回：就労支援 事例2の模擬ケア会議 第6回：危機介入と自殺予防の模擬ケア会議 第7回：うつ病（在宅支援）の模擬ケア会議 第8回：思春期事例の模擬ケア会議 第9回：居住支援の模擬ケア会議 第10回：家族支援の模擬ケア会議 第11回：ひきこもり事例の模擬ケア会議 第12回：発達障害の2次障害 事例の模擬ケア会議 第13回：精神保健福祉地域啓発プログラム 事例1の模擬ケア会議 第14回：精神保健福祉地域啓発プログラム 事例2の模擬ケア会議 第15回：全体まとめ

アクティブラーニング	本授業は、PBL（課題解決型学習）、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート） 50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	・ 自主学習として、以下の URL の講座の受講を勧めます（厚生労働省 HP） ・ 地域移行 地域定着 自立支援援助 https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000670105.pdf ・ 退院後生活環境相談員 http://www.japsw.or.jp/ugoki/hokokusyo/201903-guideline.pdf ・ 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム 行政説明「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進に向けて」 https://www.youtube.com/watch?v=aTxSv62jFLQ&feature=emb_title 講義「協議の場の展開」 https://www.youtube.com/watch?v=tfKaICmVEos&feature=emb_logo
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習指導（19SW）
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	3 単位（90 時間） 選択 （6）78 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習を通して、精神障害者のおかれている現状や生活の実態や生活上の困難について理解すると共に、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を習得するための、事前準備、事後の振り返りを行う。精神保健ソーシャルワーク実習を効果的にすすめるために、「実習の手引き」及び「ワークシート」を活用する。実習後においては、必要な個別指導を行う。
到達目標	1. 精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 2. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	<担当教員名>佐々木正和・大場義貴（両名が1回から45回まで担当） <授業内容・テーマ等> 実習前 第1回：実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義 第2回：実習現場の理解（各論）：就労支援①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第3回：実習現場の理解（各論）：就労支援②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉 第4回：実習現場の理解（各論）：行政機関①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第5回：実習現場の理解（各論）：行政機関②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉 第6回：実習現場の理解（各論）：精神科病院①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第7回：実習現場の理解（各論）：精神科病院②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉 第8回：実習現場の理解（各論）：地域活動支援センター・相談支援事業所など 第9回：実習現場の理解（各論）：精神科デイケア・訪問看護など 第10・11回：実習先を選択するための学習・個別課題の設定（グループワーク・個別指導） 第12回：実習先で必要とされる専門的知識と技術に関する理解 第13回：「実習記録」の記録内容及び記録方法に関する理解 第14・15回：精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 第16・17回：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 第18・19回：巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）の意義について 第20～22回：実習先の特徴の整理・実習計画書の作成 第23・24回：実習計画の発表 第25・26回：中間報告会 第27・28回：中間報告会 実習後 第29・30回：グループスーパービジョン 第31～36回：実習の振り返りと実習報告会準備 第37～40回：実習報告会 第41回：実習報告会振り返り 第42回：専門職としての理解：当事者からの学び①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第43回：専門職としての理解：当事者からの学び②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉 第44回：専門職としての理解：家族からの学び①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第45回：専門職としての理解：家族からの学び②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉

アクティブラーニング	本授業では反転授業、グループワークやロールプレイを取り入れて実施します。課題提出などは、webclass を活用し双方向で情報提供を行います
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	授業への取り組み 50%、定期試験（レポート）50%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	WebClass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	①株）みらい 『ソーシャルワーク実習ノート（第2版）』 ②実習の手引き
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・教科書の単元を読み込んでおくこと（3～10回）。 ・提出する資料を作成しておくこと（12～17回）。 事後学修 ・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること（1～40回） （事前・事後学修 目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習指導 (20SW)
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	3 単位 (90 時間) 選択 6(78)セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習を通して、精神障害者のおかれている現状や生活の実態や生活上の困難について理解すると共に、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を習得するための、事前準備、事後の振り返りを行う。精神保健ソーシャルワーク実習を効果的にすすめるために、「実習の手引き」及び「ワークシート」を活用する。実習後においては、必要な個別指導を行う。
到達目標	1. 精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 2. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	<担当教員名>佐々木正和・大場義貴（両名が1回から45回まで担当） <授業内容・テーマ等> 実習前 第1回：実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義 第2回：実習現場の理解（各論）：就労支援①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第3回：実習現場の理解（各論）：就労支援②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉 第4回：実習現場の理解（各論）：行政機関①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第5回：実習現場の理解（各論）：行政機関②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉 第6回：実習現場の理解（各論）：精神科病院①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第7回：実習現場の理解（各論）：精神科病院②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉 第8回：実習現場の理解（各論）：地域活動支援センター・相談支援事業所など 第9回：実習現場の理解（各論）：精神科デイケア・訪問看護など 第10・11回：実習先を選択するための学習・個別課題の設定（グループワーク・個別指導） 第12回：実習先で必要とされる専門的知識と技術に関する理解 第13回：「実習記録」の記録内容及び記録方法に関する理解 第14・15回：精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 第16・17回：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 第18・19回：巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）の意義について 第20～22回：実習先の特徴の整理・実習計画書の作成 第23・24回：実習計画の発表 第25・26回：中間報告会 第27・28回：中間報告会 実習後 第29・30回：グループスーパービジョン 第31～36回：実習の振り返りと実習報告会準備 第37～40回：実習報告会 第41回：実習報告会振りかえり 第42回：専門職としての理解：当事者からの学び①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第43回：専門職としての理解：当事者からの学び②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉 第44回：専門職としての理解：家族からの学び①（講義）〈ゲストスピーカー〉 第45回：専門職としての理解：家族からの学び②（グループワーク）〈ゲストスピーカー〉

アクティブラーニング	本授業では反転授業、グループワークやロールプレイを取り入れて実施します。課題提出などは、webclass を活用し双方向で情報提供を行います
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	授業への取り組み 50%、定期試験（レポート）50%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	WebClass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	①株）みらい 『ソーシャルワーク実習ノート（第2版）』 ②実習の手引き
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・教科書の単元を読み込んでおくこと（3～10回）。 ・提出する資料を作成しておくこと（12～17回）。 事後学修 ・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること（1～40回） （事前・事後学修 目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	5 単位 (210 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得すると共に、総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 学生が以下に示す達成課題に取り組むことができるように、実習先の実習指導者並びに実習担当教員は、実習状況を把握し、適宜指導を行う。
到達目標	1. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 2. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。
授業計画	<担当教員>佐々木正和・大場義貴（実習巡回指導は両名が行う） <授業内容・テーマ等> 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ①入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ②退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ③多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ①治療中の患者及びその家族への相談援助 ②日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ③地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、原則的に次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。また、不足する内容に関しては、精神保健ソーシャルワーク実習にて補う。 ①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ③利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 ④利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 ⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践 ⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

アクティブラーニング	実習科目です。実習中の巡回指導・帰校日等で、実習での体験や関わりについてスーパーバイズを行う。
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	実習への取り組み 70%、定期試験（レポート） 30%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価するルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。
指定図書	①（株）みらい『ソーシャルワーク実習ノート（第2版）』（3年次購入済み）、②実習の手引き 各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。 各回 20 分程度の復習と、20 分程度の予習をして実習に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活支援技術 I
科目責任者	佐野 仁美
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。 「居住環境整備」「移動」「身じたく」について、介護場面での支援方法を学ぶ。
到達目標	1. 「居住環境整備」「移動」「身じたく」の意義を理解し説明できる。 2. 役割モデルを対象に、ベッドメイキング、移動、身じたくの支援を行うことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、生活とは何か、生活支援の理解 第2回：自立に向けた居住環境の整備、安全で心地よい生活の場づくり、ボディメカニクス 第3回：ベッドメイキング講義、ベッドメイキング（2人で行う①） 第4回：ベッドメイキング（2人で行う②） 第5回：ベッドメイキング（2人で行う③） 第6回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合①） 第7回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合②） 第8回：実技確認（ベッドメイキング） 第9回：自立へ向けた移動の介護、移動の意義と目的、安全で気兼ねなく動けることを支える介護 第10回：車いすの基本知識、使用方法、ベッド上での移動 第11回：起き上がりの介護、立ち上がりの介護 第12回：移乗の介護（端座位⇄車いす） 第13回：移乗の介護（仰臥位⇄車いす） 第14回：移乗の介護（椅座位⇄車いす） 第15回：移乗の介護（福祉用具を用いた移乗） 第16回：実技確認（移乗の介助） 第17回：車いすでの移動 講義 第18回：車いすでの移動 演習 第19回：2動作歩行、3動作歩行、杖歩行の方法 第20回：歩行、杖歩行の介護 第21回：実技確認（歩行、杖歩行の介護）、小テスト① 第22回：自立に向けた身じたくの介護、身じたくの意義と目的、生活習慣と装いの楽しみを支える介護 第23回：衣服の着脱介護（座位、かぶり） 第24回：衣服の着脱介護（座位、前開き） 第25回：衣服の着脱介護（臥位） 第26回：実技確認（衣類の着脱介護） 第27回：整容行動に関するアセスメントと介助の技法 第28回：整容 演習 第29回：口腔ケア 演習 第30回：まとめ、小テスト②

アクティブラーニング	グループワーク、実技演習を取り入れて行います。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	小テスト 60%、授業態度 30%、課題提出物 10%、計 100%
課題に対するフィードバック	・小テストの解説は授業内で行います。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業での共有と個人への返却を行います。
指定図書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読し、介助手順を覚えただけで留意点と根拠を整理しておく（2～29 回） 事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する（1～30 回） 目安時間 40 分／回
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活支援技術Ⅱ
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。 「入浴・清潔保持」「排泄」「食事」について、介護場面での支援方法を学ぶ。
到達目標	1. 入浴・清潔保持、排泄、食事の意義と目的を理解し、基本的な支援方法について修得し、役割モデルを対象に支援を行うことができる。 2. 自らの役割を理解し、必要に応じて他の職種と協働することを説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1-2 回：ガイダンス、生活支援の理解、自立に向けた入浴・清潔保持の介護入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント、さまざまな入浴介助の方法 第 3-4 回：入浴・清潔保持（シャワー浴、個別浴槽） 第 5-6 回：入浴・清潔保持に関わる移乗介助、入浴・清潔保持（特殊浴槽） 第 7-8 回：入浴・清潔保持（ベッド上での洗髪） 第 9-10 回：入浴・清潔保持（部分浴：手浴、足浴） 第 11-12 回：入浴・清潔保持（清拭）、入浴・清潔保持の介護のまとめ、小テスト① 第 13-14 回：自立に向けた排泄の介護、意義・目的、利用者のアセスメント 排泄に関する基礎知識、気持ちよい排泄を支える介護、他の職種の役割と協働 第 15-16 回：トイレでの排泄① 第 17-18 回：トイレでの排泄② 第 19-20 回：ポータブルトイレでの排泄、ベッド上での排泄（尿器、差し込み便器） 第 21-22 回：ベッド上での排泄（オムツ） 第 23-24 回：実技確認 排泄の介助、排泄の介護のまとめ、小テスト② 第 25-26 回：自立に向けた食事の介護、意義と目的、利用者のアセスメント 食事に関する基礎知識、おいしく食べることを支える介護、他の職種の役割と協働、脱水予防、食事の使用する様々な福祉用具 第 27-28 回：食事形態の違いによる食事介助、ベッド上での食事の介護、口腔ケア 第 29-30 回：食事の介護のまとめ、小テスト③

アクティブラーニング	ロールプレイング、実技演習、グループワークを取り入れて行います。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	小テスト 60%、授業態度 30%、課題提出物 10%、計 100%
課題に対するフィードバック	・小テストは授業内で解説します。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規出版 『最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読し、介助手順を覚えたうえで留意点と根拠を整理しておく（3～30 回） 事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する（1～30 回） 目安時間 40 分／回
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活支援技術Ⅲ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し本人主体の生活が継続でき、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。 安全に安楽な生活支援を理解し、実践するための介護技術や知識を習得する。 利用者の抱える内部障害や神経疾患、高次脳機能障害、コミュニケーション障害、精神・知的障害や寝たきり状態などで生ずる様々な生活困難に対して、アセスメントが的確にでき、障害に応じた自立に向けた家事の介護や適切な生活の場を提供するための援助技法を学習する。 その人のライフスタイルに応じたその人らしい人生の最終段階を過ごすための生活支援を可能とするための実践技法を学習する。
到達目標	尊厳の保持の視点を大切にし、様々な障害を抱える利用者に対し、適切な生活の場や家事援助・生活支援が提供でき、安心して人生の最終段階における介護が提供できる技術を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>新任篠崎良勝、田崎裕美、奥田都子、佐藤豊展、金谷節子 第1回：<新任篠崎良勝> ガイダンス、生活支援の理解と医学、家政学、リハビリテーション学、宗教学などの関係 第2回：自立に向けた居住環境の整備の意義、目的、他職種との連携<新任篠崎良勝> 第3回：<新任篠崎良勝> 自立に向けた生活空間と介護—生活の場、住み慣れた地域での生活・居住環境のアセスメント（ICFの視点に基づく全体像・安全な生活の場） 第4回：<新任篠崎良勝> 浴室、台所、安全性、快適性、プライバシー・バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ユニットケア、施設等での住宅の工夫、他 第5-6回：嚥下のメカニズム・嚥下に関する用語の理解<佐藤> 第7回：発達と老化・嚥下訓練におけるチームアプローチ<新任篠崎良勝> 第8回：嚥下訓練におけるチームアプローチ・嚥下調整食<佐藤> 第9回：嚥下障害の直接訓練・介助方法<佐藤> 第10回：自立に向けた食事の介護の意義・目的<新任篠崎良勝> 第11回：高齢者・嚥下障害者の食事<金谷> 第12回：嚥下調整食ピラミッド<金谷> 第13回：嚥下調整食の基本・水分摂取<金谷> 第14回：調理実習【人気のある嚥下調整食】<金谷・新任篠崎良勝> 第15回：個別対応の実践・パッキング・訪問時の調理<金谷・秋山> 第16回：在宅訪問の実践・簡易的栄養評価の仕方<金谷> 第17回：自立に向けた家事の介護の意義・目<新任篠崎良勝> 第18回：<新任篠崎良勝> 自立に向けた家事の介護に参加することを支える支援・利用者の状況に応じた介助・家事に関する利用者のICFの視点に基づくアセスメント 第19-20回：<奥田都子> 生活支援のための基礎知識：生活経営・生活支援のための基礎知識・高齢者のライフヒストリ（家族関係、地域社会との連携） 第21-22回：<田崎裕美>

	食生活・生活支援のための基礎知識：在宅・施設での調理と福祉用具・利用者と共にを行う調理（生活支援のための調理実習：片麻痺、下肢麻痺、視覚障害、認知障害への対応を実習） 第 23-24 回：＜田崎裕美＞ 衣生活・生活支援のための基礎知識：補繕・衣服における嘔吐・排泄物の処理としみぬき、利用者と共にを行うおしやれ着洗い 第 25-26 回：＜田崎裕美＞ 住生活・生活支援のための基礎知識：住空間の衛生的な維持・管理（換気・消毒・掃除） 利用者と共にを行う掃除の支援 第 27 回：人生の最終段階における尊厳の保持・事前意思確認＜新任篠崎良勝＞ 第 28 回：人生の最終段階における利用者 I C F に基づくアセスメント＜新任篠崎良勝＞ 第 29 回：人生の最終段階における介護実践の技法：医療との連＜新任篠崎良勝＞ 第 30 回：看取りのための制度、臨終時の対応 最終確認テスト・解答解説＜新任篠崎良勝＞
アクティブラーニング	調理・裁縫などグループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。リアクションペーパーは Web Class に提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	グループ発表・個々のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業態度 20% 課題提出物 20% 最終確認テスト 60% 演習・レポートで評価するが、ループリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 11 巻「生活支援技術 I」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。（40 分） 事後学修：毎回の授業後に Web Class 内のミニツツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	嚥下・誤嚥のメカニズム - https://www.youtube.com/watch?v=foC05_Mqk0Y 介護施設でのエンゼルケアの手順とマニュアル kanrieiyoushiram.com/enzerukea
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「管理栄養士・言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。また家政学が専門の講師も担当します。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活支援技術Ⅳ
科目責任者	山本 卓磨
単位数他	2単位（60時間） 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、その人の潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための学習としています。また、支援の対象者を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習を目的とする。 さまざまな障害に対する理解を深め、介護場面での支援方法について、講義と演習を実施します。また、利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護について学ぶ。
到達目標	1. 利用者をさまざまな側面から理解するために必要な、障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。 2. 利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護の留意点について、説明することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回と第2回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、知的障害のある人の生活の理解 第3回と第4回：知的障害のある人への介護過程の展開 第5回と第6回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、精神障害のある人の生活の理解 第7回と第8回：精神障害のある人の生活支援、精神障害のある人への介護過程の展開 第9回と第10回：障害・視覚障害のいろいろ、特性と視覚障害リハビリテーションについての理解 第11回と第12回：視覚障害者に関する諸制度と生活の質を向上させる福祉機器を知る 第13回と第14回：視覚障害者の生活・就労の支援についての理解 第15回と第16回：視覚障害者の介助・ガイドの必要性和技術の理解 第17回と第18回：視覚障害者の介助・ガイドの留意点 第19回～第21回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、高次脳機能障害のある人の生活の理解 高次脳機能障害のある人への介護過程の展開 第22回と第23回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、発達障害のある人の生活の理解 発達障害のある人の生活支援と環境整備、発達障害のある人への介護過程の展開 第24回と第25回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 重症心身障害のある人の生活の理解、重症心身障害のある人への介護過程の展開 第26回と第27回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 重複障害（盲ろう）のある人の生活の理解、介護過程の展開 第28回と第29回：感覚機能・運動機能が低下している人の介助の留意点 （自立に向けた移動・身じたくの介護・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護） 第30回：認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点 （自立に向けた移動・身じたくの介護・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護）

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	出席管理・授業の理解度・課題提出は webclass を用いて、双方向型授業を目指す。
評価方法	小テスト 60%、授業態度 10%、課題提出物 30%、計 100%
課題に対するフィードバック	・課題提出物は、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業で提示する。 ・WebClass に提出されたリアクションペーパーは、次の授業時冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』中央法規、 『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。 事後学修：授業内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間各 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定する。時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「保健師」「看護師」「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活支援技術V
科目責任者	富安 奈穂美
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、その人の潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための学習としている。また、支援の対象者を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習を目的とする。 さまざまな障害に対する理解を深め、介護場面での支援方法について、講義と演習を実施します。また、利用者の生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について学ぶ。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。 2. 利用者の状態・状況に応じて生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、家族との関わり、他職種連携や福祉用具の意義と活用の留意点など介護福祉士の役割について、説明することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回と第2回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、内部障害に応じた介護の理解 第3回と第4回：心臓機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備 第5回と第6回：心臓機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携 第7回と第8回：呼吸器機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備 第9回と第10回：呼吸器機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携 第11回と第12回：腎臓機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備 第13回と第14回：腎臓機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携 第15回と第16回：膀胱・直腸、小腸機能障害のある人への支援①利用者理解・環境整備 第17回と第18回：膀胱・直腸、小腸機能障害のある人への支援②生活支援・多職種連携 第19回と第21回：HIV 感染症による免疫機能障害のある人への支援①利用者理解・環境整備 第22回と第23回：HIV 感染症による免疫機能障害のある人への支援②生活支援・多職種連携 第24回と第25回：肝臓機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備 第26回と第27回：肝臓機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携 第28回と第29回：内部障害のある方への生活支援についてグループワーク (自生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用) 第30回：内部障害のある方への生活支援についてのまとめ（生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用）

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	筆記試験 80%、授業態度 20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』中央法規、 『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	コミュニケーション技術 I
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	介護実践に必要なコミュニケーション能力を養い、利用者・家族とのコミュニケーション技法とチームにおけるコミュニケーションの方法を修得する科目です。さらに、チームと連携をとるための記録方法・報告の方法を修得する。 介護を必要とする人とのコミュニケーションの技法を講義と演習を通して体感し、さまざまなコミュニケーション場面に応用できる能力を養います。また、介護におけるチームのコミュニケーションや、記録の意味と方法について事例を通して身につける。
到達目標	1. 介護を必要とする人とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢と技法が理解できる。 2. 介護におけるチームのコミュニケーション、記録・報告・会議の意義と目的が理解できる。 3. 記録の具体的な書き方や留意点が理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：介護を必要とする人とのコミュニケーションとは 第 2 回：介護におけるコミュニケーションの意義、目的 第 3 回：介護におけるコミュニケーションの役割 第 4 回：受容・共感・傾聴 第 5 回：利用者・家族との関係づくり 第 6 回：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 第 7 回：利用者・家族とのコミュニケーションの実際 第 8 回：利用者の意欲を引き出す技法 第 9 回：利用者や家族の意向を引き出す技法 第 10 回：介護におけるチームのコミュニケーションや連携 第 11 回：介護における記録の意義と目的 第 12 回：記録による情報の共有化 第 13 回：報告・連絡・相談 第 14 回：会議 第 15 回：事例による記録の演習

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	コミュニケーションロボット（介護ロボット）、および PC（プログラミング）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	レポート 50%、課題提出物 30%、授業参加度 20%、計 100% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料によって提示する。レポートは、WebClass の e ポートフォリオ・コンテナにて期日までに提出する。
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 5 巻 コミュニケーション技術 第 2 版』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40 分 2～15 回） 事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的理論を理解し、技術を習得します。また、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。 コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の実態、原因や障害症状、生活障害を学び、障害の特性に応じたコミュニケーション実践の理論を学び技術を修得します。さらに、当事者の介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションについても学ぶ。
到達目標	1. 利用者の障害の特性に応じたコミュニケーションや、生活困難や意思疎通の在り方を理解できる。 2. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践が適切に行える基礎知識や技術が身につく。 3. 介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションが理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンス、障害の特性に応じたコミュニケーション技法の実際 第 2 回：コミュニケーション機能の障害を抱える利用者と介護 第 3 回：コミュニケーション機能の障害の原因と症状 第 4 回：感覚機能が低下している人とのコミュニケーション 第 5 回：失語症の特性に応じたコミュニケーション 第 6 回：構音障害の特性に応じたコミュニケーション 第 7 回：視力の障害に応じたコミュニケーション 第 8 回：聴力（聞こえ）の障害に応じたコミュニケーション 第 9 回：知的障害の特性に応じたコミュニケーション 第 10 回：精神障害の特性に応じたコミュニケーション 第 11 回：認知症の特性に応じたコミュニケーション 第 12 回：若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション 第 13 回：介護における家族とのコミュニケーションの理解 第 14 回：介護におけるチームのコミュニケーションの理解 第 15 回：事例による特性に応じたコミュニケーション演習

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	コミュニケーションロボット（介護ロボット）、および PC（プログラミング）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	レポート 50%、課題提出物 30%、授業参加度 20%、計 100% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料によって提示する。レポートは、WebClass の e ポートフォリオ・コンテナにて期日までに提出する。
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 5 巻 コミュニケーション技術』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40 分 2～15 回） 事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護総合演習 I
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	介護実習 I を開始するに当たって、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解すると共に、自己が行った介護を客観的に振り返り、評価できる能力を高める。 実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解する。介護実習 I に向けての心構え、予備知識、動機づけの準備を行い、介護実習 I の目的・目標を理解し、目標に向けて達成できるようにする。また、実習内容の知識の確認・実習記録の意義や記入方法について理解する。
到達目標	・実習に必要な事前学習ができる。 ・実習の心構えを述べることができる。 ・実習の事前準備（記録物、身なりなど）ができる。 ・実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。 ・実習後の振り返りを行い、改善することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>野田由佳里 第1回：オリエンテーション（介護実習の位置づけⅠ・Ⅱ・Ⅲ段階） 実習要項配布・実習のイメージDVD・介護総合演習Ⅰの概要説明 第2回：介護実習の流れの理解 ①実習種別 第3回：介護実習の流れの理解 ②実習先種別 第4回：実習の意義・実習目的・目標の理解・グループワークの説明〈高齢者の理解〉 第5回：実習先に関する知識面での理解（生活の場の理解・介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム） 記録練習1・感性教育1〈季節感を感じよう『季語』〉 第6回：実習先に関する知識面での理解（通所介護） 記録練習2・感性教育2〈クラフト制作・折り紙〉 第7回：実習先に関する知識面での理解〈障害者施設〉 記録練習3・感性教育3〈高齢者に馴染みのある唱歌〉 第8回：実習先についてのグループ発表・介護実習Ⅰオリエンテーション 第9回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成） 第10回：介護実習記録の書き方・記録様式及び資料配布 第11回：配属発表・申し送りノート確認・模擬スーパービジョン 第12回：計画書の作成 第13回：身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第14回：先輩からの応援メッセージ・直前オリエンテーション（実習に必要な技術面の理解度チェック） 第15回：事後指導 介護実習Ⅰ終了後のオリエンテーション 実習の振り返り/実践を通じた介護の知識や技術の統合化

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します ・実習の意義を検討する回ではグループワーク、実習先に関する回では、学生によるプレゼンテーションの機会を設けます。
授業内の ICT 活用	ICT 活用を授業で多く使います。特に Web class を多用しています。 出席管理 ①中間レポート管理 ②事前課題管理 ③事後課題管理 ④授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%）
課題に対するフィードバック	毎回の課題提出を Web class 利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版
参考図書	後藤真澄「介護実習に役立つコミュニケーションの良い例・悪い例」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】 グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。 提出物については計画的に準備を行う。 【事後学習】 グループワーク後の振り返りを行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、個別的な生活支援を展開する介護過程という援助手法に基づいた実習体験をもとに介護福祉専門性を求めることを目的としている。 介護実習Ⅰの振り返りと、介護実習Ⅱにむけての事前準備、事後学修授業となります。目標達成できる実習計画を立案し、実習を有意義に行うため、心構えや実習生としてのあり方について学ぶ。知識と技術の統合や介護過程の展開の能力等について介護実践の科学的探究を行う。
到達目標	・実習に必要な事前学習ができる。 ・実習の心構えを述べることができる。 ・実習前の準備（記録物、身なりなど）を行い、知識と技術の統合ができる。 ・実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。 ・実習後の振り返りを行い、改善することができる。 ・実習を通して、介護実践の科学的探究ができる。
授業計画	<担当教員名>井川 淳史、篠崎良勝 <授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明 第2回：実習報告会（介護実習Ⅰ）の準備 第3回：実習報告会（介護実習Ⅰ） 第4回：実習報告会（介護実習Ⅰ） 第5回：実習目的・目標の理解、申し送りノート及び実習日誌提出 第6回：実習先の理解（介護老人保健施設） 実習施設に関する事前学習（知識と技術の統合） 第7回：実習先の理解（生活の場の理解） 感性教育（クラフト制作・ロールクラフト） 第8回：実習先についてのグループ発表 介護実習Ⅱに必要な事前学習（介護実践の科学的探究） 第9回：介護実習Ⅱへ向けての準備（個人票・プロフィール作成） 第10回：介護実習Ⅱ配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン 第11回：実習計画書の作成・身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第12回：実習直前オリエンテーション 第13回：介護実習Ⅱの経過報告（帰校日） 第14回：介護実習Ⅱの経過報告（帰校日） 第15回：事後指導

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にする。 ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示する。 ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視する。
授業内の ICT 活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%） レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。 【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目である。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視する。
課題に対するフィードバック	毎回の課題を WebClass に提出し、まとめなどのフィードバックをします。課題の目標到達ができない場合は再提出など丁寧なフィードバックを心掛ける。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習 第 2 版』中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】毎回、グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。また、介護実習に関連する提出物については計画的に準備を行う。 【事後学習】毎回、グループワーク後の振り返りを 40 分程度行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護総合演習Ⅲ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	介護実習Ⅱの振り返りと介護実習Ⅲに向けて、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行う。実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の理解ができる。 介護実習Ⅲにおいて、これまで学んだ学内の学びの知識と技術を統合し、介護過程を通し介護場面に適応できる柔軟性や応用力、介護実践の科学的探究能力を養う。
到達目標	・介護実習Ⅱの振り返りを行い、改善し目標の達成を自ら評価することができる。 ・介護実習Ⅱで培った学びを具体的に表現し共有することができる。 ・介護実習Ⅲの教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行い、実習に必要な知識や技術、介護過程の基礎が理解できる。 ・他科目で学習した知識や技術を統合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる介護実践の科学的探究力を習得することができる。
授業計画	<担当教員名>井川 淳史、野田 由佳里、水野尚美 <授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明 第2回：学びの共有・実習報告会（介護実習Ⅱ）の準備 第3回：実習報告会（介護実習Ⅱ） 第4回：実習報告会（介護実習Ⅱ） 第5回：実習目的・目標の理解、申し送りノート及び実習日誌提出 グループワークの説明（実習先・レクリエーション） 第6回：実習先の理解（生活の場の理解・特別養護老人ホーム） 第7回：生活支援技術の確認（グループワーク） 第8回：介護実習Ⅲに必要な事前学習（介護実践の科学的探究） 第9回：介護実習Ⅲへ向けての準備（個人票・プロフィール作成） 第10回：介護実習Ⅲの配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン 第11回：実習計画書の作成・身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第12回：実習直前オリエンテーション 第13回：介護実習Ⅲの経過報告（帰校日） 第14回：介護実習Ⅲの経過報告（帰校日） 第15回：事後指導

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にする。 ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示する。 ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視する。
授業内の ICT 活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%） レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。 【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目である。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視する。
課題に対するフィードバック	毎回の課題を WebClass に提出し、まとめなどのフィードバックをします。課題の目標到達ができない場合は再提出など丁寧なフィードバックを心掛ける。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】毎回、グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。また、介護実習に関連する提出物については計画的に準備を行う。 【事後学習】毎回、グループワーク後の振り返りを 40 分程度行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護総合演習Ⅳ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	介護実習Ⅲの振り返りと介護実習全体についての教育効果を上げるための科目である。また、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習としている。 実習の意義を理解した上で、実習先施設の特徴、および機能に応じた介護実践ができる知識と技術を統合することに重点を置いている。実習の目的を達成するため介護実践の科学的探究を行い、受容的・共感的な態度で対人関係を形成し、利用者理解に重点を置いた授業である。
到達目標	1. 介護実習Ⅲの振り返り、自己評価を踏まえ発表することができる。 2. 介護実習全体を通して、生活支援や施設等の理解を深める。 3. 授業で習得した介護過程の展開の理解を実習の利用者に提供できる能力を身につける。 4. 他科目で学習した知識や技術を統合し、実習で体得した知識や技術を統合した具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得することができる。 5. 実習後の振り返りを行い、介護実践の科学的探究ができる。 6. 介護実習全体の目標達成度を自ら評価することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・実習報告会説明・申し送りノート作成 第2回：利用者の理解①（身体障がいのある方とのかかわり） 第3回：利用者の理解②（知的障がい、発達障がい、精神障がいのある方とのかかわり） 第4回：学びの共有・実習報告会（介護実習Ⅲ）の準備 第5回：実習報告会（介護実習Ⅲ） 第6回：見学実習へ向けての準備・記録様式及び資料配布・計画書の作成・身だしなみ、実習における心構え 第7回：見学実習（障害者支援施設：身体障がい者関連） 第8回：見学実習（障害者支援施設：身体障がい者関連） 第9回：見学実習（障害者支援施設：知的障がい者関連） 第10回：見学実習（障害者支援施設：知的障がい者関連） 第11回：見学実習（障害者支援施設：発達障がい、精神障がい者関連） 第12回：見学実習（障害者支援施設：発達障がい、精神障がい者関連） 第13回：見学実習（障害系）の報告会 第14回：見学実習（障害系）の報告会 第15回：総合的な介護福祉サービスの理解（介護実践の科学的探究）

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。
授業内の ICT 活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%） レポートは、ループリックを用いて評価する。ループリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。 【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目である。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視する。
課題に対するフィードバック	毎回の課題を WebClass に提出し、まとめなどのフィードバックをします。課題の目標到達ができない場合は再提出など丁寧なフィードバックを心掛ける。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：毎回、グループワーク発表に必要な内容について調べ、提出物作成は計画的に準備を行う。（40 分） 事後学修：毎回、グループワーク後の振り返りを行う。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護実習 I
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 介護実習は学内で学んだ生活支援技術・基礎的な知識を統合させる場である。介護実習 I では多様な生活の場の理解、基礎的な生活支援技術とコミュニケーションに重点をおいた実習を行う。
到達目標	1. 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができ、人間関係の形成が図ることができる。 2. 利用者の生活の場の多様性を理解し、多職種協働の実践の重要性を理解できる 3. 介護を必要とする利用者の個別的な支援を理解し、基本的な生活支援技術について指導を受けながら実践できる。 4. 介護福祉士の職業倫理について理解できる。
授業計画	<担当教員名> 井川淳史、野田由佳里、篠崎良勝、水野尚美 <授業内容・テーマ等> (1) 実習内容 ① コミュニケーションが比較的容易な利用者との関わりを通して自己を振り返り、自己覚知を高める。 ② 利用者のニーズと介護の機能、介護職員の役割について学ぶ。 ③ 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場における個別ケアについて学ぶ。 ④ 老人福祉施設・障害者施設・訪問介護事業所・通所介護事業所などさまざまな生活の場における介護実践について学ぶ。 ⑤ 介護過程の実践的展開の基礎となる知識を学ぶ。 ⑥ 地域における生活支援の実践について学ぶ。 (2) 実習時期 第1セメスター (1年次) 8月～9月の中で12日間 (介護実習 I ①: 前半分) 学生はグループに分かれて、老人福祉施設実習で5日間、障害者支援施設で1日間実施。 (介護実習 I ②: 後半分) 学生はグループに分かれて、有料老人ホームで5日間、訪問介護事業所で1日間実施。

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。
評価方法	実習評価表 70%、実習記録 30% 評価方法については実習要項に記載しています。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習 第 2 版』中央法規
参考図書	授業時に随時紹介
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60 分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603）、野田由佳里研究室（2706 研究室）、篠崎良勝研究室（ 研究室）水野尚美（ 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅰの初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護実習Ⅱ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	4単位（180時間） 選択 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 障害者または高齢者の施設において、担当利用者に対する介護過程の展開を行う。学習した知識や技術を統合して利用者の全体像を捉え、課題を明確にし、個別介護計画を立案する。
到達目標	1. 施設の社会的役割について理解し、職員（介護職、その他の職種）との連携の必要性とその方法を理解できる。 2. 生活支援技術の適正に用いることができる。 3. 利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護のニーズを把握し、個別介護計画を立案できる。
授業計画	<担当教員名> 井川淳史、野田由佳里、篠崎良勝、水野尚美 <授業内容・テーマ等> (1) 実習内容 ① 障害者または高齢者の施設において、障害レベルに応じて求められる生活支援技術の適切な使い方について学ぶ。 ② 個々の生活リズムや特性を理解し、適切な情報収集、課題分析について学ぶ。そのうえで、担当利用者の介護計画を立案し、介護過程の実践的展開について学ぶ。 ③ 多職種協働の実践について学ぶ。 (2) 実習時期 第2セメスター（1年次）2月～3月の中で23日間（4週間）

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・ 介護過程の展開では双方向授業として Webclass も活用します。
評価方法	実習評価表 70%、実習記録 30% 評価方法については実習要項に記載しています。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習 第 2 版』中央法規
参考図書	授業時に随時紹介
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60 分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60 分）
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の 井川淳史研究室（2603 研究室）、 野田由佳里研究室（2706 研究室）、 篠崎良勝研究室（ 研究室） 水野尚美研究室（ 研究室） にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅱの初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護実習Ⅲ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	4 単位 (180 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 介護の実体験を通して、学内で学んだ知識・技術・の統合を図る。スーパービジョンを受けながら担当利用者の介護過程の展開を行う。また、介護福祉士としての職業倫理を身につけ専門職者としての自己の介護観・死生観を確立する学習とする。
到達目標	1. 利用者のニーズに応じた介護過程の展開ができる。 2. 福祉サービス全体の理解を深め、チームの一員として介護を遂行できる。 3. 利用者の能力を引き出し、個々の状態に応じた生活支援を展開できる。 4. 多職種連携について理解できる。
授業計画	<担当教員名> 井川淳史、野田由佳里、篠崎良勝、水野尚美 <授業内容・テーマ等> ① 施設運営のプログラムに参加し、サービス全般の理解を深める。 ② 介護計画の立案→実践→評価→再計画という個別介護の一連の介護過程の展開を学ぶ。 ③ 個々の生活リズムや特性を理解し、適切な情報収集、課題分析について学ぶ。そのうえで、担当利用者の介護計画を立案し、介護過程の実践的展開について学ぶ。 ④ 介護過程の展開を通して、多職種協働の実践について学ぶ。 ⑤ 介護過程の展開を通して、地域における生活支援の実践について学ぶ。

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・ 介護過程の展開では双方向授業として Webclass も活用します。
評価方法	実習要綱に記載された評価基準に基づいて評価を行う。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習』中央法規
参考図書	授業時に随時紹介
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60 分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の 井川淳史研究室（2603 研究室）、 野田由佳里研究室（2706 研究室）、 篠崎良勝研究室（ 研究室） 水野尚美研究室（ 研究室） にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅲの初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活サポート演習 I
科目責任者	高山 暢子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目は、初年次における大学での学びとして社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけて使用できることや、様々な立場や意見を尊重しながら自らの意見を伝達し説得できるコミュニケーション力を身につけることを目的としている。したがって、利用者の障害特性に応じたコミュニケーションを理解し、適切に対応できるコミュニケーションスキルを身につける。
到達目標	1. 社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につける。 2. 福祉現場で遭遇する利用者のコミュニケーション障害の原因、型、症状などを理解する。 3. それぞれの障害を抱える人の生活やコミュニケーションの特性を理解できる。 4. コミュニケーション障害のアセスメントの方法、対応法の在り方及び評価法を身につける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回： ガイダンス、コミュニケーション方法を学ぶ意義と目的 コミュニケーション障害を伴う利用者とは 第2回： コミュニケーション障害のアセスメント（言語・非言語による観察の視点） 第3回： 対応の技術①： 認知症がある利用者への対応 第4回： 対応の技術②： 聴覚・言語障害がある利用者への対応 第5回： 対応の技術③： 視覚障害がある利用者への対応 第6回： 対応の技術③： 知的障害がある利用者への対応 第7回： 対応の技術④： 精神障害がある利用者への対応 第8回： 対応の技術⑤： 身体に障害がある利用者への対応（高齢者）

アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、ロールプレイングを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート 60% (ループブックは用いない)、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパー・課題提出物は、次の授業時フィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	最新・介護福祉士養成講座第 5 コミュニケーション技術 第 2 版／中央法規出版
事前・事後学修	①授業前に事前課題を WebClass 内に提出する (各 40 分 2～15 回) ②授業後、内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする (各 40 分 2～15 回・WebClass) ③レポート「障害に応じたコミュニケーションについて」を作成すること (60 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室(6104)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	インターンシップ I 実習指導
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 SW コース必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本科目は、インターンシップ I の実習中における学内スーパービジョン及び事後学習として位置づけられる。10 日間程度の配属実習を行った後、グループ並びに個別スーパービジョンを適宜実施しながら、配属実習全体を振り返り、まとめる。実習体験の総括は、実習報告会及びレポートの作成によって行われる。
到達目標	1. 基本的なコミュニケーション技術を使用し、受容的・共感的態度を形成することができる 2. 他の学生の語りに耳を傾け、自らの実習体験を振り返ることができる。 3. 社会福祉施設等の多様な現状や対象者のニーズを理解することができる。 4. 社会福祉援助者に必要とされる実践力とは何か、自分の言葉を使って表現できる。 5. さまざまなかかわりを通して、自己理解を深める。
授業計画	<担当教員>福田俊子、川向雅弘、佐々木正和、泉谷朋子 <授業内容・テーマ等> 教員ごとに小グループに分かれ、以下の授業を展開する。 1. 配属実習中のスーパービジョン 第1回：実習初日の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習ノートの書き方を含む） 第2回：実習2日目の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習ノートの書き方を含む） 第3回：実習3日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第4回：実習4日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第5回：実習5日目の実習体験にかかわるスーパービジョン（前半実習のまとめを含む） 第6回：実習6日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第7回：実習7日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第8回：実習8日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第9回：実習9日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第10回：実習最終日の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習全体のまとめを含む） 2. 事後学習プログラム 第11回：全体授業、オリエンテーション、グループ別学習① 第12回：グループ別学習②（実習報告会にむけた発表準備：テーマの設定） 第13回：グループ別学習③（実習報告会にむけた発表準備：内容、発表方法の検討） 第14・15回：実習報告会、まとめ <その他> インターンシップ I を必ず履修すること。

アクティブラーニング	本科目は、グループディスカッションを中心とした授業形態で進められる。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取り組み状況 50%（実習中のスーパービジョン・事後学習への参加状況） 総括レポート 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、フィードバックを実施する。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	スクールソーシャルワーク演習
科目責任者	帖佐 加代
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について学び、スクールソーシャルワーカーの基盤となる理論と実践について理解し、実践的に活用できるようにする。
到達目標	1. 様々な事例に対しアセスメント、プランニング、モニタリングの展開ができる。 2. ロールプレイや模擬ケース会議等を通して、スクールソーシャルワーカーに求められる相談・援助の意味を理解できる。 3. 事例検討やグループ討議等を通して、スクールソーシャルワークという新たな仕組みを開発する意味を理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回:オリエンテーション(授業の目的・授業計画や方法の説明) 学校教育現場が抱える課題と学校教育現場に福祉援助が入ることの理解、ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約 第2回:スクールソーシャルワークの視点と実践モデルの理解 第3回:アセスメント、プランニングに関する知識と技術 第4回:アセスメント、プランニングに関する知識と技術 (事例1 子どもと家庭を取り巻く課題:不登校・特別支援・発達障害) 第5回:アセスメント、プランニングに関する知識と技術 (事例2 子どもと家庭を取り巻く課題:虐待・貧困・非行) 第6回:地域の社会資源の理解とアウトリーチ(福祉制度・地域資源と学校をつなぐ) 第7回:学校におけるチーム支援についての理解(ケース会議)(DVD 視聴) 第8回:スクールソーシャルワークを維持・発展させる力(記録やデータの蓄積、スーパービジョン、評価)

アクティブラーニング	毎回、ディスカッション、グループワークを行います。
授業内の ICT 活用	発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%、レポート 50% として評価します。レポートは、ループブックを用いて評価します。ループブックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。
指定図書	『よくわかるスクールソーシャルワーク』山野則子編著 ミネルヴァ書房
参考図書	『学校でソーシャルワークをするということ』鈴木庸裕編著 学事出版 『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』金沢ますみ 学事出版 『子どもの貧困に向き合える学校づくり』鈴木庸裕他 かもがわ出版 授業中に随時連絡します
事前・事後学修	学校、地域、子ども家庭福祉に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。 各回の進行に応じて、課題や資料を配布します。資料を熟読し課題理解を深めてください。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目はスクールソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	スクールソーシャルワーク実習指導（19SW）
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位（30時間） 選択 （6）7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	スクールソーシャルワーク実習の意義について理解するために、学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。また、スクールソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。講義（実習指導）と、グループ学習及び個別指導を通して、主体的にスクールソーシャルワーク実習の準備を行う。
到達目標	1. 教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。 2. 具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。 3. ソーシャルワークが展開されるべく新しい現場に入るという意味を理解し、開拓の視点を養う。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第6セメスター 第1回：オリエンテーション・スクールソーシャルワーク実習の意義 第2回：スクールソーシャルワークの対象となる児童生徒、家族の理解 第3回：学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解 第4回：実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解 第5回：スクールソーシャルワークの実際（個別面接、ケース会議、連携会議など） 第6回：不登校支援（校外適応指導教室）について／ゲストスピーカー：小粥義男 第7回：浜松市の子ども相談体制についての理解 第8回：実習計画の発表（前半実習） 第9回：実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解、 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解 第7セメスター 第10回：前半実習のふり返り 第11回：実習計画の発表（後半実習） 第12回：巡回指導 第13回：実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 第14回：ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成 第15回：実習の評価全体総括会（実習報告会）

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験） 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	『学校ソーシャルワーク演習』 門田光司・鈴木庸裕編著 ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカーの学校理解』 鈴木庸裕編著 ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカー実践事例集』 門田光司・奥村賢一監修 中央法規
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	スクールソーシャルワーク実習指導（20SW）
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位（30時間） 選択 6(7)セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	スクールソーシャルワーク実習の意義について理解するために、学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。また、スクールソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。講義（実習指導）と、グループ学習及び個別指導を通して、主体的にスクールソーシャルワーク実習の準備を行う。
到達目標	1. 教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。 2. 具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。 3. ソーシャルワークが展開されるべく新しい現場に入るという意味を理解し、開拓の視点を養う。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第6セメスター 第1回：オリエンテーション・スクールソーシャルワーク実習の意義 第2回：スクールソーシャルワークの対象となる児童生徒、家族の理解 第3回：学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解 第4回：実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解 第5回：スクールソーシャルワークの実際（個別面接、ケース会議、連携会議など） 第6回：不登校支援（校外適応指導教室）について／ゲストスピーカー：小粥義男 第7回：浜松市の子ども相談体制についての理解 第8回：実習計画の発表（前半実習） 第9回：実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解、 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解 第7セメスター 第10回：前半実習のふり返り 第11回：実習計画の発表（後半実習） 第12回：巡回指導 第13回：実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 第14回：ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成 第15回：実習の評価全体総括会（実習報告会）

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験） 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	『学校ソーシャルワーク演習』 門田光司・鈴木庸裕編著 ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカーの学校理解』 鈴木庸裕編著 ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカー実践事例集』 門田光司・奥村賢一監修 中央法規
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	スクールソーシャルワーク実習（19SW）
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位（90時間） 選択 （6）7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	1. 児童生徒たちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。 2. スクールソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。 3. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 4. 子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・学生は、実習担当者（スクールソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受けるものとする。 ・スクールソーシャルワーク実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、学生及び実習担当者（スクールソーシャルワーカー、教育委員会や学校）との連絡調整を密に行い、学生の実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。
到達目標	1. 学校組織の理解が深まり、スクールソーシャルワーカーとして求められる教育現場における課題が理解できる。 2. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。 3. 子どもや家族、教職員に対し、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 大学が指定する学校・機関・組織にて90時間以上実習を行い、以下の内容を修得する。 ①児童生徒・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、ニーズ把握と支援計画の作成 ②児童生徒、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションを通じた、円滑な人間関係の形成 ③児童生徒・家族、学校、教育委員会などとの援助関係の形成 ④児童生徒・家族への権利擁護、学校、教育委員会など含めた支援（エンパワーメント含む）と評価 ⑤校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際 ⑥校内や関係機関含めた多職種によるチームアプローチの実際 ⑦社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際 ⑨市の児童生徒への相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、実習への取り組み 70%、報告書（報告会用） 30%にて行う。
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。
指定図書	実習の手引き（大学から配付）
参考図書	なし
事前・事後学修	①実習前に次回実習に関する自己の課題を考え、入力すること（各 10 分） ②実習後に今回の実習に関する自己の振り返りを入力すること（各 30 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	スクールソーシャルワーク実習 (20SW)
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 6(7)セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	1. 児童生徒たちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。 2. スクールソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。 3. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 4. 子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・学生は、実習担当者（スクールソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受けるものとする。 ・スクールソーシャルワーク実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、学生及び実習担当者（スクールソーシャルワーカー、教育委員会や学校）との連絡調整を密に行い、学生の実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。
到達目標	1. 学校組織の理解が深まり、スクールソーシャルワーカーとして求められる教育現場における課題が理解できる。 2. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。 3. 子どもや家族、教職員に対し、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 大学が指定する学校・機関・組織にて90時間以上実習を行い、以下の内容を修得する。 ①児童生徒・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、ニーズ把握と支援計画の作成 ②児童生徒、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションを通じた、円滑な人間関係の形成 ③児童生徒・家族、学校、教育委員会などとの援助関係の形成 ④児童生徒・家族への権利擁護、学校、教育委員会など含めた支援（エンパワーメント含む）と評価 ⑤校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際 ⑥校内や関係機関含めた多職種によるチームアプローチの実際 ⑦社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際 ⑨市の児童生徒への相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、実習への取り組み 70%、報告書（報告会用） 30%にて行う。
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。
指定図書	実習の手引き（大学から配付）
参考図書	なし
事前・事後学修	①実習前に次回実習に関する自己の課題を考え、入力すること（各 10 分） ②実習後に今回の実習に関する自己の振り返りを入力すること（各 30 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	医療ソーシャルワーク演習
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	保健医療機関において、子どもから高齢者まであらゆる年齢層の人たちが直面する生活課題について、医療職種をはじめとする様々な専門職との協働により、いかに解決に導くのか方法論を習得することを目的とし事例を通してグループワークを行う。 加えて、医療提供体制の効率化と地域包括ケアシステムの構築、保健医療介護の統合化、入院から在宅へという流れのなかで、総合的支援を医療ソーシャルワークはどのように展開してゆくのか、また地域連携、ネットワークづくり、資源づくりをどのように構築してゆくのか方法論の習得を目的としてグループ学習を行う。
到達目標	1. 疾病にともなう生活問題の解決にむけた方法論を習得する 2. 医療職を含む多職種協働と地域連携・ネットワークづくりの方法について習得する
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：医療介護制度改革とソーシャルワーク業務 第3回：医療福祉にかかわる法制度の活用（事例／グループワーク） 第4回：多職種連携・協働における視点と方法（事例／グループワーク） 第5回：意思決定支援における視点と方法（事例／グループワーク） 第6回：地域連携、ネットワークづくりにおける視点と方法（事例／グループワーク） 第7回：地域の医療・介護施設を知る：マッピング（グループワーク） 第8回：地域資源づくりにおける視点と方法（事例／グループワーク）

アクティブラーニング	グループワーク
授業内の ICT 活用	グループワークにおいて PC, iPad およびスマートフォン等デバイスを利用する. WebClass を利用する.
評価方法	授業態度（グループワークへの取り組みなど）70%, 期末レポート 30%
課題に対するフィードバック	次回授業時にコメントする.
指定図書	なし
参考図書	・『医療福祉総合ガイドブック 2021 年度版』NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会編, 医学書院 ・『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト 改定版』日本医療ソーシャルワーク学会編, 日総研 ・『病院早わかり読本 第6版』飯田修平編著, 医学書院
事前・事後学修	【事前学習】 第2回から8回までの授業の前に課題を提示する. (目安時間 40 分) 【事後学習】 授業中に配布した資料をもとに授業の振り返りを行う. (目安時間 30 分)
オープンエデュケーションの活用	なし.
オフィスアワー	初回授業時に提示する.
実務経験に関する記述	本科目は, 医療ソーシャルワーカー等の実務経験を有するこうしが実務の観点を踏まえて教授する科目です.
メディア授業の実施について	なし.

科目名	医療ソーシャルワーク実習指導（19SW）
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 （6）7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	「医療ソーシャルワーク実習」をより実り多いものとするために、事前学習として、実習で必要となる知識を習得するとともに、そのなかで問題意識を明確にして学習計画を作成する。 また、事後学習として、スーパービジョンやグループ学習を通して実習体験を論理的に整理するとともに実習報告会を実施する。
到達目標	実習において必要とされる知識を習得する 1. 実習の目的にかなう実習計画書を作成する 2. 医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する 3. 医療福祉の対象と方法について理解する 4. 医療福祉を取り巻く環境について理解する 5. 実習体験を体系的に報告する。
授業計画	事前学習（6 セメスター） 第1回：オリエンテーション 第2回：ビデオ視聴－在宅医療について 第3回：ACP の歴史と課題および意思決定支援－もしバナゲームを実際に行ってみる 第4回：生活を多角的にみる視点の涵養と医療福祉制度（高額療養費制度）の実際 第5回：ゲストスピーカーによる講義 「病院の組織と医療相談室の役割」 ゲスト講師：聖隷三方原病院 医療ソーシャルワーカー 第6回：ゲストスピーカーによる講義 「リハビリテーション病院における医療ソーシャルワーカーの業務」 ゲスト講師：浜松市リハビリテーション病院 医療ソーシャルワーカー 第7回：4年生の実習体験報告と進路について 第8回：実習にむけての準備と計画 事後学習（7 セメスター） 第9回：グループスーパービジョン 第10回：個別スーパービジョン① 第11回：個別スーパービジョン② 第12回：実習報告会の準備① 第13回：実習報告会の準備② 第14～15回：実習報告会

アクティブラーニング	グループワーク
授業内の ICT 活用	PC, タブレット, スマートフォン等デバイスを活用し, 検索・入力・作業およびグループワークを行う。WebClass を利用する。
評価方法	授業への取り組み 70%, 期末レポート 30% レポートで評価するが, ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	1) 予習課題は, 次回時の授業を通してコメントする。 2) リアクションペーパーでの質問や要点については, 授業においてコメントする。
指定図書	初回授業時に提示する。
参考図書	・『医療福祉総合ガイドブック 2021 年度版』NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会編, 医学書院 ・『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト 改定版』日本医療ソーシャルワーク学会編, 日総研 ・『病院早わかり読本 第 6 版』飯田修平編著, 医学書院
事前・事後学修	【事前学習】 第 2 回から 5 回まで授業の前に課題を提示する。(目安時間 40 分) 【事後学習】 第 2 回から 5 回まで配布資料をもとに授業の振り返りを行う。(目安時間 30 分)
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は, 医療ソーシャルワーカー等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし。

科目名	医療ソーシャルワーク実習指導（20SW）
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2単位（30時間） 選択 6(7)セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	「医療ソーシャルワーク実習」をより実り多いものとするために、事前学習として、実習で必要となる知識を習得するとともに、そのなかで問題意識を明確にして学習計画を作成する。 また、事後学習として、スーパービジョンやグループ学習を通して実習体験を論理的に整理するとともに実習報告会を実施する。
到達目標	実習において必要とされる知識を習得する 1. 実習の目的にかなう実習計画書を作成する 2. 医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する 3. 医療福祉の対象と方法について理解する 4. 医療福祉を取り巻く環境について理解する 5. 実習体験を体系的に報告する。
授業計画	事前学習（6セメスター） 第1回：オリエンテーション 第2回：病院の機能、医療ソーシャルワーカーの業務、医療福祉に関する法制度 第3回：4年生による実習体験報告 第4回：ゲストスピーカーによる講義 「病院の組織と医療相談室の役割」 ゲスト講師：聖隷三方原病院 医療ソーシャルワーカー 第5回：ゲストスピーカーによる講義 「リハビリテーション病院における医療ソーシャルワーカーの業務」 ゲスト講師：浜松市リハビリテーション病院 医療ソーシャルワーカー 第6回：実習領域の選択、実習計画の検討 第7回：実習にむけての準備 第8回：まとめ 事後学習（7セメスター） 第9回：グループスーパービジョン 第10回：個別スーパービジョン① 第11回：個別スーパービジョン② 第12回：実習報告会の準備① 第13回：実習報告会の準備② 第14～15回：実習報告会

アクティブラーニング	グループワーク
授業内の ICT 活用	PC, タブレット, スマートフォン等デバイスを活用し, 検索・入力・作業およびグループワークを行う。WebClass を利用する。
評価方法	授業への取り組み 70%, 期末レポート 30% レポートで評価するが, ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	1) 予習課題は, 次回時の授業を通してコメントする。 2) リアクションペーパーでの質問や要点については, 授業においてコメントする。
指定図書	初回授業時に提示する。
参考図書	・『医療福祉総合ガイドブック 2021 年度版』NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会編, 医学書院 ・『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト 改定版』日本医療ソーシャルワーク学会編, 日総研 ・『病院早わかり読本 第 6 版』飯田修平編著, 医学書院
事前・事後学修	【事前学習】 第 2 回から 5 回まで授業の前に課題を提示する。(目安時間 40 分) 【事後学習】 第 2 回から 5 回まで配布資料をもとに授業の振り返りを行う。(目安時間 30 分)
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は, 医療ソーシャルワーカー等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし。

科目名	医療ソーシャルワーク実習（19SW）
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2単位（90時間） 選択 （6）7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	医療機関（病院・診療所・老健施設）またはその関連施設の医療福祉部門において、10 日間の配属実習を行う。「医療ソーシャルワーク実習指導」と合わせて、医療機関と医療福祉について理解を深める。 本科目の履修においては、「医療福祉論」と「医療ソーシャルワーク演習」の単位取得が原則となるが、編入学など個別事情に配慮する。
到達目標	医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する。 1. 医療福祉の対象と方法について理解する。 2. 医療福祉を取り巻く環境について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 10 日間の配属実習を行う。 実習先の実習指導者ならびに医療ソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。また、実習担当教員は、実習中の巡回などを通して学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。

アクティブラーニング	実習科目である。
授業内の ICT 活用	なし。
評価方法	実習への取り組み姿勢や実習記録等を総合して評価する。
課題に対するフィードバック	評価後に実習記録をお返しする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	1 日目から 10 日目まで、実習の振り返りと実習記録の作成に 2 時間、翌日の実習計画の作成に 30 分を必要とする。
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は、医療ソーシャルワーカー等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし。

科目名	医療ソーシャルワーク実習（20SW）
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2単位（90時間） 選択 6(7)セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	医療機関（病院・診療所・老健施設）またはその関連施設の医療福祉部門において、10日間の配属実習を行う。「医療ソーシャルワーク実習指導」と合わせて、医療機関と医療福祉について理解を深める。 本科目の履修においては、「医療福祉論」と「医療ソーシャルワーク演習」の単位取得が原則となるが、編入学など個別事情に配慮する。
到達目標	医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する。 1. 医療福祉の対象と方法について理解する。 2. 医療福祉を取り巻く環境について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 10日間の配属実習を行う。 実習先の実習指導者ならびに医療ソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。また、実習担当教員は、実習中の巡回などを通して学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。

アクティブラーニング	実習科目である
授業内の ICT 活用	なし.
評価方法	実習への取り組み姿勢や実習記録等を総合して評価する.
課題に対するフィードバック	評価後に実習記録をお返しする.
指定図書	なし.
参考図書	なし.
事前・事後学修	1 日目から 10 日目まで, 実習の振り返りと実習記録の作成に 2 時間, 翌日の実習計画の作成に 30 分を必要とする.
オープンエデュケーションの活用	なし.
オフィスアワー	初回授業時に提示する.
実務経験に関する記述	本科目は, 医療ソーシャルワーカー等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です.
メディア授業の実施について	なし.

科目名	マネジメント演習
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	社会福祉経営論、トップマネジメント論で理論的に学んだことが、社会福祉施設・事業所、法人等の現場でどのように運用・実践されているのかについて、フィールドワークをとおして具体的に学ぶとともに、施設・事業所、法人のマネジメントに関わる現代的課題について、主体的に探索し、学修し、理解を深める。
到達目標	福祉専門職に求められるマネジメントの基本的な知識・理論をもとに、現場で求められる課題設定の視点、解決に向けた展望を描くことができる。 1. 社会福祉施設・事業所、法人の運営、経営について、実際に現場に赴いて関係者から説明を受ける中で、具体性、現実性をもって理解できる 2. 施設・事業所、法人などの組織運営をする上での現代的課題について、主体的に課題設定し解決策を導くことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：A法人 運営の実際① 見学 第3回：〃 運営の実際② 講話 第4回：〃 学びのまとめ 第5回：B法人 運営の実際① 見学 第6回：〃 運営の実際② 講義 第7回：〃 学びのまとめ 第8回：C法人 運営の実際① 見学 第9回：〃 運営の実際② 講義 第10回：〃 学びのまとめ 第11回：マネジメントに関する自由研究・発表① 第12回：マネジメントに関する自由研究・発表② 第13回：マネジメントに関する自由研究・発表③ 第14回：マネジメントに関する自由研究・発表④ 第15回：まとめ

アクティブラーニング	2,3回、5,6回、8,9回はフィールドワークを行う その他はほぼ毎回グループワークを実施し、11回～14回についてはプレゼンテーションを行う。
授業内の ICT 活用	・ipad を用いて法人見学の事前学習を実施する ・プロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う ・事前・事後学修課題についてはwebclass に提出する
評価方法	授業への参加態度（見学後のミニレポート含む）40%、マネジメントに関する自由研究・発表20%、定期試験（レポート） 40% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業のまとめ、リアクションペーパーについては、毎回フィードバックする 自由研究・発表についてはコメントをつける。
指定図書	授業の中で、毎回関連する資料を配布する
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：2, 5, 8 回に実施する施設・事業所・法人見学に向けて予習課題を行う（毎回 40 分）。 11～14 回のマネジメントに関する自由研究・発表に向けた学修を進める（各自 180 分） 事後学修：見学後には必ずミニレポートを提出する（毎回 40 分） 11～14 回については、他者の発表に対してコメントを提出する（毎回 20 分）
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	トップマネジメント論
科目責任者	落合 克能
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	トップマネジメントとは一般的に経営層のことを指すが、特に方針、目標を決め、その目標を達成する「マネジメントシステム」の責任を負う人を意味する。 本講義では、質の高い福祉サービスを安定的に提供するために必要なマネジメントに関わる“ヒト、モノ、カネ、情報”等の資源に関する専門的知識・技術を学び、所属する施設・事業所や法人のマネジメントについて深く理解し、関わることのできる組織の一員になること、そして将来、直接マネジメントに携わることのできる人材の養成をめざす
到達目標	1. 施設・事業所、法人等のマネジメントについて「チームリーダー」の立場で理解できる 2. 福祉サービスの基本理念と倫理の徹底・浸透のための方法を理解できる 3. 福祉マネジメントに必要な“ヒト、モノ、カネ、情報”等に関する専門的な考え方を理解できる 4. 所属する施設・事業所、法人の使命・計画、運営・経営に関することを理解した組織の一員となる準備ができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 福祉サービスの基本理念と倫理 第2回：法人・事業所のガバナンス 第3回：組織の戦略と事業計画、事業報告（PDCAサイクル） 第4回：サービスマネジメントとは 第5回：人事、労務管理 第6回：地域協働 第7回：社会福祉法人の地域貢献 第8回：まとめ <担当教員名> 落合克能（佐藤順子） 落合克能 落合克能 落合克能 佐藤順子 佐藤順子 佐藤順子 落合克能 （マネジメント・ICT コースが推奨するマネジメント特論もあわせて受講することが望ましい）

アクティブラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、グループ討議を取り入れるなどして知識の定着・確認を促す
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 60%、授業態度 40%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。
指定図書	『最新 社会福祉士養成講座 1 福祉サービスの組織と経営』中央法規 2021 年
参考図書	必要に応じ、授業の中で提示する
事前・事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む (事前・事後学修 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2613 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際福祉実習Ⅲ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位（90時間） 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<科目担当者> 川向雅弘 <授業内容・テーマ等> ・実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） ・本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国 東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） - 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省（まとめ） ・実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	実習・フィールドワーク（施設見学）・プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習施設からの評価（30%）、実習記録・実習レポート（30%）、 ・事前・事後学習の取り組み（30%） ・実習報告会での成果発表（10%） ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う
指定図書	資料配布
参考図書	実習事前指導内にて提示する。
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。 各学修の目安は 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2604 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉士として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際福祉実習Ⅳ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位（90時間） 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<科目担当者> 川向雅弘 <授業内容・テーマ等> ・実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） ・本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国 東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） - 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省（まとめ） ・実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	実習・フィールドワーク（施設見学）・プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習施設からの評価（30%）、実習記録・実習レポート（30%）、 ・事前・事後学習の取り組み（30%） ・実習報告会での成果発表（10%） ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う
指定図書	資料配布
参考図書	実習事前指導内にて提示する。
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。 各学修の目安は 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2604 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉士として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅲ（SW）
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位（90 時間） 選択 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3 年秋～4 年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。 - 事前学習 - 担当教員によるオリエンテーション - 実習計画書の作成 - 配属実習 - 一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 - 日ごとの実習目標の立案 - 実習記録の作成 - 実習先におけるスーパービジョン - 事後学習 - 学内におけるスーパービジョン 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。

アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワークを行う
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 10%（実習計画書含む）、配属実習 60%、事後学習 30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	なし
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅲ（SS）
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位（90時間） 選択 7,8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	<担当教員名> 井川淳史、野田由佳里、篠崎良勝、水野尚美 <授業内容・テーマ等> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	反転授業、グループワークを行います。報告会としてプレゼンテーションも企画しています。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20% 【事前学習・事後学修】授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行の介護実習要項および実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。（180 分） 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。（180 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅳ（SW）
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位（90 時間） 選択 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3 年秋～4 年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。 - 事前学習 - 担当教員によるオリエンテーション - 実習計画書の作成 - 配属実習 - 一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 - 日ごとの実習目標の立案 - 実習記録の作成 - 実習先におけるスーパービジョン - 事後学習 - 学内におけるスーパービジョン 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。

アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワークを行う
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 10%（実習計画書含む）、配属実習 60%、事後学習 30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	なし
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅳ（SS）
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位（90時間） 選択 7,8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	反転授業、グループワークを行います。報告会としてプレゼンテーションも企画しています。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20% 【事前学習・事後学修】授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行の介護実習要項および実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。（180 分） 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。（180 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	インターンシップⅢ
科目責任者	落合 克能
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 5, 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	外部の専門機関・団体が提供するインターンシッププログラムなどを活用しながら、学生自身が求めるキャリアプランに関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。概ね5日間程度の配属実習と事前事後学修で展開される。
到達目標	1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、専門職としての自己の将来像で必要とされる実践力を身につける 2. 主体的に利用者等や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、アドバイザー、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 - 事前学習 - 担当教員（やアドバイザー）によるオリエンテーション - 実習計画の検討 - インターンシップ等への参加 - 一つの機関・団体において5日間程度の実習を実施 - 日ごとの実習目標の立案 - 実習記録の作成 - 実習先におけるスーパービジョン - 事後学習 - 学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前・事後学習への取り組み 20% 配属実習での取り組み 40% 定期試験（レポート） 40%
課題に対するフィードバック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2613 です。時間は初回の授業において提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ライフサイクルとソーシャルワーク
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位（30時間） 選択 SWコース必修 1セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	現代社会において「高齢者」、「若者」、「女性」、「こども」が直面しやすい心理・社会的諸問題を、社会福祉学的観点から理解する。教員からの講義、グループワーク、学生の発表を1セットとする学修形式を通して、ソーシャルワーカーとしての必要な知識を身につける。
到達目標	1. 現代社会の高齢者・若者・こどもの心理・社会的諸問題を保健医療福祉の専門職者として、社会福祉学的観点から理解できる 2. グループワークを通して活発に意見交換ができ、発表資料を作成・発表することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場義貴、小畑美穂 第1回：ライフサイクルを巡る現代社会の心理・社会的諸問題と政策の動向 第2回：不登校・ひきこもり（講義） 第3回：不登校・ひきこもり（グループワーク） 第4回：不登校・ひきこもり（発表） 第5回：発達障害・いじめ（講義） ／ゲストスピーカー（大須賀優子） 第6回：発達障害・いじめ（グループワーク） 第7回：発達障害・いじめ（発表） 第8回：ライフサイクルと心理・社会的支援（講義） 第9回：高齢者の生活問題・社会的孤立（講義） ／ゲストスピーカー（高齢者領域ソーシャルワーカー） 第10回：高齢者の生活問題・社会的孤立（グループワーク） 第11回：高齢者の生活問題・社会的孤立（発表） 第12回：こどもの権利・社会の責任（講義） 第13回：こどもの権利・社会の責任（グループワーク） 第14回：こどもの権利・社会の責任（発表） 第15回：まとめ

アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート） 50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	子ども・若者政策のフロンティア；伊藤 良高，大津 尚志，中谷 彪，永野 典詞：晃洋書房
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会福祉演習
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 SW コース必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	基礎演習Ⅰ・Ⅱをふまえ、社会福祉の専門的な学修を進めるうえで必要となる能力や知識を修得しながら、各自が社会福祉のどのような領域や課題について専門的に学んでいきたいのかを考え、自らの専門性を培うための足がかりとする。
到達目標	1. 現代社会に生きるさまざまな人たちの暮らしについて、考えることができる。 2. 社会福祉のさまざまな領域を知り、興味・関心を持つことができる。 3. 図書館で文献資料の収集ができ、関心のある論文などを見つけ、要約することができる。 4. 自分の興味・関心と社会福祉の領域を結びつけ、レポートをまとめ、発表することができる。
授業計画	<担当教員名>福田俊子、大場義貴、佐々木正和 (3 名で3 グループを担当する) <授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 今後の授業の進め方等についての話し合い、アイスブレイクによるグループ作り 第2回：基本的な文献の読解① 教員によるプレゼンテーションを通して、文献の読み方、レジュメの作成方法、文献や注引用方法等のモデル提示 第3回：文献の収集方法の理解 図書館を活用して専門的な文献資料の収集方法の理解 第4回：文献リストの作成 文献検索機能を用い、各自の興味あるテーマについての参考文献リストの試行的作成 第5回：基本的な文献の読解② 学生が分担しあい、担当箇所についてレジュメを準備し発表 (学生をグループ①～⑤に分ける)、それをふまえてのグループ討議 学生グループ① 第6回： 〃 学生グループ② 第7回： 〃 学生グループ③ 第8回： 〃 学生グループ④ 第9回： 〃 学生グループ⑤ 第10回：自分の興味・関心あるテーマの絞り込み テーマレポート作成に向け、各自がテーマを決定。 テーマレポートの個別指導を経て、発表 (学生をグループ①～⑤に分ける)、それを踏まえてのグループ討議 学生グループ① 第11回： 〃 学生グループ② 第12回： 〃 学生グループ③ 第13回： 〃 学生グループ④ 第14回： 〃 学生グループ⑤ 第15回：授業のまとめ グループにわかれ、一人の担当教員の演習に所属することになります。担当教員は、皆さんと一緒に考え、それぞれの興味・関心を自分のテーマに結び付けていくお手伝いをさせていただきます。少人数のグループだからこそ、積極的なディスカッションへの参加をお願いします。

アクティブラーニング	本科目は、ディスカッションを中心とした授業形態で展開される。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	授業への取り組み状況（60%）、テーマレポート（40%） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、フィードバックは実施する。
指定図書	なし
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	<事前・事後学修> 第2～14回の授業では以下の点に留意すること。 ・提示された課題に対しては、あらかじめ必要な知識を復習し、共通の文献を分担発表する場合は、必ず当該部分を予め通読して授業に臨むこと。 ・グループ発表にあたっては、授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておくこと。 ・個人発表の場合は、ゼミメンバーに内容が伝わりやすいレジュメなどを準備しておくこと。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	臨床原論																
科目責任者	福田 俊子																
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 78 セメスター																
DP 番号と科目領域	DP7 専門																
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。																
科目概要	本科目は、ソーシャルワークの原点や原理に立ち戻り、学科所属教員らによる「支援とは何か」「専門性とは何か」といったテーマに基づいた講義をきくことで、学生自身がこれらのテーマについて調べ、考え、そして自らの言葉で表現できるようになることを目的とし、社会福祉学科において積み重ねてきた講義、演習、実習の学修を総括する。																
到達目標	1. 多様な人間や社会のありようを再認識し、自己の価値観を確認する。 2. これまでの学修を振り返りながら、自己の将来像を表現できるようになる。 3. 自分の言葉を用いて、各テーマにかかわる意見を表現できるようになる。																
授業計画	<担当教員>福田俊子、大場義貴、川向雅弘、佐藤順子、佐々木正和、落合克能、泉谷朋子 <授業内容・テーマ等> <table> <tr> <td>第1回：講義概要、専門家であること</td><td>福田俊子</td></tr> <tr> <td>第2回：福祉サービス提供組織の変革と自己成長</td><td>落合克能</td></tr> <tr> <td>第3回：思春期のメンタルヘルス</td><td>大場義貴</td></tr> <tr> <td>第4回：ソーシャルワーカーの訪問支援</td><td>佐々木正和</td></tr> <tr> <td>第5回：ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー</td><td>川向雅弘</td></tr> <tr> <td>第6回：ソーシャルワーカーに求められるジェンダー視点</td><td>泉谷朋子</td></tr> <tr> <td>第7回：福祉コミュニティをつくる</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr> <td>第8回：まとめ</td><td>福田俊子</td></tr> </table>	第1回：講義概要、専門家であること	福田俊子	第2回：福祉サービス提供組織の変革と自己成長	落合克能	第3回：思春期のメンタルヘルス	大場義貴	第4回：ソーシャルワーカーの訪問支援	佐々木正和	第5回：ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー	川向雅弘	第6回：ソーシャルワーカーに求められるジェンダー視点	泉谷朋子	第7回：福祉コミュニティをつくる	佐藤順子	第8回：まとめ	福田俊子
第1回：講義概要、専門家であること	福田俊子																
第2回：福祉サービス提供組織の変革と自己成長	落合克能																
第3回：思春期のメンタルヘルス	大場義貴																
第4回：ソーシャルワーカーの訪問支援	佐々木正和																
第5回：ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー	川向雅弘																
第6回：ソーシャルワーカーに求められるジェンダー視点	泉谷朋子																
第7回：福祉コミュニティをつくる	佐藤順子																
第8回：まとめ	福田俊子																

アクティブラーニング	テーマに沿ったグループディスカッション、WebClass への課題提出などがなされる。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。
評価方法	毎回の小レポート 40% (5 点×8 回) 総括レポート 60% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	各回の授業冒頭で、前回の授業を担当した教員より、フィードバックがなされる。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	<事前学修> 第 2～7 回の授業では、WebClass 等に提示された事前課題に必ず取り組むこと。 <事後学修> ・第 2～7 回の授業では、自主的に調べた内容も加味してレポートを作成すること。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。す。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ジョブコーチ論
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	障害者雇用制度の基礎、障害者雇用及び就労支援の現状を把握し、ジョブコーチ支援の考え方と支援方法の基礎を理解します。特に、障害者雇用における職場環境の工夫、仕事を分かりやすく教える方法、ナチュラルサポートの形成方法などの実際を現場実務者から学びます。
到達目標	1. 障害者雇用制度の基礎知識を身につける。 2. 就労支援に関わる社会資源や制度の基礎知識を身につける。 3. ジョブコーチの支援を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員>川向雅弘 第1回：ジョブコーチ支援の実際① 第2回：障害特性を理解する① ―自閉症の人が見ている世界― 第3回：障害特性を理解する② ―自閉症の人を正しく理解する― 第4回：障害者雇用と法制度① ―障害者総合支援法の中の就労支援― 第5回：障害者雇用と法制度② ―法定雇用率制度― 第6回：知的障害者と就労支援（就労継続支援事業所現場学習） 第7回：知的障害者と就労支援（就労継続支援事業所現場学習） 第8回：ジョブコーチの支援の実際② ゲストスピーカー（支援機関のジョブコーチ）

アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワーク、制作活動
授業内の ICT 活用	インターネット情報等を用いた学習を取り入れます。
評価方法	授業態度:20%、制作課題「美味しいカップ焼きそばの作り方」:80%
課題に対するフィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーへのコメント・解説等を行います。
指定図書	なし プリント等を配布します。
参考図書	小川浩編著『ジョブコーチハンドブック』エンパワメント研究所
事前・事後学修	【事前】最終回に発表する構造化をテーマとした制作課題を初回に提示します。また、自分自身のアルバイト体験や家族の労働を通して、人が「働く」こと、「労働」の意味を考えて下さい。また、障害者就労支援事業所を見学するにあたって障害者総合支援法についての事前学修が必要になります。 【事後】毎回の授業で出てきた重要なキーワードについて調べ、Webclass に提出します。国家試験対策を兼ねています。(目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	川向雅弘 (社会福祉学部社会福祉学科) : 2705 研究室 時間帯については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	ファミリーソーシャルワーク
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目では、現代における家族・家庭のあり方、児童虐待・子どもの貧困等現代社会において子どもと家庭が直面する諸問題を理解し、ソーシャルワーカーがどのように対応していくべきか、講義と演習等を通して理論的・実践的に学修する。
到達目標	1. 児童虐待、子どもの貧困等、現代社会における子どもと家庭が直面する諸問題を具体的に理解する。 2. 子どもと家庭が直面する諸問題に対応する関係機関、専門職の役割について説明できる。 3. 課題を抱える子どもとその家族に対する具体的な支援方法を実践的に理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 子どもと家族を支援するとは 第 3 回 現代社会における子どもと家族・家庭が直面する諸問題 第 4 回 子ども家庭支援の制度・法体系 第 5 回 子ども家庭支援のしくみ・実施体系 第 6 回 子どもと家族・家庭支援における専門機関と専門職① 第 7 回 子どもと家族・家庭支援における専門機関と専門職② 第 8 回 子どもと家族を対象としたソーシャルワーク 第 9 回 子どもと家庭・家族を支援するための実践モデル 第 10 回 事例検討① 要保護児童とその家族への支援（在宅ケース） 第 11 回 事例検討② 要保護児童とその家族への支援（施設入所ケース） 第 12 回 事例検討③ 特定妊婦への支援 第 13 回 事例検討④ 子どもと家族が安心して生活できる地域づくり 第 14 回 外部講師による講義 第 15 回 まとめ

アクティブラーニング	反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内の ICT 活用	・出席管理、授業資料配布、課題、レポート・リアクションペーパー等の提出は WebClass で行う。 ・授業中、インターネットで検索する、グループ課題の取り組み等に PC を用いるため、PC は必携。
評価方法	・リアクションペーパー30%、課題 70% ・演習、レポート、課題で評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパー、課題については、授業内でフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	相沢仁・宮島清 (2013)『家族支援と子育て支援』明石書店 陰山正子(2018)『メンタルヘルス不調のあり親への育児支援』明石書店 下夷美幸(2020)『家族問題と家族支援』NHK 出版
事前・事後学修	事前学修：毎回事前課題を出すので、それに取り組んだ上で授業に臨むこと（目安時間約 40 分） 事前課題は児童・家庭福祉論の復習を兼ねている。 事後学修：毎回学びをまとめ、WebClass に提出する（目安時間約 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室 時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、児童家庭福祉の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護福祉実践演習 I
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	対人援助・社会支援の専門職として、保健医療職などの他職種の役割を理解し連携するために、介護福祉士に値する知識を定着させ、自らの人間的成長と役割を自覚し、他者や組織との協働を理解する。さまざまな対象者の課題解決に向け実践する能力を身につける。
到達目標	1. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「人間と社会」の内容のすべてが理解できる。 2. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「介護」の内容のすべてが理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 人間と社会①・・・人間の尊厳と自立 第2回 人間と社会②・・・人間関係とコミュニケーション 第3回 人間と社会③・・・社会の理解 第4回 介護の基本①・・・介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、尊厳を支える介護 第5回 介護の基本②・・・自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解、介護サービス、介護実践における連携 第6回 介護の基本③・・・介護従事者の倫理、介護従事者の安全、介護における安全の確保とリスクマネジメント 第7回 コミュニケーション技術①・・・介護におけるコミュニケーションの基本 第8回 コミュニケーション技術②・・・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるコミュニケーション 第9回 生活支援技術①・・・生活支援、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた身じたくの介護 第10回 生活支援技術②・・・自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護 第11回 生活支援技術③・・・自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護 第12回 生活支援技術④・・・自立に向けた移動の介護、自立に向けた移動の介護 第13回 生活支援技術⑤・・・自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、自立に向けた終末期の介護、 第14回 介護過程①・・・介護過程の意義、介護過程の展開 第15回 介護過程②・・・介護過程の実践的展開、介護過程とチームアプローチ 最終確認テスト・解答解説

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas（電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 20%、課題提出物 20%、最終確認テスト 60%によって総合的に評価する。 演習で評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	教科書全書
参考図書	介護福祉絶対合格テキスト/大和書房
事前・事後学修	事前学修：毎回シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。 毎回提示された課題（国試問題プリント）に取り組む（40 分） 事後学修：毎回の授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。国試問題の正答根拠をテキストと照合し、ノートにまとめる。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	介護福祉士国試 1000 問-解説付 https://play.google.com/store/apps/details?id=net.jp
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護福祉実践演習Ⅱ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	対人援助・社会支援の専門職として、保健医療職などの他職種の役割を理解し連携するために、介護福祉士に値する知識を定着させ、自らの人間的成長と役割を自覚し、他者や組織との協働を理解する。
到達目標	1. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「介護」の内容のすべてが理解できる。 2. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「こころとからだのしくみ」の内容のすべてが理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：発達と老化の理解①・・・人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 第2回：発達と老化の理解②・・・高齢者と健康 第3回：認知症の理解①・・・認知症を取り巻く状況 第4回：認知症の理解①・・・医学的側面からみた認知症の基礎 第5回：認知症の理解②・・・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援 第6回：障害の理解①・・・障害の基礎的理解、障害の医学的側面の基礎的理解（身体障害、精神障害） 第7回：障害の理解②・・・障害の医学的側面の基礎的理解（知的障害、発達障害、難病、障害のある人の心理、障害に伴う機能の変化と影響）連携と協働、家族への支援 第8回：こころとからだのしくみ①・・・こころのしくみの理解、からだのしくみの理解 第9回：こころとからだのしくみ②・・・身じたくに関連したこころとからだのしくみ、移動に関連したこころとからだのしくみ、食事に関連したこころとからだのしくみ 第10回：こころとからだのしくみ③・・・入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ、排泄に関連したこころとからだのしくみ 第11回：こころとからだのしくみ④・・・睡眠に関連したこころとからだのしくみ、死にゆく人のこころとからだのしくみ 第12回：医療的ケア・・・医療的ケア実施の基礎 第13回：医療的ケア・・・喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内）、経管栄養（胃ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養） 第14回：総合問題 第15回：まとめ 最終確認テスト・解答解説

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 20%、課題提出物 20%、 最終確認テスト 60%によって総合的に評価する。 演習で評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	教科書全書
参考図書	介護福祉絶対合格テキスト/大和書房
事前・事後学修	事前学修：毎回シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。 毎回提示された課題（国試問題プリント）に取り組む（40 分） 事後学修：毎回の授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。国試問題の正答根拠をテキストと照合し、ノートにまとめる。（40 分）
オープン教育の活用	介護福祉士国試 1000 問-解説付 https://play.google.com/store/apps/details?id=net.jp
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	チーム介護論
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	本科目は、大学で履修した講義、演習、実習を通して理解した人間の多様性を踏まえ、共生の価値観をもち人や社会と協調できることを目的とする。また、より質の高い介護サービス提供に向けて、介護福祉施設におけるチームの役割、多職種との連携を学ぶ科目である。
到達目標	1. 介護福祉施設における組織の役割を理解することができる。 2. 職場のチームワークの向上のための多職種連携について考えることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、チームとは 第2回：多職種の理解と介護福祉士の役割（基礎） 第3回：多職種の理解と介護福祉士の役割（事例検討） 第4回：多職種の理解と介護福祉士の役割（事例まとめ） 第5回：多職種の理解と介護福祉士の役割（発表） 第6回：チームメンバーの役割（基礎） 第7回：チームメンバーの役割（グループワーク） 第8回：チームメンバーの役割（グループワークまとめ、発表） 第9回：チームでのコミュニケーション（基礎） 第10回：チームでのコミュニケーション（グループワーク） 第11回：チームでのコミュニケーション（グループワークまとめ） 第12回：チームでのコミュニケーション（発表） 第13回：組織の中でのチームの役割（基礎） 第14回：組織の中でのチームの役割（グループワーク） 第15回：組織の中でのチームの役割（グループワークまとめ、発表）

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはWebclassにて提出する。 反転授業やプレゼンテーションも実施予定です。
授業内の ICT 活用	・ ICT 機器を活用し、資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・ 授業全般で Webclass を活用します。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	Webclass にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『生活支援総論』 光生館
参考図書	SE: 共生型サービスに対応、介護保険・障害者福祉のしくみ
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉生体工学入門
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	福祉生体工学によって介護学、リハビリテーション学等及びその実務における質の向上を図るための要素である生理学を身体の物理学の視点で学ぶ。これを基にして身体の観測、身体のプロテクト、身体のプロテクトについて原理と方法を理解する。
到達目標	1. 身体を計測し、解釈し、表現することを身体の物理学を使って考える。 2. 介護動作の意味と負荷軽減の利点と欠点を物理学を使って考える。 3. 日常生活動作、体操、ストレッチ等の意味と、効率よく安全に他を介護したり、自他の健康維持を図ったりすることを物理学を使って考える。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：導入ーライフサイエンスの中の福祉生体工学 第 2 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-1（脊柱と関節と筋） 第 3 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-2（てこの原理） 第 4 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-3（骨格筋の収縮活動と相補構造） 第 5 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-4（負荷と負荷軽減という相反性のもつ意義） 第 6 回：生体組織のゆるやかな変形（静的歪み。主動的な運動と受動的な運動） 第 7 回：生体組織の俊敏な変形（動的歪み。主動的な運動と受動的な運動） 第 8 回：細胞と組織の構造と機能／水の恩恵 第 9 回：重力の恩恵／廃用症候群 第 10 回：歩行様態から観える骨格筋の生理学(身体を電気で観る／力学で観る) 第 11 回：物理学の視点で観える循環器系の生理学(身体を電気で観る／力学で観る) 第 12 回：骨格筋と心筋における構造と機能の差異(制御、疲れ、痛み)（身体を電気で観る／力学で観る） 第 13 回：歩行、睡眠からわかる健康様態の変化 第 14 回：身体を光、電波、電磁波で観る（計測と治療） 第 15 回：職業としての福祉と福祉工学を考える

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	介護支援型ロボット、およびコミュニケーションロボットの PC（プログラミング）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	レポート 50%、課題提出物 30%、授業参加度 20%、計 100% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料によって提示する。レポートは、WebClass の e ポートフォリオ・コンテナにて期日までに提出する。
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	なし
参考図書	授業時に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40 分 2～15 回） 事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40 分 2～15 回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2603 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	キリスト教教育
科目責任者	太田 雅子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	キリスト教・聖書の世界観・価値観に基づく教育について学ぶ。教育に何を願い、何のために働くのか。教師に与えられた課題や、求められる資質とは何か。どのような姿勢で学校教育の働きに携わっていくべきかなどについて理解を深める。
到達目標	1. キリスト教教育における世界観・児童観について理解を深める。 2. 聖書・キリスト教的価値観と現代の教育への影響について理解する。 3. 教師に与えられた使命・課題・資質について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：聖書の世界観・人間観について 第 2 回：キリスト教教育の働きと・教師の役割・ミッション ゲストスピーカー 第 3 回：教師としての成長（求められる資質） ゲストスピーカー 第 4 回：キリスト教教育の実践（クリストファー小学校） 第 5 回：キリスト教教育の独自性 第 6 回：キリスト教教育の歴史と社会的影響 ゲストスピーカー 第 7 回：現代における教育の課題 第 8 回：まとめ（レポート課題）

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料・実演）もとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業参加態度（リアクションペーパーや各課題を含む）：50％ レポート課題：50％ レポート課題はルーブリックを用いて評価を行うー内容・基準は授業内で説明する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。
指定図書	プリントを配布する。
参考図書	「教師をめざす君たちへ」キリスト教学校教育同盟
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回事業に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV 会議システムを利用して実施する場合がある。

科目名	キリスト教保育
科目責任者	太田 雅子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	聖書に描き出されている世界観・こども観や、保育や育児の捉え方について学ぶ。聖書の言葉に生きた人々の実践からキリスト教保育に携わる者の在り方について考察する。さらに今日の日本におけるキリスト教教育・保育について、実践から検討する。キリスト教保育が一般の保育、現代社会の課題に対して持つ意義について理解する。
到達目標	1. キリスト教保育における世界観・子ども観について理解を深める。 2. キリスト教保育の実践・保育者のあり方について理解する。 3. 提示された材料（資料・DVD・懇談）と向き合い、思考を活性化させる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： イントロダクション・マザー・テレサの言葉と人間観・子ども観 第 2 回： マザー・テレサの働きと聖隷の働き（使命） 第 3 回： 「愛と救い」について ―ナルニア国物語より 第 4 回： 「愛と救い」について ―C.S. ルイスから 第 5 回： 聖書の世界観・子ども（人間）観について 第 6 回： キリスト教保育の実践―一人ひとりを大切にすることとは 第 7 回： キリスト教保育の実践―ページェント・こども賛美歌（クリストファーこども園） 第 8 回： まとめ（レポート課題）

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料・実演）もとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業参加態度（リアクションペーパーや各課題を含む）：50％ レポート課題：50％ レポート課題はルーブリックを用いて評価を行うー内容・基準は授業内で説明する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。
指定図書	プリントを配布する。
参考図書	新キリスト教保育指針（キリスト教保育連盟）
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回事業に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園（キリスト教主義）」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

[illegible]

アクティブラーニング	学生自身が保育・子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けてのグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度（子育て広場のプランと実践）50% 課題・レポートと50% ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー（コラム）を次の回にコメントして返却する。及び授業の中でフィードバックをする。15回終わったところで、全回が記入されたリアクションペーパーを返却。それを見ながら授業の振り返りと自己評価をする。
指定図書	「改訂 保育者の関わり方の理論と実践：保育の専門性に基づいて」 高山静子著 郁洋舎
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い保育・子育て支援の実践準備をすること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教職実践演習（幼・小）
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2単位（30時間） 選択 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	授業は大きく2つに分けることができる。 第1は、大学における演習である。児童理解、学級経営、教科・領域指導等に関する内容を取り上げ、事例研究、ロール・プレイ、模擬授業等を行うことによって、実践的な能力を確かなものにしていけることを目的とする。 第2は、教育委員会や教育現場、関連機関（社会福祉施設等）における演習である。教育に対する使命感、責任感についての認識を深めるとともに、子どもとのコミュニケーション能力に加え、社会人としての対人関係能力をはぐくんでいくことを目的とする。
到達目標	大学の授業で学んだ学校知と教育実習等で得られた実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員として資質を構築していく。 教師として必要な基礎的資質の形成に関して、以下の4項目について確認する。 ①教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること ②社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること ③幼児・児童理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること ④領域・教科等の指導力の基礎を形成していること
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>鈴木光男、飯田真也、福重浩之 太田雅子 第1回 グループ討論「理想とする教師像・子供像」、全体発表 ・教職カルテに基づくここまでの学修・実習のふり振り返り 第2回 研究授業の紹介と意見交換（授業における技の実際） ・学習（保育）指導案の見直しと新たな授業構想 第3回 コーチングに学ぶコミュニケーションの技術 ・主体的な子供の育成と子供や親、同僚などとの望ましい人間関係づくりに活かすコーチングスキルの実際 第4回 演習（小）「板書指導・ノート指導のコツ」（幼）「子ども理解のコツ」 第5回 講義「ニューカマーの教育や英語イマージョン教育など教育の国際化」 第6回 講義（浜松市校長・園長ゲストスピーカー）「教師の仕事と心得」 第7回 講義（浜松市元校長・園長ゲストスピーカー）「幼稚園と小学校の教育」 第8回 浜松市内小学校の授業や幼稚園の保育の参観（事前研修） ・学級経営や授業づくり ・生徒指導 ・学校経営・園経営 等 第9回 浜松市内小学校の授業や幼稚園の保育の参観（参観） 第10回 浜松市内小学校の授業や幼稚園の保育の参観（事後研修） 第11回 特別支援学校の授業や保育の参観（事前研修） ・特別（発達）支援教育の理解 第12回 特別支援学校の授業や保育の参観（参観） 第13回 特別支援学校の授業や保育の参観（事後研修） 第14回 講義とグループ討論「持続可能な社会の創り手を育成する学校教育」 ・society5.0 やSDGs・ESD など今日的な課題を踏まえた教育の検討 第15回 まとめ—教師になることへの期待と希望 定期試験は実施しない。

アクティブラーニング	グループでのディスカッション・実践現場の観察を通した課題把握と模擬授業の教材研究
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	学習への積極性・参加態度など：20% 指導案・授業（保育）構想などの課題：30% コミュニケーション技術、授業技術の分析：20% 最終レポート：30% 以上を目安に総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	授業ごとに資料配布
参考図書	参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は 40 分）
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育原理
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、「教育」や「こども」をめぐる思想や制度の歴史や多様性を学ぶことで、現代の教育を捉え直し、教育の基本をつかむ。 「教育はどういう営みか」という基本的な問いに始まり、日本そして諸外国の教育の思想と歴史を振り返り、その今日的意義を考える。 さらに、日本の学校教育の制度的枠組みを理解し、その教育の目的と内容、方法を確認する。
到達目標	1. 教育の基礎知識（意義・目的、思想と歴史的変遷、内容・方法、制度等）について説明できる。 2. 教育とはどういうものか、先人たちの思想を理解し、教育の歴史と哲学に関して、知識・理解を深めることができる。 3. 教育の基本である「学習指導要領」の内容・教育観を説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>内崎哲郎 第 1 回：教育とは何か？ 第 2 回：学校とは？ 第 3 回：日本の教育制度の歴史 第 4 回：17 世紀の教育思想と教育の歴史 第 5 回：18 世紀の教育思想と教育の歴史 第 6 回：19～20 世紀の教育思想と教育の歴史 第 7 回：産業革命と公教育の誕生 第 8 回：日本の新教育の思想 第 9 回：義務教育制度 第 10 回：教育課程 第 11 回：教育行政 第 12 回：教育課程に関する法令 第 13 回：学習指導要領の変遷 第 14 回：新学習指導要領の内容 第 15 回：カリキュラム・マネジメント

アクティブラーニング	・小グループや隣同士での話し合い（グループ・ディスカッション、グループ・ワーク） ・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開 ・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業
授業内の ICT 活用	・グループ・ディスカッションや個人検討でまとめたもののプレゼンテーションをプロジェクターや教材提示装置を活用して行う。 ・ビデオ映像を活用する。
評価方法	・レポート（毎時間、授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気づきや感想、考察等を書く。）60% ・授業、レポートへの取組姿勢10% ・最終試験（ルーブリックを用いて評価する。ルーブリックはwebclassに掲載する。）30%
課題に対するフィードバック	・前時の授業で出した課題について提出させたレポートについて、講義の始めに解説、コメントする。 ・最終レポート（教育の意義や目的、教育思想と歴史的変遷、内容や方法、制度等について理解しているか、ルーブリックにしたがって評価する。）
指定図書	特になし。
参考図書	特になし。
事前・事後学修	事前学習：事前に webclass で配信された資料を基に、課題意識をもたせ、課題解決に向けて見通しをもって、自分自身の考え方をまとめる。（30 分）、 事後学習：講義内容について概要を把握し、課題に対して自身なりの気づきや感想、考察をレポートにまとめる。（60 分）。
オープン教育の活用	特になし。
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付ける。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教職概論（社会福祉学部）
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	本授業は、今日の日本における学校教育や教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力を理解することを目的とします。教員の職務内容の全体像について理解を深めると同時に、教員研修の必要性や教員が果たすべき服務上・身分上の義務と身分保障について理解します。また、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担してチームとして組織的に諸課題に対応する必要性について理解していることを目標とします。
到達目標	1. 日本における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解している。 2. 教員の職務内容の全体像や、教員研修の意義や生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し、服務上、身分上の義務及び身分保障を理解する。 3. 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：教員になるために：学校と教員免許状 第2回：教職の意義と教員の役割：保育・教育現場の実際から 第3回：教員の職務「授業」の変遷（江戸時代～現在） 第4回：教育制度の変遷とその背景 第5回：学校にいる教職員と法的根拠 第6回：教育に関わる法令等：教育基本法を中心とした理解 第7回：教職員に関わる法令等 第8回：学校の日を決めるものと理想の時間割 第9回：教員の職務内容：教科指導 第10回：教員の職務内容：生徒指導 第11回：チームとしての学校：ケーススタディによる理解深化 第12回：地域との連携：コミュニティ・スクール 第13回：学校運営：理想の学校 第14回：教員育成：理想の先生と教員育成指標 第15回：まとめ及び授業内容理解度調査

アクティブラーニング	問に対する意見表明の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの協議 ・演習
授業内の ICT 活用	Web Class の活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題 40% 授業内容理解度調査 60% 総合評価 60%以上でも授業内容理解度調査 60%未達の場合は特別再試を実施する。
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。
指定図書	なし
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	課題（レポート）への準備（事前学修） 毎回、記述による学習記録及び内容の定着を図る学習（事後学修） （目安時間 40 分） 第 15 回前：レポート「学校や教師に関する図書を読み、考えをまとめる」（280 分＝7 回分を要す）
オープンエデュケーションの活用	実際の事例を題材とした教職への関心の喚起と、その後のレポート作成に伴う資料収集
オフィスアワー	飯田研究室（2712）水曜日 12:00～13:30（第 2 水曜日を除く）
実務経験に関する記述	本科目は「教育行政職」及び「公立小学校管理職」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育制度論（社会福祉学部）
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	いかにすぐれた教育の思想や実践も、現代社会においては「制度化」されることによって、はじめて広く実現される。そうして作られた学校制度は、教職員を含む実にさまざまな人々の知恵と工夫で動かされる（＝「経営」）されることによって、はじめて高い効果を発揮する。 本講義では複雑化する教育課題をふまえて、これからの教師に必要な、教育の制度に関する知識の習得をめざすとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教育制度に向き合う力量の基礎を培う。とくに、学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。
到達目標	1. 教職に必要な教育制度に関する基礎概念、諸学説、基本的論点、課題に関する理解を深める。 2. 教育制度に関わる具体的な人物（幼児・児童、教師、保護者、地域住民など）を具体的に想定し、現行教育制度の利点・欠点や効果的な活用方法について、積極的・能動的に探究する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：イントロダクション 第2回：現代教育の制度①公教育の原理と理念 担当：太田知実 第3回：現代教育の制度②教育法制の概要 担当：太田知実 第4回：現代教育の制度③教育行政と教育政策 担当：太田知実 第5回：地方教育政策の展開①学校と地域の連携をめぐる論点 担当：太田知実 第6回：地方教育政策の展開②教育委員会制度の理念 担当：太田知実 第7回：地方教育政策の展開③教育委員会制度の仕組み 担当：太田知実 第8回：学校経営の原理と展開①学校経営の基礎概念と意義 担当：太田知実 第9回：学校経営の原理と展開②授業づくりと学校経営 担当：太田知実 第10回：学校経営の原理と展開③教員評価と学校経営 担当：太田知実 第11回：担当：飯田真也 今日的教育課題に対応した地方教育行政の施策と具体的活動①学校の組織マネジメント 第12回：担当：飯田真也 今日的教育課題に対応した地方教育行政の施策と具体的活動②学校安全等 第13回：教育制度の現代的課題①開かれた学校づくり 担当：太田知実 第14回：教育制度の現代的課題②格差社会と教育 担当：太田知実 第15回：講義のまとめ 担当：太田知実

アクティブラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%
課題に対するフィードバック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	古田薫・山下晃一編著『よくわかる教職エクササイズ 法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房、2020 年。
参考図書	授業中に適時提示します。
事前・事後学修	・事前学修：テキストの該当箇所に目を通しておく。(2 回～15 回) ・事後学修：テキストを再度読んだり、追加で関連資料・文献を調べたりして、授業内容について理解を深める (2～15 回) ※毎回の事後学修の目安時間は 40 分です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	太田知実（看護学部所属）1 2 1 0 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は、初回授業の際に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育心理学（社会福祉学部）
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学校における児童生徒の主体的な学習を支えるために知っておくべき学習過程、動機づけ、対人関係、適応・不適応などに関する基本的事項を説明し、児童生徒の発達を踏まえた指導や関わり基礎となる考え方を修得できるようにする。
到達目標	1. 児童生徒の学習の形態や概念及びその過程についての基本的な知識・理論を理解する。 2. 児童生徒の主体的な学習を支える動機づけ、集団（対人関係）、教育評価等の基本的事項とその意義について理解する。 3. 児童生徒の主体的な学習活動を支えるために、学校における適応・不適応の基本的事項について理解し、児童生徒に対する指導と関わりについて考える。
授業計画	第 1 回：教育心理学を学ぶことの意義 第 2 回：動機づけ・やる気を高める 1（内発的／外発的動機づけ） 第 3 回：動機づけ・やる気を高める 2（原因帰属、学習性無力感） 第 4 回：動機づけ・やる気を高める 2（自己効力、目標設定） 第 5 回：記憶について 1（短期記憶、長期記憶） 第 6 回：記憶について 2（再生・再認、忘却） 第 7 回：学習理論について 1（古典的／道具的条件づけ） 第 8 回：学習理論について 2（観察学習、代理強化） 第 9 回：学習の形態・教授方法について 第 10 回：教育評価（児童生徒をどう評価するのか） 第 11 回：児童生徒－教師関係（ピグマリオン効果） 第 12 回：学級という集団（集団規範、集団圧力、凝集性） 第 13 回：学校における適応と不適応 1（総論） 第 14 回：学校における適応と不適応 2（いじめ） 第 15 回：学校における適応と不適応 3（不登校）

アクティブラーニング	授業で扱うトピックの関する問いについてグループで議論して、全体で共有する。
授業内の ICT 活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 70%, 授業への取り組み状況 30% (リアクションペーパー等)
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけると、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	本科目の授業は、看護学部、社会福祉学部合同で行う。新型コロナウイルス対策の特例として異学部間の学生の交差をなくすために、2 教室間で、同時双方向型メディア授業を行う。 1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施する。 対面授業を看護学部 8 回、社会福祉学部 7 回行う（従って、メディア授業の回数はその逆になる）。 授業時間中に適宜、質疑応答に応じることができるようにする。

科目名	教育課程論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、学校教育（小学校・幼稚園）で教育課程が有する意義と教育課程の歴史的な経緯について理解を深める。また、教育課程の編成の基本原理と方法（手法）、学習指導要領・幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の方法を理解する。児童・幼児の発達や学習との関連から系統的に構築された教育計画の実際を学ぶ。さらに実習等の具体的な場面を想定し、教材研究・活用の仕方を踏まえて、指導計画案を作成し実践する。
到達目標	1. 学校教育（小学校・幼稚園）において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2. 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3. 教科・領域をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <科目担当>太田知実、太田雅子、飯田真也、福重浩之 第1回：太田知実 現行の学習指導要領下の学校（幼稚園）教育の社会的状況と検討課題 第2回：太田知実 教育課程の意義と役割及び機能 第3回：太田知実 教育課程の編成の原理とガイドライン（学習指導要領）の内容との関係性 第4回：太田知実 学習指導要領の改訂の変遷・性格と基本構造 第5回：太田雅子 幼稚園教育要領の改訂の変遷・性格と基本構造（全体的な計画） 第6回：太田雅子 教育課程の比較：ニュージーランド・フィンランド 第7回：太田知実 教育課程の運用：カリキュラム・マネジメントの意義と重要性・小テスト 第8回：太田知実 長期的指導計画の作成（小学校） 第9回：太田知実 短期的指導計画の作成（小学校）（教科横断的学習を意識して） 第10回：太田雅子 長期的指導計画の作成（幼稚園） 第11回：太田雅子 短期的指導計画の作成（幼稚園）（総合的な学びを意識して） 第12回：太田雅子、飯田真也、福重浩之 学習・保育指導案の作成と教育評価（1） 第13回：太田雅子、飯田真也、福重浩之 学習・保育指導案の作成と教育評価（2） 第14回：太田雅子、飯田真也、福重浩之 模擬授業・保育の実施と評価（1） 第15回：太田雅子、飯田真也、福重浩之 模擬授業・保育の実施と評価（2） 定期試験は行いません

アクティブラーニング	指導計画を作成し模擬保育・模擬授業を行う。さらに教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度 20%、課題提出物の評価・小テスト 40%、小レポート 40%
課題に対するフィードバック	各回に記入するリアクション・ペーパー（小レポート）について、次の授業の中でフィードバックや解説を行う。また、指導計画・教材・模擬授業に対して、その都度フィードバックを行う。
指定図書	「小学校学習指導要領解説・総則編」「幼稚園教育要領解説」
参考図書	授業中に適宜指示する。
事前・事後学修	教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育・教育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動(遊び)や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間 40 分】
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	太田知実(看護学部所属) 1210研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は授業初回時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、幼稚園教諭・小学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	道徳理論と指導法
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校における道徳教育の意義・目標・内容や課題について、児童期の特性や幼児教育及び中等教育との関連で理解するとともに、現代の道徳教育の基盤となる価値、道徳性の概念、歴史や社会とのかかわりなどを検討する。さらに、それを踏まえ、道徳教育の要としての「道徳の時間」の目標や特質、小学校における授業の計画作成、指導方法について具体的に理解することを主目的とする。
到達目標	①道徳とは何か、その今日的意義と重要性について理解できる。 ②小学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容について理解できる。 ③道徳教育の全体指導計画の意義を理解し、教育活動全体を通しての指導の必要性について説明できる。 ④「道徳の時間」の指導過程や指導方法に関する基本的事項を理解し、学習指導案の作成に生かすことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 内崎哲郎、仲義之 第1回：子どもの心の成長と道徳教育の意義 内崎哲郎 第2回：道徳教育の歴史 内崎哲郎 第3回：学習指導要領総則に示された道徳教育 内崎哲郎 第4回：学習指導要領に示された「特別の教科 道徳」の意義 内崎哲郎 第5回：道徳科学習指導案作成の手順 内崎哲郎 第6回：資料を基に学習指導案の作成 内崎哲郎 第7回：道徳科の授業の実際の様子（映像）に学ぶ 内崎哲郎 第8回：模擬授業の指導案作成 内崎哲郎 第9回：各自が作成した学習指導案からの学び合い（模擬授業①） 内崎哲郎 第10回：各自が作成した学習指導案からの学び合い（模擬授業②） 内崎哲郎 第11回：宗教的情操を育む道徳教育（聖書による授業） 仲 義之 第12回：命の尊厳を育む道徳教育（聖書による授業） 仲 義之 第13回：「考え、議論する道徳」の授業作り 内崎哲郎 第14回：道徳科の授業における指導方法・指導技術 内崎哲郎 第15回：道徳科の評価 内崎哲郎

アクティブラーニング	・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク） ・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開 ・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業 ・講義担当者が教師役になり、学生が子ども役になっての模擬授業 ・役割演技の実演 ・グループによる指導案作成作業 ・作成した指導案のプレゼンテーション
授業内の ICT 活用	・グループディスカッションや個人検討でまとめたものや学習指導案のプレゼンテーションとしてプロジェクターや教材提示装置を活用して行う。 ・授業のビデオ映像を活用する。
評価方法	・小レポート【リアクションペーパー】（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気づきや感想、考察等を書く。）45% ・学習指導案の作成と模擬授業25% ・最終試験（ルーブリックを用いて評価する。ルーブリックはWebclassに掲載する。）20% ・授業・レポートへの取組姿勢10%
課題に対するフィードバック	・前時の講義について書かせた小レポートについて、講義の始めに解説・コメントする。 ・試験（生徒指導・進路指導の意義や目標、その指導内容や方法等について理解できているかコメントを書く。）
指定図書	・「小学校学習指導要領」 ・「小学校学習指導要領解説・道徳編」
参考図書	・「小学校学習指導要領 ポイント総整理 特別の教科 道徳」永田繁雄（東洋館出版社） ・「自ら学ぶ『道徳教育』」押谷由夫（保育出版社）
事前・事後学修	・事前学修では、事前に Webclass によって配信された資料を基に、課題意識をもたせ、課題解決に向けての見通しをもって、自分自身の考え方をまとめる。（30分） ・事後学修では、講義内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気づきや感想をレポートにまとめる。（60分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は小学校教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	特別活動と総合的な学習の時間について教育課程上の位置づけと役割を理論的に検討する。そのうえで、教員の現代的な役割を確認したうえで、指導法の観点から特別活動と総合的な学習の時間の実践事例を検討する。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	・現代学校の教育課程の基本理解をふまえ、特別活動と総合的な学習の時間の教育課程上の位置づけと役割について捉えることができる。 ・教員の現代的な役割を理解したうえで、特別活動と総合的な学習の時間について教育実践の観点から具体的事例をもとに、指導法に関する知識と技法について理解している。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>鈴木光男 飯田真也 梅澤収 第1回：イントロダクション 鈴木光男 本授業の概要・進め方・評価について、学習指導や参考書を紹介する。 第2回：特別活動と総合的な学習の時間の体験①（ワークシート） 鈴木光男 第3回：特別活動と総合的な学習の時間の体験②：グループ討論 鈴木光男 兵庫教育大学附属小学校の「うれしの活動」等の実践事例をもとに検討する。 第4回：現代学校の教育課程と学習指導要領①：小学校編 梅澤収 第5回：現代学校の教育課程と学習指導要領②：中・高編 梅澤収 第6回：特別活動の内容①：学級活動 梅澤収 第7回：特別活動の内容②：児童会（生徒会）、クラブ活動、学校行事 梅澤収 第8回：特別活動の実践① 梅澤収 事例を検討する。 第9回：特別活動の実践② 梅澤収 事例と体験から実践を構想する（ワークシート）。 第10回：グループワークⅠ 上記構想案の発表 梅澤収 第11回：総合的な学習の時間のカリキュラムデザイン 鈴木光男 第12回：総合的な学習の時間の実践① 鈴木光男・飯田真也 浜松市立小学校等の具体的実践事例を検討する。 第13回：総合的な学習の時間の実践② 鈴木光男・飯田真也 事例と体験から実践を構想する（ワークシート）。 第14回：グループワークⅡ 上記構想案の発表 鈴木光男・飯田真也 第15回：授業全体の総括 鈴木光男・飯田真也

アクティブラーニング	グループでのディスカッション・グループワーク 小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	Web 動画の視聴をしたり、指導資料を活用したりする。また、ICT を活用した授業実践を構想したりする。
評価方法	授業の到達目標と授業への参加・取組状況を次の3つの観点をもとに総合的に評価する。 ①レポート・試験（40%）（試験は、第4～10回の授業を範囲としたもの） ②課題設定、検討・議論、表現・発表等のコンピテンシー（40%） ③学習意欲・態度（20%）
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	小学校学習指導要領 ・ 同総則解説 ・ 特別活動解説 ・ 総合的な学習の時間解説
参考図書	授業時に提示する
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は40分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。 NHK for school 総合的な学習の時間 https://www.nhk.or.jp/school/sougou/
オフィスアワー	初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育方法・技術論
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学びのプロセスや具体的方法（授業・保育の展開）を理解する。子どもの思考力・表現力を促すための方法や教材・ICT 活用等の方法・能力を身につける。さらに個々が指導計画案を作成し、実践と振り返り、課題の明確化を行い次に繋げられるようにする。
到達目標	1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>飯田真也、太田知実、太田雅子、津森伸一 第1回： これからの時代にふさわしい教育・育成すべき資質・能力とは 太田雅子・太田知実 第2回：教師に求められる指導力とは：アクティブ・ラーニング の視点からの学習のあり方 太田知実 第3回：授業づくりの原理 太田知実 第4回：教育目標・学習評価論 太田知実 第5回：学習環境の種類と工夫（小テスト） 太田知実 第6回：学習の形態、保育の形態 太田雅子・太田知実 第7回：探求型学習・問題解決学習の実践に向けての方法 飯田真也・太田雅子（ゲストスピーカー） 第8回：保育における探求の実践 飯田真也・太田雅子（ゲストスピーカー） 第9回：教材研究と教材の活用の実際① 太田雅子（ゲストスピーカー） 第10回：教材研究と教材の活用の実際②（教材の考案）太田 雅子（ゲストスピーカー） 第11回：情報教育メディアの活用と技術（基本） 津森伸一 第12回：情報教育メディアの活用と技術（実践） 津森伸一 第13回：学習問題（課題）と思考①：板書による提示 飯田真也 第14回：学習問題（課題）と思考②：教師の「問い」と子どもの反応の受け止め 飯田真也 第15回：アクティブラーニングを支える指導の技とその構造 飯田真也

アクティブラーニング	指導計画、教材研究と教材活用、情報メディアの活用、アクティブラーニングを視点とした学習等、実際の授業を想定した実技を行う。
授業内の ICT 活用	ICT を用いて教材作成を行う。
評価方法	授業への取り組み：20% 小テスト：30% 課題提出物（振り返りレポート）：50%
課題に対するフィードバック	指導計画・教材・模擬授業に対して、その都度フィードバックを行う。
指定図書	「小学校指導要領解説―総則篇」「幼稚園教育要領解説」
参考図書	授業の中で紹介をする
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、様々な資料を用いて原則として、40 分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い模擬授業・保育等の指導計画作成や準備をすること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は、幼稚園・小学校教諭・中学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生徒・進路指導論
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学校は子どもを育てる場であるが、正確には、子ども自ら育つように働きかける場である。そのために欠かせないことが生徒指導と進路指導であり、両指導とも教育課程の内外を通して行うものである。本授業では、いじめや不登校等の課題を切り口にしながらも、すべての子どもが「学校が楽しい」と実感でき、かつ、子ども達の主体性や自己有用感を育むために必要な働きかけについて各自が考えていくことで、学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義を理解することを主目的とする。
到達目標	①学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義について理解できる。 ②子どもの主体性と自己有用感を育むために必要な視点を理解できる。 ③生徒指導と進路指導はすべての教職員や家庭・地域等と連携をして行うことで効果が上がることを理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：生徒指導の意義と原理 第2回：教育課程と生徒指導 第3回：児童理解 第4回：生徒指導体制と展開 第5回：小学校の生徒指導の問題点 第6回：問題行動 第7回：いじめの対応 第8回：不登校の対応 第9回：生徒指導に関する法と制度 第10回：積極的な生徒指導と対処的な生徒指導 第11回：進路指導の変遷 第12回：キャリア教育 第13回：小学校におけるキャリア教育 第14回：キャリア・カウンセリング 第15回：学校・家庭・地域と連携して取り組む生徒指導・進路指導

アクティブラーニング	・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク） ・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開 ・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業
授業内の ICT 活用	・グループディスカッションや個人検討でまとめたもののプレゼンテーションとしてプロジェクターや教材提示装置を活用して行う。 ・ビデオ映像を活用する。
評価方法	・小レポート【リアクションペーパー】（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気づきや感想、考察等を書く。）60% ・授業・レポートへの取組姿勢10% ・最終試験（ループリックを用いて評価する。ループリックはWebclassに掲載する。）30%
課題に対するフィードバック	・前時の講義について書かせたレポートについて、講義の始めに解説・コメントする。 ・試験（生徒指導・進路指導の意義や目標、その指導内容や方法等について理解できているかコメントを書く。）
指定図書	・「生徒指導提要」（教育図書） ・「小学校学習指導要領」
参考図書	・「研修でつかえる生徒指導事例50」 藤平敦（学事出版） ・「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」（文部科学省） ・「生徒リーフ」（国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター）
事前・事後学修	・事前学修では、事前にWebclassによって配信された資料を基に、課題意識をもたせ、課題解決に向けて見通しをもって、自分自身の考え方をまとめる。（30分） ・事後学修では、講義内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気づきや感想をレポートにまとめる。（60分）
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は小学校教員の実務経験を有する講師が実務の視点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育相談
科目責任者	中村 洋子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学校や幼児教育領域において教育相談やカウンセリングマインドの理解を深めることは、子どもの健全な育成にとって欠かせない領域である。この授業では、子どもの発達に即した教育相談の理論と相談援助の具体的事例をもとに実践力を育成する。また子どもや保護者への具体的な対応を学ぶ。
到達目標	1. 教育相談の意義や基礎となる諸理論を理解する。 2. カウンセリングマインドなど教員としての基本的な姿勢、技法を学ぶ。 3. 子ども理解や保護者への対応の方法について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 現代の子育てをめぐる状況と教師に求められる役割 第2回：教育相談とは何か - 教師の行う教育相談の役割と特徴 第3回：教育相談の理論 - カウンセリングとカウンセリングマインドの考え方 第4回：相談援助の技術① - カウンセリングマインドを活かす聴き方 第5回：相談援助の技術② - カウンセリングマインドを活かす保護者との関係づくり 第6回：子ども理解① - 発達の視点からの子ども理解 第7回：子ども理解② - 問題のアセスメント 第8回：子ども理解③ - 問題行動のとらえ方 第9回：いじめの問題への対応 第10回：不登校への対応 第11回：特別な支援を必要とする子どもへの対応① - 理解と支援の考え方の基本 第12回：特別な支援を必要とする子どもへの対応② - 支援の実際のワーク 第13回：障害を持つ子ども・気になる子どもの保護者への対応 第14回：「難しい保護者」・不適切な養育環境への対応 第15回：地域社会や関係機関との連携

アクティブラーニング	実際の事例等を用いた家庭への支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験（60％）、課題提出物（30％）、授業態度（10％）計 100％ （課題提出物については、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容などの全体から判断します）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。
指定図書	『教師のための教育相談 - 日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援 - 』 西本絹子 萌文書林
参考図書	『子育て支援カウンセリング』石川洋子 図書文化
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。また授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	幼児理解の理論と方法
科目責任者	鈴木 まき子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	教育・保育の専門職としての幼児理解のあり方を幼児教育の特質と関連づけて学ぶ。さらに幼児理解の具体的な方法である観察、記録、省察・保育の改善について、実際に体験しながら理解する。教師間・保護者との情報共有の具体的方法について学ぶ。発達支援や幼小接続における幼児理解のあり方について手も検討する。保護者支援における知識・技術についての理解を深める。
到達目標	1. 幼児理解についての知識を身につけ、考え方及び基礎的態度について理解する。 2. 幼児理解の具体的方法について理解し実践する。 3. 幼児理解と評価（反省・改善）について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：幼児理解とは 子供を取り巻く社会 家庭と子供の成長・発達における課題 第2回：適切な幼児理解に向けて①：子供との信頼関係作り 適切な幼児理解に向けて②：子供の行動と内面の理解 第3回：適切な幼児理解に向けて③：教師間での情報共有・学び合い ：適切な幼児理解に向けて④：保護者との情報共有・相互理解 第4回：幼児理解と評価の具体的方法①：触れ合いを通して・記録と考察 ：幼児理解と評価の具体的方法②：観察・記録の工夫 第5回：幼児理解と評価の具体的方法③：エピソード記録を取ってみる ：幼児理解と評価の具体的方法④：記録からの読み取り —学び・発達と援助・指導 ドキュメンテーション・ラーニング・ストーリー 第6回：幼児理解と評価の具体的方法⑤：記録からの読み取り 集団生活と教師の役割 第7回：幼児理解と評価の具体的方法⑥：記録からの読み取り いざこざ・葛藤場面 第8回：幼児理解と評価の具体的方法⑦：指導計画と評価幼児の姿と援助・指導の改善 ：発達上の課題が見られる子供の理解及び保護者に対する 個別支援—カウンセリングの知識と技術 ：幼児理解と評価の具体的方法⑨：学びや発達の連続性と小学校への接続 ：幼児理解のための原理・対応の方法についての総括 小テスト実施

アクティブラーニング	現場での観察・記録をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	小テスト 60%、レポート課題 30%、授業への取り組み 10% ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを元に次の授業の中でフィードバックをする。
指定図書	2017 年改訂「保育所保育指針（解説付き）」 「幼稚園教育要領（解説付き） 幼児理解に基づいた評価（平成 31 年 3 月）文部科学省（著/文）チャイルド社
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。 原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育実習指導
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	幼稚園、小学校教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、幼稚園、小学校教育の概要を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では日誌・指導計画の書き方、模擬授業など、事後指導ではそれぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。
到達目標	1. 教育実習の意義を理解しながら、実習に対する心構えを作る。 2. 実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の観察視点を深める。 3. 実習体験をもとに実習成果や課題をまとめることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>福重浩之 鈴木光男、飯田真也、杉山沙旺美、二宮貴之、太田雅子 鈴木まき子 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習校において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。 (1) 教育実習の意義・目的・内容の理解 (2) 教育実習の方法の理解 (3) 教育実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 (4) 教育実習課題の明確化 (5) 研究授業の準備、指導 (6) 実習記録の意義・方法の理解 (7) 実習施設の理解 2. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させ、教員志望学生の資質、能力の向上を図る。

アクティブラーニング	模擬授業を構想し、指導案を作成し、模擬授業を公開した上で成果や課題について全員で研究・協議する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	課題（20%）、授業への取り組み（20%）、レポート（20%）、実習報告会（20%）、模擬授業の教材研究・指導案（20%） 計 100% レポートの指導・評価にルーブリックを用いる。
課題に対するフィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をする。また、実習報告会では、教員からの講評をする。
指定図書	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】 実習が始まる前に実習ノートにオリエンテーション内容や実習校の教育目標・研修テーマなど概略を記し、配当学年で必要となる教材研究の資料を収集する（60 分）。 【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をする。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出す（60 分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育実習（幼・小）
科目責任者	福重 浩之
単位数他	4単位（180時間） 選択 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	出身園または小学校インターンシップⅠⅡⅢで実習した小学校で、4週間の実習を行う。実習の主な内容は、幼稚園、①見学・観察、②保育参加・補助、③部分指導、④全日指導を体験する。小学校では、①見学・観察、②教育参加・補助、③教科等学習指導（授業研究を含む。国語・算数・理科・社会・生活・道徳は必ず、その他の音楽・図工・体育・家庭・総合的な学習の時間・英語（外国語活動）などはその中から1～2時間程度は担当する）、④全日指導。小学校インターンシップⅠⅡⅢから連続するため、本科目では③④が中心となる。
到達目標	1. 幼稚園、小学校教諭の仕事全般を理解し、その補助ができる。 2. 園児、児童とのかかわりや観察を通して、児童の思いや願い、発達や個性を理解し、記録できる。 3. 園児、児童の実態に即した指導案（略案・細案）を立て、実践・評価できる。
授業計画	<担当教員名> 福重浩之、杉山沙旺美、二宮貴之、和久田佳代、太田雅子、鈴木光男、飯田真也 <授業内容・テーマ等> 教育実習の主な内容（段階）は、①見学・観察、②保育・教育参加・補助、③部分指導、④全日指導を体験する。この実習では幼稚園、小学校における教育の実際を体験することにより、園児、児童に対する理解を深めるとともに、教育の理論と実践の関係を具体的に理解し、習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と教育者にふさわしい態度を身につけることを目的とする。

アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習校からの評価（40%）、実習日誌・指導案等（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行う。
指定図書	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】 各学年の子供の発達の理解、実践にあたっての教材研究を行う。また、学習指導案は園児、児童の実態を捉え、十分な教材研究のもと作成する。授業研究は細案、その他は本時の学習に関する目標や学習過程のみの略案（60 分）。 【事後学修】 実習終了後は、幼稚園、小学校教諭の仕事・授業の進め方や園児、児童との関わりについて実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにする（60 分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国語科指導法
科目責任者	福重 浩之
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、国語科指導の意味・役割、技術を中心に、国語科を教えることは子どもにとって何を意味するのか、子どもにとって価値ある学びとはどのようなものか、人間として成長していく子どもに、国語科は何ができるのか、を考えていく。 「みんなで楽しむ」ことを基本に、実のある授業にしていく。
到達目標	・国語科における学びの問題と教育方法の課題について理解する。 ・国語科における学びの問題に答え得る授業とは何かを理解する。 ・模擬授業のデザインと実践を通して、基礎的实践力を身につける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンスー学びの問題と教育方法の課題 第2回：学びの問題に答え得る授業Ⅰー教師の言葉、教授行為を中心に 第3回：学びの問題に答え得る授業Ⅱーこれまでの教育方法（説明的文章教材）を中心に 第4回：学びの問題に答え得る授業Ⅲーこれまでの教育方法（文学的文章教材）を中心に 第5回：学びの問題に答え得る授業Ⅳーこれまでの教育方法（作文）を中心に 第6回：学びの問題に答え得る授業Ⅴーこれまでの教育方法（書写）を中心に 第7回：学びの問題に答え得る授業Ⅵーこれからの国語科教育方法を中心に（ICTの活用法を含む） 第8回：学びの問題に答える授業からの構想Ⅰ（教材研究） 第9回：学びの問題に答える授業からの構想Ⅱ（指導案作成） 第10回：模擬授業と分析Ⅰ（説明的文章教材） 第11回：模擬授業と分析Ⅱ（文学的文章教材） 第12回：模擬授業と分析Ⅲ（話す・聞く） 第13回：模擬授業と分析Ⅳ（作文） 第14回：模擬授業と分Ⅴ（書写） 第15回：新しい実践を創造するためには

アクティブラーニング	毎時間の課題を、小集団で主体的、対話的に解決していく。また、模擬授業は小集団で立案、発表し、全体で考察する。
授業内の ICT 活用	グループ発表、模擬授業でのプレゼンテーションではパワーポイントの利用を推奨する。 Webclass の活用
評価方法	(1)授業に対する姿勢 15%(2)授業後レポート（毎時間）、提出物（第8回、10回）、発表、模擬授業 40%（3）最終レポート 45% 計 100%
課題に対するフィードバック	毎時間の小集団学修では口頭で、各自の「学びへのふりかえり」に対しては論評を加え、返却する。また、取り上げるべき課題は、次回の授業の中で解決する。
指定図書	「小学校学習指導要領解説 国語編」（平成 29 年 6 月告示 文部科学省）
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。
事前・事後学修	事前・事後：毎回、「今日の学び」に関して理解したことを整理しながら疑問点（もっと知りたいことも含む）を見出し、WebClass にまとめ、次回の授業に臨む。（40分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会科指導法
科目責任者	中村 俊哉
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	・初等社会科の理論、目標、内容、教育方法、他教科の関連、情報機器の活用などの基礎的知識を理解することができる。 ・指導案を作成し、模擬授業などを行うことができる。
到達目標	初等社会科教育の理論と実践、学習指導要領の目標・内容・方法について理解したうえで、授業を構成し、展開できる方法を身につけ、実際に指導案を作成し、模擬授業ができるようにする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・小学校社会科授業実践と分析 第2回：小学校社会の目標・内容・指導上の留意点 第3回：小学校社会科の成立過程と変遷 第4回：小学校社会の原理と現状と課題－社会的味方・考え方・問題解決・主体性・思考力・表現力・公民的資質等－ 第5回：小学校社会科の単元計画－幼児教育から高等学校までの系統性・他教科との関連－ 第6回：小学校社会科の教育課程－学習指導要領・指導書・教科書の関連－ 第7回：小学校社会科地域学習の学習指導－授業実践記録から（児童の実態と教材性の重要性）－ 第8回：学習指導案の書き方①－教科書や指導案を比較分析・指導案の構成・授業展開・評価－ 第9回：学習指導案の書き方②－児童・地域の実態・情報機器の利用・板書の役割－ 第10回：学習指導案の作成・検討 第11回：模擬授業・模擬授業の分析①（地域学習） 第12回：模擬授業・模擬授業の分析②（生活環境を支える諸活動） 第13回：模擬授業・模擬授業の分析③（産業・国土学習） 第14回：模擬授業・模擬授業の分析④（歴史・政治） 第15回：模擬授業・模擬授業の分析⑤（国際理解・環境）まとめ

アクティブラーニング	模擬授業やグループワークを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験（60%）、コメントペーパー（20%）指導案・模擬授業（20%）
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	なし
参考図書	「小学校学習指導要領解説社会編」（文部科学省）
事前・事後学修	事前学修としては、配布したプリントを行う。 事後学習としては、配布プリントや配布資料の振り返りを行う。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して 受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校公立公務員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	算数科指導法
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	算数科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について ICT の活用法を含めて学ぶ。そのうえで、実際に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行うことで、算数科の授業を担当するための指導力を身につける。
到達目標	学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：授業とは何か：算数授業のゴール 第2回：目標・全体構造・系統性の理解及び年間計画作成 第3回：「プログラミング教育」の理解を深める ICT 活用と教材開発 第4回：「数と計算」「図形」のつまずき分析と対策法検討 第5回：「測定」「変化と関係」「データの活用」のつまずき分析と対策法検討 第6回：教科書研究から指導法を検討し、指導案を作成する 第7回：「数と計算」低学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第8回：「数と計算」中学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第9回：「数と計算」高学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第10回：「図形」低学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第11回：「図形」高学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第12回：「測定」の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第13回：「変化と関係」の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第14回：「データの活用」の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第15回：まとめ及び授業内容理解度調査

アクティブラーニング	つまずき分析の協議を通した子どもの思考過程の探究 模擬授業の立案、実施、授業検討会の実施
授業内の ICT 活用	Web Class の活用
評価方法	授業態度・模擬授業・振り返りの記述・課題（算数教科書研究レポート・指導案）70% 授業内容理解度調査 30% 総合評価 60%以上でも授業内容理解度調査 60%未達の場合は特別再試を実施する。
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。 つまずき分析や模擬授業をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。
指定図書	「小学校学習指導要領解説算数編」「小学校学習指導要領」（文部科学省）
参考図書	小学校算数教科書（各教科書会社） 適宜プリント等の配布
事前・事後学修	第1回～6回：学習指導要領該当箇所の精読（事前・事後学習） 第7回～14回：指導案の作成と模擬授業の準備、振り返り（事前・事後学習） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間 80 分＝2 回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	実際の小学校現場での学習であるインターンシップ等との接続
オフィスアワー	飯田研究室（2712）水曜日 12:00～13:30（第2水曜日を除く）
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	理科指導法
科目責任者	竹本 石樹
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	・講義やグループワークを通して、授業実践の基礎基本（マクロ的視点、ミクロ的視点）を整理する。 ・授業実践の基礎基本（マクロ的視点、ミクロ的視点）を活用し、3～4人のグループで、学習指導案や板書計画を作成し、教材、教具等を準備し模擬授業を行う。 ・模擬授業後には、全体で授業リフレクションを行う。参加者は、模擬授業に対するコメント（優れている点、課題となる点や改善策等）を記述し、発表する。授業者は、コメントを参考にした改善学習指導案、改善板書計画を作成し、提出する。
到達目標	・教科の論理（目標、内容、評価等）と子どもの論理（資質・能力、見方・考え方、自然認識等）が調和した教材開発、授業設計、カリキュラム設計、学習評価計画を行い、学習指導案を作成することができる。【マクロ的視点】 ・子供の学びを深めたり広げたりする指導技術（発問、板書、教材提示、情報機器及び教材の活用 等）を学習指導案へ取り入れることができる。【ミクロ的視点】 ・模擬授業を行い、授業リフレクションを通して授業改善の視点を身に付け、自主・自律的な授業改善に結び付けることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：「理科」授業を活かした「理科指導法」 第2回：理科授業におけるマクロ的視点の理解① 第3回：理科授業におけるマクロ的視点の理解② 第4回：理科授業におけるミクロ的視点の理解① 第5回：理科授業におけるミクロ的視点の理解②*情報機器及び教材の活用 第6回：模擬授業計画（学習指導案作成、板書計画作成、背景となる学問領域の理解） 第7回：模擬授業①：小学校3年生の内容：A区分 第8回：模擬授業②：小学校3年生の内容：B区分 第9回：模擬授業③：小学校4年生の内容：A区分 第10回：模擬授業④：小学校4年生の内容：B区分 第11回：模擬授業⑤：小学校5年生の内容：A区分 第12回：模擬授業⑥：小学校5年生の内容：B区分 第13回：模擬授業⑦：小学校6年生の内容：A区分 第14回：模擬授業⑧：小学校6年生の内容：B区分 第15回：総括（改善学習指導案の検討、改善板書計画の検討）

アクティブラーニング	模擬授業、ディスカッション、グループワーク、リフレクションを融合させて行う。
授業内の ICT 活用	デジタル教科書、実物投影機、プレゼンテーションソフト等を効果的に活用する。
評価方法	模擬授業コメント 30%、改善指導案（板書計画を含む） 40%、授業の取組 30%
課題に対するフィードバック	模擬授業のための学習指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説理科編」（文部科学省）
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	学習指導案の作成と模擬授業コメントの記述、改善指導案の作成等（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修） （目安時間 1 時間）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活科指導法
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	生活科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について学ぶ。そのうえで、幼小接続を視点としたり、教科書研究を基にしたりした学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業の実施及び授業検討会を行うことで、生活科の授業を担当するための指導力を身につける。
到達目標	学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：スタートカリキュラムとしての生活科の意義：幼小接続の課題 第2回：幼児教育と小学校教育の特徴：幼小接続カリキュラムを構想する視点 第3回：幼小接続単元構想 第4回：幼小接続単元構想に基づく学習指導案の検討・作成 第5回：幼小接続単元の実際：「学校生活」の模擬授業（協議・改善点検討） 第6回：幼小接続単元の実際：「生活や出来事」の模擬授業（協議・改善点検討） 第7回：幼小接続単元の実際：「地域生活」の模擬授業（協議・改善点検討） 第8回：幼小接続単元の実際：「公共施設の利用」の模擬授業（協議・改善点検討） 第9回：幼小接続単元の実際：「飼育・栽培」の模擬授業（協議・改善点検討） 第10回：接続単元の実際：他教科横断の模擬授業（協議・改善点検討） 第11回：接続単元の実際：他領域横断の模擬授業（協議・改善点検討） 第12回：ICTを含めた教材開発の実際 第13回：教科書研究に基づいた単元構想・指導案立案 第14回：教科書研究に基づいた単元構想の実際①：協議と修正案作成 第15回：教科書研究に基づいた単元構想の実際②：協議と修正案作成

アクティブラーニング	現場実践の動画による検討や考察、協議 グループ等による模擬授業の立案と発表、協議
授業内の ICT 活用	Web Class の活用
評価方法	授業態度・模擬授業・振り返りの記述・課題レポート（接続単元研究報告・教科書研究に基づいた単元構想指導案）100%
課題に対するフィードバック	模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバックする。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説生活編」（文部科学省）
参考図書	小学校生活教科書（各教科書会社） 「実践事例で学ぶ10の姿と生活科」
事前・事後学修	指導案の作成と模擬授業の準備、修正案作成（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修）（指導案関係：目安時間1時間/週） 課題レポート：8時間程度
オープンエデュケーションの活用	実際の小学校現場での学習であるインターンシップ等との接続
オフィスアワー	飯田研究室（2712）水曜日 12:00～13:30（第2水曜日を除く）
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	音楽科指導法
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標	1) 学習指導に必要な知識や指導力を身につける。 2) 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 3) 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：授業づくりの基礎 1 学習指導要領を基に「教育内容」「教材」「評価」などを整理する。 第 2 回：授業づくりの基礎 2 学習指導要領を基に「音楽の要素」「ICT」「指導の留意点」などを整理する。 第 3 回：音楽遊び 音楽遊びとその展開について実践を通して理解する。 第 4 回：弾き歌いの授業 第 1～3 学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。 第 5 回：弾き歌いの授業 第 4～6 学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。 第 6 回：合唱の授業 合唱教材を取り上げその指導方法について理解する 第 7 回：合唱の授業 合唱曲を仕上げその指導方法と評価方法について理解する。 第 8 回：器楽の授業 鍵盤ハーモニカを教材で取り上げ基本的な奏法と指導法について理解する。 第 9 回：器楽の授業 打楽器、鍵盤楽器等を用いて合奏を行いその指導法について理解する。 第 10 回：音楽鑑賞の授業 小学校の鑑賞教材を取り上げその指導法について理解する。 第 11 回：音楽づくりの授業 音楽づくりを経験しその指導法について理解する。 第 12 回：学習指導案の作成 学習指導要領を基に単元計画と指導案の作成について理解する。 第 13 回：学習指導案の作成 指導案を作成しその作成方法について理解する。 第 14 回：模擬授業 作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を理解する。 第 15 回：模擬授業 作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を振り返る。 定期試験

アクティブラーニング	個人及びグループで主体的に学修する時間を設定しています。
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。 また、他国の教育法についても動画を通して学修する。
評価方法	指導案の評価 30% 共通教材の弾き歌い 30% 定期試験 40% (レポート)
課題に対するフィードバック	指導案の作成、弾き歌いや歌唱表現について課題ごとに講評します。
指定図書	『初等科音楽教育法』(音楽之友社)『小学校学習指導要領』(文部科学省) 『歌はともだち』(教育芸術社)
参考図書	なし
事前・事後学修	指定図書を読み、音楽科の指導方法・理論、各楽曲の譜読みを事前に行っておいて下さい。事前・事後学修はそれぞれ1時間程度行って下さい。
オープンエデュケーションの活用	小学校の児童が演奏する器楽や合奏に関する動画を視聴し鑑賞教育を実施します。
オフィスアワー	授業初回時に伝えます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	対面授業を基本としますが、状況に応じて対応いたします。

科目名	図画工作科指導法
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を、子供の成長と表現・製作の発達といった観点から、また“Education through Art (美術による教育)”と“Education for Art (美術の教育)”の観点や、美術教育の歴史的変遷などからとらえ直し、この教科特有の意味や価値について認識を深める。その上で、具体的な題材や授業を構想する力、子供の自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力の形成をはかるものとする。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	1. 美術教育の歴史的変遷と今日的な課題について理解する。 2. 図画工作科の教育的意味や価値について理解し、題材や授業を構想し、作品を試作し指導案を作成することができるようになる。 3. 様々な表現方法に応じた子供の表現のあり方を理解し、子供の表現活動について理解することができるようになる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 美術教育の理念と課題 第1回：美術教育の目標／美術教育の変遷－その理念と思想－ ・図画工作科学習の課題と意義を考察・検討する。 第2回：子供の成長と表現 ・明治期の臨画教育や「〇〇式」と言われる描画指導など美術教育における様々な指導法の検討から新学習指導要領で求める図画工作科のあり方を検討・考察する。 第3回：図画工作科の性格と目標・評価／図画工作科の学習指導の基本 ・図画工作科で育む学力と自発的・主体的な学習者を育てるための教師のあり方を考察・検討する。 第4回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－① ・造形遊びについて理解し、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 第5回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－② ・表したいことを絵に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 第6回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－③ ・表したいことを立体に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 第7回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－④ ・表したいことを工作に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 第8回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－⑤ ・浜松市美術館等と連携・協力した鑑賞のあり方や対話型鑑賞・アートゲームなどの実際の題材や ICT を活用した指導の実例を通じて、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 授業づくり 第9回：学習指導案の作成① ・学習指導案の全体的な書式をはじめ目標や評価規準、児童観・題材観・指導観などについてそれぞれに記入するポイントを理解する。 第10回：学習指導案の作成② ・試作することを通して学習過程を構想し、導入の工夫や ICT の効果的な利用による意欲化の手立てを考える。

	第 11 回：指導案の作成③ ・各自作成した学習指導案をもとにして模擬授業を構想し、その準備を進める。 第 12 回：模擬授業の公開・検討① ・各自の学習指導案をもとに模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。 第 13 回：模擬授業の公開・検討② ・前時の学びを互いに振り返り、課題を絞って模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。 第 14 回：模擬授業の公開・検討③ ・これまでの学びを総括するように模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。 第 15 回：まとめと振り返り ・図画工作科学習による主体的・対話的で深い学びを検討し、協議することで、本科目の総括をする。 定期試験は実施しない。
アクティブラーニング	グループでのディスカッション・実践現場の観察を通した課題把握と模擬授業の教材研究・模擬授業の公開 小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	Web 動画の視聴をしたり、各教科書会社のデジタル教科書や指導資料を活用したりする。また、模擬授業で ICT を活用した授業実践に取り組んだりする。
評価方法	(1) 授業で課した課題の評価・・・40% *試験はなく、学習指導案と試作した作品、並びに模擬授業に関する課題レポートを課す。 (2) 授業態度（事前・事後学修の提出物、参加態度など）・・・60% *毎時間の作品の制作態度や事前・事後学修をまとめたスケッチブックなども評価材料とし、総合的に判断し評価する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」日本文教出版
参考図書	参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」（文部科学省）
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は 40 分）
オープン教育の活用	・自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。 NHK「キミなら何つくる？」 https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000
オフィスアワー	初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	家庭科指導法
科目責任者	小清水 貴子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学習指導要領等を通して、小学校家庭科の教科目標、指導内容と評価、情報機器及び教材の効果的な活用を含めた指導法について学びます。学習指導案の作成、情報機器を活用した模擬授業の実施と振り返りを通して、子どもの認識や思考等の実態を視野に入れた授業設計や授業改善の視点を身につけます。
到達目標	学習指導要領に示された小学校家庭科の教育目標や指導内容、指導方法について理解するとともに、情報機器を活用して具体的な授業場面を想定して授業設計を行う力を身につけます。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：小学校家庭科の教科目標、指導内容と授業設計のポイント 第2回：「A家族・家庭生活」の指導内容と授業設計 第3回：「A家族・家庭生活」の模擬授業の実践と振り返り，授業改善 第4回：「A家族・家庭生活」の情報機器及び教材の効果的な活用法 第5回：「B衣食住の生活」の食生活の指導内容と授業設計 第6回：「B衣食住の生活」の食生活の模擬授業の実践と振り返り，授業改善 第7回：「B衣食住の生活」の食生活の情報機器及び教材の効果的な活用法 第8回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の指導内容と授業設計 第9回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の模擬授業の実践と振り返り，授業改善 第10回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の情報機器及び教材の効果的な活用法 第11回：「C消費生活と環境」の指導内容と授業設計 第12回：「C消費生活と環境」の模擬授業の実践と振り返り，授業改善 第13回：「C消費生活と環境」の情報機器及び教材の効果的な活用法 第14回：小学校家庭科の学習評価 第15回：まとめ

アクティブラーニング	事前学習課題，グループワーク，模擬授業，対話・討議を行います。
授業内の ICT 活用	情報機器を活用した授業設計および模擬授業を行います。
評価方法	課題レポート（60%），毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%） レポートはルーブリックを用いて評価し，ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	レポートに対するコメントおよび解説
指定図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』（東洋館出版） 伊藤葉子編著『授業力UP家庭科の授業』（日本標準）
参考図書	授業において適宜資料を配布します。
事前・事後学修	毎回の授業で本時のまとめと次時の予告をします。指定図書や参考図書を用いて自分 ができなかった課題について復習するとともに，次時の事前課題に取り組んでくださ い。
オープンエデュケーション の活用	自主学習として，以下の URL の番組の視聴路を進めます。 NHK for School カテイカ https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は家庭科教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目 です。
メディア授業の 実施について	なし

科目名	体育科指導法
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	新学習指導要領に基づく体育科の目標・内容、全体構造を理解し、望ましい体育授業のあり方を探求する。 実際に学習指導案を作成し、模擬授業や場面指導を実践し、指導方法を身につける。
到達目標	小学校体育科の目標・内容を理解し、学習指導案を作成することができる。 現代社会の児童にあった体育科のあり方を考察できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 体育について考える 第2回：現代の子供の体力・運動能力と健康 小学校体育科の目標と内容 第3回：体育科における主体的・対話的で深い学び 第4回：体育科における評価の在り方 学びと指導と一体となった評価 第5回：授業設計と学習指導案の作成 第6回：領域別指導法① 体づくりの運動遊び、体づくり運動 第7回：領域別指導法② 器械・器具を使つての運動遊び、器械運動 第8回：領域別指導法③ 走・跳の運動遊び、走・跳の運動、陸上運動 第9回：領域別指導法④ 水遊び、水泳運動 第10回：領域別指導法⑤ ゲーム、ボール運動（ゴール型） 第11回：領域別指導法⑥ ゲーム、ボール運動（ネット型、ベースボール型） 第12回：領域別指導法⑦ 表現リズム遊び、表現運動 第13回：領域別指導法⑧ 保健 第14回：模擬授業 学習指導案の評価と修正 ICT の効果的な活用 運動が苦手な児童への指導の工夫・配慮 第15回：学習指導要領の理解（確認）と授業設計（まとめ） 確認テスト *実技の際は、運動着、体育館シューズを用意してください。

アクティブラーニング	○実技、演習 ○グループワーク ○ディスカッション
授業内の ICT 活用	浜松市の小学校現場で活用されている Google Classroom を活用します。 確認テスト等には WebClass を活用します。
評価方法	模擬授業 30% 毎回の活動と授業後のフィードバック 30% 確認テスト 40%
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックします。
指定図書	文部科学省「小学校学習指導要領解説 体育編」
参考図書	文部科学省『『生きる力』を育む小学校保健教育の手引き』 白旗和也「体育指導超入門」明治図書 NIER『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校体育』
事前・事後学修	指定図書の関連する部分を予習・復習する。(目安時間 40 分) 指導の計画、準備、評価を行う。
オープンエデュケーションの活用	文部科学省>学校体育の充実>指導資料集 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 学校体育実技指導資料第 4 集「水泳指導の手引（三訂版）」 学校体育実技指導資料第 9 集「表現運動系及びダンス指導の手引」 学校体育実技指導資料第 8 集「ゲーム及びボール運動」 学校体育実技指導資料第 7 集「体づくり運動」（改訂版） 学校体育実技指導資料第 10 集「器械運動指導の手引」 多様な動きをつくる運動（遊び）パンフレット
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「障がい者スポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	英語指導法
科目責任者	池田 周
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの言語習得論や学びの特性、諸外国の小学校外国語教育の実際、日本の小学校への英語教育導入の背景と目的、年間指導計画と1時間の授業展開など、小学校外国語活動・外国語科の指導に必要な基礎的理論を学ぶ。さらに ICT も積極的に活用しながら様々な言語活動を体験し、教材研究や模擬授業を通して実践的指導力を養成する。
到達目標	1. 児童の言語習得能力や発達段階、第一言語習得と第二言語習得の違いなどに関する理論的基盤を構築する。 2. 小学校外国語教育の意義と指導の特性を理解し、授業を展開するために必要な理論と指導技術を習得する。 3. 学習指導要領に基づく小学校外国語教育の目標と育成すべき資質・能力の理解に基づき、具体的な指導と評価の計画を立てる力を身に付ける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション：小学校での英語教育実践に必要な知識・理解 第2回：第二言語習得理論と外国語教育実践 第3回：小学校外国語教育導入の背景・その目的と意義・特徴、学習指導要領 第4回：コミュニケーション能力・国際理解教育 第5回：年間指導計画・単元の指導と評価の計画の立て方、 ALT とのチームティーチング 第6回：小学校外国語教育の評価 第7回：小学校外国語教育の教材・教具、指導法、音声言語から文字言語へ 第8回：教材研究1〔歌・チャンツ〕・Classroom English 1〔授業運営〕 第9回：教材研究2〔トピックの選定、タスク活動・ゲーム〕・Classroom English 2〔指導〕 第10回：教材研究3〔絵本・その他〕・発音指導 第11回：授業研究1（Small Talk の指導、パフォーマンス評価の実施） 第12回：授業研究2（ICT、デジタル教材の活用） 第13回：授業研究3（文字指導、音声と文字とを関係づける指導） 第14回：小・中・高等学校の外国語教育の連携の意義とあり方 第15回：まとめ：今後の小学校英語教育の動向、カリキュラムマネジメント、 国語科との連携 定期試験

アクティブラーニング	指導と評価の計画、模擬授業計画作成などにおいては、積極的にグループ学修を取り入れる。 ディスカッションやディベートも行います。
授業内の ICT 活用	電子黒板上でデジタル教材を活用した模擬授業を行う。
評価方法	授業参加（30%）、課題・模擬授業やプレゼンテーションへの取り組み（35%）、定期試験（35%）などを基に、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	授業内外で取り組む課題については、コメントや授業中での講評の形でフィードバックを行う。
指定図書	『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』 村野井 仁 編著、大修館書店、2018 ISBN-13: 978-4469246186 *以下は適宜ダウンロードして使用する 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』 https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語・外国語活動編』 https://www.mext.go.jp/content/20201029-mxt_kyoiku01-100002607_11.pdf 『小学校外国語活動・外国語科 研修ハンドブック』 文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動 国立教育政策研究所 https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_gaikokg.pdf
参考図書	その他、授業の進行に合わせて適宜指示します。
事前・事後学修	「予習」：関係諸理論の資料確認。教材研究および模擬授業・プレゼンテーション準備（40 分） 「復習」：授業の振り返り記録〔ポートフォリオ〕（40 分）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として文部科学省 MEXT Channel の視聴を勧めます。 https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	国語
科目責任者	福重 浩之
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	初等国語教育の目標・内容・方法のすべてにわたり、国語の授業を担当するための基礎となる知識、理解、技能の修得をめざす。幼児教育との連携も視野にいれている。そのためにはまず、国語教育とは何であるかを考えていく。そして、各領域の目標や内容を段階的に理解し、現代の子どもたちに合った実践方法を構築する。 本講義は、「みんなで楽しむ」ことを基本にしている。力を結集し、実のある授業にしていきたい。
到達目標	・初等国語の構造と内容についての知識の獲得。 ・初等国語指導法についての理論的理解。 ・初等国語授業を構想する力量の習得。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス 第2回：国語教育の意義と目標 第3回：国語教育の構造と内容 第4回：話しことば教育の目標・内容・方法Ⅰ（低学年の指導事項を中心に） 第5回：話しことば教育の目標・内容・方法Ⅱ（中・高学年の指導事項を中心に） 第6回：作文教育の目標・内容・方法 第7回：文学教育の目標・内容・方法Ⅰ（絵本を中心に） 第8回：文学教育の目標・内容・方法Ⅱ（古典的物語を中心に） 第9回：文学教育の目標・内容・方法Ⅲ（現代的物語を中心に） 第10回：説明的文章教育の目標・内容・方法Ⅰ（低学年の指導事項を中心に） 第11回：説明的文章教育の目標・内容・方法Ⅱ（中・高学年の指導事項を中心に） 第12回：「我が国の言語文化に関する事項（古典）」 第13回：「我が国の言語文化に関する事項（語彙・文法）」 第14回：「我が国の言語文化に関する事項（書写）」 第15回：まとめ—これからの国語教育の展望

アクティブラーニング	指導法に対する問題点を、小集団で主体的・対話的に見出し、解決策を考え、実践方法をも構築する。
授業内の ICT 活用	グループ発表時のプレゼンテーションは、パワーポイントの利用を推奨する。 Webclass の活用
評価方法	1)授業に対する姿勢 20% 2)授業レポート、提出物、発表 30% 3)最終レポート 50% 計 100%
課題に対するフィードバック	毎時間の小集団学修時では口頭で、各自の「学びへのふりかえり」に対しては論評を加え、返却する。また、取り上げるべき課題は、次回の授業の中で解決する。
指定図書	「小学校学習指導要領解説 国語編」(平成 29 年 6 月告示 文部科学省) 「小学校学習指導要領」(文科省)
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。
事前・事後学修	事前・事後：毎回、「今日の学び」に関して理解したことを整理しながら疑問点（もっと知りたいことも含む）を見出し、WebClass にまとめ、次回の授業に臨む。(40 分程度)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会
科目責任者	中村 俊哉
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	・ 小学校社会科の授業内容を実践的に体験する活動を通して、小学校社会科に関する基礎的知識を理解する。地域にて、自ら地域教材開発を行う。また、社会科の教科書から学習内容や基礎的知識を習得する。
到達目標	・ 小学校社会科教育や社会科に関わる教材に対して興味と関心をもつことができる。 ・ 社会科の今日的教育的意義を理解する。また、教材研究の進め方についての方法を習得し、教材を開発する。 ・ 社会科に関する基礎的な知識を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 私が考える社会科 第2回：今日的な教育の意義と社会科 第3回：学習指導要領と社会科 第4回：生活科と社会科の系統性と相違―町探検を中心に― 第5回：地域探検（地図づくり）と教材性について 第6回：教材づくりの方法と各学年の単元 第7回：略案（指導案）作成方法 第8回：地域探検（探索） 第9回：地域探検（教材づくり） 第10回：略案（指導案）作成 第11回：指導案発表①前半グループの発表 第12回：指導案発表②後半グループの発表 第13回：自分の故郷を教材にして（故郷を題材にする意義） 第14回：自分の故郷を教材にして（教材作成） 第15回：故郷教材の発表

アクティブラーニング	簡易な模擬授業やグループワークを行う。
授業内の ICT 活用	個人・グループ発表をプレゼンテーション形式で実施します。
評価方法	筆記試験（60%）、指導案（略案）・発表（40%）
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	なし
参考図書	「小学校学習指導要領解説社会編」（文部科学省）
事前・事後学修	事前学修としては、配布したプリントを行う。 事後学習としては、配布プリントや配布資料の振り返りを行う。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して 受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校公立公務員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	算数
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校算数科の指導内容に関する数学的背景について理解することを目的とする。 具体的には、学習指導要領に示されている算数科の目標、内容について、それぞれの領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の具体的な事例を知り、その数学的背景についての問題を解くことで、指導に必要な知識、技能を身につける。
到達目標	算数科の目的、目標、内容について理解する。 具体的な問題演習を通して指導に必要な力を身につける。 それぞれの領域の数学的背景及び指導上の留意点を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：算数科の意義・目的・目標 第2回：算数と数学 第3回：数と計算：数とは何か 第4回：数と計算：数をどう表すか 第5回：数と計算：四則演算（乗法と除法） 第6回：数と計算：四則演算（加法と減法） 第7回：数と計算：四則演算のゴール 第8回：「九九表」を通した各領域にまたがる数学的な考え方 第9回：量の分類 変化と関係 第10回：小数と分数 第11回：図形：図形の見方「構成要素」 第12回：図形：図形の見方「対称 比」 第13回：立体 面積・体積 第14回：データの活用：統計グラフと代表値等 第15回：まとめと授業内容理解度調査

アクティブラーニング	演習及び問いに対する意見表明の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの協議 ・演習
授業内の ICT 活用	Web Class の活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題 30% 授業内容理解度調査 70% 総合評価 60%以上でも授業内容理解度調査 60%未達の場合は特別再試を実施する。
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説算数編」（文部科学省）
参考図書	小学校算数教科書（各教科書会社） 適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	毎回、学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間 40 分） 第 12 回後～第 15 回前：レポート「算数に関する本を読み、テーマを設定し A4 1 枚に考えをまとめる」（320 分＝8 回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	レポート課題に向けた学修
オフィスアワー	飯田研究室（2712）水曜日 12:00～13:30（第 2 水曜日を除く）
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	理科
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学習指導要領に示されている理科の目標、内容について、それぞれの領域の具体的な事例を取り上げ、その背後にある理論の理解や、問題を解くことで指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。併せてキー概念を活用して現象を解説することができる。
到達目標	理科の目的、目標、内容について理解する。 取り上げる単元の背後にある理論を理解する。 キー概念を活用して現象の解説ができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：理科の意義・目的 第2回：理科の見方・考え方で実験「身近な科学」 第3回：生命領域：生態学的見方とその活用 第4回：生命領域：「動物」と生存戦略 第5回：生命領域：「植物」と生存戦略 第6回：生命領域：「微生物、ウイルス」と生存戦略 第7回：生命領域：「人体」と身体機能 第8回：粒子・エネルギー領域：「物質の性質」 第9回：粒子・エネルギー領域：「物質の多様性」と「物質の変化」 第10回：粒子・エネルギー領域：「力学的エネルギー」 第11回：粒子・エネルギー領域：「音と光」 第12回：地球領域：「地球と天体の運動」 第13回：地球領域：「変動と循環：地質活動」 第14回：地球領域：「変動と循環：気象」 第15回：まとめ及び授業内容理解度調査

アクティブラーニング	問いに対する意見表明や、課題を解決する小集団の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループ活動 ・演習
授業内の ICT 活用	Web Class の活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題 40% 授業内容理解度調査 60%
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説理科編」（文部科学省）
参考図書	適宜プリント等を配布する。 小学校理科教科書（各教科書会社）
事前・事後学修	学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 記述による学習記録（事後学修） （目安 40 分） 第 15 回前：レポート「キー概念を活用した現象解説」（160 分＝4 回分を要する） 第 15 回前：レポート「理科に関する本を読み、テーマを決め A4 1 枚に考えをまとめる」（280 分＝7 回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	レポート課題に向けた学修
オフィスアワー	飯田研究室（2712）水曜日 12:00～13:30（第 2 水曜日を除く）
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学習指導要領に示されている生活科の目標、内容について、それぞれの内容を追体験することや、生活科の背景にある理論を学ぶことで、指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。
到達目標	生活科の目的、目標、内容について理解する。 体験活動を通じて指導に必要な力を身につける。 それぞれの内容の指導上の留意点を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：スタートカリキュラムとしての生活科の意義 第 2 回：生活科の意義・目的：生活科誕生に至った経緯 第 3 回：学習指導要領解説：生活科目標の構成 第 4 回：生活科の実際：スタートカリキュラムとしての学校探検 第 5 回：生活科の実際：「成長」「表現」を主題とした学校探検 第 6 回：生活科の実際：飼育・栽培活動 第 7 回：「生命尊重」を教科横断的に探究 第 8 回：幼小接続：「遊び」と「学習」をつなげるもの 第 9 回：幼小接続：「10 の姿」から生活科を考える 第 10 回：生活科の実際：おもちゃを作り遊ぶ 第 11 回：「10 の姿」からみた単元「おもちゃを作り遊ぶ」 第 12 回：生活科の実際：地域探検 第 13 回：生活科の実際：地域探検の成果の検討 第 14 回：生活科の実際：「10 の姿」と生活科各内容 第 15 回：まとめと授業内容理解度調査

アクティブラーニング	生活科の学習内容を体験する場を確保し、学習指導要領生活科編の理解深化を目指す。 ・体験活動 ・小集団での協議 ・演習
授業内の ICT 活用	Web Class の活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題 60% 授業内容理解度調査 40%
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説生活編」（文部科学省） 「実践事例で学ぶ 10 の姿と生活科」（大学図書出版）
参考図書	適宜紹介する
事前・事後学修	毎回、学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間 40 分） 第 9 回後～11 回前：工作を完成させ、11 回で成果を発表できるよう準備する（120 分＝3 回分を要する）。 第 12 回～13 回前：探究活動を実施し、13 回で成果を発表できるよう準備する（240 分＝6 回分を要する）。
オープンエデュケーションの活用	グループ発表に向けた探究活動
オフィスアワー	飯田研究室（2712）水曜日 12：00～13：30（第 2 水曜日を除く）
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもと音楽
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	児童の遊びと学びの精神に溢れた音楽活動ができる環境を設定できるように、教育者として必要な音楽の基本的知識と技能を身に付ける。具体的には、音楽指導と実践に必要な楽典を学ぶことで音楽理論に関する知識を得る。また、器楽や歌唱による音楽表現を体験し、その音楽的感覚を持って教育現場での音楽的活動の実践ができる技術を養う。
到達目標	1. 楽典を学び、譜表、音名、リズム、音程、楽語、音階、調性などについて理解する。 2. 鍵盤楽器及び打楽器の構造や奏法を理解し演奏することが出来る。 3. 合唱曲に取り組み、和声感や音程感覚を身に付け演奏することが出来る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員：二宮、金山（第6～11回）> 第1回：小学校学習指導要領及び幼稚園教育要領の音楽に関する内容について理解する。 第2回：譜表、音名、音符、休符、リズム、拍子について理解する。 第3回：音程、音階、調性について理解する。 第4回：三声の基本コードについて理解する。 第5回：主要三和音、属七の和音、簡易伴奏について理解する。 第6回：小学校音楽科共通教材 1、2、3 学年の弾き歌いを通して器楽の奏法について理解する。 第7回：小学校音楽科共通教材 4、5、6 学年の弾き歌いを通して器楽の奏法について理解する。 第8回：小学校や幼稚園で扱う楽器を教材に用いて、奏法について理解する。 第9回：小学校や幼稚園で扱う鍵盤楽器、打楽器を用いて演奏し、合奏について理解する。 第10回：器楽合奏の発表を通して演奏方法について振り返りまとめる。 第11回：合唱の基礎である呼吸法と歌唱法を理解する。 第12回：二声体の曲を教材として用いて、二声体の和声を感じ取りながら演奏する。 第13回：四声体の曲を教材として用いて、四声体の和声を感じ取りながら演奏する。 第14回：四声体の合唱を通して音楽のテクスチャを感じ取り歌唱表現について理解する。 第15回：四声体の合唱の発表を通して歌唱表現について振り返りまとめる。 定期試験

アクティブラーニング	個人及びグループで主体的に学修に取り組みます。
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。
評価方法	器楽合奏の取り組み 30% 合唱の取り組み 30% 定期試験 40% (レポート)
課題に対するフィードバック	譜読みした曲に取り組み、演奏法や音楽表現について講評します。
指定図書	『最新・幼児の音楽教育』(朝日出版社)
参考図書	『幼稚園教育要領』(文部科学省)『小学校学習指導要領』(文部科学省)
事前・事後学修	指定図書・参考図書を読み、掲載されている楽譜の譜読みを行って下さい。事前・事後学修は、それぞれ 40 分間程度行って下さい。
オープンエデュケーションの活用	合唱等の演奏を人前で披露し表現力の向上に生かす。
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	図画工作
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、児童・幼児の発達と図画工作科学習や造形表現活動の関係をふまえた材料・技法についての検討、また作品制作の実習を通して、学生自身が造形表現の楽しさや喜びを体験し、児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動に適切な題材・教材の選択や支援ができるようにする。保育所・幼稚園、小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	1. 児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動で使用される代表的な材料や用具の使用方法について正しく理解し、指導することができるようにする。 2. 児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動のプロセスを検討することによりその教育的な意義を理解する。 3. 図画工作科学習や造形表現活動の基盤となる造形・美術の実習課題を通して、題材設定や環境設定のあり方、準備の要点など指導上の具体的な課題について検討し、実践できるようにする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：材料との出会い-1：紙との出会い／オリエンテーション 《学生の準備物》はさみ、のり 第2回：材料との出会い-2：紙と対話する ・新聞紙をもとにした活動でアイスブレーキング・紙への造形操作（切る・折る・曲げる…） 《学生の準備物》はさみ、カッターナイフ、のり、定規 第3回：行為の楽しさ-1：粘土を知る 《学生の準備物》学習途中では裸足で活動するので、裸足になりやすい服装、また エプロン・ 前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。手足をふくタオルなど。 第4回：材料との出会い-3：パスとの出会い ・パスによる多様な表現技法 《学生の準備物》パス（オイルパスもしくはクレヨン） 第5回：行為の楽しさ-2：絵の具を知る（色水屋さんごっこ・混色・重色） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第6回：行為の楽しさ-3：絵の具を知る（絵の具で描く・塗る） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第7回：行為の楽しさ-4：絵の具をきわめる（筆洗・パレット・筆の基本的な扱い） ・ローラー遊び・スタンプング・指絵の具・デカルコマニー 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第8回：行為の楽しさ-5：絵の具をきわめる（絵の具と他の材料・用具との併用） ・スパッタリング・バチック・マーブリング など 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第9回：題材との出会い-1：版遊び・版画（スチレン版画） 第10回：題材との出会い-2：版遊び・版画（紙版画） 第11回：材料との出会い-5：水と墨の魅力 《学生の準備物》割り箸、エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第12回：子供と創る壁面構成-1：イメージの共有 浜松市立与進幼稚園等の実際の小学校や幼稚園の壁面構成を鑑賞しながら、小学校や幼稚園における壁面構成の意味と課題を探る。

	第13回：子供と創る壁面構成-2：共有（様々な表現技法や材料の特徴を生かした壁面構成、造形的な教室環境の設定を考える。） 第14回：子供と創る壁面構成-2：共創（共同制作する。） 第15回：子供と創る壁面構成-3：鑑賞（展示し、鑑賞する。） 定期試験は実施しない。
アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場実践の具体的な実践や、そこで生まれた子供の作品などの検討や考察、協議 グループによる共同制作と発表 保育所・幼稚園、小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	特になし。 時に、Web 動画の視聴などに使用する。
評価方法	（1）授業で課した課題・作品（スケッチブック・事前・事後学修含むポートフォリオ）の評価…40% （2）授業態度（学習記述、参加態度など）…60% ・スケッチブック・事前・事後学修含むポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。（提示方法：別紙配布）
課題に対するフィードバック	振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。 互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。
指定図書	『小学校学習指導要領解説』『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
参考図書	槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林） 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」（日本文教出版）
事前・事後学修	全ての授業で、概ね 40 分を目安に事前・事後学修に取り組み、記述による学習記録（事後学修）・習得した技法による作品制作とスケッチブックの整理・ポートフォリオとしてのスケッチブックの作成・整理（事前・事後学修）
オープンエデュケーションの活用	・自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。 NHK「キミなら何つくる？」 https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	家庭
科目責任者	小清水 貴子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校家庭科の学習指導要領や教科書に基づいて、基礎的・基本的な小学校家庭科の知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関する理解を深めます。また、小学校家庭科の教材研究等に必要な知識及び技能を身につけます。
到達目標	小学校教員として必要な家庭科に関する教科力を身につけることを目指します。具体的には、小学校家庭科の授業実践に求められる基礎的・基本的な知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を、授業場面を意識しながら身につけます。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>小清水 貴子 (第1～4、6～15回担当) 古橋 啓子 (第5回 調理実習担当) 第1回：小学校家庭科における指導内容と見方・考え方等の位置づけ 第2回：「A家族・家庭生活」の教材研究に必要な知識及び技能 第3回：「A家族・家庭生活」の学習指導のための教材研究 第4回：「B衣食住の生活」の食生活の教材研究に必要な知識及び技能(1)栄養 第5回：「B衣食住の生活」の食生活の教材研究に必要な知識及び技能(2)調理 第6回：「B衣食住の生活」の食生活の学習指導のための教材研究 第7回：「B衣食住の生活」の衣生活の教材研究に必要な知識及び技能 第8回：布を用いた製作の実習指導における指導法の体験(1)基礎縫い 第9回：布を用いた製作の実習指導における指導法の体験(2)袋の製作 第10回：布を用いた製作の場面指導における模擬授業の実践と振り返り 第11回：「B衣食住の生活」の住生活の教材研究に必要な知識及び技能 第12回：「B衣食住の生活」の住生活の学習指導のための教材研究 第13回：「C消費生活と環境」の教材研究に必要な知識及び技能 第14回：「C消費生活と環境」の学習指導のための教材研究 第15回：まとめ

アクティブラーニング	事前学習課題，グループワーク，実習，対話・討議を行います。
授業内の ICT 活用	情報機器を活用して，指導内容や教材研究のプレゼンテーションを行います。
評価方法	課題レポート（60%），毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%） レポートはルーブリックを用いて評価し，ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	レポートに対するコメントおよび解説
指定図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版 伊藤葉子編著『授業力UP家庭科の授業』（日本標準）
参考図書	授業において適宜資料を配布します。
事前・事後学修	毎回の授業で本時のまとめと次時の予告をします。指定図書や参考図書を用いて自分 ができなかった課題について復習するとともに，次時の事前課題に取り組んでくださ い。
オープンエデュケーション の活用	自主学習として，以下の URL の番組の視聴路を進めます。 NHK for School カテイカ https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は家庭科教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目 です。
メディア授業の 実施について	なし

科目名	体育
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの体育活動、運動遊び及び身体表現活動を豊かに展開するために、子どもの発育・発達と運動機能や身体表現についての知識と技術を学び、発達にあった体育活動、運動遊びを促すことができる環境構成、具体的展開のための技術を習得する。 子どもの指導・援助者として、子どもの表現を受け止め共有できる開かれた身体をつくることを目標に、柔軟性を高め、姿勢や歩行のレッスンをを行い、自らの身体や運動への意識を高める。
到達目標	1 子どもの発育発達過程に沿った体育、運動遊びの重要性を理解する。 2 発育発達過程をいかして体育活動、運動遊びや身体表現を促すことができる環境設定、指導方法を習得する。 3 子どもの指導・支援者にふさわしい姿勢、柔軟性を身につけ、身体への意識を高める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 柔軟な身体の重要性 体ほぐしの運動(遊び) 第 2 回：子どもの発育発達過程 姿勢の重要性 第 3 回：指導者・支援者にふさわしい身体意識、体力を身につけるために 第 4 回：発育発達過程に沿った運動遊び コアキッズ体操 第 5 回：環境に適応するための運動遊び（くぐる、わたる、ぶらさがる、のぼる） 第 6 回：運動遊びから児童の運動への展開 年齢に応じた運動(遊び)の実際 第 7 回：多様な動きをつくる運動(遊び) 第 8 回：器械・器具を使つての運動(遊び) 第 9 回：表現リズム遊び(表現運動) 第 10 回：走・跳の運動（陸上運動） 第 11 回：ボールゲーム(ボール運動) 第 12 回：体づくりの運動遊び(小・低学年) 第 13 回：体づくり運動（小・中学年） 第 14 回：体づくり運動（小・高学年） 第 15 回：実技発表 まとめ *運動着、体育館シューズを用意してください。

アクティブラーニング	○実技 ○グループワーク ○実技発表 実技科目です。
授業内の ICT 活用	実技動画視聴のためにプロジェクター、iPad を使用する。
評価方法	実技発表 50% 授業への取組（意欲・積極性 WebClass への学びの記録） 50%
課題に対するフィードバック	実技発表についてはその場で講評します。 WebClass のタイムラインで、意見・質問に対応します。
指定図書	なし（資料配布）
参考図書	文部科学省「小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック」アイフィス 文部科学省「体づくり運動：授業の考え方と進め方(改訂版)」東洋館出版社 「幼児期運動指針ガイドブック」文部科学省
事前・事後学修	子どもの支援者にふさわしいように健康状態、身なりを整えて、授業に臨む。 毎回、授業後に WebClass に学びを記録する。(30 分) 授業での学びを日常生活に活かし、姿勢を意識し、身体への意識を高め、生活する。 ストレッチなどの運動を習慣化する。(10 分、週 3 日以上)
オープンエデュケーションの活用	文部科学省＞学校体育の充実＞指導資料集 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm ＜NHK＞2020 応援ソングプロジェクト https://sports.nhk.or.jp/dream/song/about/
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示
実務経験に関する記述	本科目は「幼児体育指導員」「障がい者スポーツ指導員」の実務経験を有する講師が 実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもと英語
科目責任者	パターソン・ドナルド (Donald Patterson)
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校における授業実践に必要な英語力と知識を身につけることを目的とする。学生自身が英語の4技能・コミュニケーション能力を向上させるための方法を学ぶ。さらに、英語に関する基礎的な知識（音声・語彙・文構造・文法等）、第二言語習得に関する基本的な事柄を理解する。また、英米の児童文学や言語の背景にある文化の理解への興味や知見を広げる。
到達目標	1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践運用能力を授業場面を意識しながら身につける。 2. 中学校への接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身につける。
授業計画	<担当教員名> パターソン・ドナルド <授業内容・テーマ等> 第1回：音声による授業実践「聞くこと・話すこと（やりとり・発表）」 第2回：英語ネイティブの人々との話し合い 第3回：文字による授業実践「読むこと・書くこと」 第4回：英語でeメールをする 第5回：技能統合型の活動 実践の様子から学ぶ（小学校での英語活動に参加） 第6回：第二言語習得論と言語学 第7回：英語の音声の仕組み 第8回：英語の音声と綴りの問題及びフォニックス指導、中間テスト 第9回：英語の文法及び構文法 第10回：英語の伝承童謡（マザーグース等）（小学校・こども園での英語活動に参加） 第11回：英米の絵本（エリック・カール等）（小学校・こども園での読み聞かせを行う） 第12回：英米の児童文学（CS ルイス等） 第13回：英米の文学と生活 第14回：多様性と異文化理解と 第15回：異文化交流と言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション、最終テスト

アクティブラーニング	グループ学修、ロールプレイング、プレゼンテーション、Google Classroom の活用
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	授業への参加度・提出課題（60%）、中間テスト（20%）、最終テスト（20%）
課題に対するフィードバック	小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	『Hello, English』（成美堂）Fujiwara, Aiba, Byrd, Barrows（作者）（ISBN 9784791947973）
参考図書	『小学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 『Hi, friends! 1』『Hi, friends! 2』東京書籍 『フォニックス指導の実際』ハイルマン、A.W(松香洋子監訳) 玉川大学出版部 『先生、英語のお話を聞かせて！-小学校英語「読み聞かせ」ガイドブック』ゲイルエリス他著 玉川大学出版部 『Planet Eigo: Down to Earth Team Teaching』Association for Japan Exchange and Teaching
事前・事後学修	Google Classroom による課題、レポート。 ※原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。 研究室：5704 号室 メール：patterson@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもと健康
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもが「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことを支援するために必要な知識・技能を身につける。
到達目標	1. 乳幼児の発達における健康の重要性を理解する。 2. 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。 3. 乳幼児の発育発達過程について、説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 健康とは 健康のために心がけていること 第2回：乳幼児期の健康な生活 健康課題 第3回：現代社会における子どもの健康の現状と課題 第4回：乳幼児の体の発達、発育発達過程、幼児期運動指針 第5回：基本的生活習慣の重要性（1） 生活リズム、睡眠 第6回：基本的生活習慣の重要性（2） 食事 第7回：安全教育と安全管理 第8回：遊びとしての運動 確認テスト

アクティブラーニング	○ディスカッション
授業内の ICT 活用	WebClass に学びを記録する。
評価方法	確認テスト 50% 授業への取組 50%(参加度、ワークシート、WebClass)
課題に対するフィードバック	WebClass への記録について、次の授業でフィードバックする。
指定図書	なし(資料配布、WebClass に掲載)
参考図書	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」 前橋明「乳幼児の健康」(第3版) 大学教育出版 河原紀子「0歳～6歳 子どもの発達と保育の本」 学研 谷田貝公昭「幼児の基本的生活習慣」 一芸社 林万里「やさしく学ぶからだの発達」 全国障害者問題研究会 林万里「やさしく学ぶからだの発達 part2」 全国障害者問題研究会
事前・事後学修	WebClass 掲載資料を予習・復習する。(目安時間 40 分) 子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、視野を広げる。
オープンエデュケーションの活用	文部科学省＞スポーツ＞子どもの体力向上＞幼児期の運動 幼児期運動指針について https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319192.htm
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもと言葉
科目責任者	花家 彩子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	絵本、紙芝居、劇遊び等に関する知識と技術を習得することを目的とする。子どもが児童文化財等について親しむことができるよう、保育現場での遊びへの導入についても演習を通して学修する。作品を作成した経験を保育実習に生かす。
到達目標	・子どもの成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター等の遊びを中心に保育現場での実践に必要な言葉の表現技術を養う。 ・絵本、紙芝居について理解し、保育実践につながる方法・技術を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・「乳幼児の言葉の発達と言葉遊び」 第2回：絵本の秘密と読み語りの方法 第3回：読み語りをしよう 第4回：読み語りから劇遊びをしよう 第5回：劇遊びを発表しよう 第6回：絵本（5歳児向け）を作ろう（企画） 第7回：絵本（5歳児向け）を作ろう（製作） 第8回：絵本の世界を楽しもう 第9回：紙芝居の秘密と読み語りの方法 第10回：紙芝居をしよう 第11回：ペープサートを作ろう（個人・グループ） 第12回：ペープサートを紹介し、パペット作りの計画を立てよう（個人・グループ） 第13回：紙コップでパペットを作りながら、劇の計画を立てよう（個人・グループ） 第14回：パペット、ペープサートで劇をしよう（個人・グループ） 第15回：こどもとことばとは

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	Webclass を活用し、出席管理、授業前アンケート、リアクションペーパーの提出、授業時の資料等を提供する。
評価方法	レポート・演習（ペープサート・パネルシアター・朗読・創作絵本）60% 最終レポート 40%
課題に対するフィードバック	ペープサート・パペット・パネルシアター・からくり絵本等自作の文化教材については、指定期日までに自主作成し、授業内でグループ発表をする。また、毎回の演習に関するリフレクションシートには、コメント等を入れつつ、支援していく。
指定図書	『小学校学習指導要領解説』『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	言葉に関する保育指導に関しては、授業前に事前課題として回答し、児童文化財の演習を通して理解を深め、WebClass にまとめる。（2～10 回目）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもと人間関係
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について学び、その育ちを支える視点について事例をもとに理解を深めます。特に、自己や身近な大人とのかかわりから子どもの世界が広がっていく過程を知り、他者や集団との関係の中でこども達が人とのかかわる力をどのように育んでいくのかについて学びます。
到達目標	1. こどもを取り巻く人間関係をめぐる現代の諸課題を理解し、説明できる。 2. 乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解し、説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：現代社会とこどもの人間関係 第 2 回：3 歳未満児における人間関係の発達 第 3 回：遊びや生活を通して育つ人と関わる力 第 4 回：乳幼児期における「自立」の芽生え 第 5 回：幼児期における協同性の育ち 第 6 回：幼児期の道徳性・規範意識の育ち 第 7 回：乳幼児期の人間関係の広がり 第 8 回：乳幼児期に育みたい資質能力と人間関係・まとめ 定期試験は実施しない。

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションやグループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み（リフレクションペーパー）：50% レポート：50% ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを次の回にコメントを記載して返却、授業の中でフィードバックを行う。レポートについても添削して返却する。
指定図書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）
参考図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）、その他授業中に適宜資料を配布する。
事前・事後学修	・様々な保育実践について学ぶ準備のための課題を事前に提示する（各 20 分 2～6 回）。 ・事後学修として、学んだ内容についてプリント等を再読し、理解を深め、不明点は質問すること（各 20 分 8 回）。 ・レポートについては授業内で課題を提示するので、関連サイトや文献を用いながら作成し、必ず期日までに提出すること（60 分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は保育所での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもと表現
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、乳幼児や児童の発達とその時々の表現活動の関係をふまえた環境・材料・用具・技法についての検討、また表現活動の実習を通して、学生自身が表現の楽しさや喜びを体験し、乳幼児や児童の表現活動に適切な題材・教材の選択や支援ができるようにする。保育所・幼稚園、小学校等の表現を中核とした課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	1. 乳幼児や児童の表現活動で使用される代表的な材料や用具の使用方法について正しく理解し、指導することができるようにする。 2. 乳幼児や児童の表現活動のプロセスを検討することによりその教育的な意義や価値を理解する。 3. 表現活動の基盤となる実習課題を通して、題材設定や環境設定のあり方、準備の要点など指導上の具体的な課題について検討し、実践できるようにする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション（シラバス説明・授業概要） ・「表現とは何か」「子供の表現の特徴と魅力」について、10の姿「豊かな感性と表現」と結び付けて考える。 ・レッジョ・エミリアアプローチなど世界の先進事例に学ぶ① 第2回：幼児教育における表現①「比べる・感じる」 ・感性をみがく…子供の体を感じてみよう！（2歳児に変身?!） 2歳児にとっては新聞1枚がとても大きいことを実感した上で、新聞紙など身近な紙材を使った造形遊びの活動の体験をする。 ・レッジョ・エミリアアプローチなど世界の先進事例に学ぶ② 第3回：幼児教育における表現②「感性をみがく・心をひらく」 ・感じ合うことから…「新聞紙の大きな卵」 ・物語を紡ぎ出すアートの特性を生かしたワークショップ 前時に引き続き新聞紙による共同的な遊びをインターネットで検索して見つけたり、実際に展開したりする。また、印刷紙を折ったり、破ったり、丸めたりしてできた形からお話作りの活動を体験する。 ・レッジョ・エミリアアプローチなど世界の先進事例に学ぶ③ 第4回：環境との出会い①：自然を味わう ・センス・オブ・ワンダー（レイチェル・カーソン）と子供の感性 第5回：環境との出会い②：自然を活かした表現 ・森探検からの音や色、形、香りなどの模索と探求 第6回：環境との出会い③：自然を生かす表現 ・表現活動の展開と提案 第7回：行為の楽しさ①：感触遊び ・砂や粘土、スライムなどの感触遊び・身体活動の展開 第8回：行為の楽しさ②： ・音や色・形などからの表現活動の展開 第9回：素材との出会い① ・ワークショップ…身近なもので動く人形・風車をつくろう 子供の絵を中心に表現における発達の特徴を理解し、また自由に描いた絵から人形や風車をつくりだす遊びの活動を体験する。 第10回：素材との出会い② ・素材～水、紙、石、ひも、葉等を使っての色、形の表現探索 （上記4～10回は天候などの関係で前後することが予想されます。）

	第11回：素材との出会い③ ・身の回りにあるプラスチックの容器やストロー、紙皿、紙コップなどを使って造形遊びをしたり、人形や音の出る楽器をつくったりなどして、活動展開を考える。 第12回：素材との出会い④ ・前時の遊びやつくったものを使った活動を発表する。 第13回：保育・教育における集団の表現活動と個の尊重① ・園の壁面構成や環境づくりの具体例をもとに疑似体験する。 第14回：保育・教育における集団の表現活動と個の尊重② ・ミュージカルや卒業式などの総合的な表現活動のビデオ視聴と考察 第15回：まとめとふり回り ・子供と創る表現活動の検討 定期試験は実施しない。
アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場実践の具体的な実践や、そこで生まれた子供の作品などの検討や考察、協議 グループによる共同制作と発表 保育所・幼稚園、小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	特になし。 時に、Web 動画の視聴などに使用する。
評価方法	(1) 授業で課した課題・作品(事前・事後学修含むポートフォリオ)の評価…40% (2) 授業態度(学習記述、参加態度など)…60% ・事前・事後学修含むポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。(提示方法：別紙配布)
課題に対するフィードバック	振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。
指定図書	『小学校学習指導要領解説』『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)、『保育所保育指針解説書』(厚生労働省)
参考図書	槇英子著「保育をひらく造形表現」(萌文書林) 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論(新訂版)」(日本文教出版)
事前・事後学修	全ての授業で、概ね40分を目安に事前・事後学修に取り組み、記述による学習記録(事後学修)・習得した技法による作品制作とスケッチブックの整理・ポートフォリオとしてのスケッチブックの作成・整理(事前・事後学修)
オープンエデュケーションの活用	・自主学習として、以下のURLの番組の受講を勧めます。 NHK「キミなら何つくる？」 https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもの歌と伴奏
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 34 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、幼児教育の現場で必要なピアノの弾き歌いに関する知識と技術について学習する。それぞれのレベルに応じた個人レッスンを中心に、グループ単位の実技のレッスンやクラス単位で音楽理論に関する講義も行う。過去の採用試験に出題されたピアノ曲や弾き歌い曲などにも挑戦する。伴奏技術の修得のみならず歌唱の技術の修得にも重きを置く。
到達目標	1. 弾き歌いに関する様々な伴奏法について理解できる。 2. コード進行法を理解し、コード伴奏を使った弾き歌いができる。 3. 弾き歌いのレパートリーを広げ、保育・教育の現場で即座に実践できる弾き歌いができる。
授業計画	＜担当教員名＞ 二宮 笹瀬 藤井 金山 ＜授業内容・テーマ等＞ 保育士・幼稚園教諭として現場で弾き歌いができるよう、技術や表現力を個人レッスンによってみにつける 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：季節の歌①春 コード弾き（Ⅰ度Ⅳ度Ⅴ度）正しい発声 第 3 回：季節の歌②夏 コード弾き（Ⅰ度Ⅳ度Ⅴ度）響く声 第 4 回：季節の歌③秋 コード弾き（Ⅰ度Ⅳ度Ⅴ度）息の流れと共鳴のさせ方 第 5 回：季節の歌④冬 コード弾き（Ⅰ度Ⅳ度Ⅴ度）頭声と胸声 第 6 回：生活の歌①登園時 朝、園で歌う歌などを中心にレッスンする 第 7 回：生活の歌②降園時 お片付けや帰り際に歌う歌などを中心にレッスンする 第 8 回：行事の歌①春～夏 入学時から春にかけての行事の歌をレッスンする 第 9 回：行事の歌②秋～冬 秋から冬にかけての行事の歌をレッスンする 第 10 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて テンポの速い曲 第 11 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて 特徴的なリズムの曲 第 12 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて テンポの緩やかな曲 第 13 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて就職試験に出された曲 東海地方 第 14 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて就職試験に出された曲 関東地方 第 15 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて 演奏会 定期試験

アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの 双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。
評価方法	授業態度 30% 定期試験 70%
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする
指定図書	★やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月 新星出版社 ★こどものうた200チャイルド本社 ※図書については担当教員と相談し購入すること
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：レッスンを受ける曲についてリズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 事前学修2時間、事後学修2時間程度行うこと。
オープン教育の活用	ピアニストの公開レッスンを受講し音楽表現や演奏技術の向上に生かす。※状況によりますので、詳細は授業の中でお伝えいたします。
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	対面授業を基本としますが、状況に応じて対応いたします。

科目名	器楽
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 12 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	幼児教育の現場では、ピアノによる弾き歌いの演奏技術が求められる。そのために器楽Ⅰでは最低限習得しなければならないピアノの奏法及び音楽理論、弾き歌いのためのピアノ伴奏法について重点的に学習する。授業は、個々のレベルに応じた個人レッスンの形態で行う。
到達目標	1. ピアノ演奏における基礎的な知識と奏法を身に付け、個々のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲を演奏することができる。 2. 子どもの歌の伴奏法を身に付け、個々のレベルに応じてピアノを弾きながら歌うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞ 二宮 笹瀬 藤井 金山 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：ピアノを弾く姿勢、手の形、指使いについて 第 3 回：音部記号（ト音記号とヘ音記号）について 第 4 回：音符の種類、拍子、付点のリズムについて 第 5 回：変化記号、音階について 第 6 回：右手でト音記号の練習、左手でヘ音記号の練習をする 第 7 回：左手と右手のユニゾンと反進行の練習、指の交差について 第 8 回：調号について 第 9 回：長調について 第 10 回：短調について 第 11 回：速度、強弱、いろいろな記号や用語について 第 12 回：実技試験に向けてのレッスン①楽譜に照らし合わせて音の確認 第 13 回：実技試験に向けてのレッスン②両手で練習をする 第 14 回：実技試験に向けてのレッスン③表情をつけて弾く 第 15 回：実技試験にむけてのレッスン④曲想やダイナミクスをつけて仕上げる 定期試験

アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み 30% 実技試験70%
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする。
指定図書	★保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のあめのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付 カワイ出版 ※テキストが終了した者は個人レッスンを担当する教員と相談し次のテキストを購入すること ★やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月 新星出版社
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：レッスンを受ける曲について、ドレミの階名読み、リズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 事前学修1時間、事後学修1時間程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	ピアニストの公開レッスンを受講し音楽表現力や技術の向上に生かす。※状況によりしますので、詳細は授業の中でお知らせいたします。
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	対面授業を基本としますが、状況に応じて対応いたします。

科目名	保育内容（健康）
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもが「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことができるよう、「明るく伸び伸びと行動し充実感を味わう」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける」ことを支援する方法を様々な視点から理解し、考察し、実践につなげる。 具体的には、映像を通して発達段階をとらえ、各年齢に応じた健康の支援を理解した上で、生活リズム、遊び、運動、食事、排泄、清潔等をテーマとして、新聞記事や調査結果から現状を把握し、絵本や紙芝居等を活用した指導案、保護者向けおたよりを作成する。
到達目標	1. 子どもの健康に関する現状・課題を理解し、健康的な生活を支援する方法を考察し、指導案、保護者向けおたよりを作成できる。 2. 自身の健康について考え、支援者としてふさわしい健康習慣を身につける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 健康とは 第2回：幼児期の健康な生活 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「健康」領域のねらいと内容 第3回：現代社会における子どもの健康の現状と課題 基本的生活習慣の重要性 第4回：1 歳児の健康とその支援 運動発達 第5回：2 歳児の健康とその支援 生活リズム、睡眠、食事 第6回：3 歳児の健康とその支援 排泄の習慣と自立 第7回：4 歳児の健康とその支援 清潔、着脱の習慣と自立 第8回：5 歳児の健康とその支援 遊びの発達とその支援 第9回：健康な生活習慣の形成の指導、援助と評価 第10回：テーマ別研究 子どもの姿を知る 情報機器及び教材の活用法 第11回：援助計画（指導案）の作成 活用する教材の選定 第12回：保護者向けおたよりの作成 情報機器の活用 第13回：援助計画（指導案）に応じた模擬保育の実施 第14回：安全教育と安全管理 幼保小接続と生涯発達 第15回：まとめ 支援者の健康習慣 定期試験

アクティブラーニング	○グループワーク ○ポスターセッション 子どもの健康生活習慣をテーマにグループ学習し、ポスターセッションで発表する。
授業内の ICT 活用	WebClass に学びを記録する。WebClass 掲示板を活用する。
評価方法	筆記試験50% グループ発表30% 授業への取組20%(参加度、ワークシート、WebClass)
課題に対するフィードバック	グループ学修については授業内でフィードバックする。 試験結果は期間を決めて問い合わせに答える。
指定図書	前橋明「乳幼児の健康」(第3版) 大学教育出版
参考図書	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」 河原紀子「0歳～6歳 子どもの発達と保育の本」学研 谷田貝公昭「幼児の基本的生活習慣」一芸社 林万里「やさしく学ぶからだの発達」全国障害者問題研究会 林万里「やさしく学ぶからだの発達 part2」全国障害者問題研究会
事前・事後学修	指定図書の関連する部分を予習・復習する。(目安時間 40 分) 「保育内容」「発達心理学」「子どもの保健」等での学びと結びつける。 子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、視野を広げる。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育内容（言葉）
科目責任者	鈴木 まき子
単位数他	2単位（30時間） 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業は講義と演習により構成され、講義を通して保育内容 5 領域全体の理解と「言葉」の領域の位置付けについて理解する。そのうえで保育実践のあり方、指導法について、子供の発達段階、個人特性、および保育環境という視点から学ぶ。演習では、保育計画（指導案）を作成し、実際に教材を用いて授業で発表する。さらに、保育・幼稚園教育の歴史的経緯、現代の保育現場の多様性、現代的課題についても学び、これからの多様な保育のニーズに対応できる知識と実践力を身につける。
到達目標	「言葉」の領域のねらいに則り、保育の現場においてどのように具現化するか、その指導法について学び、子供の特性や環境に配慮した保育実践を学ぶ。 1 子供の特性や発達段階に配慮した教材作成や言葉かけができる。 2 保育の本質と保育と家庭生活の連続性を理解し、独自の保育指導案を作成する。 3 子供の言葉を豊かに育む保育環境を構成し、実践する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション「ことば」及び児童文化財「エプロンシアター」について 「エプロンシアター」教材「エプロン」購入 第2回：幼稚園教育要領および保育所保育指針について 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について 第3回：保育の基本と領域「言葉」 第4回：「手袋人形」の作成と語り 第5回：わらべ歌の演習 第6回：わらべ歌と乳幼児の言葉の発達 第7回：言葉とコミュニケーション、発達の道筋① 乳幼児期の言葉、コミュニケーション、社会性の発達 第8回：言葉とコミュニケーションの発達の道筋② 現代の乳幼児保育・教育の多様性と課題 第9回：言葉を育む保育者の役割と援助について 第10回：保育者が広げる物語の世界 「飛び出す絵本」の作成と語り 第11回：保育環境と言葉、体験を通して育つ言葉 子育て広場での実践① 保育計画（指導案）を作成、実際に教材を用いて発表する 第12回：子育て広場での実践②乳児対象の絵本の読み語り—教材研究と活用の仕方— 第13回：就学前の子供を対象とした保育活動①「エプロンシアター」上演 保育計画（指導案）を作成、実際に作成した教材を用いて発表する 第14回：就学前の子供を対象とした保育活動② 第15回：まとめ 小テスト

アクティブラーニング	演習科目です。体験的に学ぶ中で、保育をする上での要点について考え、洞察を深めたいと考えます。
授業内の ICT 活用	模擬保育をビデオ撮影し、幼児理解、保育環境、援助、言葉掛け等、実践の振り返りをします。
評価方法	レポート・発表（指導案 模擬保育 子育て広場での取り組み）40% 小テスト 60%
課題に対するフィードバック	「幼児理解の理論と方法」の授業と連動させる。子供の成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等の児童文化教材を中心に保育現場で活かせる必要な言葉の表現技術を養うことができたか、「模擬保育」「子育て広場」での実践により振り返る。多様な保育のニーズに対応できる知識と実践力を身につけることができたか、ビデオ撮影し、PDCA サイクルにて確認し、保育者としての自信をつける。保育所・幼稚園・こども園での実習に繋げる。
指定図書	保育内容指導法「言葉」田上貞一郎著 高荒正子著 萌文書林 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞チャイルド本社 定価（本体 500 円＋税）
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。
事前・事後学修	【事前学修】子育てひろば、附属こども園での実践にあたり、発達にあった視聴覚教材を選ぶこと、グループごとに活動内容に関する指導計画の作成と準備をします。 【事後学修】課題項目に基づいた振り返りを行い、レポートの提出をします。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育内容（人間関係）
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、「人とのかかわる力」を育む領域「人間関係」の原理と実践を学びます。具体的な活動や事例を通して、領域「人間関係」を園生活や遊びの中で捉えながら、子どもの育ちを支える実践を計画、実践、評価できる力を培います。
到達目標	1. 領域「人間関係」のねらい・内容について、こどもの姿と関連させて理解し、説明できる。 2. 領域「人間関係」に必要な援助と環境構成の基本的な知識と技術を説明できる。 3. 領域「人間関係」にかかわる諸実践や基本教材について学び、実践の構想力をつける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション：領域「人間関係」のねらい及び内容 第2回：乳幼児教育の基本と人とのかかわり 第3回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達－乳児期前期の発達と人とのかかわり 第4回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達－乳児期後期の発達と人とのかかわり 第5回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達－幼児期の発達と人とのかかわり 第6回：遊びの中の人とのかかわりの育ち 第7回：領域「人間関係」と他領域とのつながり 第8回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」 第9回：附属こども園における「人間関係」の観察／計画立案について 第10回：附属こども園における「人間関係」の観察のまとめと発表／実践と評価について 第11回：多様な配慮と保育構想 第12回：園、家庭、地域の生活と人とのかかわり 第13回：領域「人間関係」を育むための保育実践－模擬保育（計画立案） 第14回：領域「人間関係」を育むための保育実践－模擬保育（実践） 第15回：領域「人間関係」に関わる現代的課題・授業のまとめと振り返り 定期試験は実施しない。

アクティブラーニング	本授業では、保育実践方法を実際に遊びや活動を通して学びます。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	ポートフォリオ：60% 指導案作成・模擬保育の実施：40% ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオや課題については添削の上、次の回に返却する。
指定図書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）
参考図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）、その他授業中に適宜資料を配布する。
事前・事後学修	・様々な保育実践について学ぶ準備のための課題を事前に提示する（各 10 分 2~15 回）。 ・事後学修では各回ポートフォリオを作成する。その際には授業で学んだ内容だけでなく、関連サイトや文献を用いながら作成し、次の回で提出すること（各 30 分 15 回）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は保育所での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育内容（環境）
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 34 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業は、5 領域のひとつ「環境」を通年で学ぶ科目です。具体的な活動や事例を通して、こどもを取り巻く環境や、こどもと環境とのかかわりについての理解を深めます。こども達が多様な環境とかかわることで生まれる育ちや学びを支えていくための保育の在り方や、それを考えるために必要な視点について学びます。
到達目標	1. 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』の領域「環境」のねらい・内容を説明できる。 2. 領域「環境」のねらい・内容を実現するための保育者の知識・技術・判断力を身につける。 3. 領域「環境」のねらい・内容を実現するための主な教材・情報機器・活動について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション：乳幼児教育の基本と保育内容「環境」 第 2 回：環境デザインと保育者の役割 第 3 回：自然とのかかわりを支える保育の展開－計画 第 4 回：自然とのかかわりを支える保育の展開－実践 第 5 回：モノとのかかわりを支える保育の展開－計画 第 6 回：モノとのかかわりを支える保育の展開－実践 第 7 回：社会とのかかわりを支える保育の展開 第 8 回：領域「環境」と小学校教育のつながり 第 9 回：保育における飼育栽培の実践事例 第 10 回：保育における飼育栽培と調理 第 11 回：環境に関わる現代的課題 第 12 回：身近な素材を用いた保育の実際－模擬保育（計画立案） 第 13 回：身近な素材を用いた保育の実際－模擬保育（実践） 第 14 回：身近な素材を用いた保育の実際－模擬保育（振り返り） 第 15 回：まとめと振り返り 定期試験は実施しない。

アクティブラーニング	本授業では、保育実践方法を実際に遊びや活動を通して学びます。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	ポートフォリオ：60% 指導案作成・模擬保育の実施：40% ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオや課題については添削の上、次の回に返却する。
指定図書	・宮里暁美（監修）『0-5 歳児 子どもの「やりたい！」が発揮される保育環境』（学研） ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）
参考図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）、『小学校学習指導要領』（文部科学省）、その他授業中に適宜資料を配布する。
事前・事後学修	・様々な保育実践について学ぶ準備のための課題を事前に提示する（各 10 分 2~15 回）。 ・事後学修では各回ポートフォリオを作成する。その際には授業で学んだ内容だけでなく、関連サイトや文献を用いながら作成し、次の回で提出すること（各 30 分 15 回）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は保育所での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育内容（表現）
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子供の発達を「表現」の領域の観点からとらえ、子供が「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことができるよう支援する方法を習得する。身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。特にかいたりつくったりする活動では、用具の基本的な扱い方など保育実践に生きる学びを自ら積み上げ整理していく。保育所・幼稚園等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	1. 保育の内容を理解し、子供の遊びを豊かに展開するために必要な身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 2. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 鈴木光男 和久田佳代 授業計画 第1回：オリエンテーション：鈴木光男 幼稚園教育要領や保育所保育指針などで「表現」がどのような位置づけやねらい及び内容となっているかを理解し、今後の学習の見通しを持つ。 身体表現・音楽表現に関する知識と技術：和久田佳代 第2回：さくら・さくらんぼのリズム遊び 第3回：リズム遊びの体験と支援 演習 第4回：発育発達過程を活かした表現、リズム遊びの創作 第5回：子どもが進んで遊ぶ表現遊び、リズム遊び（発表） 造形表現・即興的総合的な表現に関する知識と技術：鈴木光男 第6回：子供の表現と支援・指導のポイント① ・物語を紡ぎ出すアートの見立てを生かしたワークショップ インターネット上の事例や実践現場のビデオから見つけた保育のよい点、問題点などをもとに造形的な遊びや活動における支援・指導のポイントを理解した上で、色や形から見立てたイメージを共有しながら楽しさをふくらませていく遊び・活動を体験する。 第7回：子供の表現と支援・指導のポイント② ・ワークショップ《遊びをつくる造形》を基本プランに 身近材を使った見立て遊びの模擬保育を実践したり、インターネット上に公開されている動画から表現主題と活動主題の違いを理解したりする。 第8回：表現の実際と展開 ① ・3歳児「畑に花を咲かせましょう」の保育実践ビデオを視聴し、検討する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 第9回：造形表現の実際と展開 ② ・3歳児「ケーキをつくろう」「お好み焼き」の保育実践ビデオを視聴し、検討する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 第10回：表現の実際と展開 ③ ・4歳児「ふしぎなたまご」「おしゃれな黒猫」の保育実践ビデオを視聴し、検討する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 第11回：造形表現の実際と展開④ ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 ・模擬保育の準備

	第 12 回：模擬保育の発表① ・模擬保育の発表と検討・協議 第 13 回：模擬保育の発表② ・模擬保育の発表と検討・協議 第 14 回：模擬保育の発表③ ・模擬保育の発表と検討・協議 第 15 回：模擬保育の発表④ ・模擬保育の発表と検討・協議・まとめ ※定期試験は実施しない
アクティブラーニング	LiTE (Learning in Teaching) を採り入れた学習の共有 現場実践の動画による検討や考察、協議 グループによる模擬保育の立案と発表 保育所・幼稚園等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	なし。 時に、Web 動画の視聴などに使用する。
評価方法	(1) 授業で課した課題（模擬保育・保育案などのレポート）の評価…40% (2) 授業態度（学習記述、参加態度など）…60% ※ループリックについて 保育案や模擬保育で評価するが、ループリックは用いない。ただし、保育案や模擬保育については視点を授業内で示す。
課題に対するフィードバック	振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。 互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。 模擬保育のための指導案や模擬保育の発表をもとにフィードバック、ならびにフィードフォワードする。
指定図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
参考図書	斎藤公子著「さくら・さくらんぼのリズムとうた」群羊社 槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林） 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」（日本文教出版）
事前・事後学修	以下のような内容の事前・事後学修に取り組むものとして、それぞれの授業ごとに 40 分を目安に取り組むようにしましょう。 和久田：Webclass に学びを記録する（事後学修） 2～5 回 和久田：Webclass による動画視聴（事前学修） 3～5 回 鈴木：記述による学習記録（事後学修）・12～15 回では保育案の作成と模擬保育の準備（事前・事後学修） ※保育案を作成するに当たっては、必ず作品の試作などして教材研究を深めましょう。
オープンエデュケーションの活用	・自主学习として、以下の URL の番組の受講を勧めます。 NHK「キミなら何つくる？」 https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育内容総論
科目責任者	山内 博子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	日本の幼児教育は、環境を通して行う教育である。その中で保育内容は、5 領域から発達を見通して組み立てている。そのため本科目においては、幼稚園や保育所において展開される保育内容を総合的に捉えなおし、保育実践につなげて理解することを目的とする。
到達目標	・ 保育内容について理解し、子どもの発達との関係を理解する。 ・ 子どもの主体性を引き出すための保育環境の構成について理解を深める
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： オリエンテーション ―保育実習の振り返りを通して― 第 2 回： 子どもを取り巻く環境とこれからの保育内容 第 3 回： 保育所・幼稚園・認定子ども園の役割 第 4 回： 乳幼児期にふさわしい生活 第 5 回： 保育内容を展開するプロセス 第 6 回： 乳児（1 歳未満）の保育内容 第 7 回： 1・2 歳児の保育内容 第 8 回： 3・4・5 歳児の保育内容 第 9 回： 幼保小の連携と接続 第 10 回： 異年齢児の保育内容 第 11 回： 子育て支援を創造する保育内容 第 12 回： 地域に根差した保育内容の展開 第 13 回： 保育内容の変遷 第 14 回： 諸外国の保育内容 第 15 回： これからの保育内容の課題

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料）をもとにグループディスワークや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験（60%）、課題への取組（20%）、受講態度（20%）にて総合的に評価する
課題に対するフィードバック	課題に対してだされた疑問など適宜フィードバックを行う
指定図書	なし 授業ごとに資料を配付
参考図書	保育所保育指針ハンドブック 2017 告示版 幼稚園教育要領ハンドブック 2017 告示版 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領ハンドブック 2017 告示版
事前・事後学修	事前学習；保育実習を踏まえ、5つの領域の内容を整理します。 事後学習；事前学習での学びを学生間で共有しながら保育内容を捉えなおし、保育者としての役割について学びます。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は保育士・幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	障害児保育
科目責任者	松下 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	障害のとらえ方や、障害児保育の考え方、保育における発達評価の大切さ、障害児保育が行われる現場について学ぶ。
到達目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2. 様々な障害について理解し、こどもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：なぜ特別な支援が必要なのか（到達目標－障害児の保育の重要さを学ぶ） 第2回：発達を理解する（到達目標－標準発達を学ぶ） 第3回：発達の違いを理解する（領域ごとにみた発達を学ぶ） 第4回：障害の特性を理解する（1）（到達目標－肢体不自由／知的障害を学ぶ） 第5回：障害の特性を理解する（2）（到達目標－発達障害の定義を学ぶ） 第6回：支援方法を理解する 1. 心の支援（到達目標－支援の視点を学ぶ） 第7回：支援の方法を理解する 2. 発達論による支援（到達目標－支援のアプローチを学ぶ） 第8回：支援の方法を理解する 3. 行動への支援（到達目標－困った行動の意味を学ぶ） 第9回：支援の方法を理解する 4. 環境調整による支援（到達目標－ものや時間の調整を学ぶ） 第10回：支援方法を理解する 5. 周囲の人の連携による支援（到達目標－連携について学ぶ） 第11回：支援の方法を考える実践ワーク（到達目標－支援の実際を学ぶ） 第12回：個別の支援計画をつくる（到達目標－支援計画を学ぶ） 第13回：ケーススタディ（到達目標－ケースから何が分かるかを学ぶ） 第14回：保護者支援と今後の課題（到達目標－障害を持つ親の気持ちを学ぶ） 第15回：まとめ（到達目標－障害児保育から何を学べたか）

アクティブラーニング	この授業は、グループワーク、ディスカッションをします。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度・感想文 20%、試験 80%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメントは毎回次の授業でフィードバックします。
指定図書	『障害児保育ワークブック』：星山麻木 編著 萌文書林
参考図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
事前・事後学修	毎回教科書のワークシートを使って事前課題・事後課題を出します。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は臨床心理士として、小児科クリニック、メンタルクリニック、学校、乳幼児健診等での相談業務の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として、座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う場合もある。その場合、1 教室で対面授業を行い。もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施する。

科目名	小学校インターンシップⅠ
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、教育実習に連なるインターンシップ実習Ⅰ～Ⅲを実施する小学校教育現場を選び、開講期間中に合計で 20 時間以上実際にその教育現場を訪問し、当該教育現場において授業だけではなく特別活動や授業以外の場面でどのような教育活動が展開されているかを観察・理解することを目的とする。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	小学校教育現場を実際に訪問し、そこで展開される教育活動を観察することを通して、教育に従事する重要性を認識することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>鈴木光男、飯田真也、福重浩之 【事前指導】 第1回：ガイダンス（7月） 授業の進め方・実習内容・事前訪問・手続き等の確認 ※事前訪問は夏季休業中に済ませ、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 第2回：小学校インターンシップ実習の意義・目的・方法・実習計画・実習の目標設定（9月） 第3回：実習ノートの書き方の基本：意義と書き方、実習計画の提出 ※10月のインターン実習初日は、受け入れ先小学校の校長に実習目標と計画を提出し、面談・指導を受ける。 【実習の進め方】 1. 学生はインターンシップ実習として受け入れ先小学校を選定し、該当小学校と打ち合わせて曜日や時間、配当学年などを決める。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う 3. 実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 4. 実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①授業や特別活動を通して、児童の生活や学習を知る ②特別活動の中での教師の動きを知る ・運動会など学校行事の準備・片付けや当日の運営の補助・手伝い ・委員会やクラブ活動指導などの補助・手伝い ・給食・清掃指導などの補助・手伝いなど ③学級経営（主に掲示）での教師の役割・働きを知る ・掲示物の作成・掲示・片付け ・朝読書の読み聞かせ など 【事中指導】（11月・12月・1月に1時間ずつ計3回実施） インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】（3月） 実習の振り返り（発表と共有）

アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	な 時に指導案の作成や実践報告時に使用する。
評価方法	実習先小学校からの評価（40%）、実習ノート（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100% ・ルーブリックでの評価はしない。ただし、実習先小学校からの評価表をもとに、個々に面談をし、評価を確かなものとする。
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	小学校学習指導要領・生徒指導提要
事前・事後学修	事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する（月に1度、確認する）。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する（目安時間 40 分。月に1度、確認する）。
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	初回授業時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	小学校インターンシップⅡ
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、教育実習に連なるインターンシップ実習Ⅰ～Ⅲを実施する小学校教育現場を選び、開講期間中に合計で 20 時間以上実際にその教育現場を訪問し、当該教育現場において授業だけではなく特別活動や授業以外の場面でどのような教育活動が展開されているかを観察・理解することを目的とする。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	小学校教育現場を実際に訪問し、そこで展開される教育活動を観察することを通して、教育に従事する重要性を認識することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>鈴木光男、飯田真也、福重浩之 【事前指導】 第1回：ガイダンス（7月） 授業の進め方・実習内容・事前訪問・手続き等の確認 ※事前訪問は夏季休業中に済ませ、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 第2回：小学校インターンシップ実習の意義・目的・方法・実習計画・実習の目標設定（9月） 第3回：実習ノートの書き方の基本：意義と書き方、実習計画の提出 ※10月のインターン実習初日は、受け入れ先小学校の校長に実習目標と計画を提出し、面談・指導を受ける。 【実習の進め方】 1. 学生はインターンシップ実習として受け入れ先小学校を選定し、該当小学校と打ち合わせて曜日や時間、配当学年などを決める。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う 3. 実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 4. 実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①授業や特別活動を通して、児童の生活や学習を知る ②特別活動の中での教師の動きを知る ・運動会など学校行事の準備・片付けや当日の運営の補助・手伝い ・委員会やクラブ活動指導などの補助・手伝い ・給食・清掃指導などの補助・手伝いなど ③学級経営（主に掲示）での教師の役割・働きを知る ・掲示物の作成・掲示・片付け ・朝読書の読み聞かせ など 【事中指導】（11月・12月・1月に1時間ずつ計3回実施） インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】（3月） 実習の振り返り（発表と共有）

アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	な 時に指導案の作成や実践報告時に使用する。
評価方法	実習先小学校からの評価（40%）、実習ノート（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100% ・ルーブリックでの評価はしない。ただし、実習先小学校からの評価表をもとに、個々に面談をし、評価を確かなものとする。
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	小学校学習指導要領・生徒指導提要
事前・事後学修	事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する（月に1度、確認する）。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する（目安時間 40 分。月に1度、確認する）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	小学校インターンシップⅢ
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1単位（45時間） 選択 6セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、インターンシップ実習Ⅱ同様に、開講期間中に合計で30時間以上実際にその教育現場を訪問し、教科・領域の学習や特別活動など主には授業場面で児童と関わり、授業の進め方を実践的に理解することを目的とする。
到達目標	インターンシップ実習Ⅰ、Ⅱを踏まえ、同じ小学校にて実習し、主には教科・領域の授業内での児童の学習指導に関わり、教師の役割を知ると共に基本的な授業の進め方を理解し、次年度の教育実習につなげる。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>鈴木光男、飯田真也、福重浩之 【事前指導】 目標と計画の設定 授業の進め方・実習内容・事前訪問等の確認、実習計画・実習の目標設定 ※受け入れ先小学校への事前訪問は10月初旬までに済ませ、実習目標や計画を小学校に提出する。 ※その後、大学の实習担当教員と個別面談を通して報告する。 【実習の進め方】 1．学生はインターンシップ実習ⅠⅡと同じ小学校で実習する曜日や時間、配当学年などを決める。 2．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う 3．実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 4．実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①Ⅰ・Ⅱから引き続き授業内外の活動を通して、児童への関わりを深める ②つまずきのある児童や特別な支援を必要とする児童への支援・指導のあり方を知り、授業内で関わる ・教師の支援・指導上のポイントの把握 など ③授業や特別活動を通して、児童へのかかわり方を理解し、実践する ・運動会や各種行事での指導のあり方の把握 ・各授業の学習過程の違いやポイントの理解など 【事中指導】(11月・12月・1月に1時間ずつ3回実施) インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】(1月) 実習の振り返り（発表と共有)

アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	なし 時に指導案の作成や実践報告時に使用する。
評価方法	実習先小学校からの評価（40%）、実習ノート（30%）、学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100%
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	小学校学習指導要領・生徒指導提要
事前・事後学修	事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際バカロレア教育概論
科目責任者	モーテン
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際的視野を持つ人間へと育つためには、国際教育とは何かについて、国際バカロレア (IB) の枠組み—概論を通して理解を深める。
到達目標	1. 国際バカロレア (IB) における教師の役割を理解する。 2. 国際教育や国際バカロレア (IB) の理念に影響を与えた方法論について把握する。 3. 国際バカロレア (IB) の学習者像やエイジェンシーに焦点を当て、アイデンティティと生涯学習者としての学びについて考える。 4. 教育における自己肯定感の大切や役割について省察する。 5. 国際バカロレア (IB) における国際教育の学びを成果について考察する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> モーテン・ヴァテン、太田雅子 第1・2回：授業のオリエンテーション（課題と評価について）国際教育と IB。隣人愛と国際教育、多様性、国際的視野と異文化理解について ヴァテン、江里口、太田 第3・4回：IB と PYP（初等教育プログラム）の5つの基本要素 ヴァテン、ゲストスピーカー（オーブリー・カレン） 第5・6回：様々な思考法（批判的・創造的・言語的・概念的思考など）、構成主義 ヴァテン、太田 第6・7回：IB の学習者と国際的視野 ヴァテン 第9・10回：IB の学習者：エイジェンシー ヴァテン、江里口、太田 第11・12回：IB の学習者：声・選択・オーナーシップ ヴァテン 第13・14回：IB の学習者：行動 ヴァテン 第15回：まとめと振り返り ヴァテン、ゲストスピーカー（オーブリー・カレン）、太田

アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。
評価方法	参加度（意欲・態度）：45% 毎回の課題（レポート、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。
指定図書	講義の中で随時、案内する。
参考図書	講義の中で随時、案内する。
事前・事後学修	授業開始時に渡されるシラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。（毎回の学習時間の目安は約 40 分）
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構）が提供するリソースなどを活用する。
オフィスアワー	所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5 号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校・インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関しては TV 会議システムを利用して実施する場合がある。

科目名	国際バカロレア教育課程論
科目責任者	モーテン・ヴァテン
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際バカロレア (IB) 教育・PYP (プライマリーイヤーズ) のカリキュラムの構造、特徴について理解をする。21 世紀型の教育実践について学びを深める。
到達目標	1. PYP のカリキュラム (逆向き設計、パフォーマンス評価と協働学習) について理解する。 2. PYP における探求型学習の実践について理解する。 3. 21 世紀型スキルと PYP におけるテクノロジーについて理解する。 4. 持続可能な開発のための教育 (ESD) 授業のつくり方と環境教育の今後の方向性について理解する。 5. PYP における日本と国際カリキュラムについて理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン、鈴木光男 第1・2回：IB/ PYP のカリキュラムとは?概念型探究学習と IB の学習者像 ヴァテン、ゲストスピーカー (オーブリー・カレン) 第3・4回：生涯学習者のスキルを育てる。21 世紀型スキルと目標設定 ヴァテン、ゲストスピーカー (ダッタ、シャミ) 第5・6回：逆向き設計、パフォーマンス課題の指導案 ヴァテン、鈴木 第7・8回： パフォーマンス課題の実践 ヴァテン 第9・10： PYP におけるテクノロジー (デジタルシティズンシップ) ヴァテン、ゲストスピーカー (オーブリー・カレン) 第11・12回：持続可能な開発のための教育、学習者の行動について考える ヴァテン、鈴木 第13・14回：日本と国際カリキュラム：比較検討 ヴァテン、ゲストスピーカー (ダッタ、シャミ) 第15回：まとめと振り返り ヴァテン、鈴木

アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。
評価方法	参加度（意欲・態度）：45% 毎回の課題（レポート、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。
指定図書	講義の中で随時、案内する。
参考図書	講義の中で随時、案内する。
事前・事後学修	授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約 40 分】
オープン教育の活用	IBO（国際バカロレア機構）が提供するリソースなどを活用する。
オフィスアワー	所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5 号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、認定こども園、小学校・インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関しては TV 会議システムを利用して実施する場合がある。

科目名	国際バカロレア教育方法論
科目責任者	モーテン・ヴァテン
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	PYP の教育アプローチ(方法)を理解する。また、教科横断的なテーマ(TT)、中心的アイディア(CI)、探究の流れ(LOI)、探究プログラム(POI)、探究の単元(UOI)をどのように作成し、評価するかを学ぶ。さらに、PYP のエクシビション(PYPX)の位置付けを理解する。
到達目標	1. PYP の学校で行われている概念型探究学習について、より深く理解する。 2. 探究の単元 (UOI) を作成する。 3. 中心的アイディア (CI)、探究の流れ (LOI)、重要概念 (KC)、関連概念 (RC)、学習者像が POI の内外でどのように統合され、発展していくかを検討する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> モーテン・ヴァテン 第 1・2 回:教科横断的な枠組みの中での教師の役割と協働設計とは ヴァテン、ゲストスピーカー(オーブリー・カレン) 第 3・4 回:中心的アイディア(CI)を作成する。関連概念とは？ ヴァテン 第 5・6 回:探究の単元プランナー(UOI)を通して協働設計と逆向き設計を再検討する。 ヴァテン 第 7・8 回:ミニ単元の実戦(チームティーチング)① ヴァテン 第9・10 回:ミニ単元の実戦(チームティーチング)② ヴァテン 第11・12 回:ミニ単元の実戦(チームティーチング)③ ヴァテン 第 13・14 回:PYPX (PYP エキシビション)実戦と評価 ヴァテン 第 15 まとめと振り返り ヴァテン、ゲストスピーカー(オーブリー・カレン)

アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。
評価方法	参加度（意欲・態度）：45% 毎回の課題（レポート、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。
指定図書	講義の中で随時、案内する。
参考図書	講義の中で随時、案内する。
事前・事後学修	授業開始時に渡されるシラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。（毎回の学習時間の目安は約 40 分）
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構）が提供するリソースなどを活用する。
オフィスアワー	所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5 号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校、インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関しては TV 会議システムを利用して実施する場合がある。

科目名	国際バカロレア教育学習アセスメント
科目責任者	モーテン・ヴァテン
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	PYP における評価の目的、効果的な評価の特徴、また、P Y P 校でどのように統合的な評価の文化を育めるかについて学びます。そして、評価する能力のある教師になるために、フィードバックや多数の戦略を活用して自分の学習を調整し、改善します。さらに、PYP における評価はどのように行われるか、つまり学習のモニタリング、記録、測定や報告をどのように支えることができるかを理解します。
到達目標	1. 学習評価の在り方について理解する。 2. PYP の教師として学習のモニタリング、記録、測定や報告の実践を理解する。 3. 厳格な評価の仕組みを計画的に協働設計する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> モーテン・ヴァテン ヴァテン ヴァテン ヴァテン ヴァテン ヴァテン ヴァテン ヴァテン ヴァテン ヴァテン、ゲストスピーカー(オーブリー・カレン) ヴァテン 第 1・2 回: 学習評価の在り方について、学習のための評価 学習の評価 学習としての評価 第 3・4 回: IB 国際バカロレアの厳格な評価の仕組み、効果的なフィードバック(フィードバックを提供する、フィードバックを受ける) ヴァテン、ゲストスピーカー(オーブリー・カレン) 第 5・6 回: 評価戦略の開発 - 創造性は評価できるのか? ヴァテン 第 7・8 回: 感情知能(EI)と「文化の知能指数 CQ」を探り、自己肯定感を育む ヴァテン 第 9・10 回: 評価の差別化, SOLO を使った理解の評価 ヴァテン 第 11・12 回: PYPX (PYP エクシビション) 実戦と評価 ヴァテン 第 13・14 回: PYPX (PYP エクシビション) 実戦と評価 ヴァテン 第 15 回: まとめと振り返り ヴァテン

アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。
評価方法	参加度（意欲・態度）：45% 毎回の課題（レポート、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。
指定図書	講義の中で随時、案内する。
参考図書	講義の中で随時、案内する。
事前・事後学修	授業開始時に渡されるシラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。（毎回の学習時間の目安は約 40 分）
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構）が提供するリソースなどを活用する。
オフィスアワー	所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5 号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校・インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関しては TV 会議システムを利用して実施する場合がある。

[illegible]

アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。
評価方法	参加度（意欲・態度）：45% 毎回の課題（レポート、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。
指定図書	なし（講義の中で随時、関係資料を配布する）
参考図書	なし（講義の中で随時、関係資料を配布する）
事前・事後学修	授業開始時に渡されるシラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。（毎回の学習時間の目安は約40分）
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構）が提供するリソースなどを活用する。
オフィスアワー	所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、認定こども園、小学校、インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。（特に新型コロナウイルス対策特例として）

科目名	多文化共生と教育
科目責任者	宇都宮 裕章
単位数他	2単位（30 時間） 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	グローバル化の進行に伴い、国籍や文化的背景が異なる人々との間の相互理解と共生に向けて必要とされる点（価値観・ゴール・方法）について学ぶ。外国籍の子どもたちの学習・生活支援について、教育現場等に出向き理解を深める。
到達目標	1. 地域共生社会について、その理論と実際を理解する。 2. 国際理解教育について理解する。 3. 外国籍の子どもたちの支援について理解し、方法を身につける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 多文化共生社会とは（授業概要・現状・背景） 第2回 多様化と共生（目的・理論） 第3回 実践研究演習1（テーマ設定） 第4回 実践研究演習2（資料収集・文献調査） 第5回 実践研究演習3（行動計画策定） 第6回 実践研究演習4（調査等準備） 第7回 実践研究演習5（実地調査・参画） 第8回 実践研究演習6（実地調査・参画） 第9回 発表準備・資料作成1 第10回 発表準備・資料作成2 第11回 研究発表1 第12回 研究発表2 第13回 研究発表3 第14回 研究発表4 第15回 まとめ～来るべき社会を見据えて（評価・議論）

アクティブラーニング	現場での観察・実践・記録をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート課題・振り返りシート 20%、授業への取り組み 80%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。
指定図書	プリント等を配布する。
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として 40 分程度の事前・事後学修をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	多様な子どもの理解
科目責任者	池田 信子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	子どもの複雑化・多様化した課題（不登校・貧困・外国国籍・発達支援等）に対応するための「チーム学校」としてのあり方を学ぶ。個々の問題やニーズの理解と方法、協力体制の作り方について理解を深める。
到達目標	1. 様々な課題を抱える子どもやその家庭の現状について理解する。 2. 支援のための方法を理解する。 3. チーム・アプローチについて理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 特別な支援を必要とする子どもについての理解（現状） 第2回 発達障害特性がある子どもについての理解 第3回 発達障害特性がある子どもへの支援（事例検討） 第4回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもについての理解 第5回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもへの支援（事例検討①） 第6回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもへの支援（事例検討②） 第7回 言語・文化の異なる子ども（外国国籍）についての理解 第8回 家庭の問題について（貧困・養育の問題） 第9回 その他課題がある子どもの理解（LEBT、ギフテッド） 第10回 特別な課題のある子どもの理解（災害被災者、産前産後のケア） 第11回 学校や地域におけるチーム・アプローチについて「Team 学校」（概要） 第12回 学校や地域におけるチーム・アプローチについて「Team 学校」（実践事例） 第13回 連携、インクルーシブ 第14回 子ども同士の関わり（クラス運営） 第15回 まとめ・小テスト

アクティブラーニング	事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート課題(2 回)60%、授業振り返りシートの記述(授業への取り組み)20%、小テスト 20%、ループリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。
指定図書	プリント等を配布する。
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	多様な子どもの支援
科目責任者	池田 信子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	複雑化・多様化する子どもの問題構造と支援方法について、事例から理解する。子どもの背景・文脈を含めた多様なアセスメントと問題解決の実際を学ぶ。「チーム学校」として機能するためのあり方について理解を深める。
到達目標	1. 個別アセスメントの方法を理解する。 2. 学習支援の方法について理解する。 3. 校（園）内連携・専門職連携の実際について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 支援のためのアセスメントとは 第2回 自己肯定感・自己決定力を高める関わりの方法 第3回 自己肯定感・自己決定力を高める関わりの方法（ワーク） アサーション、カウンセリングマインド等 第4回 アタッチメントについて 第5回 アタッチメント障害に対する支援 第6回 学習のためのユニバーサル・デザイン 第7回 個別課題に合わせて指導計画と模擬授業についての説明 第8回 個別課題に合わせて指導計画と模擬授業（保育）・発表① 第9回 個別課題に合わせて指導計画と模擬授業（保育）・発表② 第10回 模擬授業に対するフィードバック 第11回 保護者に対する相談支援の技法①(多様性を受け入れる) 第12回 保護者に対する相談支援の技法②(振り返る・学ぶ) 第13回 ソーシャルワーク的アプローチ（貧困・養育の問題） 第14回 校（園）内連携・専門職連携の実際(事例の考察、支援のための計画) 第15回 まとめ ・小テスト

アクティブラーニング	ワークや事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート課題(2 回)60%、授業振り返りシートの記述(授業への取り組み)20%、小テスト 20%、ルーブリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。
指定図書	プリント等を配布する。
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	プログラミング教育 I
科目責任者	竹本 石樹
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	● プロダクト作成を通して「プログラミング的思考」を学ぶ。まず、プロダクト作成において、解決しなければならない具体的な問題を明確にする。次に、その問題を解決するために必要な3つの基本アルゴリズムである順次処理、分岐処理、反復処理を活用しながら、問題解決を試みる。ティンカリングを重視することによって、正確で効率的な問題解決へと質を向上させていく。 ● 小学校におけるプログラミング授業実践上、必要とされる教材開発や指導の手法等を模擬授業等を通して習得する。
到達目標	1. 問題解決のための手順を論理的に考え、手順に従った具体的な命令をコンピュータに与え、その真偽を体験的に学ぶことを通して、「プログラミング的思考」*の基礎を育成する。 2. 小学校におけるプログラミング教育の教材開発方法や指導方法等を習得する。 *「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」(文部科学省「小学校プログラミング教育に関する手引き」より)
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス（現代社会とプログラミング、プログラミング的思考、基本アルゴリズム、小学校プログラミング教育の内容と導入の経緯など） 第2回：理科におけるプログラミング授業の検討(MESH 基礎) 第3回：理科におけるプログラミング授業の検討(MESH を活用した授業づくり①) 第4回：理科におけるプログラミング授業の検討(MESH を活用した授業づくり②) 第5回：理科におけるプログラミング授業の検討(模擬授業とリフレクション) 第6回：算数科におけるプログラミング授業の検討(Scratch 基礎) 第7回：算数科におけるプログラミング授業の検討(Scratch を活用した授業づくり①) 第8回：算数科におけるプログラミング授業の検討(Scratch を活用した授業づくり②) 第9回：算数科におけるプログラミング授業の検討(模擬授業とリフレクション) 第10回：総合的な学習の時間におけるプログラミング授業の検討（実践紹介） 第11回：総合的な学習の時間におけるプログラミング授業の検討（MESH, Scratch を活用した授業づくり①：SDGs の課題をプログラミングで解決する） 第12回：総合的な学習の時間におけるプログラミング授業の検討（MESH, Scratch を活用した授業づくり②：SDGs の課題をプログラミングで解決する） 第13回：総合的な学習の時間におけるプログラミング授業の検討（MESH, Scratch を活用した授業づくり③：SDGs の課題をプログラミングで解決する） 第14回：総合的な学習の時間におけるプログラミング授業の検討(授業構想・プログラミング教材の発表会とリフレクション) 第15回：授業のまとめと振り返り

アクティブラーニング	STEM 教育における重要な考え方を取り入れたものづくりの重視 グループによる模擬授業の立案と発表、リフレクション
授業内の ICT 活用	ICT を利用して実際にプログラミングを体験する。
評価方法	(1) 授業で課した課題（模擬授業、指導案、教材開発など）の評価…50% (2) 授業態度（学習記述、参加態度など）…50%
課題に対するフィードバック	各回に記入した授業ワークシートをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。 レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	なし
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	プログラミング教育Ⅱ
科目責任者	竹本 石樹
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	● 今後、複雑化した社会問題に対応するための人材育成が必要であり、そのため Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Mathematics (数学) を統合的、総合的に学ぶ STEM 教育が注目されている。本授業では、STEM 教育におけるエンジニアリングデザインプロセスを軸とし、社会問題を解決するための「ものづくり」を行う。この活動を通して「プログラミング的思考」の発展を試みる。具体的には、プログラミングⅠで育成した「プログラミング的思考」を基礎とし、micro-bit を活用した社会問題を解決するための「ものづくり」を通して、「プログラミング的思考」のさらなる発展を目指す。 ● 小学校においては、SDGs のための課題解決を授業で行っている実践例が見られる。そして、そこには、STEM 教育が大きく関わっている。「STEM for SDGs」である。STEM 教育における「ものづくり」にプログラミングを取り入れることで、子どもたちは、SDGs における問題を具体的に解決することが可能になる。本授業では、STEM 教育における「ものづくり」にプログラミングを取り入れ、SDGs の課題解決を図る授業づくりを体験する。
到達目標	1. 問題解決のための手順を論理的に考え、手順に従った具体的な命令をコンピュータに与え、その真偽を体験的に学ぶことを通して、「プログラミング的思考」*の発展を図る。 2. 小学校におけるプログラミング教育の教材開発方法や指導方法等を習得する。 *「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」(文部科学省「小学校プログラミング教育に関する手引き」より)
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンス (STEM 教育、プログラミングと STEM 教育、エンジニアリングデザインなど) 第 2 回：micro-bit の可能性 (micro-bit の活用場面、基本的な操作の修得等) 第 3 回：micro-bit を使った簡単なプログラミング① (簡単なプログラミングに挑戦) 第 4 回：micro-bit を使った簡単なプログラミング② (簡単なプログラミングに挑戦) 第 5 回：micro-bit を使った簡単なプログラミング③ (簡単なプログラミングに挑戦) 第 6 回：micro-bit を使った問題解決① (問題解決するためのプロダクト作成) 第 7 回：micro-bit を使った問題解決② (問題解決するためのプロダクト作成) 第 8 回：micro-bit を使った問題解決③ (問題解決するためのプロダクト作成) 第 9 回：SDGs 課題解決の授業づくり① (模擬授業の計画、micro-bit を使った教材開発) 第 10 回：SDGs 課題解決の授業づくり② (模擬授業の計画、micro-bit を使った教材開発) 第 11 回：SDGs 課題解決の授業づくり③ (模擬授業の計画、micro-bit を使った教材開発) 第 12 回：SDGs 課題解決の授業づくり④ (発表準備、相互交流、発表内容の改善) 第 13 回：SDGs 課題のための模擬授業① (模擬授業及びリフレクション)

	第 14 回：SDGs 課題のための模擬授業②（模擬授業及びリフレクション） 第 15 回：総括（本授業で学んだことに関する発表会）
アクティブラーニング	STEM 教育における重要な考え方を取り入れたものづくりの重視 グループによる模擬授業の立案と発表、リフレクション
授業内の ICT 活用	ICT を用いてプログラミングの実際を体験する。
評価方法	（１）授業で課した課題（模擬授業、指導案、教材開発など）の評価…50% （２）授業態度（学習記述、参加態度など）…50%
課題に対するフィードバック	各回に記入した授業ワークシートをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。 レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	なし
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際教育実習 I
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。 「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。
到達目標	1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<担当教員名> 太田雅子、Patterson、二宮貴之 <授業内容・テーマ等> 実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる―実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習 1. 実習先（候補）： - インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト） 2. 実習内容 ① 見学・観察実習 ② 参加実習 3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 4. 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） ① 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ② 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③ 実習報告会の準備をする ④ 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	資料配布
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える 学修の目安時間は 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回実習指導時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は、小学校、幼稚園教諭・認定こども園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際教育実習Ⅱ
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。 「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。
到達目標	1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<担当教員名> 太田雅子、Patterson、二宮貴之 <授業内容・テーマ等> 実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる―実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習 1. 実習先（候補）： - インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト） 2. 実習内容 ③ 見学・観察実習 ④ 参加実習 3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 4. 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） ⑤ 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ⑥ 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ⑦ 実習報告会の準備をする ⑧ 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	資料配布
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える 学修の目安時間は 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回実習指導時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は、小学校、幼稚園教諭・認定こども園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育原理
科目責任者	山内 博子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの育ちは、その社会環境に大きく影響をされる。保育の現状と課題は何か、それに対してどのような保育が求められるかを学ぶ。保育の思想・歴史・法令・制度について理解を深める。保育所の役割・責任と保育所保育の基本（保育所保育指針に示される内容）について理解する。
到達目標	1. 保育の意義と目的について理解する（法的根拠・制度的位置づけを理解する） 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想・歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・保育についてこれから学ぶこと 第2回：子ども家庭福祉と保育・保育の社会的役割と責任 第3回：保育に関する法令・制度（子ども・子育て支援制度） 第4回：保育の目標及び内容（保育所保育指針） 第5回：保育に関する基本原則－環境を通して行う保育 第6回：保育に関する基本原則－遊びを通しての学び 第7回：子どもの理解に基づく保育 第8回：保育の計画と評価 第9回：保護者支援（地域子育て支援） 第10回：地域社会で行う子育ての支援 第11回：特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ 第12回：保育所職員の資質・専門性の向上 第13回：日本における保育の思想・歴史的変遷・制度 第14回：子どもの育ちと社会環境、現代の保育（育児）の課題と取り組み 第15回：まとめ

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料）をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度（30％） 定期試験（70％）
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを元に次の授業の中でフィードバックをする。
指定図書	2017 年改訂「保育所保育指針（解説付き）」
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。 原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は保育士・幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	子ども家庭支援論
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2単位（30時間） 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	この科目では、各家庭の背景、家族の状況を理解するための視点、子どもと家族が安全に安心して生活できるよう、保育の専門性を活かした子ども家庭支援について学ぶ。地域の資源の活用、関係機関との連携・協力等により展開されている子どもと家族のニーズに応じた多様な支援について、事例や映像教材を用いて学ぶ。
到達目標	1. 子ども家庭支援の意義について理解できる 2. 子ども家庭支援に係る制度や実施体系等について説明できる 3. 子どもの最善の利益、子どもの権利保障について説明できる 4. 地域資源の活用、関係機関との連携等により行われている家族のニーズに応じた支援について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 子ども家庭支援の意義と目的 第2回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第3回 子ども家庭支援に関連する社会資源 第4回 保育の専門性を活かした子ども家庭支援 第5回 支援に必要な基本的態度・姿勢 第6回 子ども家庭支援の形態と支援方法 第7回 家庭の状況に応じた支援① 家族とは 第8回 家庭の状況に応じた支援② ひとり親家庭への支援 第9回 家庭の状況に応じた支援③ 障害のある子どもとその家族への支援 第10回 家庭の状況に応じた支援④ 外国にルーツを持つ子どもと家族への支援 第11回 家庭の状況に応じた支援⑤ 要支援・要保護児童とその家庭への支援 第12回 保育所等を利用する子どもと家族への支援 第13回 地域の子育て家庭への支援 第14回 子ども家庭支援における関係機関との連携・協働 第15回 これからの子ども家庭支援

アクティブラーニング	・PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う ・講義中、発言を求めることがある
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、課題・レポート・リアクションペーパー等の提出はWebClassで行う。 授業中にスマートフォン・PCの利用を認めることがある
評価方法	・リアクションペーパー30%、課題 30%、レポート 40% ・課題、レポート評価において、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパー、課題、レポートについては、授業内でフィードバックを行う
指定図書	松原康雄、村田典子、南野奈津子編（2019）『新基本保育シリーズ 子ども家庭支援論』 中央法規
参考図書	授業時に随時連絡する
事前・事後学修	【事前学修】各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。教科書の該当ページは初回授業で指示する。（40 分） 【事後学修】授業資料等を用いて授業内容を振り返る。毎回学びをまとめ、Webclassに提出する（40 分） ・レポートについては、第 6 回授業で発表する。
オープン教育の活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の 2708 研究室 時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は、児童家庭福祉の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会的養護Ⅰ
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2単位（30時間） 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	社会的養護を必要とする子どもとその家族の状況を理解し、日本における社会的養護の制度・内容・現状・問題点等について学ぶ。また、家族から子どもへの虐待、施設入所中の子ども（被措置児童）への虐待の発見・対応・防止について考える。
到達目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明できる。 2. 子どもの権利擁護に基づく社会的養護の基本について理解できる。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について説明できる。 5. 社会的養護の現状と課題について理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 オリエンテーション 第2回 社会的養護の理念と概念、歴史的変遷 第3回 子どもの権利擁護と社会的養護 第4回 社会的養護の基本原則 第5回 社会的養護における保育の専門性 第6回 社会的養護の制度と法体系 第7回 社会的養護のしくみと実施体系 第8回 社会的養護の対象と支援のあり方 第9回 家庭養護と施設養護 第10回 社会的養護にかかわる専門職 第11回 社会的養護の現状と課題 第12回 施設等の運営管理 第13回 被措置児童等の虐待防止 第14回 社会的養護と地域福祉 第15回 社会的養護Ⅰのまとめと社会的養護Ⅱとのつながり

アクティブラーニング	・PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う ・講義中、発言を求めることがある
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、レポート・リアクションペーパー等の提出は WebClass で行う。 授業中、インターネットで検索する、グループ課題の取り組み等に PC を用いるため、PC は必携。
評価方法	リアクションペーパー30%、小テスト 20%、試験 50%
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパー、課題については、授業内でフィードバックを行う。
指定図書	相澤仁、林浩康編（2019）『新基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 I』中央法規
参考図書	授業時に随時連絡する
事前・事後学修	【事前学修】 各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。教科書の該当ページは初回授業で指示する。（40 分） 【事後学修】 授業資料等を用いて授業内容を振り返る。毎回学びをまとめ、リアクションペーパーと一緒に Webclass に提出する（40 分） ・小テストについては初回授業で説明する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室（2708） 時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、児童家庭福祉の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育者論
科目責任者	鈴木 まき子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	保育のプロフェッショナルを目指すとはどういうことなのかを考察します。保育士（保育教諭）の責務や倫理について理解を深めます。
到達目標	1. 保育者の役割と倫理について理解し説明することができる。 2. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の制度的位置づけを理解する。 3. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の連携・協働について理解する。 5. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の資質向上とキャリア形成について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：「いのち」を育むって？保育って何？保育者を目指そうと思ったのはなぜ？ 保育士（保育教諭）の制度的位置づけ 保育のプロフェッショナルを目指すとはどういうことなのか 第2回：保育園の目的・内容と保育士の役割・保育士の専門的な知識と技術とは？ 幼児教育の目的・内容と保育者の役割 第3回：「いのち」を守るって？ 保育者の資質として求められること 保育観とは？ 自分の理想とする保育とは？ 第4回：保育士の責務と倫理①—子供の最善の利益の尊重・子供の発達保障 保護者との協力・プライバシーの保護 第5回；保育士の責務と倫理②—利用者の代弁・地域子育て支援 専門職としての責務 第6回：連携・協働・チームワークに必要なこと 第7回：子供と保育の実際：保育現場見学（こども園） こども園を見学して—ディスカッション 第8回：保育者を目指す者としての成長、キャリア・パス、研修 まとめと今後の課題（小テスト）

アクティブラーニング	こども園見学・協同的ワーク等を通して体験的に理解する方法を用いる。提示された教材をもとにグループディスカッションや発表を行う。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。
評価方法	小テスト 60% 課題提出物 30% 授業への取り組み 10% 演習・課題提出物・小テストにより評価をするが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを次の回にできる限り返却する。また授業の中でそれについてのフィードバックをする。
指定図書	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説書 柏女霊峰監修「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	子ども家庭支援の心理学
科目責任者	中村 洋子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子育て家庭の現状と課題を理解するとともに、生涯発達や発達援助の理論を学ぶことにより、親子関係や家族関係を発達の観点から捉え、子どもと家庭を包括的に援助できる知識・技術を習得する。
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性・各時期の移行・発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達の理解し子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を説明できる。 4. 子どもの精神保健とその課題について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：イントロダクション：授業の進め方・生涯発達とは何か 第2回：生涯発達から支援を考える①乳幼児期・幼児期・学童期・青年期 第3回：生涯発達から支援を考える②青年期・成人期：中年期・高齢期 第4回：家族理解から支援を考える①家族・家庭の意義と機能 親子関係、家族関係の理解 第5回：家族理解から支援を考える②子育てを取り巻く社会的状況 第6回：子育ての経験と親としての育ち ライフコースと仕事・子育て 第7回：多様な家庭への支援①多様な家庭形態とその理解 近年の傾向と特徴 第8回：多様な家庭への支援②特別な配慮を要する家庭 保護者の疾患や子どもの障害 第9回：多様な家庭への支援③特別な配慮を要する家庭 子どもの貧困と虐待 第10回：多様な家庭への支援④事例検討 グループ演習 第11回：多様な家庭への支援⑤事例検討 グループ演習 第12回：子どものこころの支援と課題①個別の配慮が必要な子どもの心の健康 第13回：子どものこころの支援と課題②個別の配慮が必要な子どもの家族の心の健康 第14回：多様な家族に向けた具体的な支援 ペアレントプログラムの概要と効果 第15回：保育者と関係機関と家庭の連携

アクティブラーニング	実際の事例などを用いた家庭への心理学的支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験（60％）課題提出物（30％）授業態度（10％）計 100％ （課題提出物については、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容などの全体から判断します）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。
指定図書	『子ども家庭支援の心理学』シリーズ知のゆりかご 青木紀久代 株式会社みらい
参考図書	『子ども家庭支援の心理学 - 子どもを知る - 』佐久間路子・福丸由佳 北大路書房 『最新発達心理学 - 乳幼児から中学生までの心と体の育ち - 』櫻井茂男 図書文化
事前・事後学修	事前に教科書をよく読んでおくこと。また授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後の学習にはそれぞれ 40 分あてること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」および、「臨床心理士」の経験を有する講師が子どもや家庭における支援の実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	子どもの保健
科目責任者	市江 和子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育や生理機能の成長・発達、保健との関連、健康状態の把握と主な事故や疾病等の特徴を学ぶ。また、疾病の予防や適切な対応・方法、保育所保育指針に示される「養護」について、虐待防止、他職種との連携・協働について理解を深める。
到達目標	1. 小児各期の成長・発達の特徴、各発達段階における成長・発達の形態・機能的側面、心理・社会的側面について理解する。 2. 成長・発達における親・家族の関係について理解する。 3. 現代社会における小児の健康状態と環境の問題と課題について学ぶ。 4. 小児の食生活、基本的生活習慣について理解する。 5. 小児保健の動向を知り、小児の健全な成長・発達を支える養護について理解する。 6. 乳幼児の健康診査と保健指導、小児の安全対策・応急処置、小児の主な疾患と予防および適切な対応を学び、保育における養護について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回 小児と家族の心身の健康と保健の意義 市江 和子 健康および成長・発達に関するワークシートと学習の進め方 第2回 小児の成長・発達（1）形態・機能的側面 市江 和子 第3回 小児の成長・発達（2）心理・社会的側面 市江 和子 第4回 現代社会における小児の健康の現状と発達評価 市江 和子 第5回 発達と母子相互作用 市江 和子 第6回 小児の虐待を取り巻く環境と虐待が小児に与える影響 市江 和子 小児保健に関するワークシートと学習の進め方 第7回 小児期の栄養と食生活 宮谷 恵 第8回 小児の基本的生活習慣（1）新生児期・乳児期 宮谷 恵 第9回 小児の基本的生活習慣（2）幼児期・学童期 宮谷 恵 第10回 小児保健の動向（1）小児を取り巻く社会環境と法律 市江 和子 子 第11回 小児保健の動向（2）小児保健に関する統計 市江 和子 第12回 乳幼児期の健康診査と保健指導 市江 和子 第13回 小児の事故と安全対策・応急処置 市江 和子 第14回 小児の主な疾病の特徴 市江 和子 第15回 小児の主な疾病の予防と適切な対応 市江 和子

アクティブラーニング	「現代社会における健康の現状と発達評価」においては、小グループで演習を取り入れ、発達評価を実施する。
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、ワークシートの学習をする。
評価方法	定期試験（課題レポート）90%、課題 10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	学習内容に関するワークシートを課題とし学習の進め方を随時説明する。 授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2019
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	成長・発達、小児保健に関するワークシートで、事前事後学修を 40 分進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修で復習を行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	市江和子：金曜日午前（1712 研究室）kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室）megumi-m@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

[illegible]

アクティブラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント・返却等、課題に対するフィードバック
指定図書	『子どもの食生活-栄養・食育・保育- 第5版』上田玲子 編著 ななみ書房
参考図書	『乳幼児の食行動と食支援』 巷野悟郎・向井美恵・今村榮一 監修 医歯薬出版株式会社 『子どもの食と栄養 改訂第2版』 児玉浩子 編集・執筆 中山書店
事前・事後学修	配布資料に従って予習・復習や課題を行うこと
オンライン教育の活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は管理栄養士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育の計画と評価
科目責任者	鈴木 まき子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	保育の充実と質の向上に対する役割を担う保育の計画と評価（改善を含む）の意義と実際について学ぶ。保育所保育指針に示される目標と計画について、全体的計画と指導計画の関連性、全体的な計画及び指導計画の作成について理解し作成方法を習得する
到達目標	1. 全体的計画の編成について理解する。 2. 指導計画の作成方法について理解する。 3. 教材研究を行い、指導計画（部分）を作成する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：カリキュラム・マネジメントについて 第2回：「全体的計画」の編成（保育所、保育所保育指針） 第3回：園目標の設定 教育課程編成会議模擬（幼稚園、幼稚園教育要領） 第4回：保育の構想 教育課程終了後の保育について（幼稚園） 第5回：長期短期の指導計画 指導計画と実践① ねらいと遊び・活動のつながり 評価について：幼稚園指導要録及び抄本 第6回：指導計画と実践② 遊び・活動の発展 第7回：指導計画と実践③ 集団ゲーム等模擬保育 第8回：指導計画と実践④ 登園・降園時 まとめと今後の課題（小テスト）

アクティブラーニング	保育指導計画を作成し模擬保育を行う。さらに保育教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。
授業内の ICT 活用	模擬保育をビデオ撮影し、幼児理解、保育環境、援助、言葉掛け等、指導計画の作成から実践の振り返りをします。
評価方法	授業への取り組み 10%、課題提出物の評価 30%、小テスト 60% 評価は演習・課題提出物・小テストで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクション・ペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックや解説を行う。まとめ（授業の振り返り）を行う。
指定図書	平成 29 年改訂版「保育所保育指針解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 「幼稚園教育要領解説」「幼児理解に基づいた評価」文部科学省：チャイルド本社
参考図書	「授業中に随時連絡」
事前・事後学修	教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践（実習）と直結する具体性のある環境構成・活動（遊び）や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間 40 分】
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	乳児保育 I
科目責任者	小楠 美貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	2018 年に施行された保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では乳児保育の位置づけが一層重要なものとされ、特に 3 歳未満児では保育内容の整合性をはかれ、養護と教育の一体性が重視されている。本授業では、子どもの発達段階をふまえて、乳幼児における発達援助の意義を理解し、保育者として果たすべき役割を学ぶ。
到達目標	1. 乳児期の発達の特徴に応じた保育内容や運営体制について理解することができる。 2. 乳児保育の意義と社会情勢の変化をふまえ、乳児保育の現状と課題について考察することができる。 3. 乳児保育を担う保育者のあり方について、意見を述べることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 第 2 回：乳児保育の現状と課題 第 3 回：3 歳未満児の発育・発達（0 歳前半） 第 4 回：3 歳未満児の発育・発達（0 歳後半） 第 5 回：3 歳未満児の発育・発達（1 歳児） 第 6 回：3 歳未満児の発育・発達（2 歳児） 第 7 回：3 歳未満児の生活と環境 第 8 回：3 歳未満児の遊びと環境 第 9 回：3 歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり 第 10 回：3 歳未満児の発達・発育をふまえた保育における配慮 第 11 回：乳児保育における計画・記録・評価とその意義 第 12 回：乳児保育における連携・協働 第 13 回：事例検討（ディスカッション、グループワークを含む） 第 14 回：事例検討会（全体発表を含む） 第 15 回：求められる保育者とは

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行います。
評価方法	筆記試験 50%、レポート 40%、リアクションペーパー 10%、計 100%
課題に対するフィードバック	提出物については、随時コメントの上、返却します。
指定図書	『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』監修：公益財団法人児童育成協会、編集：寺田清美・大方美香・塩谷香（中央法規）2019 年発行
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前：乳児保育や子育て家庭に関する新聞記事、本、雑誌を読み、社会情勢を把握しておきましょう。（60 分） 事後：授業内容を再度確認し、ノートに意見をまとめておきましょう。（30 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	乳児保育Ⅱ
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	乳児保育では、家庭との連携をとりながら子ども一人ひとりの成長にあわせて環境設定やかかわり方を考え変化させ続けること、かつその営みを保育者間で共有することが求められる。この授業では「乳児保育Ⅰ」での理解を基礎として、実際の保育の中で保育者が持つべき多様な視点に触れ、より具体的な実践方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 乳児保育に関する基本的事項を説明できる。 2. 家庭生活と乳児保育との連携について実例を挙げながら説明できる。 3. 乳児保育における保育者の役割を説明し、実践できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：乳児保育に関わるねらい及び内容-保育所保育指針（太田） 第2回：参加観察 クリストファーこども園・わかば保育園（太田） 第3回：参加観察の振り返り（太田） 第4回：家庭との連携・協力の中で育ちを支える ゲストスピーカー（太田） 第5回：家庭との連携に関する考察（ディスカッション）（太田） 第6回：実技・沐浴実習（黒野・室加） 第7回：身体の育ちの傾向とかかわり方（和久田） 第8回：身体の育ちの傾向と環境の工夫（和久田）

アクティブラーニング	実際の保育場面に参加観察を行います。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業参加態度（リアクションペーパーや各課題を含む）：50％ レポート課題：50％
課題に対するフィードバック	試験については解答例を提示します。 レポートについては、随時コメントの上、返却します。
指定図書	保育所保育指針（フレーベル館）
参考図書	授業の中で提示します。
事前・事後学修	事前：次回の講義に使用するテキストの該当箇所を示すので読んできてください。製作物については指定期日までに仕上げてきてください。（60 分） 事後：復習のため、その日の学修内容を自分なりにノートにまとめておきましょう。（30 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は保育の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	子どもの健康と安全
科目責任者	太田 雅子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	保育所保育指針に示される「健康及び安全」を踏まえた保育環境の管理や対策を学ぶ。体調不良や傷害などへの対応、感染症対策、個別的配慮の必要な子どもへの対応方法を学び、保健活動の計画・評価、管理・実施体制、他専門機関との連携・協働について理解を深める。
到達目標	1. 保育所保育指針に示される子どもの健康および安全に係るねらい・内容について理解する。 2. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。 3. 感染症やアレルギー対策の実際を理解し、方法を身につける。 4. 保育における保健活動計画・評価について理解する。
授業計画	<科目担当者> 太田雅子 山内博子 <授業内容・テーマ等> 第1回 健康および安全（保育所保育指針）・保健計画 第2回 保育における健康および安全管理の実際①：衛生管理・事故防止と安全対策 第3回 保育における健康および安全管理の実際②：危機管理・災害時への備え 第4回：健康及び安全管理の体制（虐待防止） 第5回 健康観察と体調不良に対する気づき 第6回 感染症の対策・アレルギーへの対応 第7回 子どもの「いのち」を守るための意識・覚悟 第8回 まとめ（小テスト） 山内 山内 山内 山内 山内 太田 太田 太田 太田 } ゲストスピーカー

アクティブラーニング	保健計画の作成、演習（嘔吐処理、エピペンの使用など）を交えて行います。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	小テスト（50%）、授業態度（20%）、リアクションペーパー・レポート等（30%）、計 100% ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー等の内容についてフィードバックします。
指定図書	厚生労働省編『保育所保育指針（解説書付）』
参考図書	授業の中で随時提示いたします。
事前・事後学修	【事前学修】実践をする場合は、該当ページを事前に提示します。演習がある回では、事前に資料を読み実践をすることが前提となります。 【事後学修】授業の内容や配布されたプリント・資料の整理をします。 各学修の目安は各 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、看護師、幼稚園教諭・認定こども園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会的養護Ⅱ
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	1 単位（15 時間） 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	社会的養護Ⅰで学んだ社会的養護の基本理念や体系などに基づき、社会的養護の現場で実際に行われている支援について、事例や映像教材を通して実践的に学ぶ。
到達目標	1. 社会的養護の基礎的な内容について説明できる。 2. 施設養護及び家庭養護について説明できる。 3. 社会的養護における自立支援計画・記録・自己評価について理解できる。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション、社会的養護における子どもの理解 第 2 回：社会的養護の内容（日常生活支援・心理的支援・自立支援） 第 3 回：施設養護の生活特性および実際① 第 4 回：施設養護の生活特性および実際② 第 5 回：家庭養護の生活特性および実際 第 6 回：アセスメントと個人支援計画の作成・記録及び自己評価 第 7 回：社会的養護における家庭支援 第 8 回：今後の社会的養護の課題と展望

アクティブラーニング	・PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う ・講義中、発言を求めることがある
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、課題・レポート・リアクションペーパー等の提出は WebClass で行う。 授業中、インターネットで検索する、グループ課題の取り組み等に PC を用いるため、PC は必携。
評価方法	・リアクションペーパー30%、課題 20%、最終レポート 50% ・課題・レポート評価において、ループリックは用いない。
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパー、課題、レポートについては、授業内でフィードバックを行う。
指定図書	相澤仁、村井美紀、大竹智編（2021）『新基本保育シリーズ⑱ 社会的養護Ⅱ』中央法規
参考図書	授業時に随時連絡する
事前・事後学修	【事前学修】各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。教科書の該当ページは初回授業で指示する。（40 分） 【事後学修】授業資料等を用いて授業内容を振り返る。毎回学びをまとめ、リアクションペーパーと一緒に Webclass に提出する（40 分） ・レポートについては、第 6 回授業で発表する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室（2708） 時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、児童家庭福祉の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	子育て支援
科目責任者	池田 信子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	保育士が行う子育て支援について、その状況・ニーズに合わせての内容・方法（技術）や展開の仕方について実践事例等を通して具体的に学ぶ。地域の関係機関との連携・協働、保育所全体の体制作りについて理解を深める。
到達目標	1. 保育の専門性を用いての保護者に対する相談・助言（保育相談支援）について理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について様々な場や対象に合わせての支援の内容・方法・技術を、実践（事例）を通して具体的に理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：子育て支援・保護者支援とは 第2回：保護者との相互理解と信頼関係の形成 第3回：子育て支援の5つのプロセス（関係を作る・課題を知る） 第4回：子育て支援の5つのプロセス（支援する・振り返る・環境を設定する） 第5回：障害のある子どもの保護者に対する子育て支援 第6回：多様なニーズを抱える子育て家庭（貧困・外国籍の子ども等）に対する支援 第7回：子ども虐待防止と対応・要保護児童等の家庭に対する支援 第8回：まとめ（小テスト）

アクティブラーニング	学生自身が子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けての調査・グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	課題の発表(グループ) 20%、小テスト 20%、授業振り返りシートの記述 10%、レポート 50%。ルーブリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー等を次の授業の中でフィードバックをする。
指定図書	その都度プリントを配布する。
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40 分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い子育て支援の実践準備をすること。
オンライン教育の活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習指導Ⅰ（20SC）
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2単位（60時間） 選択 （4）5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。
到達目標	1. 保育実習の意義・目的が理解できる。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業計画	<担当教員名> 杉山沙旺美、鈴木光男、二宮貴之、太田雅子、坂本道子 和久田佳代 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 【保育実習ⅠA・事前指導】 第1回：オリエンテーション 担当教員全員 授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 第2回：実習の1日、実習生としての心構え（クリストファーこども園副園長） 杉山沙旺美 第3回：保育の記録とは 杉山沙旺美 第4回：実習日誌を書いてみる 杉山沙旺美 第5回：教材研究と指導計画①（音楽表現） 二宮貴之 第6回：教材研究と指導計画②（絵画制作） 鈴木光男 第7回：教材研究と指導計画③（ねらいと展開・問い） 太田雅子 第8回：模擬保育に向けての指導計画の作成 担当教員全員 第9回：模擬保育（前半） 担当教員全員 第10回：模擬保育（後半） 担当教員全員 第11回：個人情報の管理 SNSを中心とした扱い 和久田佳代 第12回：実習直前指導、事務連絡 担当教員全員 【保育実習ⅠA・事後指導】 第13回：実習の振り返り・共有 担当教員全員 第14回：実習報告会の計画・個人面談 担当教員全員 第15回：実習報告会の準備・個人面談 担当教員全員 第16回・第17回：2年生に向けた実習報告会 担当教員全員 【保育実習ⅠB・事前指導】 第18回：オリエンテーション・授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 坂本道子

	第 19 回：施設実習における保育士の役割 第 20 回：実習記録の書き方 坂本道子 第 21 回・第 22 回：実習先種別について調べる（グループ学習） 坂本道子 第 23 回・第 24 回：実習先種別についての発表 担当教員全員 第 25 回：実習直前指導 担当教員全員 【保育実習 I B・事後指導】 第 26 回：種別ごとでの振り返り（グループワーク） 担当教員全員 第 27 回：実習報告会の計画・個人面談 担当教員全員 第 28 回：実習報告会の準備・個人面談 担当教員全員 第 29 回・第 30 回：2 年生に向けた実習報告会 担当教員全員
アクティブラーニング	遊び・活動の実践や附属こども園の行事に参加をします。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み（20%）、実践【指導計画の作成・教材の作成・模擬保育】（30%） 実習振り返りレポート（30%）、実習報告会（20%） ループリックを用いて評価を行う。ループリックと基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	模擬保育等についてフィードバックをします。
指定図書	保育所保育指針解説・厚生労働省編（フレーベル館） 長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』（株）わかば社
参考図書	
事前・事後学修	【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。 指定図書の『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』で誤字脱字の内容ワークシートを各自で進めていきます。 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。 ＜それぞれの目安時間は約 40 分＞
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習指導 I (21SC)
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 4(5) セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。
到達目標	1. 保育実習の意義・目的が理解できる。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業計画	<担当教員名> 杉山沙旺美、鈴木光男、二宮貴之、太田雅子、坂本道子 和久田佳代 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 【保育実習 I A・事前指導】 第 1 回: オリエンテーション 担当教員全員 授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 第 2 回: 実習の 1 日、実習生としての心構え (クリストファーこども園副園長) 杉山沙旺美 第 3 回: 保育の記録とは 杉山沙旺美 第 4 回: 実習日誌を書いてみる 杉山沙旺美 第 5 回: 教材研究と指導計画① (音楽表現) 二宮貴之 第 6 回: 教材研究と指導計画② (絵画制作) 鈴木光男 第 7 回: 教材研究と指導計画③ (ねらいと展開・問い) 太田雅子 第 8 回: 模擬保育に向けての指導計画の作成 担当教員全員 第 9 回: 模擬保育 (前半) 担当教員全員 第 10 回: 模擬保育 (後半) 担当教員全員 第 11 回: 個人情報の管理 SNS を中心とした扱い 和久田佳代 第 12 回: 実習直前指導、事務連絡 担当教員全員 【保育実習 I A・事後指導】 第 13 回: 実習の振り返り・共有 担当教員全員 第 14 回: 実習報告会の計画・個人面談 担当教員全員 第 15 回: 実習報告会の準備・個人面談 担当教員全員 第 16 回・第 17 回: 2 年生に向けた実習報告会 担当教員全員 【保育実習 I B・事前指導】 第 18 回: オリエンテーション・授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 坂本道子

	第 19 回：施設実習における保育士の役割 第 20 回：実習記録の書き方 坂本道子 第 21 回・第 22 回：実習先種別について調べる（グループ学習） 坂本道子 第 23 回・第 24 回：実習先種別についての発表 担当教員全員 第 25 回：実習直前指導 担当教員全員 【保育実習 I B・事後指導】 第 26 回：種別ごとでの振り返り（グループワーク） 担当教員全員 第 27 回：実習報告会の計画・個人面談 担当教員全員 第 28 回：実習報告会の準備・個人面談 担当教員全員 第 29 回・第 30 回：2 年生に向けた実習報告会 担当教員全員
アクティブラーニング	遊び・活動の実践や附属こども園の行事に参加をします。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み（20%）、実践【指導計画の作成・教材の作成・模擬保育】（30%） 実習振り返りレポート（30%）、実習報告会（20%） ループリックを用いて評価を行う。ループリックと基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	模擬保育等についてフィードバックをします。
指定図書	保育所保育指針解説・厚生労働省編（フレーベル館） 長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』（株）わかば社
参考図書	
事前・事後学修	【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。 指定図書の『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』で誤字脱字の内容ワークシートを各自で進めていきます。 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。 ＜それぞれの目安時間は約 40 分＞
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習指導Ⅱ
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習ⅠAを踏まえ、実習の全領域（半日実習もしくは1日実習）にわたる実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。
到達目標	1. 保育実習の意義・目的が理解できる。 2. 保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画し、作成をする。 3. 保護者に対する支援、地域子育て支援の内容を理解する。 4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業計画	<担当教員名> 杉山沙旺美、鈴木光男、二宮貴之、太田雅子 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 【事前指導】 第1回：オリエンテーション 杉山沙旺美 保育実習Ⅱの目的・事務手続き 第2回：より良い保育の記録の作成 杉山沙旺美 第3回：保護者への支援・地域子育て支援とは 太田雅子 第4回：教材研究と指導計画の作成・模擬保育①（前半） 担当者全員 第5回：教材研究と指導計画の作成・模擬保育②（後半） 担当者全員 第6回：実習直前指導、事務連絡 担当者全員 【事後指導】 第7回：実習の振り返り 担当者全員 第8回：実習報告会の計画・準備・個人面談 担当者全員

アクティブラーニング	演習科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み (20%)、実践【指導計画の作成・教材の作成・模擬保育】(30%) 実習振り返りレポート (30%)、実習報告会 (20%) ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックと基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をします。また、実習報告会では、教員からの講評をします。
指定図書	保育所保育指針解説・厚生労働省編（フレーベル館） 長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』（株）わかば社
参考図書	【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。＜それぞれの目安時間は約 40 分＞
事前・事後学修	なし
オープン教育の活用	初回授業時にお知らせいたします。
オフィスアワー	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習指導Ⅲ
科目責任者	坂本 道子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育所以外の居住型児童福祉施設、通所型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。
到達目標	1. 保育実習ⅠⅡの経験を基に、さらに施設保育士の職務について理解を深める 2. 領域別における保育の質の違いを理解しながら求められる保育について具体化する 3. 施設への入所理由を理解しながら、関わり方について模索する 4. 他の専門職との連携について理解する
授業計画	<担当教員名>坂本道子 <授業内容・テーマ等> 第1回：イントロダクション・保育実習ⅠⅡとの違いについて 第2回：実習日誌とオリエンテーションについて 第3回：各配属領域の保育内容について(発表) 第4回：職員の職務や連携の重要性について 第5回：入所理由の理解と関わり方について 第6回：各配属領域と地域との連携について・直前指導 第7回：事後指導① 実習の振り返り 第8回：事後指導② 実習報告

アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み (20%)、課題 (20%)、レポート (30%)、実習報告会 (30%) 計 100% で評価する。レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	なし
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部、2612 研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園や福祉での臨床経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習 I A
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育所・認定こども園の機能ならびに保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画、実践する。
到達目標	1. 観察実習および部分実習を中心として、理論と実践の結びつきを通して乳幼児を理解する。 2. 保育所・認定こども園における生活とその概要を理解する 3. 保育士として必要な知識、技能、態度を身につけ、その任務・使命を理解する。
授業計画	<担当教員名> 杉山沙旺美、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、太田雅子、飯田真也、福重浩之 <授業内容・テーマ等> 実習の進め方 1. 学生は保育所・認定こども園にて 90 時間（10 日間）以上の配属実習を行う。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務（早版・遅番）を必ず行うこととする。 3. 実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 4. 実習日誌は学校指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 5. 実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 1. 見学・観察実習 1) デイリープログラムを知り、乳幼児の 1 日の生活の流れを理解する。 2) 乳幼児の集団活動、個別活動を観察し、人とかかわり方を知る。 3) 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 2. 参加・部分実習 1) 保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 2) 乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 3) 担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。

アクティブラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、学生と教員との面談における振り返り（30%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】各年齢の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行いましょ う。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解につ いて 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。各学修の目安は 40 分。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回にお知らせします。 実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観 点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習 I B
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育所・認定こども園以外の居住型児童福祉施設ならびに通所型児童福祉施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。
到達目標	1. 子どもとの関わりを通して、子どものニーズを理解しながら関わることができる。 2. 児童福祉施設における生活とその概要を理解する。 3. 保育士として必要な知識、技術、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。
授業計画	<担当教員名>坂本道子、鈴木光男、福重浩之、二宮貴之、和久田佳代、太田雅子、飯田真也、杉山沙旺美 <授業内容・テーマ等> 実習内容：詳細は保育実習 I B の手引きを参照 1. 養護の一日の流れを理解し、参加する。 2. 子どもの集団活動、個別活動を観察し、養護技術を習得する。 3. 子どもの生活での援助といった一部分を担当し、養護技術を習得する。 4. 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 5. 施設での個別記録、送迎の際の保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。 6. 施設における子どもの安全および健康に対する配慮について理解する。 実習の進め方 ○保育所・認定こども園以外の児童福祉施設等にて 90 時間（10 日間）以上の配属実習を行う。 ○実習日誌に一日の記録を作成し、担当保育士からの指導を受ける。 ○実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に行う。

アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習施設からの評価（40%）、実習日誌（30%）、学生と教員との面談における振り返り（30%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習先の種別、概要、特色等についてグループで調べ、整理をします。また、調べた内容やオリエンテーションの内容については、実習ノートに必要箇所の記入をします。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。 学修の目安は 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回にお知らせいたします。実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習Ⅱ
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2単位（90時間） 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習ⅠAでの実習を踏まえ、保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的保育の活動を計画、実践する。
到達目標	1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、乳幼児を理解する。 2. 保育士としての職業倫理を理解し、乳幼児に対する最善の利益への配慮を理解する。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
授業計画	<担当教員名> 杉山沙旺美、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、太田雅子、飯田真也、福重浩之、 <授業内容・テーマ等> 実習の進め方 1. 学生は保育所・認定こども園にて90時間（10日間）以上の配属実習を行う。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務（早版・遅番）を必ず行うこととする。 3. 実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 4. 実習日誌は学校指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 5. 実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 1. 観察実習 1) 乳幼児の1日の生活の流れを理解し、担当クラスの子どもとの関わりを深める。 2) 乳幼児の集団活動、個別活動を観察するなかで、人とのかかわり方を知る。 3) 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 2. 参加・部分実習 1) 保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 2) 乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 3) 担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。 3. 責任実習 1) 担当するクラスに即した日案を作成し、主体となって保育を行う。 2) 保育前の準備、保育後の整理等、保育士としての仕事全般の実習をする。 3) 1日もしくは半日実習などを体験し、保育所・認定こども園における保育活動の流れを理解する。 4) 課題を設定し、問題意識をもって実習をする。

アクティブラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、学生と教員との面談における振り返り（30%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	
事前・事後学修	【事前学修】各年齢の子どもの発達を理解、実践にあたっての教材研究を行いましょう。また、指導計画は、子どもの姿を捉え、発達の則した内容を作成しましょう。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。学修の目安は40分。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回にお知らせします。実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習Ⅲ
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習ⅠBでの実習を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。
到達目標	1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、児童を理解する。 2. 保育士としての職業倫理を理解し、児童に対する最善の利益への配慮を理解しながら関わる。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。 4. 施設が社会にむけてどのような情報を発信し、どのような機能を提供しようとしているのかを理解する。
授業計画	<担当教員名> 坂本道子、鈴木光男、福重浩之、二宮貴之、和久田佳代、杉山沙旺美、飯田真也、太田雅子 <授業内容・テーマ等> 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 1. 施設の社会的使命を理解する 2. 職員の職務やチームワークを理解する 3. 施設における保育士あるいは他の専門職の専門性を理解する 4. 担当する子どものケーススタディの実践を理解する 5. 地域事業との関連について理解する 6. 各種法令・法規と施設との関係について理解する 実習の進め方 ・保育所以外の児童福祉施設等にて10日間の配属実習を行う ・実習日誌に1日の記録をし、担当保育士からの指導を受ける ・実習の振り返りを施設長、実習担当者と共にを行う

アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、学生と教員との面談における振り返り（30%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	実習記録を中心に、実習巡回や帰校日においてフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。 事前・事後学修にはそれぞれ 40 分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部、2612 研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「認定こども園」「幼稚園」「小学校」の実務経験と福祉の指導経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし